鳥取県教育文化財団調査報告書　81

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県西伯郡大山町

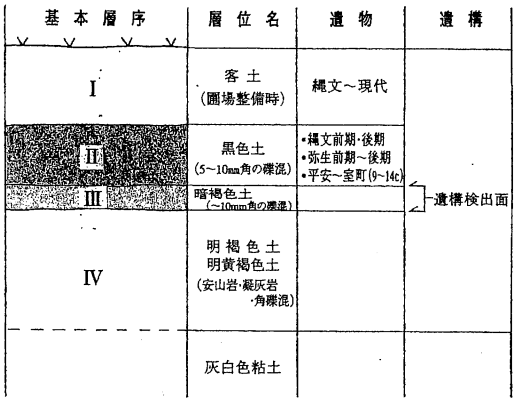
妻木法大神遺跡

２００３

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　倉吉工事事務所

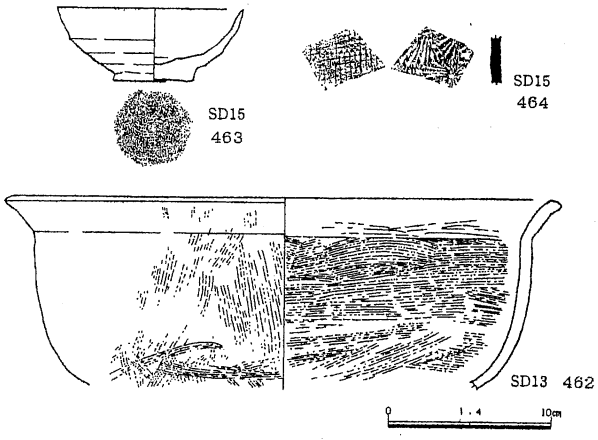
鳥取県教育文化財団調査報告書81
『妻木法大神遺跡』 正誤表

頁	誤	正
4頁　9行目	サヌカイト製のものが	サヌカイト製の尖頭器が
6頁　第3図挿表	56　宮内古墳群	55　宮内古墳群
8頁　1．調査の概要　1行目	自然河道8	河道・溝が8
68頁　河道SD4	（第82・86図）	（第82・86図、PL.49）
	遺物は出土していない。	遺物は石器S111・S125が出土した。
95頁　18行目	落とし穴状土坑1基	落し穴状土坑2基
抄録　自然河道	河道18	河道17
抄録　時期不明		溝2
8頁　第5図	土層番号なし	下図参照



第５図　調査区内基本層序図

116頁　第113図	遺物番号なし	下図参照



第133図　ＳＤ13、河道ＳＤ15出土遺物

鳥取県教育文化財団調査報告書　81

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県西伯郡大山町

妻木法大神遺跡

２００３

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　倉吉工事事務所

河道ＳＤ１（北西より）

巻頭図版２

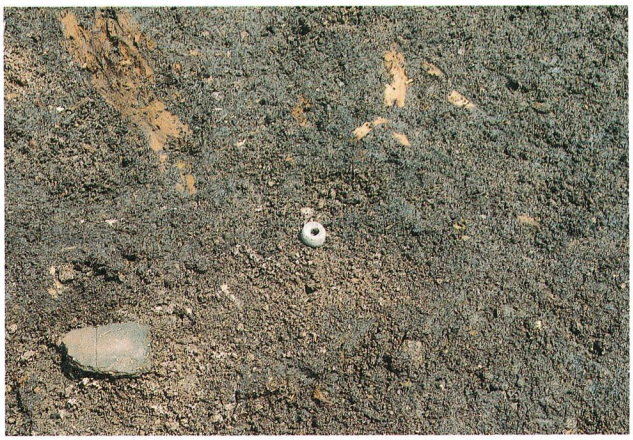
１．河道ＳＤ１　北東側完掘状況（北西より）

２．河道ＳＤ１　土層断面（Ｂ－Ｂ′ライン）（西より）

1．河道ＳＤ１　Ⅲ層遺物出土状況（1）（南西より）

2．河道ＳＤ１　Ⅲ層遺物出土状況（2）（南東より）

3．河道ＳＤ１　Ⅲ層炭化木材出土状況（北西より）



4．河道ＳＤ１　Ⅲ層遺物出土状況（3）（南西より）

河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器

序

大山町は、中国地方の最高峰『大山』の裾野に広がる風光明媚な自然に恵まれた町です。また、国の史跡である弥生時代最大級の集落跡妻木晩田遺跡など、古くからの歴史遺産にも恵まれた町です。

さて、県内においては、現在山陰自動車道の整備が着々と進められているところですが、当財団では、国土交通省の委託を受け、この事業に関係した一般国道９号（名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財発掘調査を行っており、妻木法大神遺跡は平成13年度から調査を実施しました。

調査の結果、この遺跡では、縄文時代から鎌倉時代の遺構、遺物が確認できました。

今回、その調査成果を報告書としてまとめることができました。本書が、今後の調査研究や歴史教育のために広く活用され、埋蔵文化財に対する理解や認識がより深まることを期待します。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉工事事務所、大山町教育委員会ならびに調査に参加いただきました地元の方々には、一方ならぬ御指導、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成15年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団
理事長　有田　博充

序　文

一般国道９号は、京都市を起点として兵庫県の日本海沿岸から鳥取県に入り、島根県益田（ますだ）市から中国山地を越えて下関（しものせき）市に至る総延長約651kmの幹線道路です。このうち、国土交通省倉吉工事事務所は、東伯郡泊村（とうはくぐんとまり）から米子（よなご）市までの76.6kmを管轄しており時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しています。

名和淀江道路は、西伯郡名和町から淀江町にかけての国道９号線の混雑の緩和、冬季の積雪など交通障害等の解消、県内の安全かつ円滑な東西交通ルートの確保、また災害時の緊急輸送の代替道路確保を目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、平成８年度から事業に着手しています。

このルート上には多数の「埋蔵文化財包蔵地」が確認されています。鳥取県教育委員会と協議を行った結果、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁に通知し、事前に記録保存のための発掘調査を実施することになりました。このうち、平成14年度は「妻木法大神（むきほうだいじん）遺跡」ほかについて財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し調査を実施いたしました。

本書はその調査成果をまとめたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深め、広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が文化財保護に深い関心を持ち、その推進に努力していることをご理解いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご尽力いただいた鳥取県教育委員会および財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成15年３月

国土交通省　倉吉工事事務所長
矢田　光夫

例　言

1．本書は、鳥取県教育文化財団が2001（平成13）年度、2002（平成14）年度に実施した「一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」の調査報告書である。

2．調査した遺跡の所在地は次の通りである。
西伯郡大山町大字妻木字澤田1244～1246、字坪根垣1309～1311、字法大神1322～1327

3．本報告書における方位、座標値は国土座標第Ｖ系の座標値である。また、レベルは海抜標高を示す。

4．本報告書に掲載の地形図は、国土地理院発行の１/25000地形図「御来屋」「淀江」「船上山」を使用している。

5．本報告書の作成は、鳥取県教育文化財団調査員西川徹、森本倫弘、君嶋俊行、小林桃子、岡野雅則が行い、編集は岡野が行った。文責は各項目の文末に記載した。

6．掲載した図面は、調査員が作成したものを室内整理作業員が浄書を行った。遺物実測図の作成、浄書については、基本的に室内整理作業員が行い、各段階において調査員が検討を行った。

7．現場写真および遺物写真の撮影は一部を除き調査員が行った。

8．出土遺物ならびに図面・写真類はすべて鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。

9．現地調査及び報告書の作成にあたっては、牛嶋茂（独立行政法人奈良文化財研究所）、遠藤勝壽（大山自然公園指導員の会）、田原敦史、西尾克巳（以上島根県埋蔵文化財調査センター）、古川郁夫（鳥取大学農学部）、中山勝博（島根大学総合理工学部）、山口剛（大山町教育委員会）、山田康弘（島根大学法文学部）、山崎真治（東京大学大学院人文社会系研究科）をはじめ多くの方々から助言、支援をいただいた。末筆ながら感謝いたします。（敬称略、順不同）

凡　例

1．遺構の略号は次の通りである。
ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＤ：溝状遺構、自然河道

2．遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、弥生土器、土師器、土師質土器は白抜きで表現した。
石器の使用痕は、平面図にスクリーントーンで示し、断面図には破線（敲打痕）または実線（擦り痕）で範囲を表示した。

3．本報告書における土器、石器の分類、編年観についてはおもに次のものを参考に遺構並びに遺物の時期比定を行っている。

＜縄文土器＞
柳浦俊一　2000「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』17、島根考古学会
柳浦俊一　2001「山陰地方における縄文前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』18、島根考古学会
濵田竜彦　1998「目久美遺跡における縄文晩期末から弥生時代前期の土器について」『目久美遺跡Ｖ・Ⅵ』米子市教育文化事業団
濵田竜彦　1999「古市河原田遺跡出土の突帯文土器について－古市河原田式の提唱－」『古市遺跡群1』鳥取県教育文化財団

＜弥生土器＞
濵田竜彦　2000「山陰地方における弥生文化成立期の様相－山陰東部を中心に－」第47回埋蔵文化財研究集会発表要旨埋蔵文化財研究会
正岡睦夫・松本岩雄編　1992『弥生土器の様式と編年山陽・山陰編』木耳社
※本書では、弥生時代前期の土器編年は４期区分を採用している。

＜石器＞
平井　勝　1991『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64　ニューサイエンス社

＜中世の土器・陶磁器＞
日本中世土器研究会編　1995『概説中世の土器・陶磁器』
森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究２』日本貿易陶磁研究会

目　次

序
序文
例言
凡例
目次

第１章　発掘調査の経緯……（岡野）1
　１．調査に至る経緯……1
　２．調査体制……2

第２章　遺跡の位置と環境……（西川・岡野）4

第３章　調査の経過と方法……（岡野）7
　１．調査の経過……7
　２．発掘調査の方法……7
　３．調査区内の堆積……8

第４章　１区の調査……（西川・君嶋・岡野）8
　１．調査の概要……8
　２．集落遺構の調査……13
　３．自然河道の調査……20
　４．包含層の調査……68
　５．調査区内出土遺物……74
　出土遺物観察表……79

第５章　２区の調査……（岡野）95
　１．調査の概要……（岡野）95
　２．集落遺構の調査……（森本・小林）95
　３．河道・溝状遺構の調査……（森本・小林）110
　４．包含層の調査……（岡野）119
　出土遺物観察表……127

第６章　特論
　１．妻木法大神遺跡出土材の樹種……古川郁夫　131
　２．妻木法大神遺跡１区出土土器の胎土分析……白石　純　134
　３．妻木法大神遺跡河道ＳＤ１における花粉分析……渡辺正巳（株）文化財調査コンサルタント　137
　４．妻木法大神遺跡出土石器の使用痕分析……高橋　哲（株）アルカ　142

第７章　まとめ
　１．妻木法大神遺跡出土の縄文前・後期土器について……（君嶋）145
　２．弥生時代前期の壺形土器について……（岡野）148

PLATE

挿図目次

第１図　調査地位置図
第２図　妻木法大神遺跡位置図
第３図　周辺遺跡分布図
第４図　遺構概念図
第５図　調査区内基本層序図
第６図　１区遺構全体図
第７図　１区調査区土層断面図
第８図　ＳＩ１
第９図　ＳＩ１周辺遺構図
第10図　ＳＫ１
第11図　ＳＫ１出土遺物
第12図　Ｐ43遺物出土状況
第13図　Ｐ43出土遺物
第14図　ＳＫ２
第15図　ＳＫ３
第16図　ＳＫ４
第17図　ＳＫ５
第18図　ＳＫ６
第19図　ＳＫ７
第20図　ＳＫ８
第21図　ＳＫ９
第22図　ＳＫ10
第23図　ＳＫ11
第24図　ＳＫ12
第25図　ＳＫ13
第26図　ＳＫ14
第27図　ＳＫ15
第28図　ＳＫ16
第29図　ＳＫ17
第30図　ＳＫ15出土遺物
第31図　河道ＳＤ１
第32図　河道ＳＤ１土層断面１
第33図　河道ＳＤ１土層断面２
第34図　河道ＳＤ１土層断面３
第35図　河道ＳＤ１　流木出土状況
第36図　河道ＳＤ１（弥生時代前期～中期初頭）
第37図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（１）
第38図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（２）
第39図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（３）
第40図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（４）
第41図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（１）
第42図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（２）
第43図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（３）
第44図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（４）
第45図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（５）
第46図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（６）
第47図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（１）
第48図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（２）
第49図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（３）
第50図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（４）
第51図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（５）
第52図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（６）
第53図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（７）
第54図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（８）
第55図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（９）
第56図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（10）
第57図　河道ＳＤ１　Ⅳ層出土土器
第58図　河道ＳＤ１　Ⅴ層出土土器
第59図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（１）
第60図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（２）
第61図　河道ＳＤ１　Ⅶ層～Ⅻ層出土土器
第62図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土木製品
第63図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土石器（１）
第64図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土石器（２）
第65図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（１）
第66図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（２）
第67図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（３）
第68図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（４）
第69図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（１）
第70図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（２）
第71図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（３）
第72図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（４）
第73図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（５）
第74図　河道ＳＤ１　Ⅳ層出土石器
第75図　河道ＳＤ１　Ⅴ層出土石器
第76図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土石器
第77図　河道ＳＤ１　Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層出土石器
第78図　河道ＳＤ１　Ⅸ・Ⅹ・Ⅻ・Ⅻ層出土石器

第79図　河道ＳＤ２（１）
第80図　河道ＳＤ２出土遺物
第81図　溝ＳＤ３出土遺物
第82図　河道ＳＤ４出土遺物
第83図　河道ＳＤ６出土遺物
第84図　河道ＳＤ２（２）
第85図　溝ＳＤ３
第86図　河道ＳＤ４
第87図　溝ＳＤ５
第88図　河道ＳＤ６
第89図　溝ＳＤ７
第90図　河道ＳＤ８
第91図　黒色土包含層分布状況平面図
第92図　黒色土包含層土層断面図
第93図　黒色土包含層　１層出土土器
第94図　黒色土包含層　２層出土土器（１）
第95図　黒色土包含層　２層出土土器（２）
第96図　黒色土包含層出土石器
第97図　１区調査区内出土遺物（１）
第98図　１区調査区内出土遺物（２）
第99図　１区調査区内出土遺物（３）
第100図 ２区集落遺構概念図
第101図 ＳＢ１
第102図 ２区遺構全体図
第103図 調査区土層断面図
第104図 ＳＢ１周辺遺構平面図
第105図 ＳＢ２
第106図 ＳＢ３
第107図 ＳＢ４
第108図 ＳＢ５
第109図 ＳＢ６
第110図 ＳＢ７
第111図 ＳＢ８
第112図 ＳＢ６、ＳＢ７周辺遺構平面図
第113図 Ｐ188出土遺物
第114図 ＳＫ18
第115図 ＳＫ19
第116図 ＳＫ20
第117図 ＳＫ20出土遺物
第118図 ＳＫ21
第119図 ＳＫ22
第120図 ＳＫ23
第121図 ＳＫ23出土遺物
第122図 ＳＫ24
第123図 ＳＫ25
第124図 ＳＫ26
第125図 ＳＤ９、ＳＤ10
第126図 ＳＤ９出土遺物
第127図 ＳＤ10出土遺物
第128図 ＳＤ11
第129図 ＳＤ12
第130図 ＳＤ12出土遺物
第131図 ＳＤ13～18土層断面図
第132図 ＳＤ13～18周辺遺構平面図
第133図 ＳＤ13出土遺物
第134図 ＳＤ20出土遺物
第135図 ＳＤ19、ＳＤ20土層断面図
第136図 ＳＤ21
第137図 ＳＤ21出土遺物
第138図 ＳＤ19出土遺物
第139図 ＳＤ19、ＳＤ20
第140図 ＳＤ20出土遺物
第141図 黒色土包含層１ 分布範囲
第142図 黒色土包含層２ 分布範囲
第143図 黒褐色土包含層分布範囲
第144図 黒色土包含層１ 土層断面図
第145図 黒色土包含層２ 土層断面図
第146図 黒褐色土包含層土層断面図
第147図 黒褐色土包含層出土遺物
第148図 黒色土包含層　１層、２層出土遺物
第149図 黒色土包含層　３層出土遺物
第150図 黒色土包含層出土遺物
第151図 ２区調査区内出土遺物
第152図 妻木法大神遺跡出土土器の時期別胎土の比較（１）
第153図 妻木法大神遺跡出土土器の時期別胎土の比較（２）
第154図 分析試料採取位置図
第155図 花粉ダイアグラム
第156図 鳥取県中・西部の縄文時代遺跡分布図
第157図 壺形土器の分類
第158図 阿弥陀川下流域の弥生時代前期の遺跡

図版目次

巻頭図版1　河道ＳＤ1
巻頭図版2　1．河道ＳＤ1　北東側完掘状況
　2．河道ＳＤ1　土層断面(Ｂ－Ｂ′ライン)
巻頭図版3　1．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（1）
　2．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（2）
　3．河道ＳＤ1　Ⅲ層炭化木材出土状況
　4．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（3）
巻頭図版4　河道ＳＤ1　Ⅲ層出土石器

ＰＬ.1　大山周辺水理地質図
ＰＬ.2　1．遺跡周辺の地形（1）
　2．遺跡周辺の地形（2）
ＰＬ.3　1．ＳＩ1
　2．ＳＩ1　周辺ピット
ＰＬ.4　1．ＳＫ1
　2．ＳＫ2
　3．ＳＫ3
　4．ＳＫ3
　5．ＳＫ4
　6．ＳＫ5
ＰＬ.5　1．ＳＫ6
　2．ＳＫ7
　3．ＳＫ7　炭化木材出土状況
　4．ＳＫ8
　5．ＳＫ12
　6．ＳＫ11
ＰＬ.6　1．ＳＫ13
　2．ＳＫ14
　3．ＳＫ17
　4．ＳＫ16　土層断面
　5．ＳＫ15
　6．ＳＫ15　土層断面
ＰＬ.7　河道ＳＤ1
ＰＬ.8　1．河道ＳＤ1　北東側完掘状況
　2．河道ＳＤ1　土層断面（Ｂ－Ｂ′ライン）
ＰＬ.9　1．河道ＳＤ1　土層断面（Ｃ－Ｃ′ライン）
　2．河道ＳＤ1　縄文時代後期以前流路
　（Ⅳ層～Ⅹ層）土層断面（Ａ－Ａ′ライン）
ＰＬ.10　1．河道ＳＤ1　弥生時代流路（Ⅰ～Ⅲ層）
　北西側完掘状況
　2．河道ＳＤ1　Ⅲ層流木出土状況（1）
　3．河道ＳＤ1　Ⅲ層流木出土状況（2）
　4．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（1）
ＰＬ.11　1．河道ＳＤ1　弥生時代流路（Ⅰ～Ⅲ層）
　南東側完掘状況
　2．河道ＳＤ1　弥生時代流路（Ⅰ～Ⅲ層）
　土層断面（Ｂ－Ｂ′ライン）
ＰＬ.12　1．河道ＳＤ1　弥生時代流路（Ⅰ～Ⅲ層）
　土層断面（Ａ－Ａ′ライン）
　2．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（2）
ＰＬ.13　1．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（3）
　2．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（4）
　3．河道ＳＤ1　Ⅲ層炭化木材出土状況
　4．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（5）
ＰＬ.14　1．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（6）
　2．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（7）
　3．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（8）
　4．河道ＳＤ1　Ⅲ層遺物出土状況（9）
　5．河道ＳＤ2
　6．河道ＳＤ2　土層断面
　7．ＳＤ3　土層断面
ＰＬ.15　1．ＳＤ3
　2．ＳＤ5
　3．河道ＳＤ6
　4．河道ＳＤ6　粘土層検出状況
　5．河道ＳＤ6　土層断面
ＰＬ.16　1．ＳＤ7
　2．ＳＤ7　土層断面
　3．河道ＳＤ8　土層断面
　4．河道ＳＤ8
ＰＬ.17　1．黒色土包含層土層断面（1）
　2．黒色土包含層遺物出土状況（1）
ＰＬ.18　1．黒色土包含層遺物出土状況（2）
　2．黒色土包含層土層断面（2）
ＰＬ.19　河道ＳＤ1　Ⅰ層出土土器
ＰＬ.20　河道ＳＤ1　Ⅱ層出土土器（1）
ＰＬ.21　河道ＳＤ1　Ⅱ層出土土器（2）
ＰＬ.22　河道ＳＤ1　Ⅱ層出土土器（3）

ＰＬ.23　１．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（４）
２．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（５）
３．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（６）
ＰＬ.24　１．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（７）
２．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（８）
３．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（９）
４．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（10）
５．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（11）
６．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（12）
ＰＬ.25　１．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（13）
２．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（14）
３．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（15）
４．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（16）
５．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器
ＰＬ.26　１．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（底部１）
２．河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（底部２）
ＰＬ.27　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（底部）
ＰＬ.28　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（１）
ＰＬ.29　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（２）
ＰＬ.30　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（３）
ＰＬ.31　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（４）
ＰＬ.32　１．河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（５）
２．河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（６）
３．河道ＳＤ１　Ⅲ層出土木製品
４．河道ＳＤ１　Ⅲ層出土炭化木片
ＰＬ.33　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（７）
ＰＬ.34　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（８）
ＰＬ.35　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（９）
ＰＬ.36　河道ＳＤ１　Ⅳ・Ⅴ層出土土器
ＰＬ.37　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（１）
ＰＬ.38　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（２）
ＰＬ.39　１．河道ＳＤ１　Ⅷ・Ⅸ・Ⅺ・Ⅻ層出土土器
２．ＳＤ・ＳＫ出土土器
ＰＬ.40　黒色土包含層出土土器（１）
ＰＬ.41　黒色土包含層出土土器（２）
ＰＬ.42　河道ＳＤ１　Ⅰ・Ⅱ層出土石器（１）
ＰＬ.43　河道ＳＤ１　Ⅰ・Ⅱ層出土石器（２）
ＰＬ.44　１．河道ＳＤ１　Ⅰ・Ⅱ層出土石器（３）
２．河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（１）
ＰＬ.45　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（２）
ＰＬ.46　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（３）
ＰＬ.47　１．河道ＳＤ１　Ⅳ層出土石器
２．河道ＳＤ１　Ⅴ層出土石器
ＰＬ.48　１．河道ＳＤ１　Ⅵ層出土石器
２．河道ＳＤ１　Ⅶ～Ⅻ層・埋土中出土石器
ＰＬ.49　１．河道ＳＤ１　Ⅷ～Ⅻ層出土石器
２．ＳＤ２・ＳＤ４出土石器
ＰＬ.50　１．１区調査区内出土石器（１）
２．１区調査区内出土石器（２）
ＰＬ.51　１．ＳＢ１（北西から）
ＰＬ.52　１．ＳＢ２（東から）
（上）２．ＳＢ２Ｐ１土層断面（西から）
（下）３．ＳＢ２Ｐ３土層断面（西から）
（上）４．ＳＢ２Ｐ５（南西から）
（下）５．ＳＢ２Ｐ６土層断面（北西から）
ＰＬ.53　１．ＳＢ３（東から）
２．ＳＢ６（北西から）
ＰＬ.54　１．ＳＢ６、ＳＢ７、ＳＤ13周辺完掘状況（北西から）
２．ＳＢ７（北東から）
ＰＬ.55　１．ＳＢ５、ＳＢ８（南東から）
２．ＳＢ５Ｐ２土層断面（南東から）
３．Ｐ188遺物出土状況（北東から）
４．ＳＫ18（北東から）
５．ＳＫ18土層断面（西から）
ＰＬ.56　１．ＳＫ20（北東から）
２．ＳＫ20土層断面（南西から）
３．ＳＫ20遺物出土状況（東から）
４．ＳＫ20底面掘削痕（北から）
５．ＳＫ21（東から）
６．ＳＫ22（北西から）
ＰＬ.57　１．ＳＫ23（南東から）
２．ＳＫ25土層断面（南西から）
３．ＳＫ25（北から）
４．ＳＫ24（東から）
５．ＳＫ26（北東から）
６．ＳＫ26遺物出土状況（北から）
ＰＬ.58　１．ＳＫ26土層断面（北東から）
２．ＳＤ９土層断面（西から）
３．ＳＤ９（北西から）
４．ＳＤ９、ＳＤ10（南から）
ＰＬ.59　１．ＳＤ９遺物出土状況（南から）

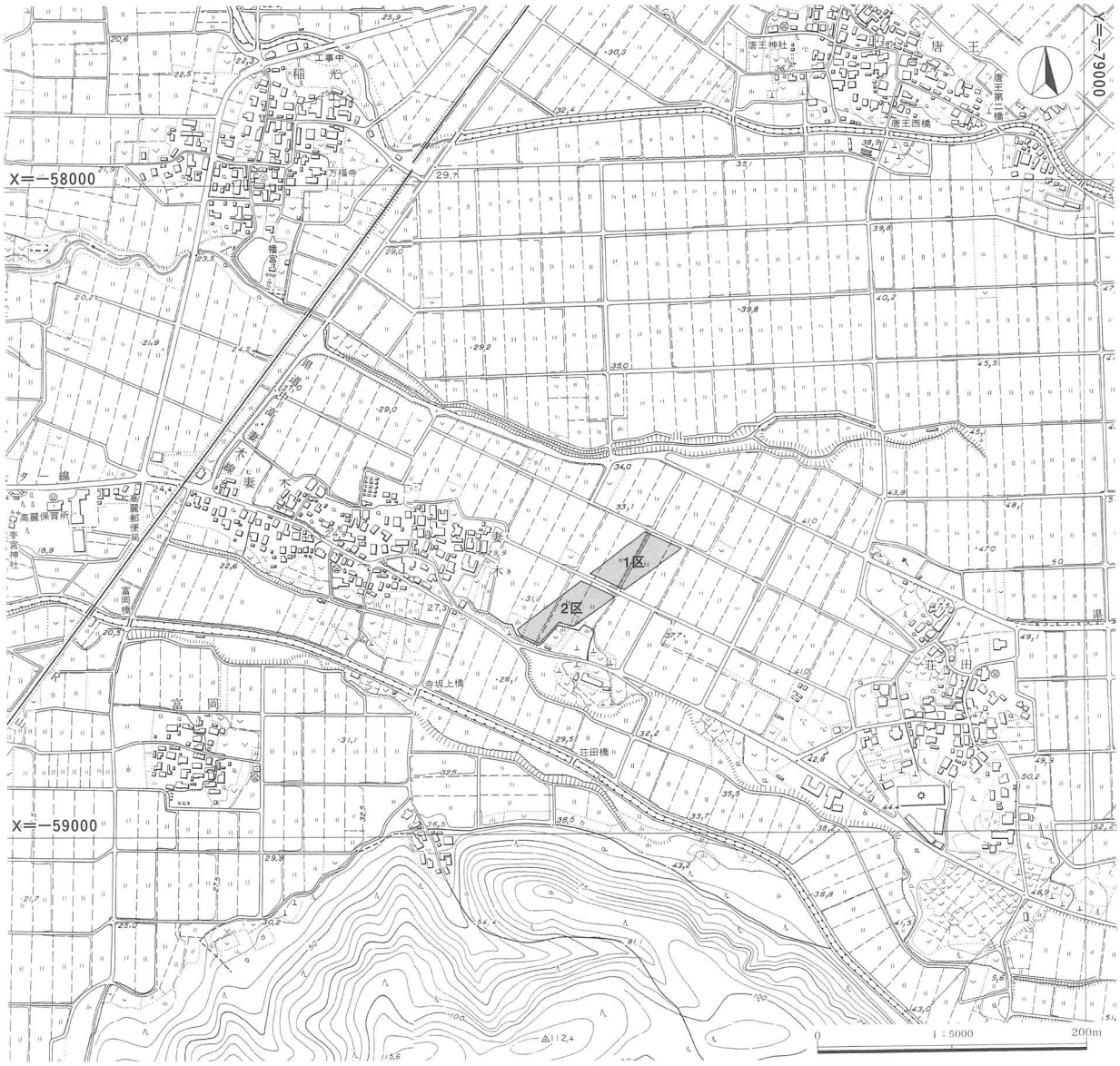
2．ＳＤ10遺物出土状況（北東から）
3．ＳＤ10遺物出土状況（南東から）
4．ＳＤ10土層断面（北から）
5．ＳＤ12（西から）
6．ＳＤ12遺物出土状況（東から）
ＰＬ.60　1．ＳＤ13（北東から）
2．ＳＤ13底面掘削痕（西から）
3．ＳＤ13遺物出土状況（東から）
4．ＳＤ13土層断面（西から）
5．ＳＤ20土層断面（東から）
ＰＬ.61　1．ＳＤ19、ＳＤ20（北西から）
2．ＳＤ20遺物出土状況（南東から）
3．ＳＤ20遺物481出土状況（東から）
4．ＳＤ20遺物480出土状況（南から）
5．ＳＤ19土層断面（南西から）
ＰＬ.62　1．ＳＤ20木製品（又鍬Ｗ２）出土状況（北から）
2．ＳＤ21（北から）
3．ＳＤ21土層断面（北から）
4．ＳＤ15遺物463出土状況（南から）
5．ＳＤ17（北西から）
ＰＬ.63　1．黒色土包含層１検出状況（東から）
2．黒色土包含層１土層断面（北から）
ＰＬ.64　1．黒色土包含層２土層断面（南から）
2．ＳＢ５Ｐ２土層断面（北東から）
3．黒色土包含層２（２層）遺物509出土状況（東から）
4．黒色土包含層２（２－１層）遺物出土状況（北から）
ＰＬ.65　1．黒色土包含層２（２・３層）遺物出土状況（東から）
2．黒色土包含層２ベルト土層断面（北から）
ＰＬ.66　1．黒褐色土包含層１土層断面（南西から）
2．黒褐色土包含層２土層断面（東から）
ＰＬ.67　1．Ｐ188（446）、ＳＤ15（463）、黒色土包含層出土遺物（531）
2．ＳＤ20出土遺物（1）
3．ＳＤ20出土遺物（2）
4．ＳＤ20出土遺物（3）
5．黒色土包含層（２層）出土遺物
6．黒色土包含層（２層）出土遺物
ＰＬ.68　ＳＢ２出土柱根材
ＰＬ.69　1．ＳＤ20出土遺物Ｗ２（又鍬）、Ｗ３（杭状木製品）
2．ＳＤ9（449～451）、ＳＤ10（452～455）出土遺物
ＰＬ.70　ＳＤ11、ＳＤ12（456～461）、ＳＤ13（462）、ＳＤ20（486）出土遺物
ＰＬ.71　1．ＳＫ20（447）、ＳＫ23（448）、ＳＢ５（445）、ＳＤ15（464）、ＳＤ19（466、467）、ＳＤ21（465）出土遺物
2．黒褐色土包含層（487、488、490～496）、砂礫包含層出土遺物
ＰＬ.72　黒色土包含層（２層）出土遺物
ＰＬ.73　実体顕微鏡による胎土観察（11倍）
ＰＬ.74　図１主な光沢タイプ
ＰＬ.75　図２打製石斧（Ｓ58）の使用痕
ＰＬ.76　図３打製石斧（Ｓ58）の使用痕
ＰＬ.77　図４打製石斧（Ｓ59）の使用痕
ＰＬ.78　図５板状石器（Ｓ52）の使用痕
ＰＬ.79　図６打製石斧（Ｓ76）の使用痕
ＰＬ.80　図７スクレイパー（黒曜石Ｓ108）の使用痕

第１章　発掘調査の経緯

１．調査に至る経緯

本発掘調査は、国土交通省が進める国道９号線の改築（名和淀江道路）を原因とし、西伯郡大山町大字妻木字法大神の工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。当該地周辺の工事予定地内は、従来周知の遺跡として登録されていないが、分布調査の結果遺跡の存在が予察された。このため、大山町教育委員会は国及び県の補助金を得て、平成12年９月から平成13年３月にかけて試掘調査を行った。その結果、弥生時代・古墳時代の遺物が確認され、遺跡の存在が認められた。

関係諸機関と協議した鳥取県教育委員会事務局文化課は、遺跡の現状保存は困難と判断し、記録保存のための事前発掘調査を行うことになった。これを受けて国土交通省倉吉工事事務所は、文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を鳥取県教育委員会教育長に提出した。その上で発掘調査の指示を得た倉吉工事事務所は、調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。調査は、平成13年度、平成14年度に西部埋蔵文化財名和調査事務所大山分室が担当することになり、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター所長から鳥取県教育委員会教育長に文化財保護法第57条１に基づく発掘届を提出した。　（岡野）



第１図　調査地位置図

２．調査体制

平成13年度

○調査主体　**財団法人鳥取県教育文化財団**

理　事　長	有田　博充（鳥取県教育委員会教育長）
常務理事	関　敏之（鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長	岡山　宏徳

埋蔵文化財センター

所　長	中村　登（県埋蔵文化財センター所長）
次　長	小林　勉（６月退職）
次　長	加藤　隆昭
調整係長（兼）	加藤　隆昭
文化財主事	高垣　陽子
主任事務職員	矢部　美恵
事務職員	小林　順子

○調査担当　西部埋蔵文化財名和調査事務所大山分室

所　長	西村　成徳
主任調査員	西川　徹
調査員	岡野　雅則　君嶋　俊行
整理員	山崎　裕子

○作業従事者

浅田　末子　池本　実　石倉　信夫　泉谷　圭子　泉　洋弘　岡田　隆　岡田　蔦江
岡田　直美　岡田　ヨシエ　勝部　美勝　金川　克美　河上　美喜子　川畑　博子　木村　千歳
国野　吉久　坂田　久美枝　坂田　寿幸　坂田　文男　坂田　松子　坂田　真寛　坂田　ゆき
下島　利彦　杉谷　高代　林原　年彦　藤田　忠宏　前田　房子　前田　真　松岡　藍
松岡　茜　松田　節子　松本　英雄　美柑　利男　村尾　光造　森田　菊江　森田　才治
森田　三郎　森下　登亀子　諸遊　守　山根　八栄子　山森　博孝　山森　ひろみ　吉田　智
塩谷　和子　西村　薫子　（敬称略）

平成14年度

○調査主体　**財団法人鳥取県教育文化財団**

理　事　長　有田　博充
常務理事　川口　一彦（鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長　下田　弘人

埋蔵文化財センター

所　長　田中　弘道（県埋蔵文化財センター所長）
次　長　竹内　茂
次　長　加藤　隆昭
調査研究課　課長（兼）　加藤　隆昭
企画調整班　班長　松田　潔（８月異動）
文化財主事　原田　雅弘
庶務課　課長（兼）　竹内　茂
主任事務職員　矢部　美恵
事務職員　中島　いづみ

○調査担当　第二調査班西部埋蔵文化財名和調査事務所

所　長　西村　成徳
班　長　八峠　興
調　査　員　岡野　雅則　森本　倫弘　小林　桃子
事務補助員　金田　かおる

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　大山町教育委員会

○作業従事者

浅田　末子　阿部　昌夫　池本　実　石上　貞雄　石上　トミ　石倉　信夫　泉谷　圭子
岡田　蔦江　岡田　直美　岡田　光顯　岡田　ヨシエ　勝部　美勝　河上　美喜子　川畑　博子
木村　千歳　国野　和昭　権田　ちさと　坂田　久美枝　坂田　寿幸　坂田　久範　坂田　文男
坂田　真寛　坂田　松子　坂田　ゆき　下嶋　健一　杉谷　高代　西川　克己　西川　稔
林原　謙次郎　林原　年彦　番原　幹夫　前田　房子　松本　英雄　村尾　光造　森下　登亀子
森田　菊江　森田　才治　森田　三郎　諸遊　守　山根　八栄子　山森　博孝　山森　ひろみ
若木　和義　塩谷　和子　杉原　久枝　中田　眞理　西村　薫子　橋本　栄子　（敬称略）

第２章　遺跡の位置と環境

１．遺跡周辺の地形と地質

大山北麓域の地形は、大山、船上山山地を中心とする同心円状の等高線で特徴づけられる火山裾野面である。大山に源を発し放射状に流下する大小の河川による浸食のため、帯状にのびる開削谷と台地を形成している。主要河川の河口付近には扇状地や河岸段丘が発達している。妻木法大神遺跡は、阿弥陀川もしくは妻木川の氾濫原に形成された標高30～35ｍの扇状地上に位置する。

大山周辺の山地を形成するのは主として安山岩（石英安山岩、角閃石安山岩など）であるが、北麓域では一部に凝灰角礫岩がみられる。大山北麓域の縄文時代後期から弥生時代前期にかけての集落遺跡では、石鏃などの石器製作において無斑晶安山岩が選択的に使用されている。遺跡周辺の土壌は火山性土壌に由来する黒色土（いわゆる黒ボク）の下層は明褐色のローム層、および砂礫層とみられる（ＰＬ．１参照）。

２．阿弥陀川下流域の縄文時代遺跡

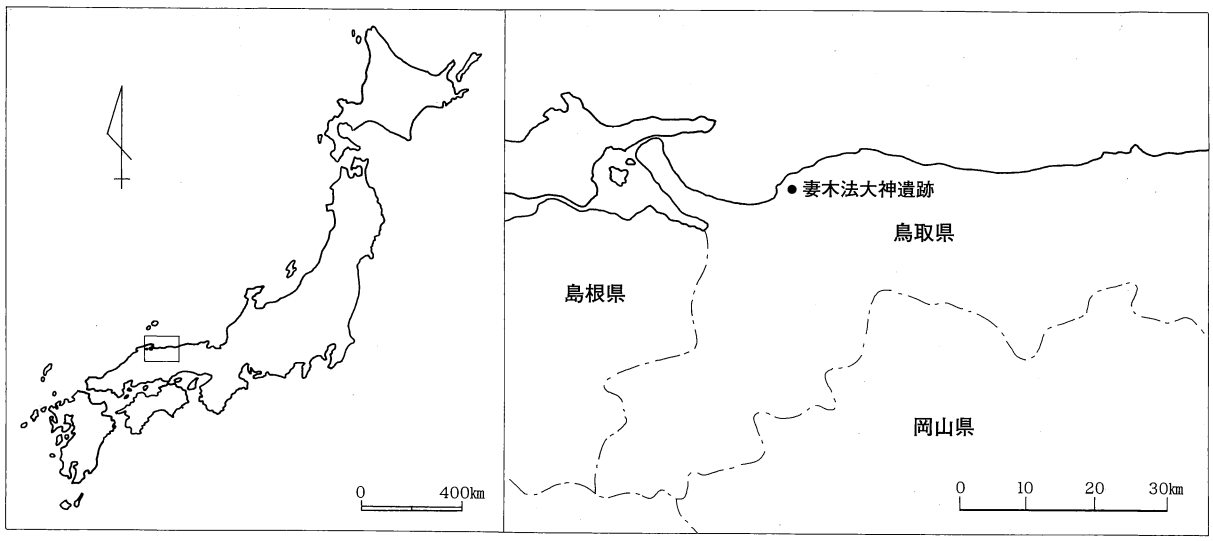
大山北麓域で人類の痕跡が確認できるのは旧石器時代後期以降のことである。大山町周辺ではサヌカイト製のものが坊領から１点、荘田から２点出土し、近年新田原遺跡・長田的場遺跡からも黒曜石製の有舌尖頭器の破片が採集されている。

阿弥陀川下流域における縄文時代遺跡は、早期から前期、後期、晩期から弥生時代前期の３時期に集約される。このうち、妻木法大神遺跡周辺では、大道原遺跡、荘田遺跡、塚田遺跡で押型文土器が出土している。塚田遺跡では押型文土器以外に繊維混入土器、押引沈線文をもつ土器が出土しており、遺構は伴わないが早期から前期初頭にかけての継続した人間活動が窺える。中高遺跡では西川津式の土器が出土している。

後期の遺跡は阿弥陀川左岸側には少なく、後期前葉をピークとする妻木法大神遺跡の存在が際立つ。阿弥陀川右岸の南川遺跡では石組炉をもつ住居跡が調査されている。そのほかは、茶畑山道遺跡で福田Ｋ２式併行とみられる土器片が出土しているなど、散在的に出土している。

晩期後葉の突帯文土器は、妻木法大神遺跡でまとまった数が出土しているほかは、大塚岩田遺跡で数点出土しているなどわずかである。遺構は検出されていない。このほか、遺物は伴わないが、周辺の丘陵上にはいわゆる落し穴状土坑が数多く検出されており、丘陵上が縄文時代の生活圏であったことが想定される。

３．弥生時代集落の動態



第２図　妻木法大神遺跡位置図

阿弥陀川下流域における遠賀川系土器の導入は前期中葉（Ⅰ－２様式からⅠ－３様式）と考えられる。おもに沖積地の遺跡が顕著となる。前期の遺跡としては阿弥陀川左岸には本遺跡のほか上野遺跡、塚田遺跡がある。いずれも前期中葉から後葉の所産である。西伯耆では、前期後葉（Ⅰ－４様式段階）に環壕集落が顕在化する。淀江町の今津岸の上遺跡では平面楕円形の環壕が確認され、中期前葉まで継続する。海岸段丘上に位置する名和町大塚岩田遺跡はⅠ－４様式のみで廃絶する。環壕の内側とみられる部分から住居跡が検出されている。このように土器型式上の２型式以上は継続しない集落が多い。対して本遺跡では、弥生時代初頭の様相が明らかでないものの縄文時代晩期後葉から弥生時代中期に至るまでほぼ継続した集落形成が窺われる。継続性という視点から拠点集落と評価されよう。中期前葉の遺物は本遺跡のほか上野遺跡、今津岸の上遺跡などで出土しているが、わずかであり具体相は不明である。

中期中葉になると沖積平野・丘陵上ともに集落が形成されるようになり遺跡数も増加する。阿弥陀川下流域から淀江平野を望む丘陵上の妻木晩田遺跡は、中期後半に集落形成が開始され後期後葉にピークを迎える。最盛期には一般の居住域のほか首長の居住域、墓域など地域の核となる集落の全体像を具体的に窺うことができる。妻木晩田遺跡から北東へ４kmに位置する茶畑山道遺跡・茶畑第１遺跡は蛇の川を隔てて隣接する集落遺跡である。茶畑山道遺跡では中期中葉、茶畑第１遺跡では中期後葉および後期末から古墳時代前期初頭とみられる大型建物跡が検出されている。一般的な居住域とは異質の空間をもつことから、集落の中枢部とみられる。長期間継続する集落ではないが、首長層の存在が想定される点で淀江平野から阿弥陀川下流域における拠点集落とみられる。対して、阿弥陀川左岸の新田原遺跡や塚田遺跡、妻木法大神遺跡をはじめ比較的小規模な集落遺跡が散在的に存在する。押平弘法堂遺跡では中期後葉の土壙墓群が検出されている。

このように阿弥陀川下流域から淀江平野にかけての弥生集落は、妻木晩田遺跡、茶畑山道遺跡、茶畑第１遺跡など一般的な居住域とは異質な空間をもつ拠点集落と、こうした集落の間に分布する比較的小規模な集落という構造が窺える。集落間関係の具体相の抽出は今後の課題である。妻木晩田遺跡では中期末から後期前葉にかけての四隅突出型墳丘墓、方形の墳丘墓が検出されている。墳丘墓か古墳かは定かでないが、妻木山の山麓には徳楽方墳が知られている。

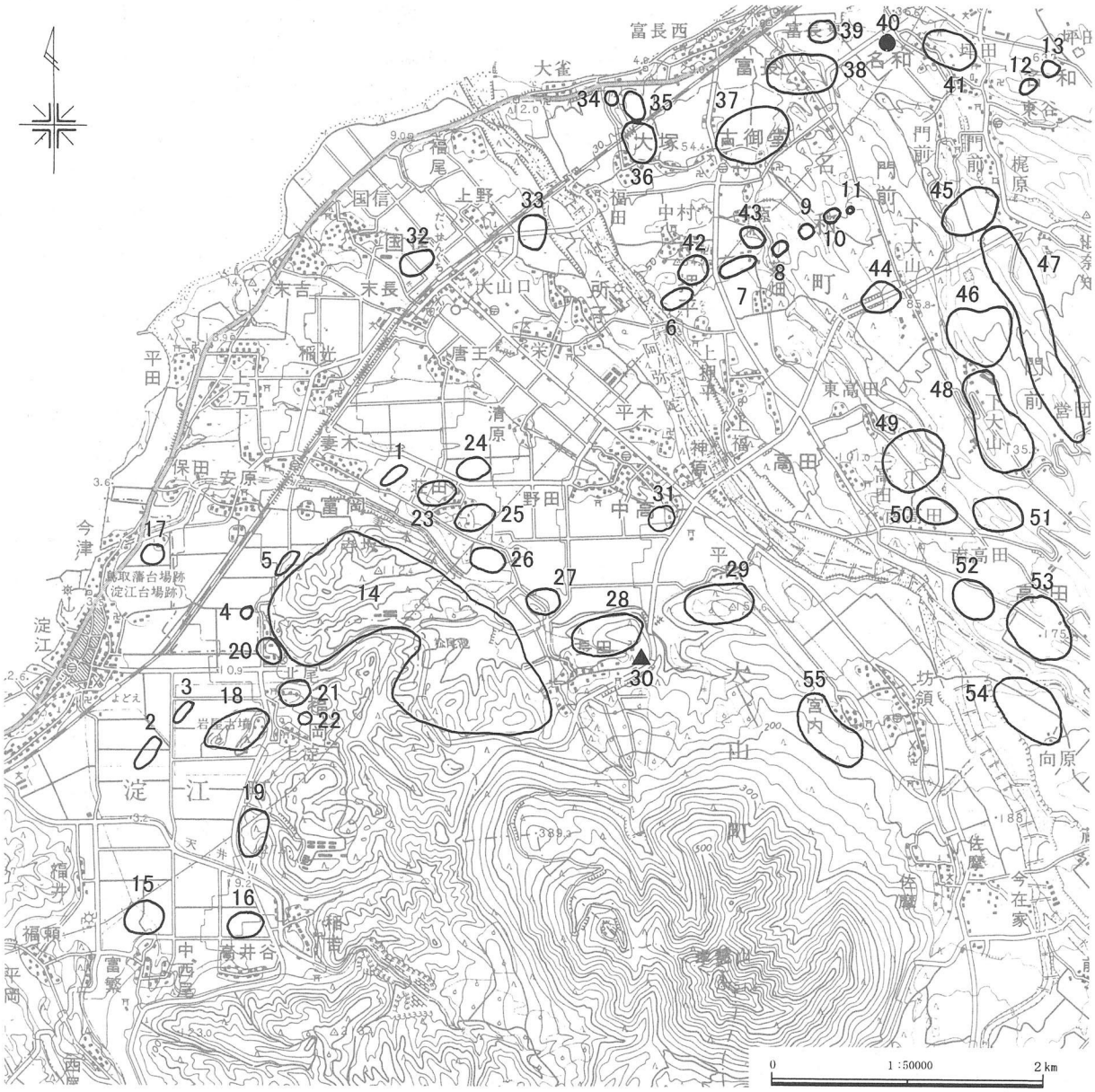
（西川・岡野）

４．古墳時代以降の様相

古墳時代は前方後円墳に代表される古墳の築造が特徴としてあげられるが、阿弥陀川下流域において前期の前方後円墳は確認されていない。妻木晩田遺跡周辺の丘陵上には晩田山古墳群、妻木山古墳群がある。晩田山古墳群で弥生時代後期末から古墳時代前期の古墳が確認されている。播磨洞古墳群のように墳丘が削平され存在が認識されていなかったものもある。存在が知られている古墳についても調査が実施されていないものが大部分で、正確な時期が分からないものもあるが、大半は後期の群集墳と考えられる。中期から後期にかけて中核的な地域であったのは淀江平野である。向山古墳群は、全長48.5mの前方後円墳である長者ヶ平古墳をはじめ、石馬谷古墳、切石積横穴式石室をもつ岩屋古墳などがあり首長墓群と理解される。東側には７世紀に造営された上淀廃寺があり、古墳時代から古代を通して地方勢力の拠点であったと推測されている。

律令期の大山町域は伯耆国汗入郡の一部をなしている。本遺跡の北西側に位置する壹宮神社境内から発見された壹宮経塚からは経筒とともに平安時代後期の和鏡が８枚出土しており、末法思想の広がりをうかがわせる。中世には荘園が形成されており、大山町域においても「国延保」「所子荘」「稲光保」などが置かれていたことが文献に残されている。また、大山山腹の大山寺は、中世において三千余人の僧兵をかかえ大きな勢力を誇ったといわれる。寛治八年（1094）に白河上皇の御所に強訴に及んだことが知られている。後の徳川時代においても三千石の所領が認められ、明治維新の廃仏毀釈によって大山領が廃止されるまで、鳥取藩の支配を受けない独立した村落支配を行っていた。

（西川）



	遺跡名	旧石器時代	縄文時代	弥生時代 前期	弥生時代 中期	弥生時代 後期	古墳時代 前期	古墳時代 中期	古墳時代 後期	歴史時代 飛奈	歴史時代 平安	歴史時代 鎌倉	歴史時代 室町	歴史時代 近世
1	妻木法大神遺跡		○	△	△		△					○	○	
2	福岡遺跡			△	◎									
3	井手胯遺跡		○	○										
4	安原溝尻遺跡		○											
5	富岡播磨洞遺跡		△						●	○		○		○
6	押平弘法堂遺跡		○		◎						△	◎		○
7	茶畑六反田遺跡		○	△	○						○	◎		○
8	茶畑第１遺跡		○		◎	◎	◎							
9	押平尾無遺跡					?								
10	古御堂笹尾山遺跡					◎	◎	◎	◎					
11	古御堂金蔵ヶ平遺跡		△			△		△	△					
12	名和乙ヶ谷遺跡		○								◎			○
13	名和衣装谷遺跡		○								◎			○
14	妻木晩田遺跡				◎	◎	◎	◎	◎		○			
15	井手挟遺跡						○							
16	角田遺跡				△									
17	今津岸の上遺跡			○										
18	向山古墳群								●					
19	城山古墳群								●					
20	晩田遺跡				△									
21	楚利遺跡					△								
22	上淀廃寺跡								○	◎	○			
23	大道原遺跡				○									
24	新田原遺跡				○	○	○							
25	原畑遺跡		△		○									
26	塚田遺跡		△			○	○		○					
27	客尾山古墳群								●					
28	長田古墳群								●					

	遺跡名	旧石器時代	縄文時代	弥生時代 前期	弥生時代 中期	弥生時代 後期	古墳時代 前期	古墳時代 中期	古墳時代 後期	歴史時代 飛奈	歴史時代 平安	歴史時代 鎌倉	歴史時代 室町	歴史時代 近世
29	平古墳群					○	○	○	○	△				
30	徳楽方墳						■							
31	中高遺跡		△											
32	国信第１遺跡		△											
33	上野遺跡			○	○	○	○			○				
34	大塚岩田遺跡			◎										◎
35	大塚塚根遺跡				○	◎	◎	◎	◎		○	◎		
36	古御堂遺跡		○											○
37	文珠領屋敷遺跡		△								◎	○		
38	富長古墳群								●					
39	南川遺跡		◎											
40	ハンボ塚古墳							●						
41	坪田遺跡		△						△		△	○		
42	押平天王屋敷遺跡										○	○		
43	茶畑山道遺跡				◎									
44	茶畑第２遺跡					◎								
45	門前古墳群								●				○	
46	宮団第１遺跡		△			◎							○	
47	門前第３遺跡			?		◎								
48	下大山第６遺跡	△				○								
49	高田古墳群								●					
50	高田原遺跡									○				
51	高田第４遺跡		△											
52	高田古墳群								●					
53	高田第10遺跡		△			◎								
54	向原古墳群								●					
56	宮内古墳群						○	△	●	△				

◎：遺構数多　○：遺構・遺物あり　△：遺物あり　●：円墳　■：方墳

第３図　周辺遺跡分布図

第３章　調査の経過と方法

１．調査の経過

現場作業

妻木法大神遺跡は、平成12年度の大山町教育委員会による試掘調査により初めて確認された遺跡である。おもに弥生時代から中世に該当する遺物が出土していることから、本調査においてもこの時期の遺構、遺物の存在が予察された。

現地調査は、東側の１区（平成13年度）、西側の２区（平成14年度）の順に行った。１区が平成13年４月２日から12月６日、２区が平成14年４月２日から９月30日である。総調査面積は13606㎡である。

遺物整理・報告書作成作業

遺物整理、報告書作成作業は、平成13年度当初から開始し、平成15年３月まで行った。出土した遺物は、１区が遺物コンテナに換算して約70箱、２区が約15箱である。大半が１区のＳＤ１出土遺物である。遺物が多量であるため、各層位ごとの最少個体数の算出を目的として口縁部を中心に実測を行った。（岡野）

２．発掘調査の方法

１区、２区とも、方眼（グリッド）は、国土座標第Ｖ系にしたがい、10m四方を１区画として設定した。南北軸を数字で、東西軸をアルファベットで表し、１グリッドの北東隅の交点をもってグリッド名としている。

１区（平成13年度）

調査の便宜上、現状での田圃の畦区割りを基準として１a区から１d区に区分けした。調査地周辺は昭和50年代に行われた圃場整備事業により階段状に削平・盛土が行われている。このため、表土および客土を重機により除去した後に遺構面の検出・精査を行った。黒色土包含層が残存する部分以外は明褐色のローム堆積土の直上で遺構検出を行った。

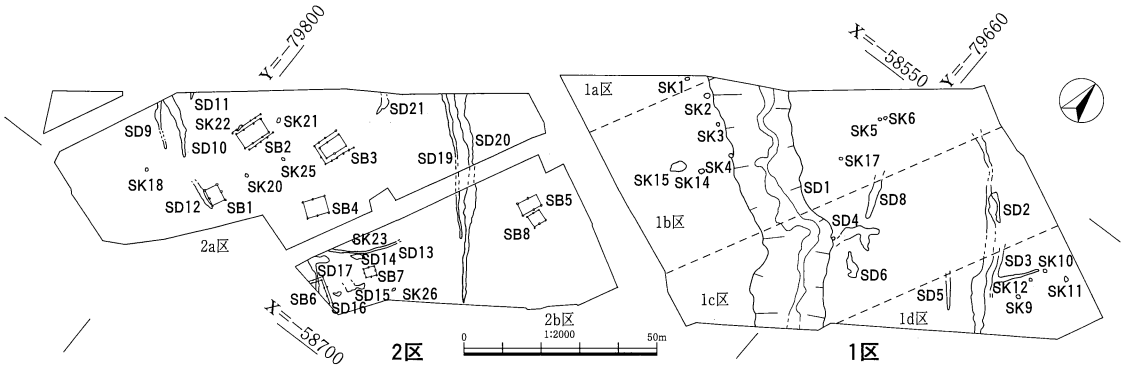
検出した遺構は、落とし穴状土坑、弥生時代中期から後期の所産とみられる住居跡、自然流路である。

出土遺物の取り上げは、黒色土包含層の遺物は具体的な時期比定が可能な個体のみ平板測量で取り上げ、その他は層位的に一括して行った。ＳＤ１埋土中の遺物は、具体的に時期が判明しうるものでかつ実測に耐えうるものを基準に出土地点を記録し、その他は層位的に一括して取り上げた。遺物の包含が極めて希薄とみられる部分については、工期との関係上重機を使用した。調査面積は7055㎡である。

２区（平成14年度）

１区同様、現状の畦区割りを基準に２a区、２b区に区分けし、２a区、２b区の順に調査を行った。１区と同様に圃場整備による削平・盛土が行われており、一部に黒色土、黒褐色土の包含層が残存するほかは、明褐色のローム質土壌（Ⅲ層）上面で遺構検出を行った。

黒色土、黒褐色土包含層には遺構面の存在が想定されたため、それぞれ上面での遺構検出、地形測量を行った。

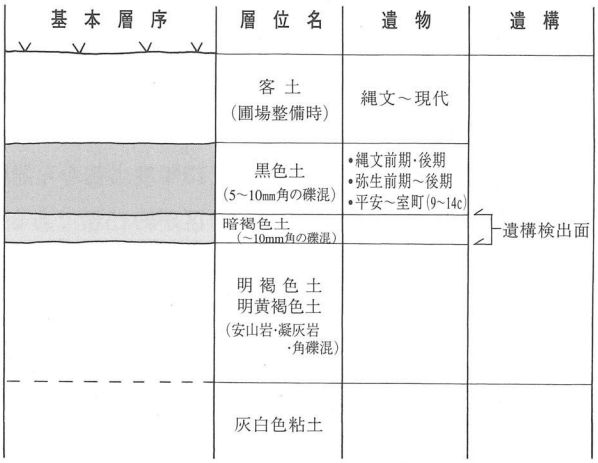


第４図　遺構概念図

黒色土包含層中に遺構面が想定されたものの遺構を明確に視認することはできなかったため、層位的に除去し下層の暗褐色土上面において検出作業を行った。調査した遺構は、12～14世紀の集落関連遺構、落とし穴状土坑、流路状遺構である。掘立柱建物として成立する柱穴以外のピットは土層断面図の作成は行わず基本的な埋土色調の記録のみにとどめた。明褐色土はトレンチ調査の結果遺構、遺物ともに皆無であったため、Ⅲ層上面をもって最終遺構面とした。調査面積は6551㎡である。

３．調査区内の堆積

本遺跡は阿弥陀川もしくは妻木川の氾濫原に位置しており、南東方向から北西方向に向けて緩やかに傾斜する地形上にある。調査着手以前の周辺は圃場整備が行われており、斜面をカットして水田や畑地として使用されていた。基本的な層序はⅠ～Ⅳ層である。現状では一部に残存するのみであるが、本来的には地表付近は黒色土（黒ボク）が堆積していたものと考えられる。これは大山の火山堆積物が腐植により黒化したものとみられ、鳥取県西部地域に広く分布する堆積である。二次的に移動し再堆積したものが大半とみられ本来的に形成された時期は特定されていないが、周辺地域の発掘調査の成果からみておおよそ縄文時代から鎌倉時代頃にかけて形成されたものと考えられる。黒色土の下層は、周辺が扇状地であるため一様な堆積ではないが、基本的には安山岩礫、凝灰岩礫を包含するローム質土壌の堆積（Ⅳ層）である。堅くしまった堆積であり全く遺物を包含しないことからⅣ層上面で最終遺構面と判断した。自然河道ＳＤ１の河道壁で観察する限り数層に分かれるⅣ層の下層には灰白色の粘土層が堆積している。（岡野）



第５図　調査区内基本層序図

第４章　１区の調査

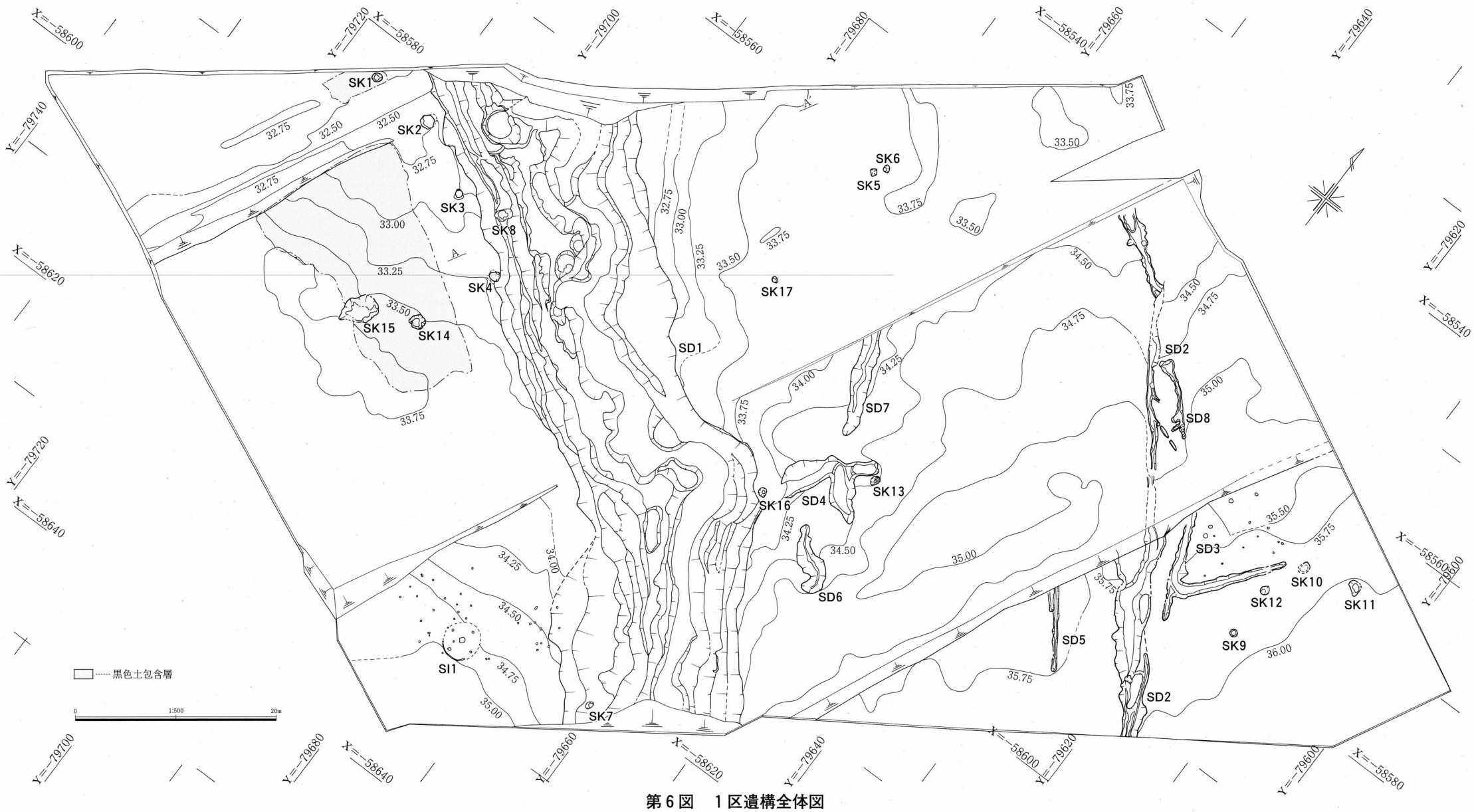
１．調査の概要

調査した遺構は、竪穴住居跡１、土坑17、自然河道８である。出土した遺物は縄文時代から近世に至るまでみられるが、主体をなすのは河道ＳＤ１および黒色土包含層から出土した縄文時代後期から弥生時代前期にかけての土器・石器の一群である。具体的な遺構は検出できなかったが調査区周辺に当該期の集落跡が想定される。中でも弥生時代前期中葉から中期にかけては継続して土器が出土しており、近接して長期にわたり継続した集落の存在が窺われる。

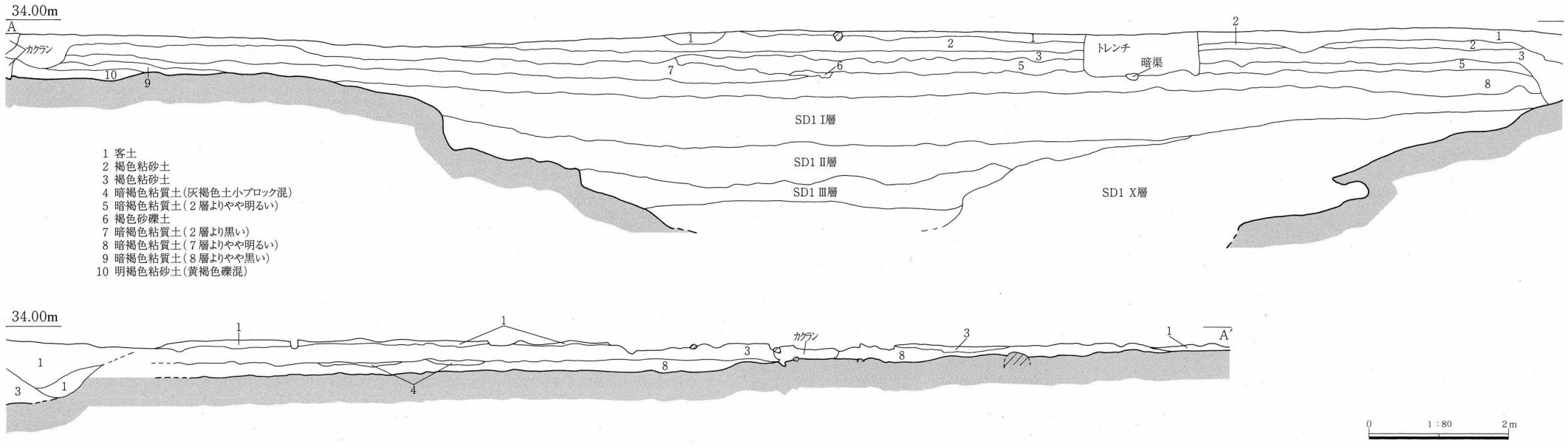
集落遺構では、竪穴住居跡は床面まで削平されており、遺物は出土していないが、平面形態から弥生時代の所産とみられる。周辺ピットの存在から集落跡の存在が推察される。土坑はＳＫ１がいわゆる落し穴状土坑であり、埋土中から縄文時代後期の土器が出土している。黒色土包含層の除去後に検出したＳＫ14・15は、不整な形状を呈しており人為的な掘削によるものかわからないが、埋土中より縄文時代後期の土器が出土している。

遺跡は、火山裾野面の扇状地に立地するため、現在でも湧水ポイントが認められ小規模な河川が流下している。過去にはこうした湧水や河川を溢れた流水が各所を流れたとみられ、調査区内各所で小規模な河道を検出している。おもに縄文時代から中世に形成されたものと考えられるが、なかでも河道ＳＤ１は縄文時代後期以前に形成され、古墳時代前後まで埋没と河道形成を繰り返している。

河道ＳＤ１の周辺には、直径１ｍ程度の土坑が河道に沿って分布している。埋土中から遺物は出土していない



第６図　１区遺構全体図



第７図　１区調査区土層断面図

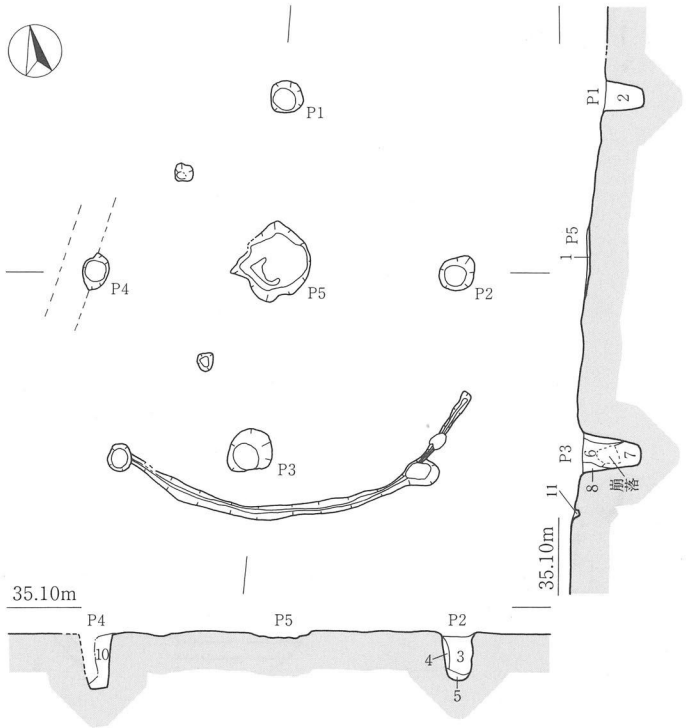
が、いずれも土坑底面が粘土層上面であることや、現状での地下水位レベルであることからみて、井戸と判断するのが自然であろう。時期不明であるが、調査区内に分布する直径40～50㎝前後のシャフト状の土坑には木質が残存するものもあり、埋没立木の可能性がある。

包含層はおもに河道ＳＤ１の西側に分布する。層位的に黒褐色土と黒色土に分けられるが、いずれも二次堆積層である。黒褐色土には平安時代を下限とする遺物、黒色土には縄文時代後期を中心に弥生時代中期を下限とする遺物が包含される。河道ＳＤ１のⅢ層以下から出土した遺物と時期的に一致する。（岡野）

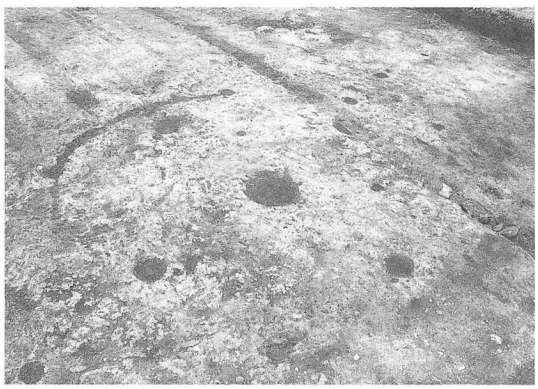
２．集落遺構の調査

住居跡ＳＩ１（第８図、ＰＬ．３）

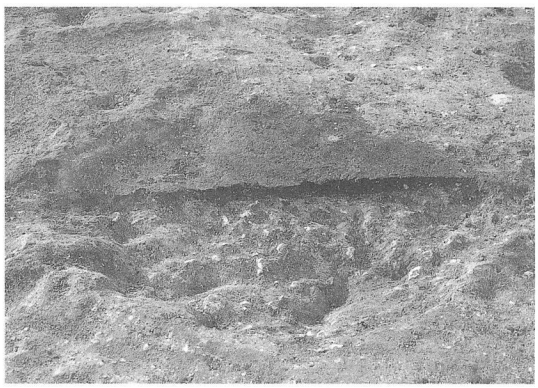
調査区南端付近に位置し、標高34.7～35.0ｍの平坦面に立地する。全体的に削平を受けており、壁溝の一部と主柱穴、中央ピットを検出したのみで、埋土や床面はまったく失われていた。部分的に遺存していた壁溝からその形態と規模を復元すると、南北3.8ｍ前後、東西3.5ｍ前後の円形ないし楕円形を呈すると思われる。壁溝は南側に遺存しており、幅５～15㎝、深さ５～10㎝、断面はＶ字形ないし逆台形である。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、それぞれの規模を（長軸×短軸－深さ）で表すと、Ｐ１（27×25－30）㎝、Ｐ２（31×28－40）㎝、Ｐ３（40×35－45）㎝、Ｐ４（30×21－45）㎝である。また、各主柱間の距離は、Ｐ１－Ｐ２間から順に1.95ｍ、2.2ｍ、1.95ｍ、2.05ｍである。なお、Ｐ３－Ｐ４間、Ｐ４－Ｐ１間のほぼ中央には、径約15㎝、深さ約５㎝の小ピット（Ｐ51・Ｐ52）が位置している。主柱穴の埋土は暗褐色土を主体とし、明確な柱痕は認められなかった。Ｐ５は65㎝×60㎝の不整円形を呈する。４本の主柱穴に囲まれた中央に位置することから、いわゆる中央ピットと考えられるが、深さは２㎝程度と極めて浅い。埋土は主柱穴と似通った暗褐色土で、黒曜石の極小チップが一点含まれていた。本住居跡からは遺物は出土しておらず、時期は不明であるが、その形態から弥生時代後期以前のもの



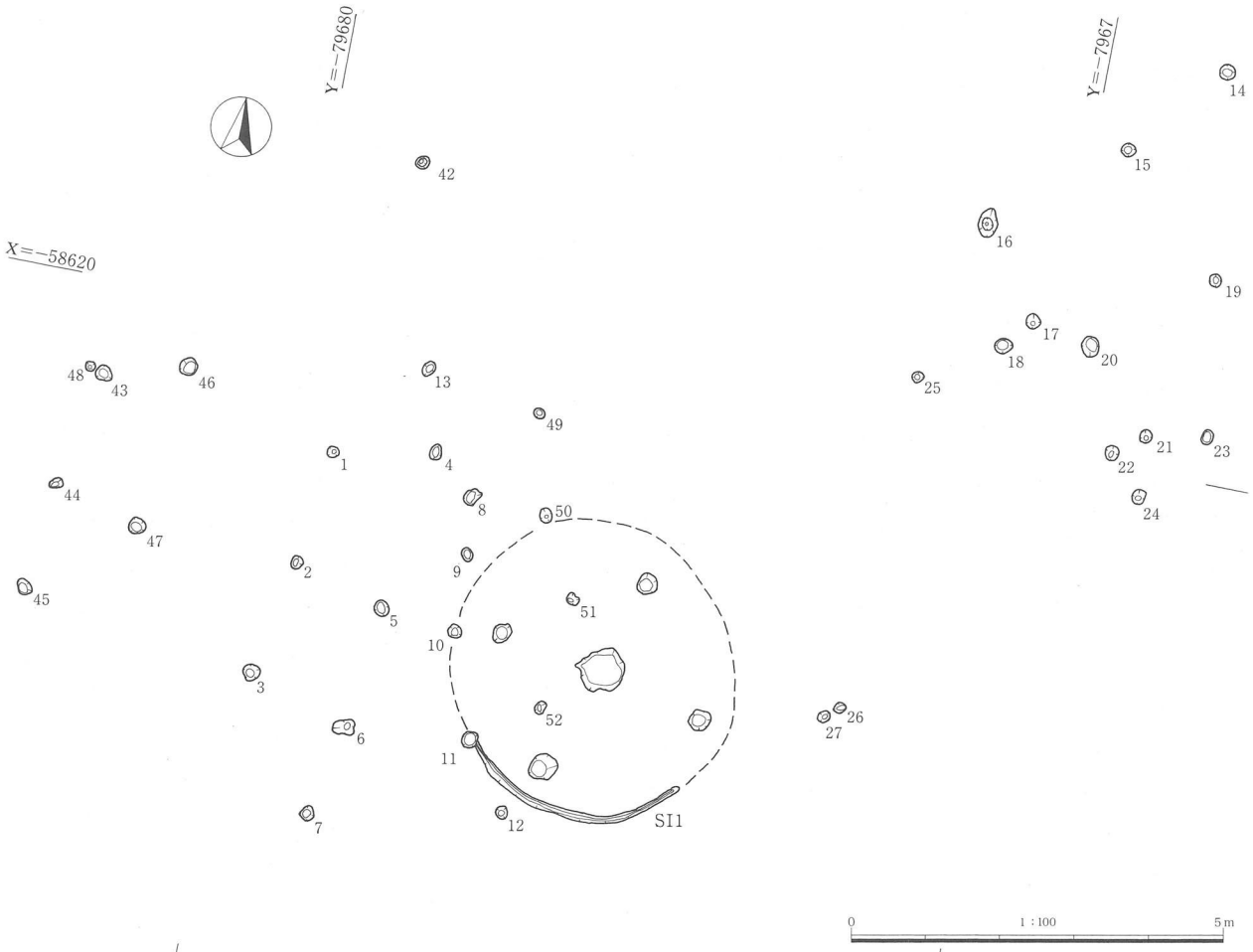
第８図　ＳＩ１



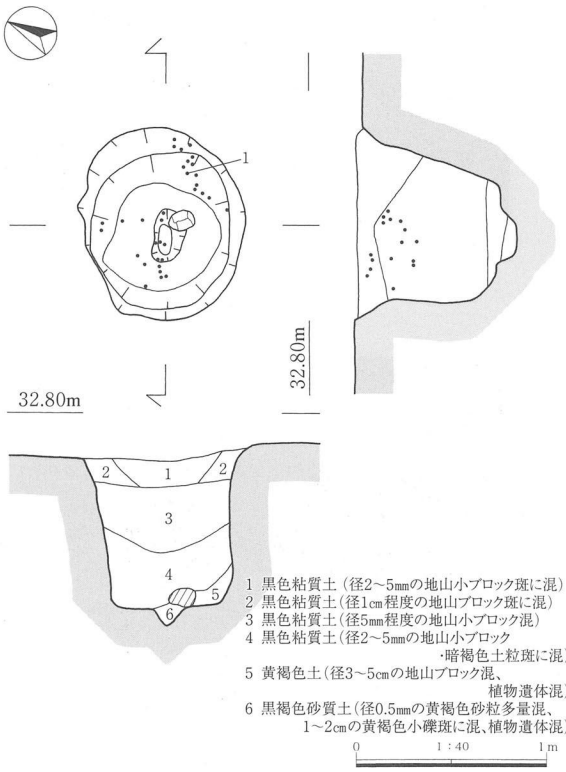
ＳＩ１　検出状況



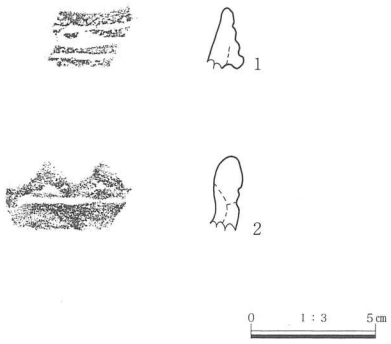
ＳＩ１　Ｐ５土層断面



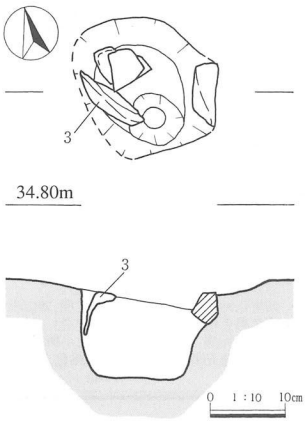
第９図　ＳＩ１周辺遺構図



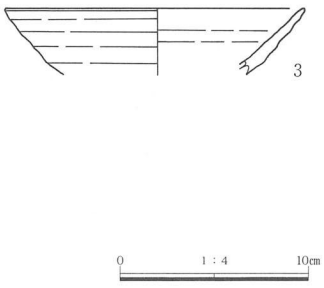
第10図　ＳＫ１



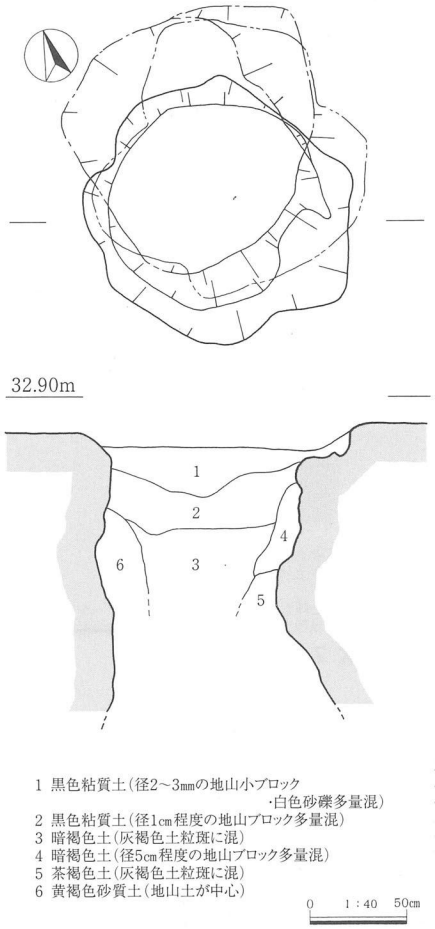
第11図　ＳＫ１出土遺物



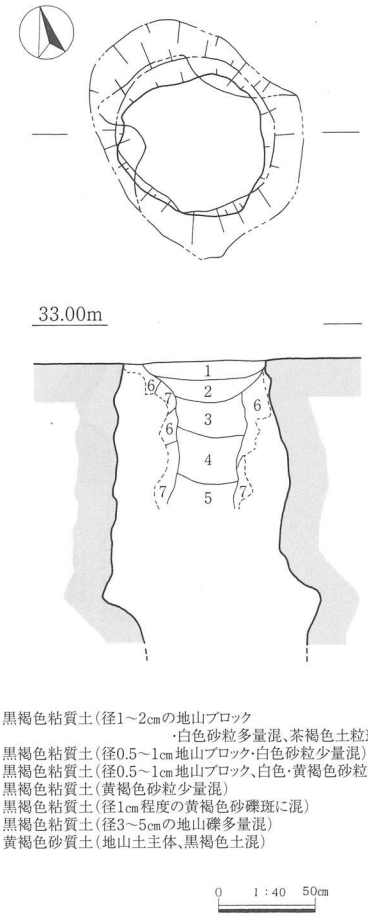
第12図　Ｐ43遺物出土状況



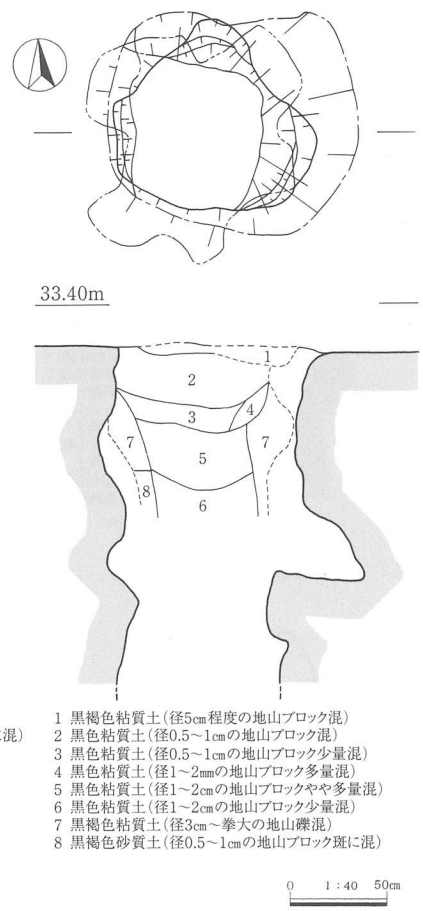
第13図　Ｐ43出土遺物



第14図　ＳＫ２



第15図　ＳＫ３



第16図　ＳＫ４

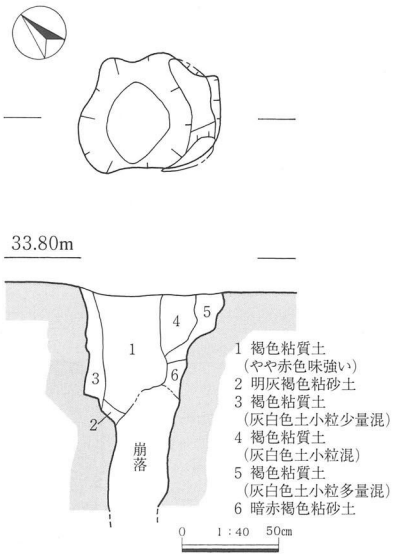
である可能性が高い。　（君嶋）

ピット（第９・12・13・85図、ＰＬ．３）

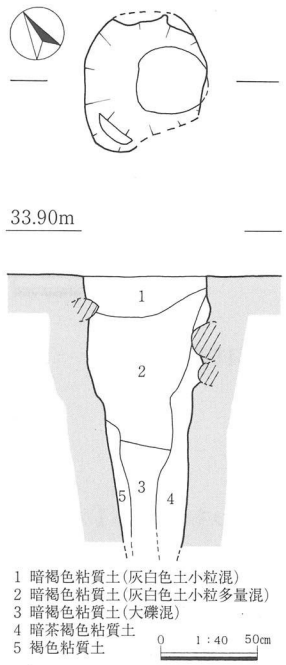
１区では総数52個のピットを検出した。これらは３つのまとまりに分かれている。すなわち、ＳＩ１北西側に分布する一群、ＳＩ１北東側を中心とする一群、そしてＳＤ３の北側周辺の一群である。これらのうち、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３の３個などは一列に並ぶ可能性もあるが、総じて配列は不規則であり、建物を復元するには至らなかった。埋土は、暗褐色土もしくは淡黒褐色土である。遺物が出土したのはＰ６・11・14・19・43である。これらのうち、Ｐ43の埋土中からは、自然礫とともに土師器の破片が３点出土した。これらは底面に回転糸切痕をもつ杯形土器で、12～13世紀代のものと思われる（第13図）。その他の遺物はいずれも土器の小片で、図化しえない。したがって、Ｐ43以外のピットの時期は特定できないが、Ｐ11は切り合い関係からＳＩ１に後出するものである。　（君嶋）

ＳＫ１（第10図、ＰＬ．４）

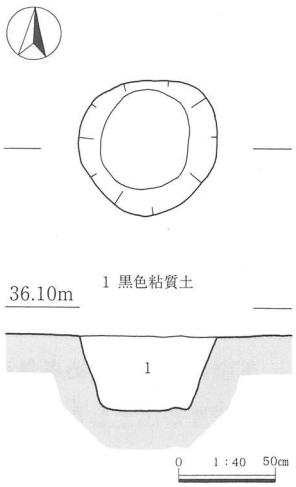
河道ＳＤ１の左岸側、調査区西端近くに位置し、標高32.5ｍの平坦面に立地する。付近は黒色土包含層の分布範囲であるが、検出したのは黒色土除去後の明黄褐色土地山面においてである。長軸100㎝、短軸85㎝の楕円形を呈し、検出面からの深さは78㎝である。底面は平坦であり、ほぼ中央に長軸28㎝、短軸17㎝、深さ10㎝のピットをもつ。このピットは、検出時の観察から、本来２基のピットが重複したものとみられる。ただしその切り合い関係は明らかにできなかった。埋土は黒色土を主体とし、自然堆積と考えられる。下層は湧水のため多量の水分を含み、また植物遺体の混入もみられた。遺物は、埋土の上層を中心に24点の縄文土器片が出土した。いずれも小破片であるが、図化し得た１は縄文時代後期前葉崎ヶ鼻式の深鉢口縁部、２も後期段階の口縁部とみられ、遺構の埋没時期を示すものと思われる。また、底面に接して、地山由来の自然礫を検出した。形態と底面ピット



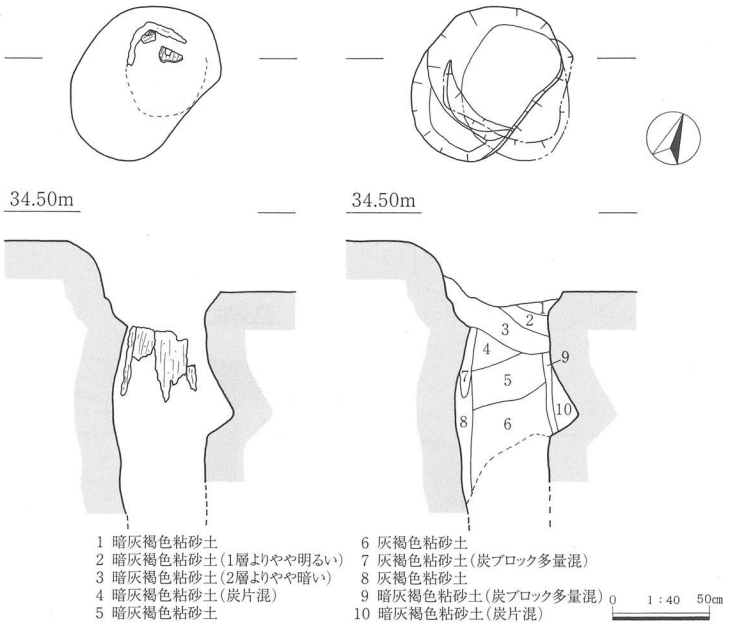
第17図　ＳＫ５



第18図　ＳＫ６



第21図　ＳＫ９



第19図　ＳＫ７

第20図　ＳＫ８

の存在からは、落し穴としての性格が考えられる。　（君嶋）

ＳＫ２（第14図、ＰＬ．４）

河道ＳＤ１の左岸、標高約32.7ｍの平坦面に立地する。ＳＤ１の南岸からは南へ約1.5ｍの距離にある。検出面では長軸1.5ｍ、短軸1.1ｍの不整円形を呈する。明瞭な底面をもたず、検出面から深さ1.45ｍの灰白色粘土層まで掘り込まれており、湧水が著しい。断面形は、幾重にもオーバーハングを繰り返し、非常に複雑である。遺物は出土しておらず時期は不明である。性格としては、河道ＳＤ１に近接し、粘土層まで掘り下げていることから、井戸である可能性が考えられる。湧水のため土層断面の観察は困難であったが、黒色土・黒褐色土を主体とする１～３層の外側に暗褐色土を主体とする４層以下が堆積しており、径50㎝前後を測る井戸枠状の施設の存在を示唆している。　（君嶋）

ＳＫ３（第15図、ＰＬ．４）

河道ＳＤ１の左岸、標高約32.8ｍの平坦面に立地する。ＳＤ１の南岸からは南へ約1.2ｍの距離にある。検出面では径約1.5ｍの不整円形を呈する。底面をもたず、検出面から深さ1.5ｍの灰白色粘土層まで掘り込まれており、湧水が著しい。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、形状、規模、埋土の堆積状況の点でＳＫ２に類似しており、井戸としての性格が考えられる。土層断面より推定される井戸枠の径は約70㎝である。　（君嶋）

ＳＫ４（第16図、ＰＬ．４）

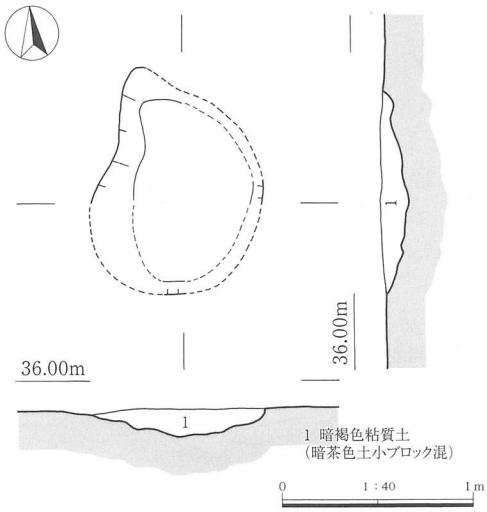
河道ＳＤ１の左岸、標高約33.2ｍの平坦面に立地する。ＳＤ１に接して掘り込まれているが、ＳＤ１の埋土との切り合い関係はない。検出面では長軸1.05ｍ、短軸1.0ｍの不整形を呈する。底面をもたず、検出面から深さ1.8ｍの灰白色粘土層まで掘り込まれており、湧水が著しい。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、形状、規模、埋土の堆積状況の点でＳＫ２およびＳＫ３に類似しており、井戸としての性格が考えられる。土層断面より推定される井戸枠の径は約55㎝である。　（君嶋）

ＳＫ５（第17図、ＰＬ．４）

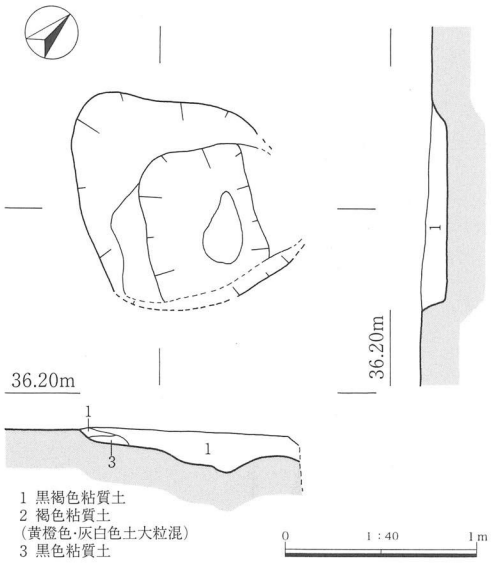
調査区北西側に位置する。平面形はいびつではあるが方形状を呈しており、長軸74㎝、短軸56㎝である。底に向かい円形状となる。断面形もいびつではあるが、底に向けて狭くなる逆円錐形状を呈する。検出面から178㎝の地点で湧水のため掘り下げを中止した。埋土の下半は泥質土である。遺物は出土していない。規模からみて立木が扇状地形成時に堆積土に覆われ、その痕跡内に土砂が流入した結果かもしれない。　（西川）

ＳＫ６（第18図、ＰＬ．５）

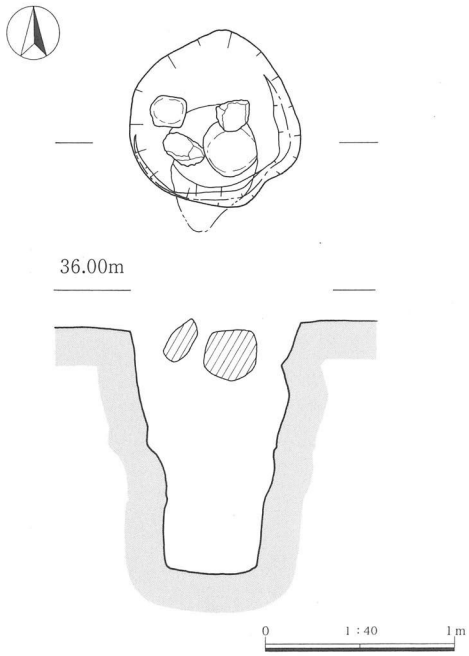
ＳＫ５に隣接する。平面形はいびつな円形状を呈しており、長軸80㎝、短軸66㎝である。断面形は底に向けて狭くなる形状を呈している。検出面から約160㎝で掘削を中止した。土坑下半の埋



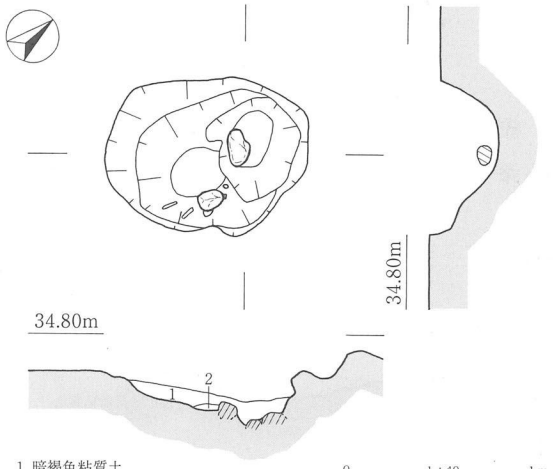
第22図　ＳＫ10



第23図　ＳＫ11

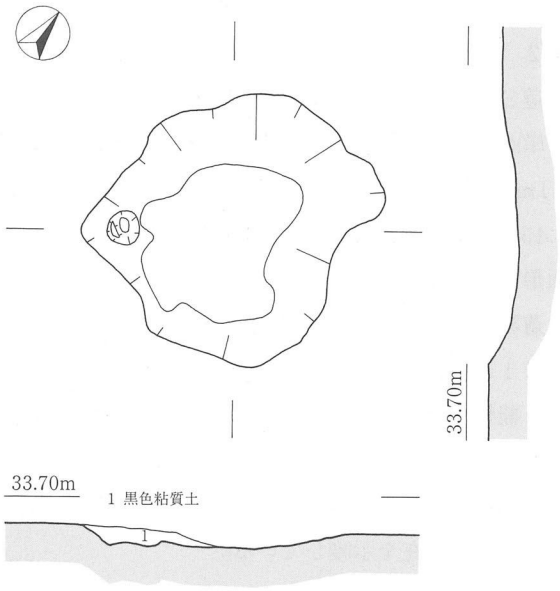


第24図　ＳＫ12



1 暗褐色粘質土
（拳大の地山礫・径1cm程度の
地山ブロック混、炭化物微量混）
2 褐色粘質土（白色砂粒・炭化物微量混）

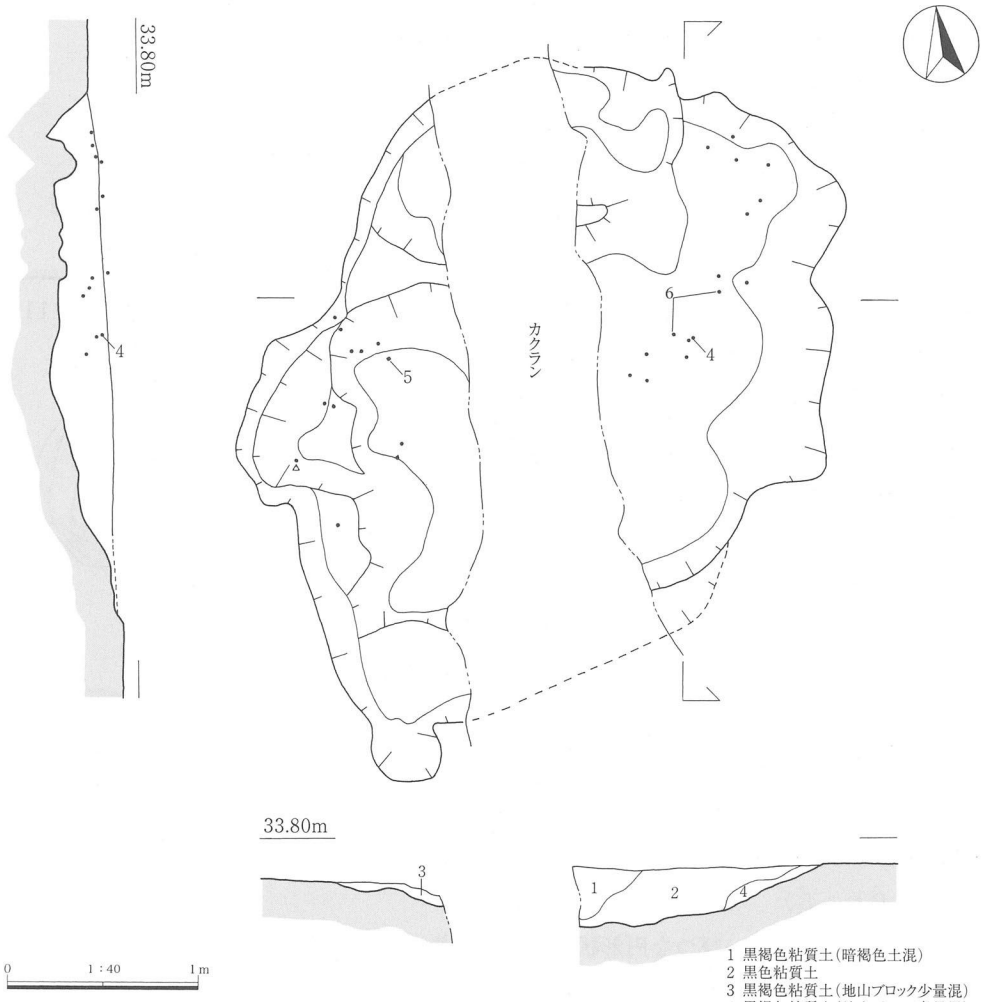
第25図　ＳＫ13



1 黒色粘質土

第26図　ＳＫ14

0　1：40　1m



1 黒褐色粘質土（暗褐色土混）
2 黒色粘質土
3 黒褐色粘質土（地山ブロック少量混）
4 黒褐色粘質土（地山ブロック多量混）

第27図　ＳＫ15

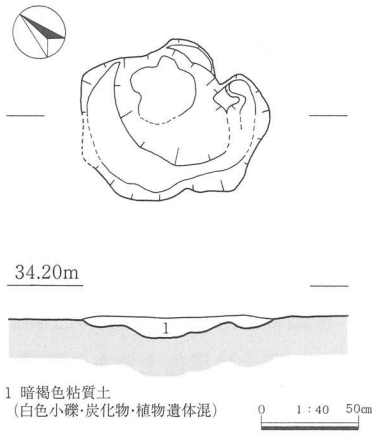
土は泥質土である。遺物は出土していない。立木が扇状地堆積に覆われた結果埋没した痕跡の可能性がある。（西川）

ＳＫ７（第19図、ＰＬ．５）

河道ＳＤ１の左岸に位置する。検出面は長軸90㎝、短軸62㎝の楕円形を呈するシャフト状の土坑である。一部に井戸枠状の木質が残存するが、小規模であり埋没木の可能性がある。遺物は出土していない。（岡野）

ＳＫ８（第20図、ＰＬ．５）

河道ＳＤ１の左岸側河道壁に掘削されている。ＳＤ１との切合い関係は確認できなかった。底面では直径１ｍ程度の不整形を呈する。壁面もいびつである。底面は扇状地堆積に包含される灰白色粘土層の上面である。遺物は出土していない。（岡野）



第28図　ＳＫ16

ＳＫ９（第21図）

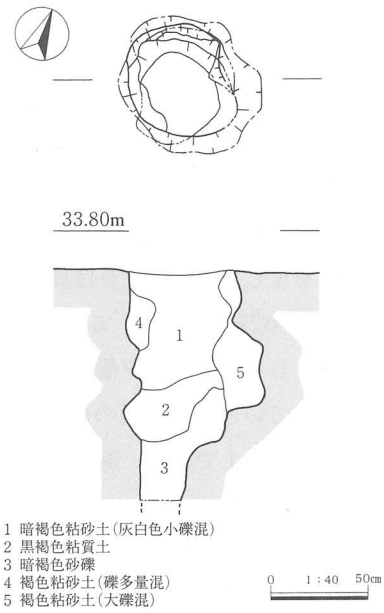
調査区南東端付近に位置する。平面形はほぼ円形を呈しており、長軸78㎝、短軸76㎝である。断面形は逆台形状を呈しており、検出面からの深さは最大で40㎝、底面はほぼ平坦である。埋土は黒色土であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。（西川）

ＳＫ10（第22図）

調査区南東端付近に位置する。平面形はいびつな楕円形状を呈しており、長軸124㎝、短軸92㎝である。断面形は皿状を呈しており、最大で16㎝の深さが存在する。底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積と考えられる。遺物は出土してない。（西川）

ＳＫ11（第23図、ＰＬ．５）

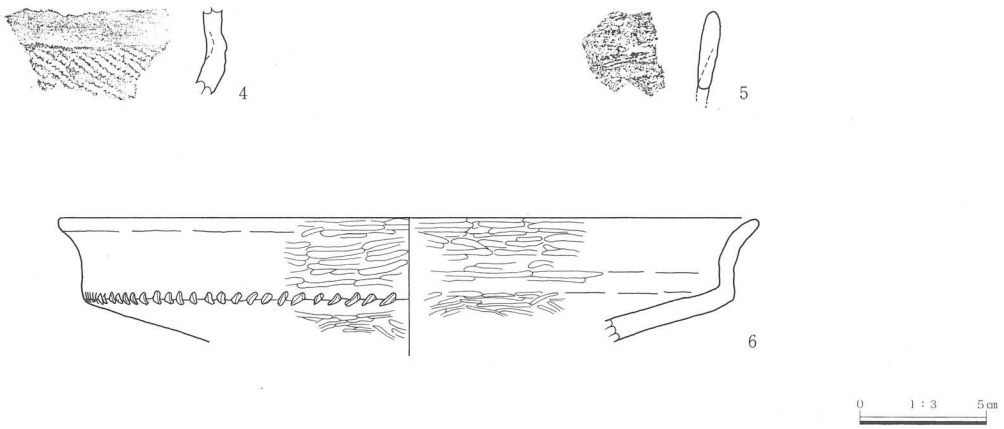
調査区南東端付近に位置する。平面形はいびつな方形状を呈しており、長軸132㎝、短軸100㎝である。断面形は皿状を呈しており、最大で20㎝の深さが存在する。底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。（西川）



第29図　ＳＫ17

ＳＫ12（第24図、ＰＬ．５）

調査区南東端付近に位置する。平面形はややいびつな円形状を呈しており、長径86㎝、短径82㎝である。断面形は逆円錐形状を呈しており、最大で136㎝の深さが存在する。底面はほぼ平坦である。黒色系統の埋土であり



第30図　ＳＫ15出土遺物

自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。　（西川）

ＳＫ13（第25図、ＰＬ．６）

河道ＳＤ１右岸側に位置する。平面形は楕円形状を呈しており、長径110㎝、短径79㎝である。断面形はいびつな皿状を呈しており、最大で30㎝の深さがある。埋土は自然堆積と考えられる。底面から炭化した木の小片が出土した。遺物は出土していない。　（西川）

ＳＫ14（第26図、ＰＬ．６）

河道ＳＤ１左岸側黒色土包含層の直下から検出した遺構である。長軸1.6ｍ、短軸1.4ｍの不整な平面形を呈する。検出面からの深さは最大14㎝である。底面はややいびつであり、平面形からみても人為的な所産か否か分からない。埋土は黒色土であり堆積状況は把握できない。埋土中から数点の土器片が出土した。図化に耐えないが、いずれも縄文の粗製土器と考えられる。　（岡野）

ＳＫ15（第27・30図、ＰＬ．６）

河道ＳＤ１左岸側黒色土包含層の直下から検出した遺構である。長軸3.8ｍ、短軸2.4ｍの不整な平面形を呈する。中央付近を近年の暗渠によって破壊されている。底面はいびつであり、土坑中央付近がもっとも深くなる。検出面からの深さは最大33㎝である。埋土は黒色土であり堆積状況は土坑周辺部から堆積した状況が窺われる。埋土中から多数の土器片が出土している。出土状況は散在的であり、埋土とともに流入したものと考えられる。４～６を図化した。いずれも縄文時代後期前葉（崎ヶ鼻式）の所産である。　（岡野）

ＳＫ16（第28図、ＰＬ．６）

河道ＳＤ１右岸側に位置する。平面形はいびつな楕円形を呈しており、長径100㎝、短径90㎝である。断面形は皿状を呈しており、深さは最大で14㎝である。遺物は出土していない。　（西川）

ＳＫ17（第29図、ＰＬ．６）

河道ＳＤ１右岸側に位置する。平面形は円形状を呈しており、長軸68㎝、短軸60㎝である。断面形は逆円錐形状を呈しているが、壁面の崩落による抉れがみられる。検出面から120㎝の深さで掘下げを中止した。土坑下半の埋土は泥質土である。遺物は出土していない。　（西川）

３．自然河道の調査

河道ＳＤ１（第31～36図、ＰＬ．７～14）

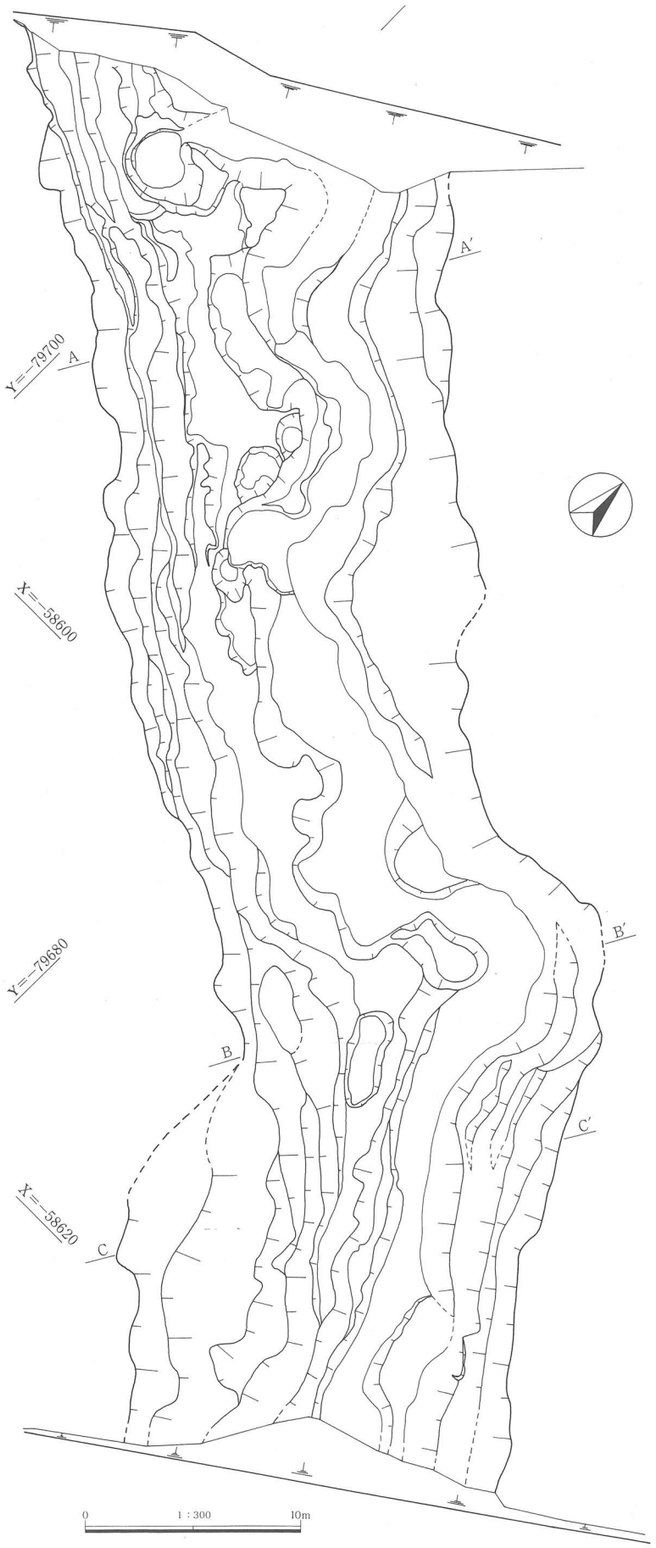
概要

調査区のやや南西側を、南東から北西方向に流れる自然河道である。幅は約14～19ｍ、河床における標高は上流の調査区南東端付近が31.2ｍ、下流にあたる北西端付近が29.4ｍであり、検出面からの深さは３ｍ前後、最深部では約４ｍである。堆積土は大きくⅠ～XIV層に分けた。出土遺物から判断して縄文時代後期以前に河道が形成された後、埋没が進行していた河道に、新たに縄文時代後期に小河道が形成され、以降弥生時代前期から平安時代前後にかけて小規模な河道形成を繰り返しつつ緩慢に埋没したものと考えられる。縄文時代後期から弥生時代中期初頭にかけての遺物は周辺から出土した個体が接合するなど河道内に流入後の移動が認めがたいことから河道付近に当該期の集落跡が想定される。

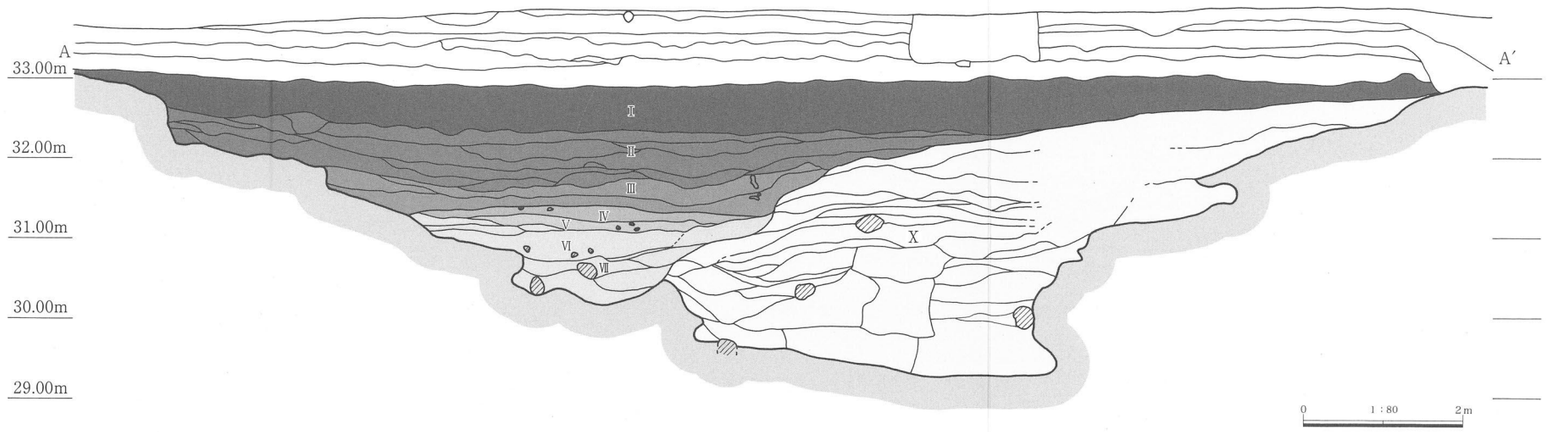
河道堆積土については島根大学理工学部の中山勝博氏より、総じて流量の変化が激しい堆積、すなわち、河道壁の形成時は土石流的な流れが推察できるが、その後は周辺の河川から氾濫した流水による洪水堆積であろう、との所見を得た。遺跡周辺は地形的に火山裾野面であるため、各所に湧水点が存在する。こうした湧水点からの一時的な出水が関係する可能性が考えられる。

堆積状況、遺物出土状況

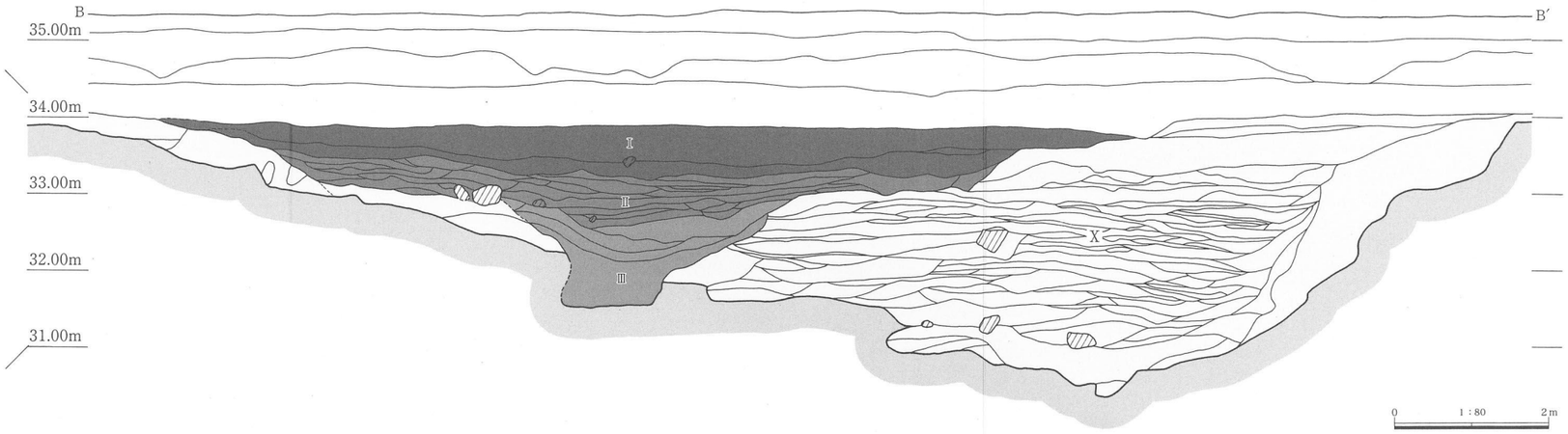
埋土はⅠ～XIV層に分けて調査を行った。縄文後期以前の堆積（Ｘ層）については遺物の分布が極めて希薄であるため、層位的な調査は行っておらず堆積の特徴を記載するにとどめる。Ⅰ～Ⅲ層は弥生時代前期から平安時代、Ⅳ層～Ⅸ層は縄文時代後期、XI～XIV層は縄文時代晩期、Ｘ層は縄文時代後期以前の堆積層と考えられる。



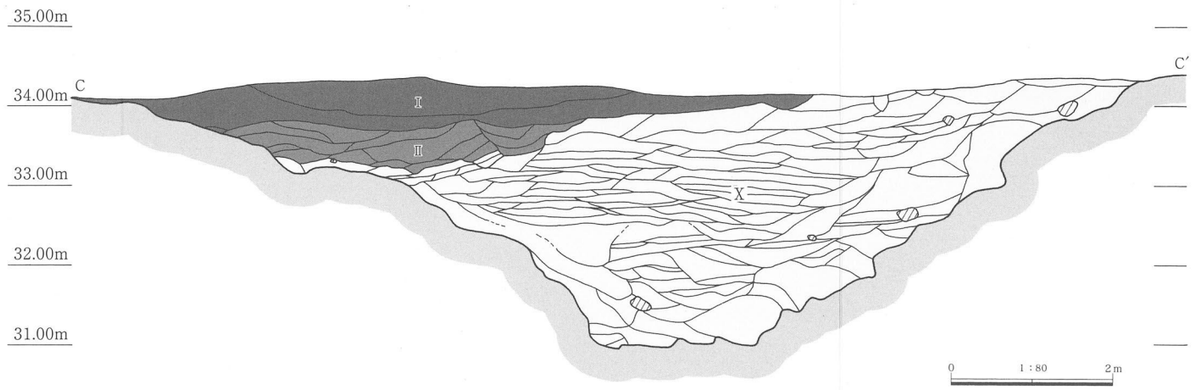
第31図　河道ＳＤ１



第32図　河道ＳＤ１土層断面１

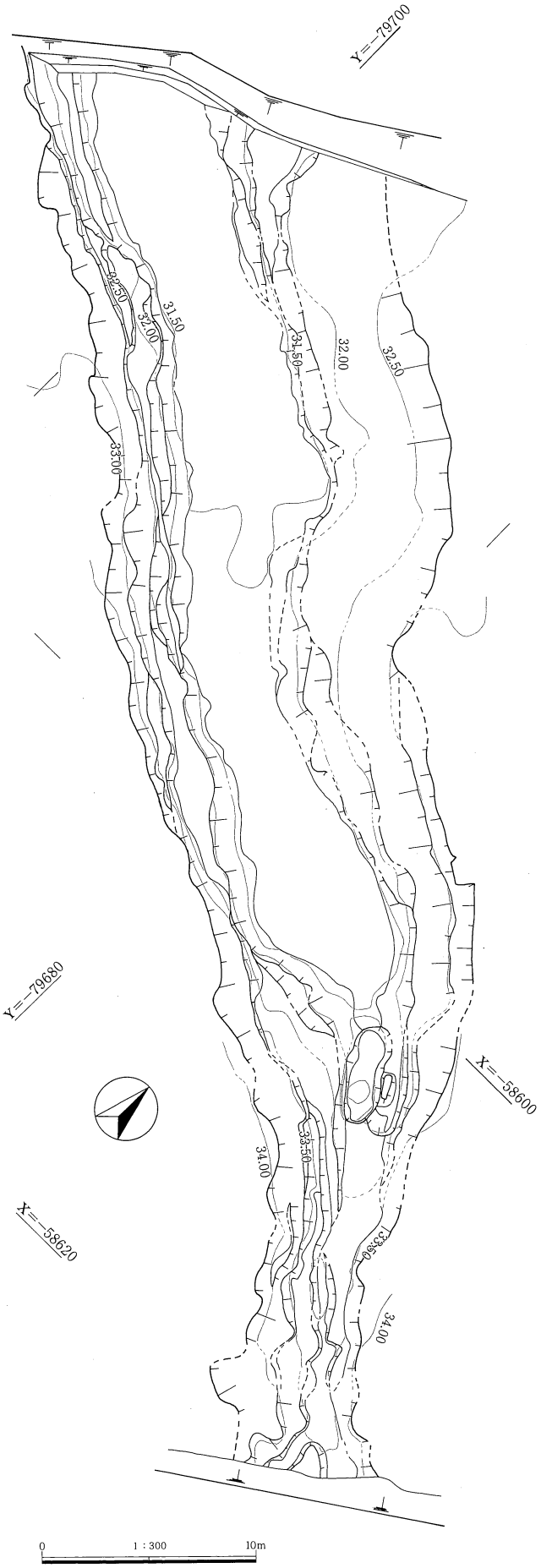


第33図　河道ＳＤ１土層断面２



第34図　河道ＳＤ１土層断面３

第35図　河道ＳＤ１　流木出土状況



第36図　河道ＳＤ１（弥生時代前期～中期初頭）

Ⅰ層　暗褐色の粘質シルト層である。厚さは河道中央付近で60㎝前後であり河道検出面全面で認められる。河道がほぼ埋没した状況で堆積しており、粒状性に変化が乏しいことやラミナ的な堆積がみられないことから、ほとんど流量のない湿地状態であったとみられる。遺物の出土は散在的で密度は低い。上部で13～14世紀の所産とみられる土師皿が出土しており、この時期を下限とする堆積と考えられる。

Ⅱ層　Ⅰ層同様暗褐色の粘質シルト層である。ラミナ状に多くの砂層を含む。堆積は、最も厚い土層断面Ｂ－Ｂ′ライン付近で80㎝前後を測る（第31～34図）。遺物出土状況は散在的であるが、Ⅱ層下部で弥生Ⅰ－４様式の大型の壺が出土した。器形全体の約１／３がまとまって出土した。古墳時代中期の甕（129）はほぼ完形に復元できる状態で出土しており、時期的にも下限を示すことから、Ⅱ層は古墳時代中期までに堆積したものであろう。

Ⅲ層　暗褐色の粘質土である。部分的に砂層、砂礫層を含む。多量の遺物とともに流木、木葉など植物遺体を豊富に含む。土層断面Ｂ－Ｂ′ラインから北西側のみに分布する。最も厚い部分で約50㎝を測る。縄文時代前期・後期から弥生Ⅱ様式にかけての土器・石器が多量に出土した。数的には縄文時代後期、弥生時代前期の土器、石器が主体をなす。この時期の遺物は、壺（218・221・222）、甕（238）などある程度まとまって出土した破片が接合し、ほぼ完形に復元できるものもある。また、水流による摩滅をほとんど受けていない。このことから、遺物が河道付近の集落から投棄されたか流入した直後に埋没したものと推察される。高杯の脚部とみられる木製品（Ｗ１）が出土している。

Ⅳ層　褐色の砂礫層である。１～９㎝角の亜円礫を含む。土層断面Ａ－Ａ′ライン付近から北西側を中心に堆積する。厚さ10～20㎝前後の堆積である。遺物分布は希薄であり、縄文時代前期前葉、後期前葉の土器が出土している。縄文時代前期の個体には摩滅が認められる。

Ⅴ層　砂礫層である。1～10㎝角の亜円礫、および灰褐色の砂で構成される。少量の植物遺体を含む。十数点の土器および数点の石器が出土している。縄文時代前期前葉の土器には摩滅が認められる。

Ⅵ層　暗灰褐色粘質土を基本とし、部分的に砂礫層を含む。植物遺体、流木を包含する。土層断面Ａ－Ａ′付近から北西側のみに分布する。比較的多数の遺物が出土している。土器は、若干数の縄文時代前期前葉の個体を除くと、縄文時代後期前葉～中葉に比定しうるものである。

Ⅶ層　灰色を呈する砂礫層である。１～20㎝前後の礫、砂の堆積である。土層断面Ａ－Ａ′ラインとＢ－Ｂ′ラインの間に分布する。土層断面図には現れないが、Ⅵ層の下層、Ⅷ層の上層に位置する堆積である。厚さ20㎝前後である。遺物は若干の縄文土器片のほか石錘が出土している。

Ⅷ層　灰褐色の砂質土である。土層断面Ｂ－Ｂ′ラインから北西側に広がる。厚さは最大30㎝前後の堆積である。遺物は、縄文時代前期前葉および後期の土器が数点と石皿とみられる礫石器が出土した。

Ⅸ層　砂礫層である。５～20㎝角の礫、砂の堆積である。土層断面Ａ－Ａ′ライン付近から北西側に分布する。遺物は、縄文時代前期の浅鉢と見られるものが出土している。

Ⅹ層　砂礫層である。河床から厚さ40㎝～50㎝は、20㎝～50㎝角の礫層をランダムに含む。ここから上層は、１㎝～３㎝角の礫を含む砂礫層である。砂層をラミナ状に含む。遺物は極めて少量であり、黒曜石のチップと縄文地の繊維混入土器１点が出土した。（岡野）

Ⅺ層　灰褐色の粘質土で、しまり・粘性は強い。土層断面Ｂ－Ｂ′ラインの北西側付近に堆積する。Ⅻ層の上に堆積し、弥生時代以降の河道の北岸を形成している。直上にはⅢ層が堆積している。出土した遺物は縄文土器のみである。十数点ほどで、いずれも小破片での出土である。時期を判断できるものとしては前期と思われる条痕地の胴部片、晩期の突帯文土器があり、その他に縄文地の胴部片を含む。

Ⅻ層　砂礫層である。土層断面Ｂ－Ｂ′ライン北西側付近に堆積する。Ⅲ層の下層であり、Ⅺ層とともに弥生時代以降の河道の河床をなしている。層序や色調はⅣ層に類似している。出土した遺物は十数点ほどで、縄文土器、黒曜石片がある。時期を判断できるものとして前期西川津式、晩期突帯文土器のほか、縄文地の胴部片を含む。Ⅳ層、Ⅴ層との層位的関係は不明である。

XIII層　　暗褐色粘砂土で、層中には砂層がラミナ状に存在する。土層断面Ｂ－Ｂ′ライン北側には淵状の落ち込みが形成されているが、XIII層・XIV層はこの淵状地形内の堆積である。XIV層の直上、XII層の下層に堆積する。出土遺物は十数点ほどで、縄文土器、黒曜石製石鏃、スクレイパーとみられる安山岩の剥片がある。時期を判断できるものとして晩期突帯文土器がある。

XIV層　　黄褐色の礫層で、拳大の礫を主体とする。XIII層と同様に淵状地形内の堆積である。基盤層である灰白色粘土層の上に堆積し、上層にはXIII層が堆積している。遺物は数点で、縄文土器片、安山岩の剥片がある。土器は晩期の突帯文土器のほか、縄文地の胴部片を含んでいる。　（君嶋）

出土遺物

縄文土器

河道ＳＤ１からは、早期、前期、後期、晩期の縄文土器が出土した。出土点数の最も多いのは後期の土器で、次いで晩期、前期である（表１）。以下に時期別の概略を述べる[註]。

＜早期＞小片のため図化できなかったが、縄文時代の河道Ｘ層から胎土に繊維が混入した胴部片が１点出土しており、早期～前期初頭の土器と思われる。これは出土遺物中最古に位置づけられるもので、河道の形成開始時期を示唆する遺物である。

＜前期＞前期初頭の西川津式が多数出土している。押引沈線文・連続刺突文を施す一群と、条痕地に横方向の微隆帯を貼付する一群とがある。前者は柳浦分類のＡ類ないしＣ類、後者はＢ類に相当しよう。出土量では、およそ３：１の比率でＢ類の方が多い。Ａ類に分類されるのは７、57、58、302である。いずれも摩滅が著しく文様は不鮮明だが、押引沈線ないし刺突を鋸歯状に密に施している。363は口縁から縦位の微隆帯を垂下させる。Ｂ類では、口縁部（11、56、149、297、298、325）や屈曲部（150、299、312）の破片が確認できる。屈曲部や微隆帯上には列点を刻むものが殆どである。303は口縁外面に縦位の微隆起線を施す。また、文様は持たないものの内外面条痕調整である点から前期と考えられる個体もある。61は波状口縁と思われる。67は内弯口縁、160・161は直線的に外反する口縁に復元できる。305は条痕の上にナデ調整を行い、口唇部に刻みを施す。335・336は、内面に格子状の沈線文を施す。同様の沈線文を外面に施す例は西川津式や北白川下層式に見られるため、一応前期に位置づけておくが、内面に施文する例は管見に触れない。条痕地の土器以外で注意される資料に301の胴部片がある。外面に羽状縄文を施しており、いわゆる羽状縄文系土器との関連が考えられよう。胎土に多量の金雲母を含む点も他の土器と異なっており、搬入品の可能性がある。

西川津式に後続する爪形文土器は確認していない。また、中期の土器も認められず、本遺跡の消長における空白期となっている。

＜後期＞沈線文に充填縄文を施す土器として326、327、331があり、後期初頭の福田Ｋ２式併行期（島式）に位置づけられる。327は双耳壺の肩部と思われる。これらに後続する一群として、２～３条の沈線文を施す胴部片があげられる（63、328～330）。地文に細密条痕を施す点は、布勢式～崎ヶ鼻式期にかけてみられる特徴である。

布勢式に後続する崎ヶ鼻式土器は点数が多く、深鉢や浅鉢など多様な器種が出土している。深鉢Ａ（154、304、314、332、338、340、341、342）は、頸部が直立あるいは外傾し、頸胴部の境で屈曲する器形である。154・304・314は口縁部で、拡張させた口縁端部の外面に沈線や縄文で施文する。154は波状口縁である。332は波頂部で、厚手で貫通孔を持つ。338・340は屈曲部の破片で、338は沈線で頸胴部を区画する。340は胴部外面に無節縄文を施す。341は無文で、内外面ともミガキ調整である。深鉢Ｂ（９、339、344）は頸部と胴部とがくびれない器形である。９は口縁内面の肥厚帯に指頭圧痕が認められる。339、344は口縁下部を肥厚させ、沈線と縄文を施す。浅鉢には、椀形の浅鉢Ｅ（349、352、353）と口縁部が屈曲し屈曲部に刻みを施す浅鉢F（347、350）とがある。浅鉢Ｅの349は無文、352、353は口縁内面を肥厚させ縄文を施す。また、348は胴部に段を持つ鉢Ｄの胴部と思われる。無文深鉢の口縁333、334も崎ヶ鼻式期のものであろう。

崎ヶ鼻式に続く後期中葉の土器として、55、65、153、157、315、318、346、351、355がある。65や355の縄文は前葉までのものに比べて節が細かい。157は注口土器の可能性がある。315は沈線内に刺突を施す。318

は、内弯する口縁部の外面に沈線と充填縄文で施文する。346は口縁の内面に結節縄文を施す。これらの特徴は四元式～彦崎Ｋ２式に併行する時期に位置づけられるものであろう。なお、後期初頭～前葉の資料で確認された縄文は殆どがＲＬであるが、後期中葉では315、318、355にＬＲ縄文が施されている。

続く後期後葉はいわゆる凹線文系土器群の段階であるが、凹線文を持つ個体は確認していない。ただし深鉢の突起12はこの時期に位置づけられる可能性がある。また、外面に粗いナデ調整を行い、内弯口縁ないしボウル形を呈する無文土器164～167は、時期は厳密に特定できないものの後期～晩期に位置づけられる。

以上のように、ある程度時期を特定できた個体では、前期初頭西川津式と後期前葉崎ヶ鼻式に相当するものが多数を占めており、当該期の良好な資料となった。層位ごとの出土状況をみると、出土量が多いのはⅠ～Ⅵ層であり、Ⅶ層以下ではまばらとなる。また、前期の土器は水流によって摩滅している一方で、後期の土器には摩滅がほとんど認められず、大ぶりな破片も多いことから、後期段階の集落は河道のまさに直近に営まれていたのに対し、前期段階の集落は調査地よりも上流に存在したものと考えられる。（君嶋）

＜晩期・突帯文土器＞

晩期後葉から弥生時代前期の突帯文土器は、Ⅰ～Ⅲ層、Ⅺ層～Ⅻ層から出土した（表１）。深鉢と若干の浅鉢から構成され、壺は抽出できない。型式学的に時間幅をもつ土器群である。いずれも口縁部を中心とした小片であり、資料的にまとまりのある深鉢の突帯、器面調整を基準に分類をおこなった。

１類　口縁端部に刻目をもち、端部から下がる位置に刻目突帯文をもつもの。断面Ｖ字形の浅い刻目である。端部はつまみ上げるものが多いが、186は軽い面取りがある。器形は口頸部が緩やかに外反するものが多い。器面調整は二枚貝条痕、擦痕を伴う粗いナデである。68・169・170・185・186である。

２類　刻目突帯文のみをもつもの。突帯は口縁端部から下がる位置に付くが、端部に付くもの（179・190）もある。断面Ｖ字形の浅い刻目である。74・187は割り箸状の工具を押圧して刻みとする。口縁端部はつまみ上げるものが多い。器形は砲弾形と思われる。器面調整は擦痕を伴う粗いナデであるが、172は二枚貝条痕である。10・69・70・74・171～180・189～194・197・367～369である。出土総数51点中25点を占める。

３類　口縁端部に刻目をもち、無刻目突帯文をもつもの。口縁端部から少し下がった位置に突帯が付く。器形は砲弾形と思われる。調整は軽いナデである。口縁端部は２類に比べてやや丸い。72のみである。

４類　無刻目突帯文のみをもつもの。突帯が口縁端部に付くものと下がる位置に付くものがある。73・183は端部から２㎝程度下がる位置に付く。端部は内面を強くナデて先端部を外反ぎみに細くするが、丸くおさめるもの（183）もある。調整は擦痕を伴う粗いナデと、軽くナデるもの（183・195・196）がある。器形は、砲弾形であるが、71・76は胴部で屈曲する器形をなす。

伯耆における突帯文土器の消長については濵田竜彦氏により突帯文Ⅰ期からⅢ期および弥生前期に分類されている。本遺跡の1類のうち185・186は口縁端部の刻み、緩く湾曲する器形、二枚貝調整などからみて突帯文Ⅰ期もしくはⅡ期の特徴を示すが、刻みは軽く浅い。古い属性をもつⅢ期古段階の資料とみるのが妥当であろう。２類、３類は浅い刻目、ナデ調整の卓越などからおおむね突帯文Ⅲ期に比定される。４類は突帯文Ⅲ期新段階から弥生時代前期に位置づけられる。

本遺跡では層位的な検証による時間的前後関係を決し得ない。遠賀川系土器との共伴関係を具体的に示唆しえないが、倉吉市イキス遺跡では本遺跡の４類と弥生Ⅰ－２・３様式の土器が共伴しており、４類が同期の遠賀川系土器と共伴する可能性は高い。ただし、観察する限り外傾接合、ハケ調整など長瀬高浜遺跡、イキス遺跡でみられた弥生土器の製作技法によるものは皆無である。本遺跡における遠賀川系土器の出現がⅠ－３様式とみられることなどから、２類～４類は遠賀川系土器の出現直前の様相を示すものかもしれない。（岡野）

註）ここで用いる土器編年および器種分類は、以下の文献に基づく。
（１）柳浦俊一　2000「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』17、島根考古学会
（２）柳浦俊一　2001「山陰地方における縄文前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』18、島根考古学会
（３）濵田竜彦　1998「目久美遺跡における縄文晩期末から弥生時代前期の土器について」『目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ』米子市教育文化事業団
（４）濵田竜彦　1999「古市河原田遺跡出土の突帯文土器について－古市河原田式の提唱－」『古市遺跡群１』鳥取県教育文化財団

第１表　河道ＳＤ１出土遺物個体数一覧表（縄文時代）

	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層	Ⅶ層	Ⅷ層	Ⅸ層	Ⅹ層	Ⅺ層	Ⅻ層	XIII層	XIV層	計
早期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
前期	1	7	8	9	10	10	0	0	1	0	1	1	0	0	48
後期	2	8	15	7	8	21	0	0	0	0	0	0	0	0	61
晩期（突帯文土器）	4	13	29	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	51

（数値は破片数）

第２表　河道ＳＤ１出土遺物個体数一覧表（弥生時代以降）

時期／層位	弥生Ⅰ	弥生Ⅱ	弥生Ⅲ	弥生Ⅳ	弥生Ⅴ	古墳前期	古墳中期	古墳後期	8世紀～9世紀	10世紀以降	計
Ⅰ層	36	2	3	1	1	4	0	7	3	1	58
Ⅱ層	80	2	2	2	1	0	1	0	0	0	89
Ⅲ層	101	3	0	0	0	0	0	0	0	0	104
計	217	7	5	3	2	4	1	7	3	1	250

（数値は個体数）

弥生土器（前期～後期）

河道ＳＤ１のＩ層からⅢ層では多量の弥生時代前期から中期にかけての土器が出土した。弥生土器の90％以上が弥生時代前期後半の所産である（表２）。記載する個体数は、同一個体を可能な限り排除した上で口縁部が残存しているもののみカウントしたものである。これは最少個体数を把握する目的による。

＜前期～中期前葉＞

前期の土器は、浅く幅の狭い段、退化した削出突帯と貼付突帯、多条化した沈線文の存在などからＩ－３様式からＩ－４様式に比定されるものである。

壺形土器　胴部上端から口縁部にかけて外反する形態の壺は53個体が出土している。施文は口縁端部の刻目、口頸部界や頸胴部界の段、ヘラ描沈線文である。櫛描文を施すものはみられない。段をもつものは10個体である。88を除くといずれも幅の狭い段で、ヘラ状の工具を使用して段をつくり出しており後出的なものである。形態的にも頸部の段から口縁端部にかけて直線的に短くのびるＩ－１からＩ－２様式のタイプはみられない。頸部または胴部上半に削出突帯をもつものは２個体（200・218）である。頸部に貼付突帯をもつものは１個体（201）である。頸部にヘラ描沈線をもつものは12個体である。１～２条のヘラ描沈線を施すもの９個体のほか、５条以上の沈線を施すものが3個体（96・208・215）ある。口径は15～20㎝前後であるが、88・96・217は口径40㎝を超える大型品である。口縁部内面に突帯による施文をもつ壺90がある。胴部に木葉文、綾杉文を施する土器（264～268・270・271）には沈線文が伴う。267は丁寧なミガキを施すもので赤彩されている。269は２本の直線沈線の間に斜格子状の沈線を施す。272はヘラ描直線文から緩やかにのびる平行沈線で円弧文か。218には胴部上端に籾の圧痕を残すほか、壺とみられる底部底面284・293にもみられる。19・117は無頸壺である。

甕形土器　いわゆる如意形口縁の甕は150個体が出土している。施文は頸胴部界の段、沈線文、櫛描文、口縁端部の刻目である。このうち段をもつものは2個体（81・115）である。いずれも幅の狭い段でヘラ工具でつくり出したものである。頸部から胴部上端付近にヘラ描沈線を施すものは47個体である。１～２条のヘラ描沈線を施すもののほか、５条以上施すものは７個体（22～24・236ほか）である。櫛描文をもつものは５個体である（27・97・98・258・259）。このうち27・98・259は４条を１単位とする櫛描文である。27は口縁逆Ｌ字状を呈するもので、本遺跡では沈線文を施す101と合わせて２個体のみである。口縁端部の刻目には、端部の下端のみに刻みを施すもの（20・223・225・227・228ほか）と端部全面を刻むもの（24・25・224・226ほか）がある。器面調整はハケであるが、239・253などミガキを施すものもわずかに認められる。

蓋形土器　蓋とみられるものは６個体ある（28・118～121・262）。砂粒を多量に包含する胎土からみて前期から中期前葉とみられる。118～121の上面は直径５～７㎝の凹面をなす。ナデ調整であるが内面は指頭圧による凹凸が目立つ。262は小型の甕の底部かもしれない。121はおそらく左右両端部二カ所の穿孔が想定される。つま

第３表　河道ＳＤ１　出土石器個体数一覧表

	石鏃	打製石鏃	石鏃未製品	石錘	礫石器	スクレイパー	敲石	石皿	板状石器	不明石器	磨製石斧	打製石斧	石鎌	石棒	玉	石核	石匙	磨石	紡錘車	不明石器	計
Ⅰ層	4	6	0	1	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	17
Ⅱ層	4	8	0	3	4	1	3	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31
Ⅲ層	10	4	0	0	0	0	2	1	3	3	2	0	1	1	1	0	0	0	0	2	30
Ⅳ層	0	3	2	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11
Ⅴ層	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	8
Ⅵ層	0	2	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9
Ⅶ層	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Ⅸ層	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
XⅡ層	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
XⅢ層	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
XⅤ層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
層位不明	0	2	0	0	0	0	3	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	12
合計	18	28	3	9	10	4	11	3	7	9	5	2	1	2	1	4	1	1	1	5	125

み部分は角状の突起をもつもので山陰地域では例をみない。岡山県矢掛町清水谷遺跡で類似品が出土しており、あるいは中国山地を通じた搬入品かもしれない。内外面ハケ調整である。

鉢形土器　３個体である。116は、10条の沈線文の直下に刺突文を施す。100は口縁端部に刻目、直下に櫛描文をもつ。261は口縁端部を肥厚させるもので内外面ミガキ調整である。

木製品　Ⅲ層から脚部とみられる木製品Ｗ１が出土した。蓋形土器としては穿孔の位置が不自然であり、土器に類例品はみられないが高杯の脚部と思われる。樹種はヤマグワと鑑定された（第６章特論参照）。

＜中期中葉から後期＞

Ⅰ層・Ⅱ層から出土している。甕30は薄手で口縁端部の肥厚がみられず中期中葉（Ⅲ－1様式）に比定される。甕122～124は口縁端部が肥厚しておりⅢ－２・３様式の所産とみられる。甕32・125・126は口縁端面に凹線文をもちⅢ－３様式からⅣ－１様式に比定される。つづく中期後葉から後期初頭（Ⅳ－２様式～Ⅴ－１様式）の土器は出土していない。甕127・33は後期後半（Ⅴ－２・３様式）の所産とみられる。

古墳時代以降の土器

Ⅰ層・Ⅱ層から出土している。甕34・109は古墳時代前期中葉、36～39・43～45は古墳時代後期、37・41・42は８～９世紀にかけての土器とみられる。

以上、河道ＳＤ１出土遺物について概説した。河川堆積からの出土資料であるが、周辺に存在する集落の様相を間接的に反映するものであろう。縄文時代後期前葉・晩期末から弥生時代中期まで出土個体数に格差はあるものの継続して出土しており、周辺に縄文時代後期・弥生時代前期をピークとする拠点的な集落の存在が推察される。

（岡野）

※弥生土器について以下の文献を参考にした。

（１）清水真一　1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年山陽・山陰編』

（２）濵田竜彦　2001「西伯耆地域（阿弥陀川以西）」　岡野雅則　2001「西伯耆（阿弥陀川以東）・東伯耆地域」『山陰地方における弥生時代前期の地域相』第３回西伯耆弥生集落検討会資料　西伯耆弥生集落検討会

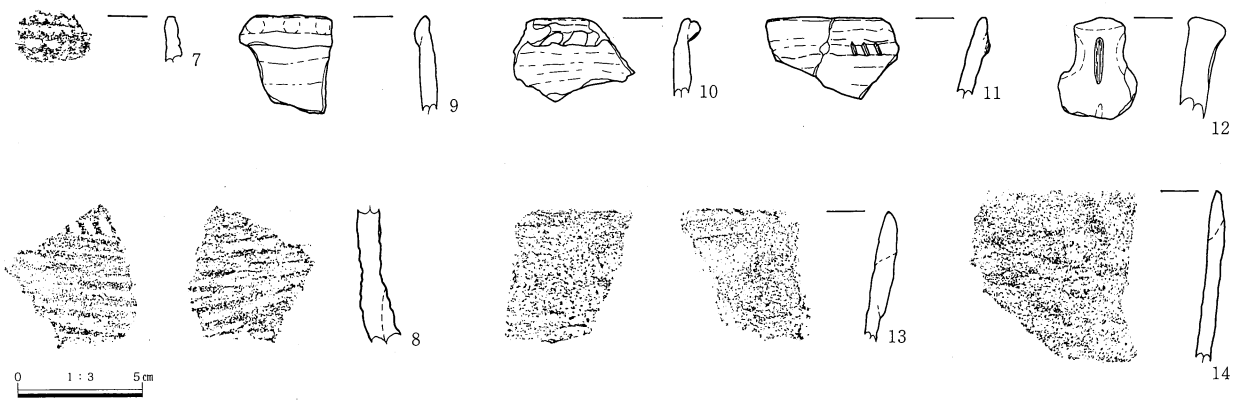
石器

ＳＤ１出土の石器は、製品・未製品合わせて125点である（表３）。層位的にみて縄文時代に限定できるⅣ層からXⅢ層出土石器と、弥生時代中期前葉までの時間幅をもつⅠ層からⅢ層出土石器は分けて記述したい。

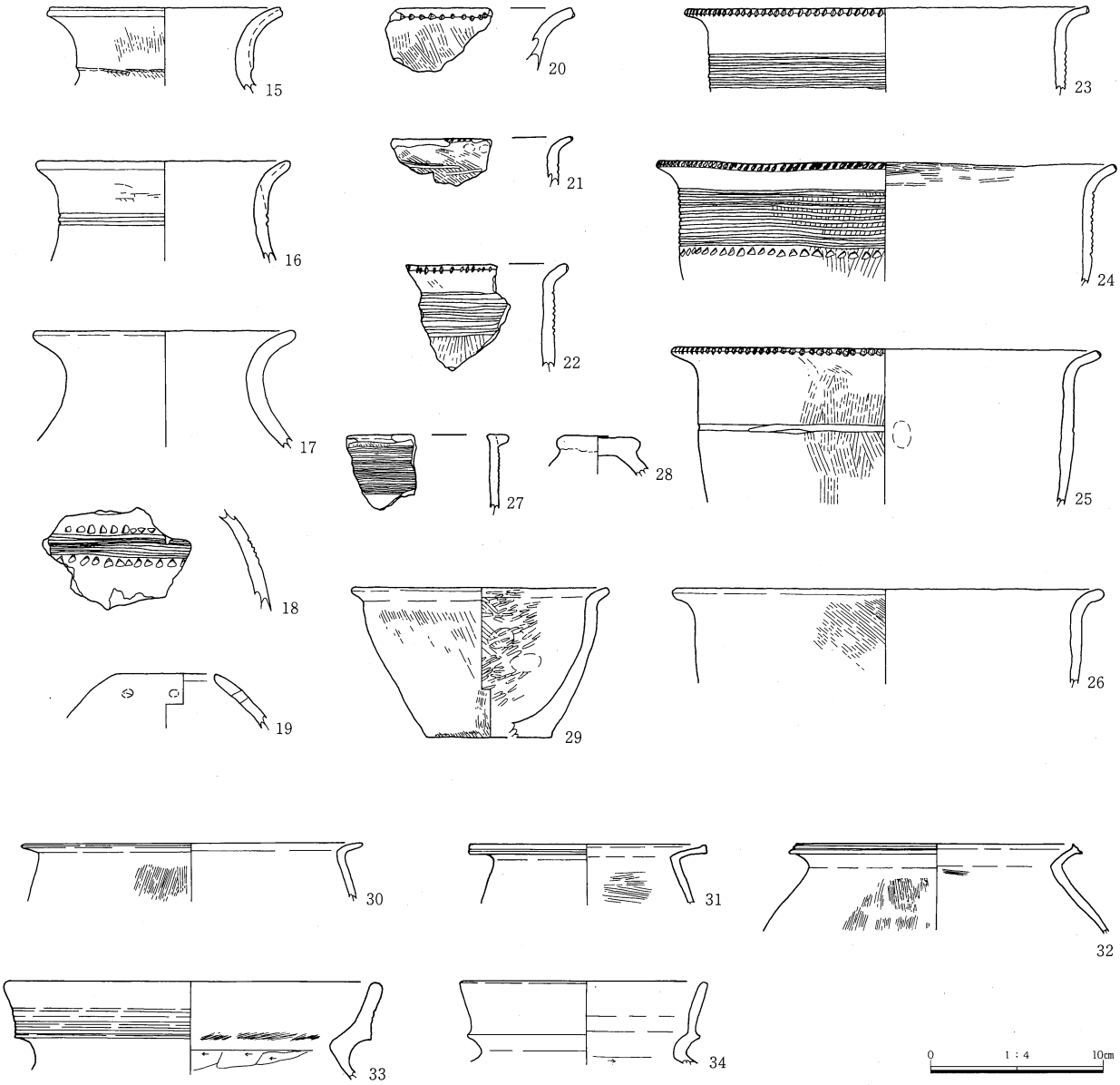
＜Ⅳ層～XⅢ層出土石器＞

伴出土器や層位的関係から判断して、Ⅳ層からXⅢ層出土石器は縄文時代前期前葉、後期前葉、晩期後葉に限定できる一群である。土器の半数以上が後期前葉の土器であることなどから縄文時代後期前葉の石器組成を反映したものと思われる。

石器構成は石鏃、スクレイパー、石斧、石皿、凹石・敲石などの礫石器、石核からなる。石材は安山岩18点、黒曜石８点、緑色片岩２点、滑石片岩１点、閃緑岩１点である。石鏃には製品と未製品（Ｓ68、Ｓ69、Ｓ81、Ｓ90）がある。大半が黒曜石製であるが、Ｓ66、Ｓ81、Ｓ90は安山岩を使用している。スクレイパーＳ92は、安山岩を使用し素材剥片の末端付近を使用し背面側から主剥離面側にかけての剥離で刃部を形成する。Ｓ73は縦長

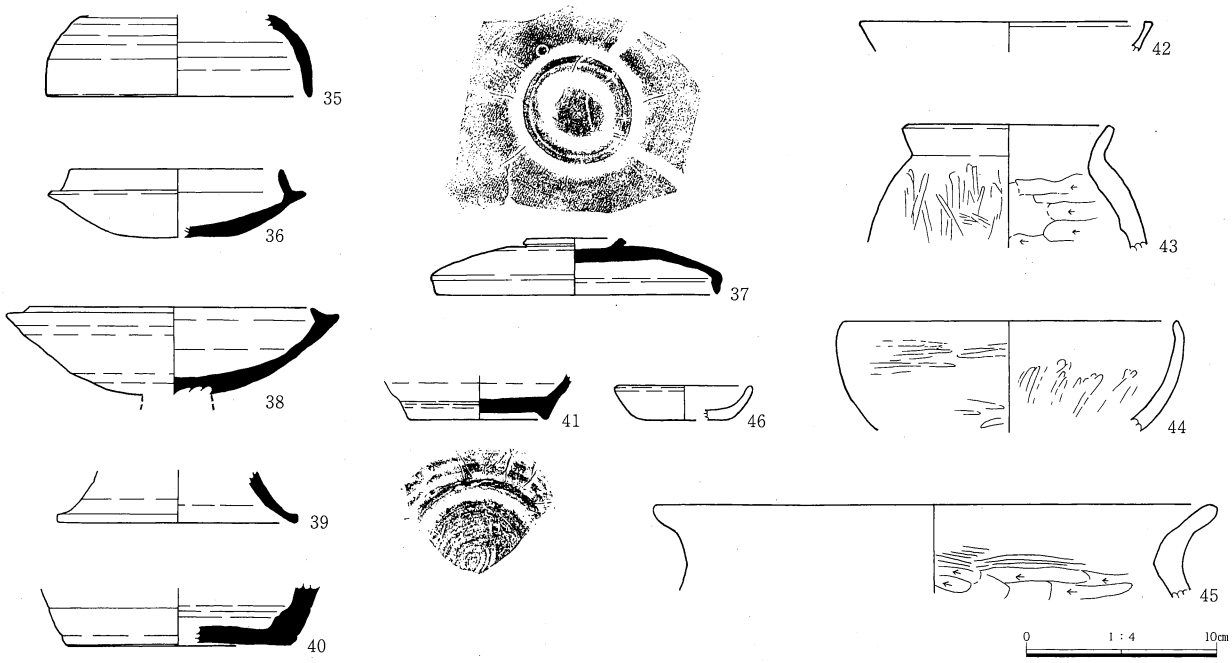


第37図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（１）

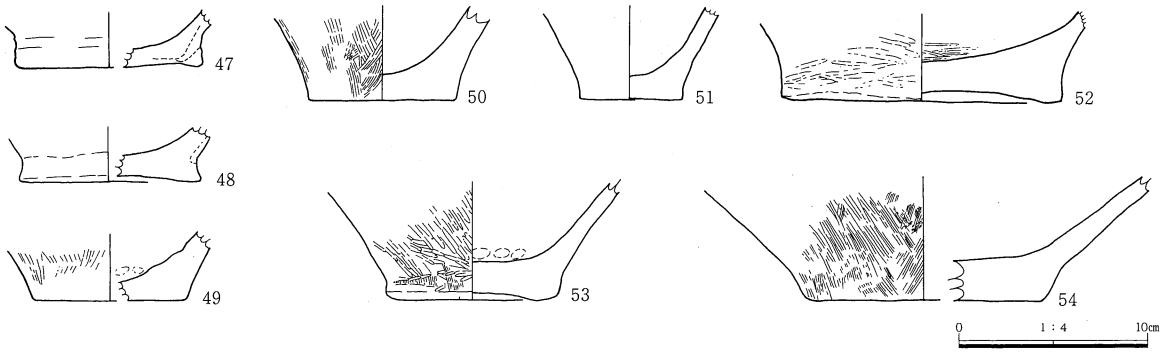


第38図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（２）

の剥片を使用し背面側の側縁に刃部を設ける。礫石器には石皿、棒状の両端部に敲打痕を残す敲石、扁平な円礫の中央部に敲打痕のある凹石、扁平な楕円形の礫の両端部を打ち欠く石錘がある。いずれも周辺で採取できる安山岩を使用したものが大半であるがＳ94は閃緑岩である。両刃の磨製石斧Ｓ69、Ｓ70はいずれも緑色片岩である。周辺では日野川上流域に産出地がある。石核Ｓ80は角礫の黒曜石を素材とする。素材の主剥離面を大きく残



第39図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（３）



第40図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土土器（４）

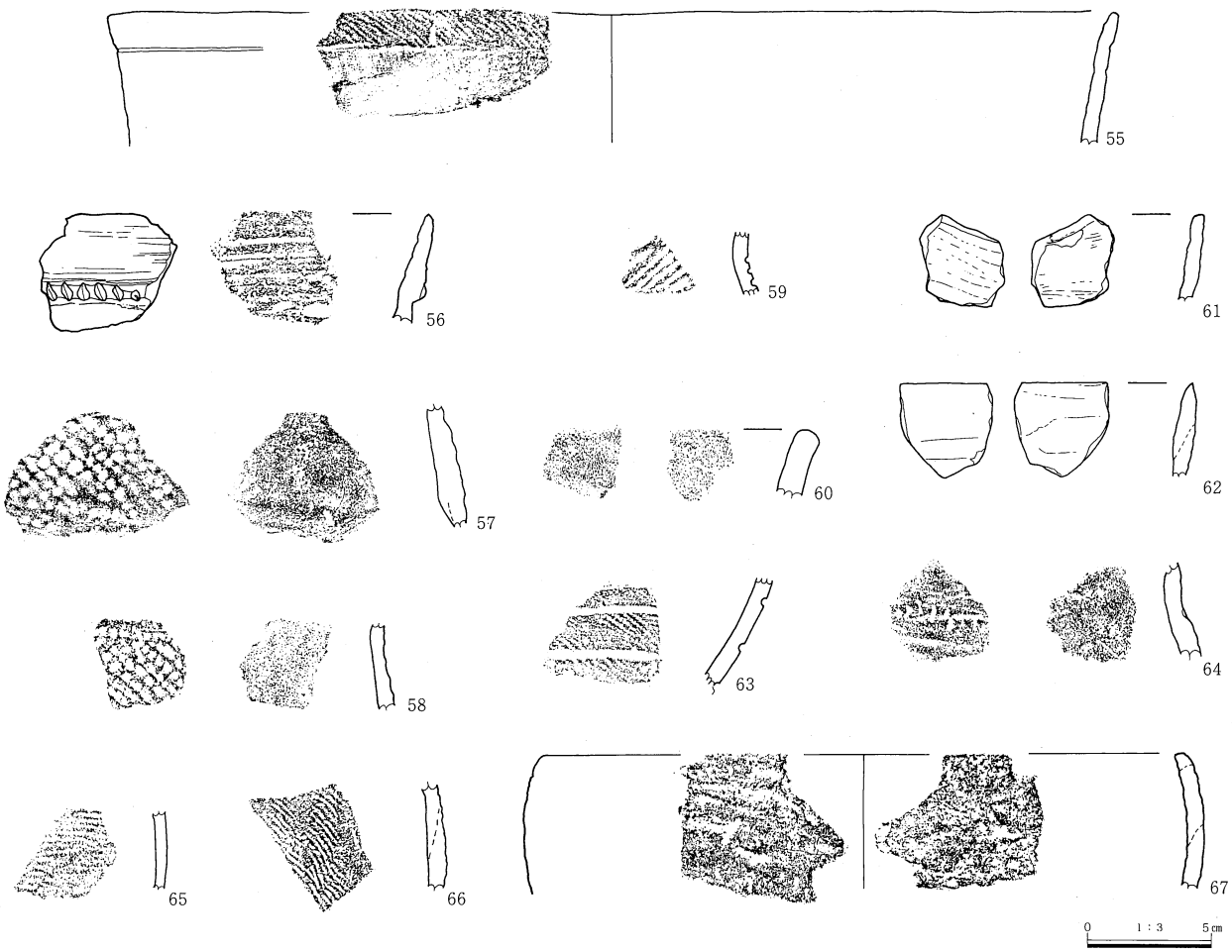
し、素材剥片の打面側を中心に剥離している。角礫素材の石核Ｓ93は剥離が進行しておらず、風化面を残す。

＜Ⅰ～Ⅲ層出土石器＞

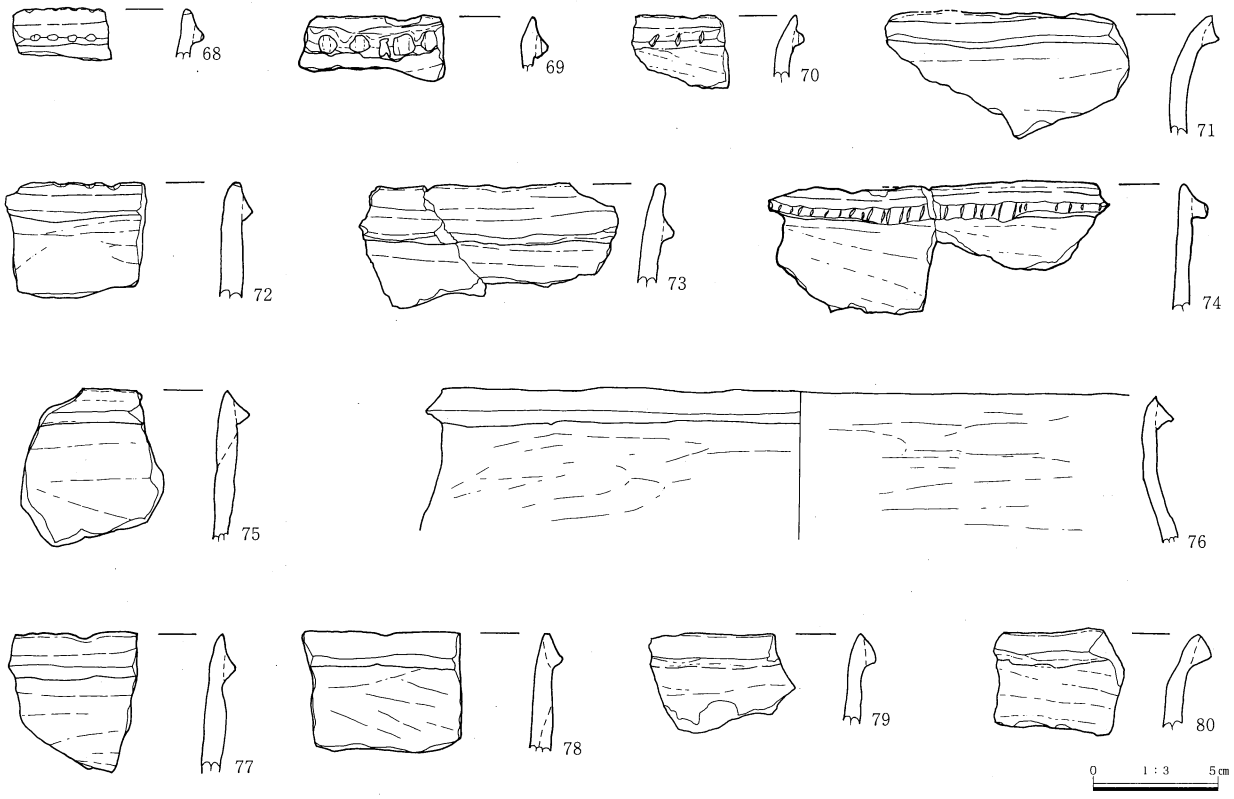
Ⅰ～Ⅲ層は縄文時代前期・後期から中世にかけての遺物を包含する堆積であるが、出土する土器の量からみてその多くは縄文時代後期から弥生時代前期の所産と思われる。石器組成は石鏃、スクレイパー、石斧、石鍬、石鎌、板状石器、石皿、凹石・敲石などの礫石器のほか玉、石棒状の製品がある。いわゆる大陸系磨製石器は、太形蛤刃石斧とみられるＳ49のほかは出土していない。

石鏃は黒曜石製のほか安山岩製が４点出土している。Ｓ15は未製品かもしれない。スクレイパーＳ６は素材剥片の末端の主剥離面側に刃部を形成する。Ｓ16は素材剥片の打面側に刃部を設定している。磨製石斧Ｓ49、Ｓ50は緑色片岩製である。Ｓ10、Ｓ12は小型の石鍬とも呼べるものであるが、大きさからみて鍬としての用途が想定できないことから石斧とした。Ｓ10は粘板岩製、Ｓ12は安山岩製である。

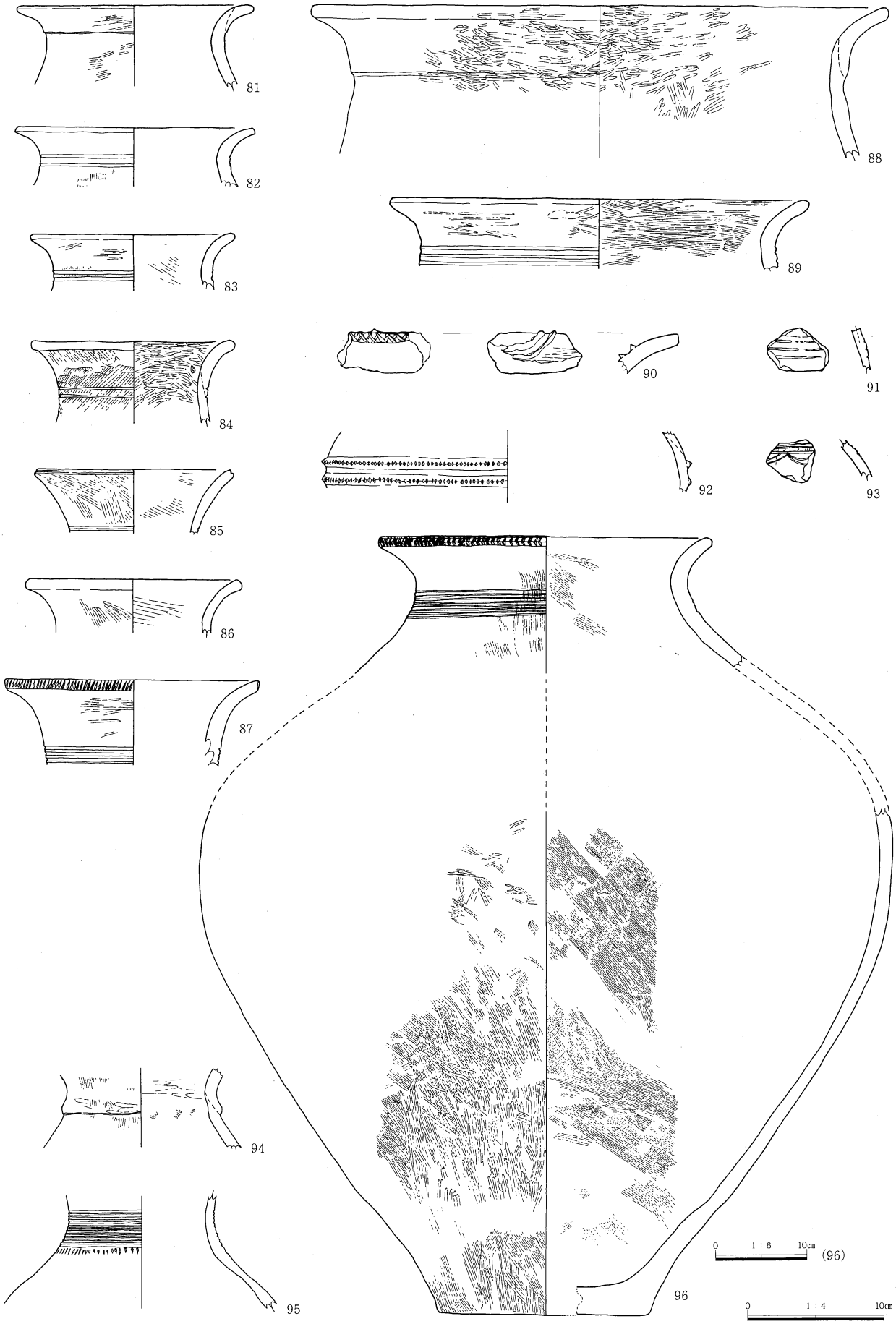
石鍬は総計18点が出土し、このうちⅢ層からは10点が出土している。縄文時代晩期以前の堆積とみられるⅣ層以下の層からは皆無であることから、搬出する土器からみても弥生時代前期後半所産と考えられる。平面形は基部より刃部側が広くなる撥形（Ｓ27、Ｓ61）、基部から刃部にかけて張り出した肩をもつ有肩形（Ｓ56・Ｓ57～Ｓ59）のほか杓子形ともいうべきもの（Ｓ60）も出土している。石材はすべて安山岩である。有肩形には刃部先端を尖らすもの（Ｓ57・Ｓ58）や円形をなすもの（Ｓ59）がある。重さはほぼ完存するＳ27が480g、Ｓ57が890g、Ｓ58が930gである。Ｓ27・Ｓ56～Ｓ59・Ｓ61には顕著な使用痕が認められた。いずれも刃部に対して直交方向



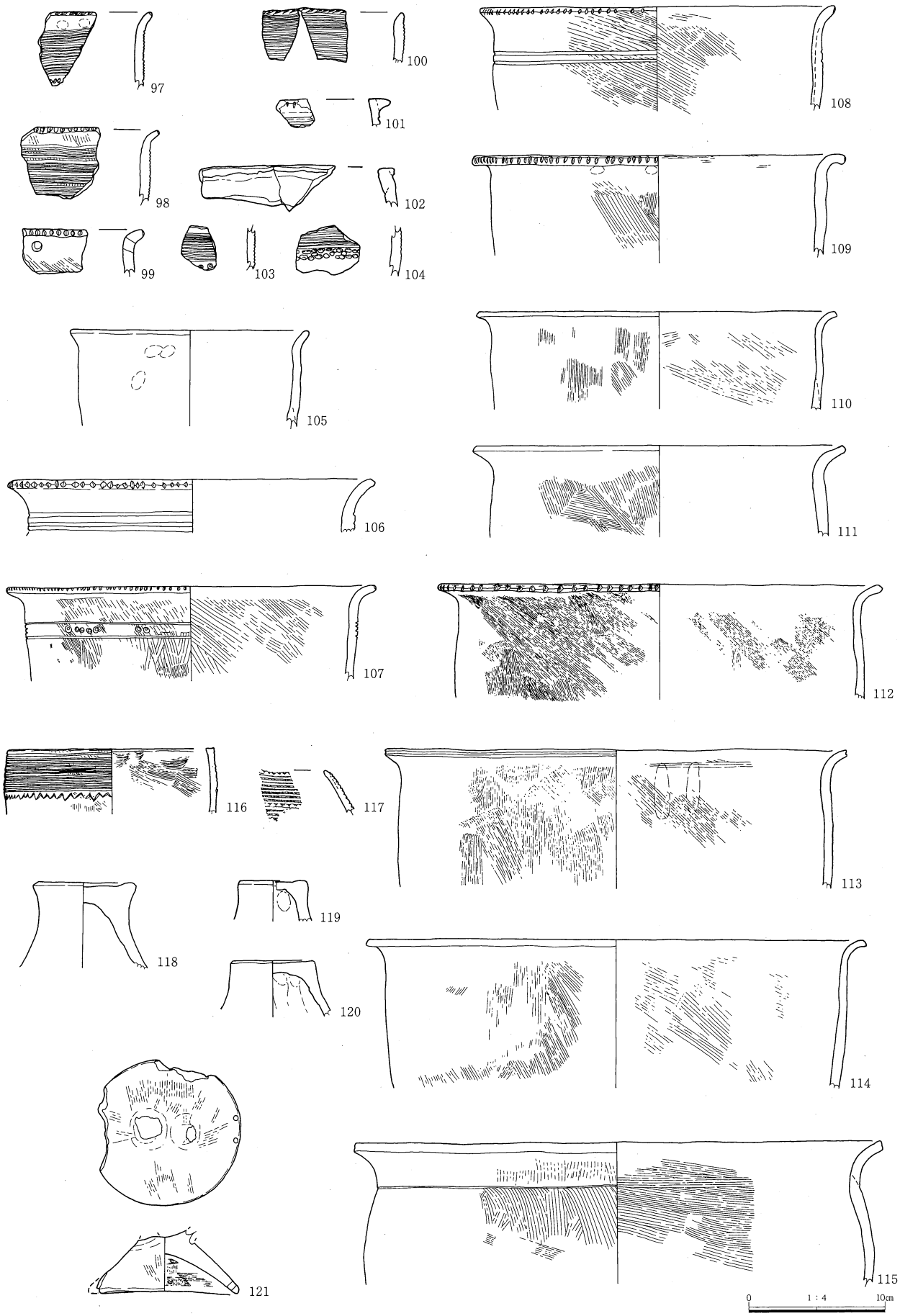
第41図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（１）



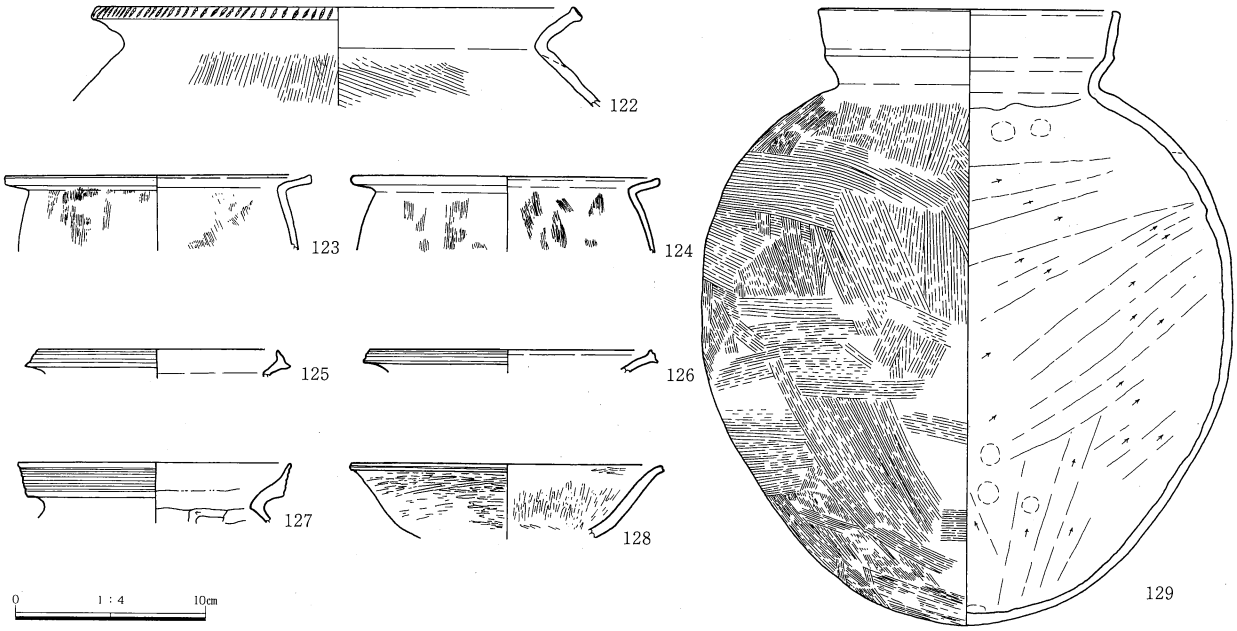
第42図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（２）



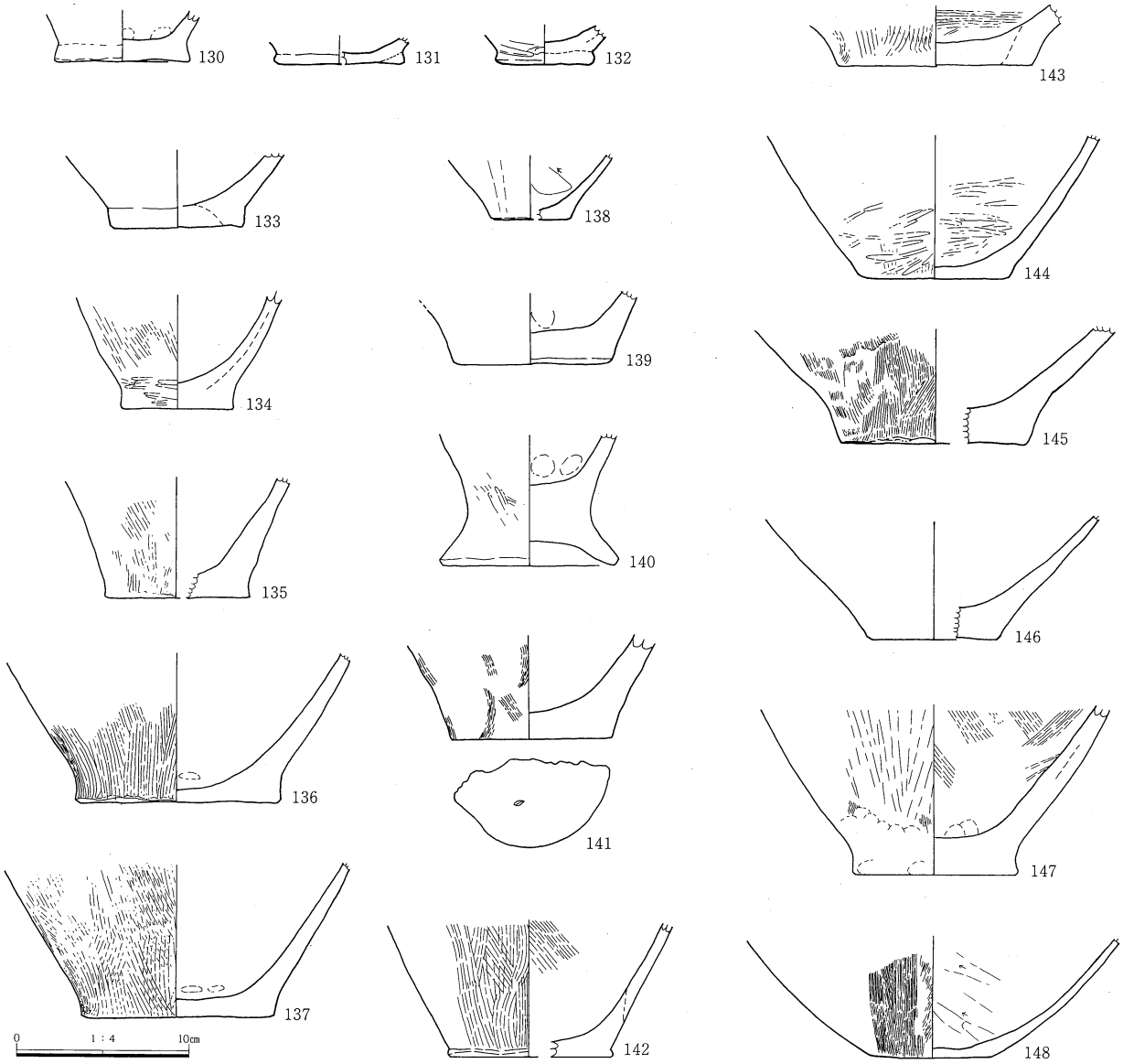
第43図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（３）



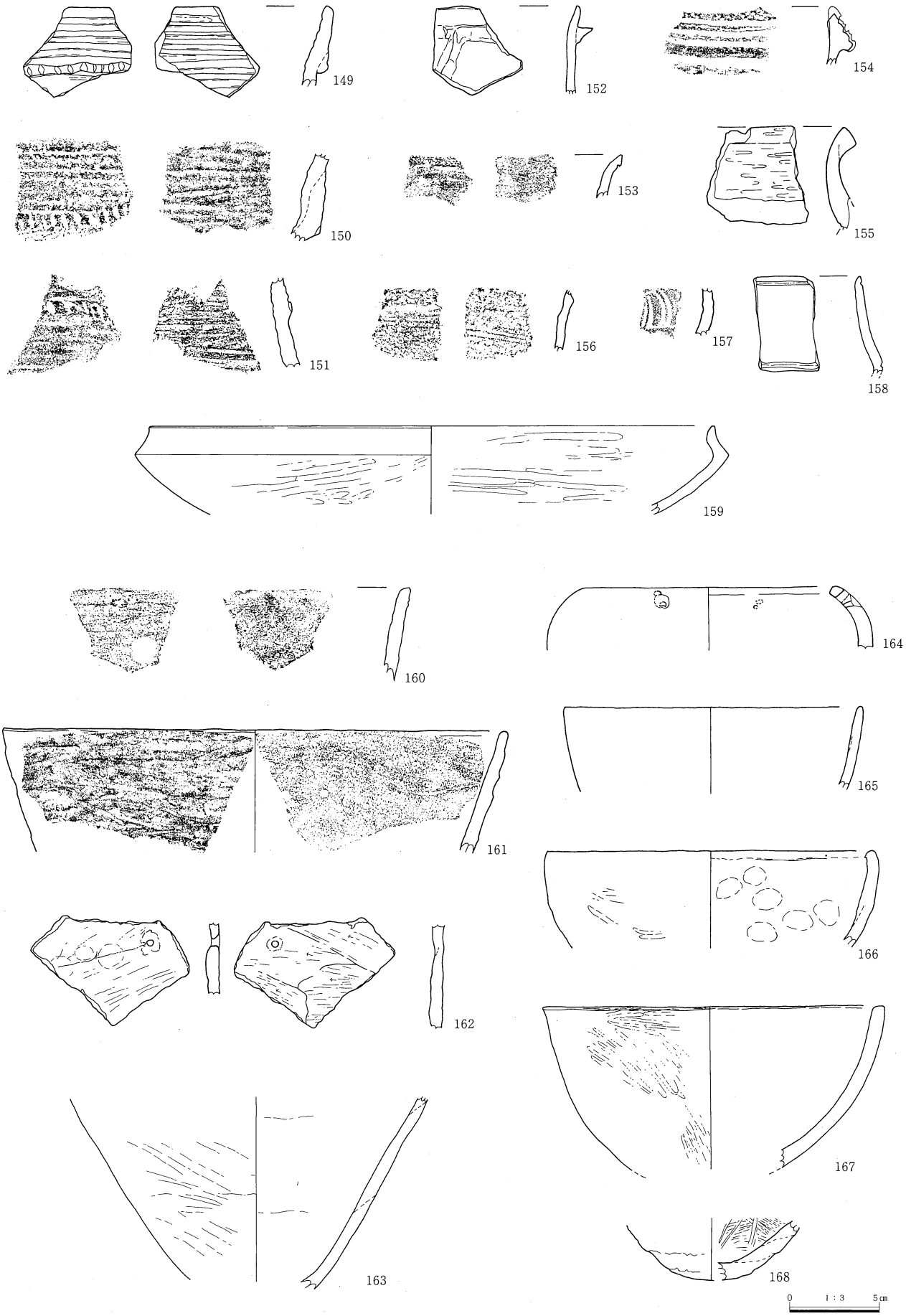
第44図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（４）



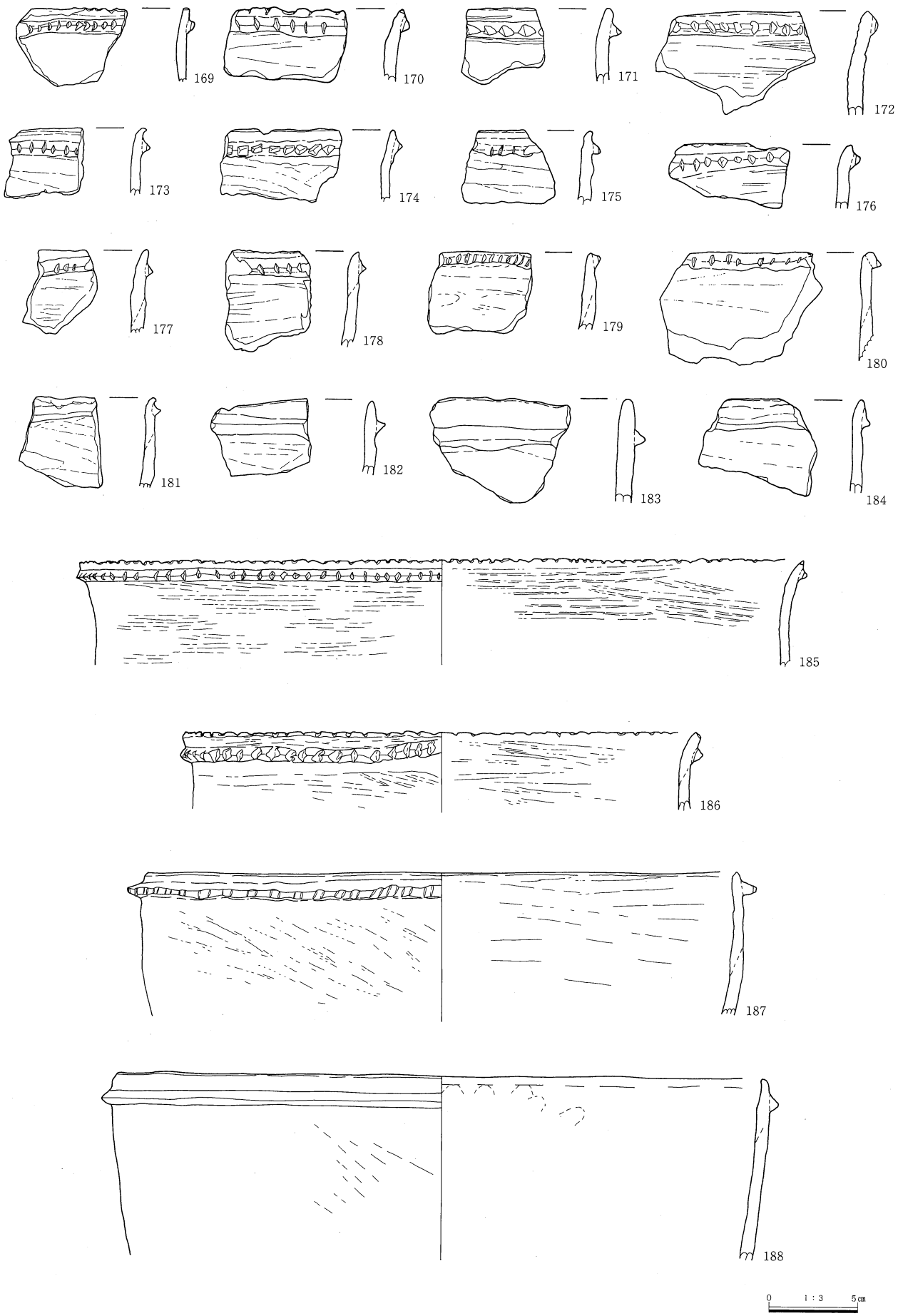
第45図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（５）



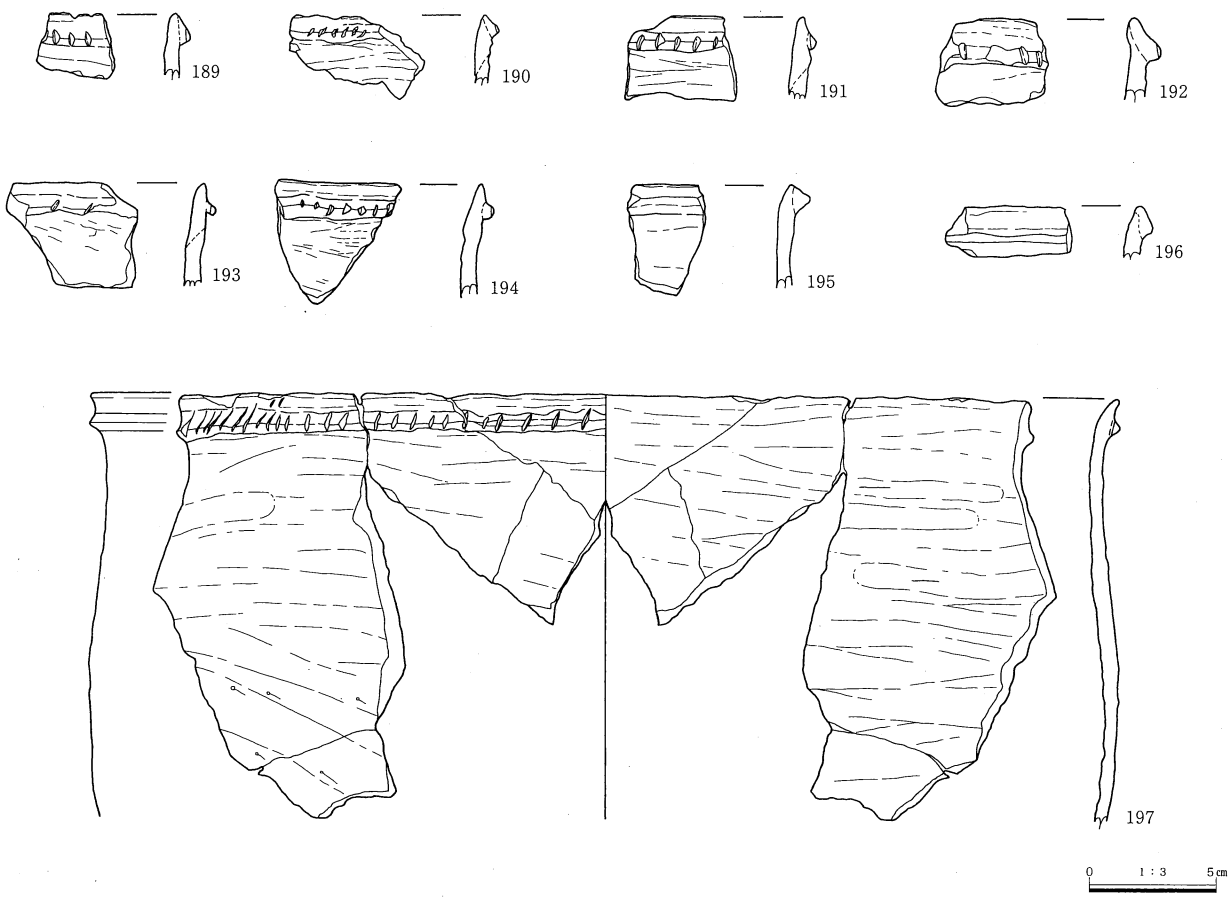
第46図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土土器（６）



第47図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（１）



第48図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（２）



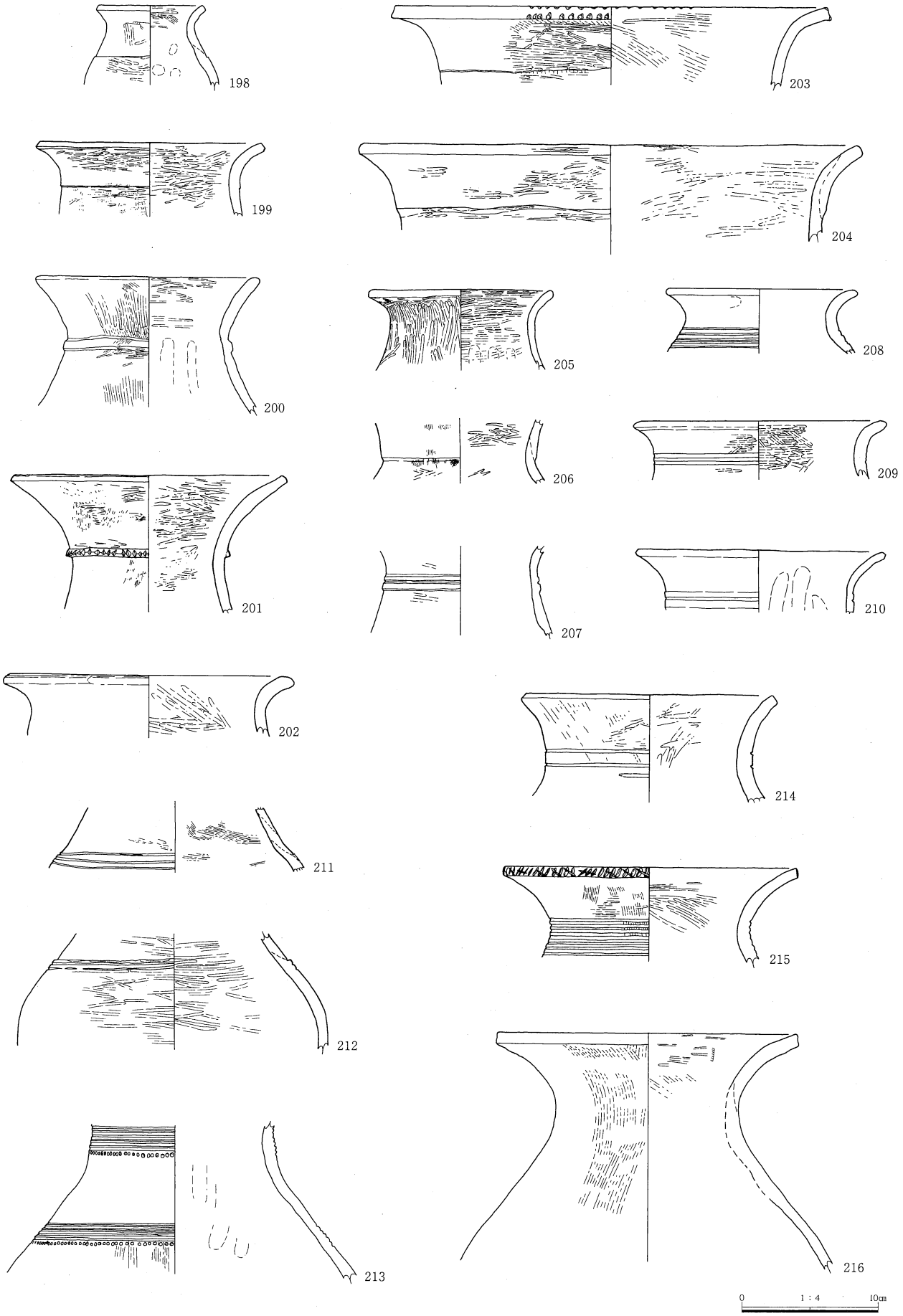
第49図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（３）

をなす線状痕である。主に刃部の下半に認められる。分析の結果、刃部を被加工物に対して垂直方向に立てた使用方法が想定された（第６章特論参照）。Ｓ54はやや内湾する両刃の刃部をもつもので石鎌と考えられる。

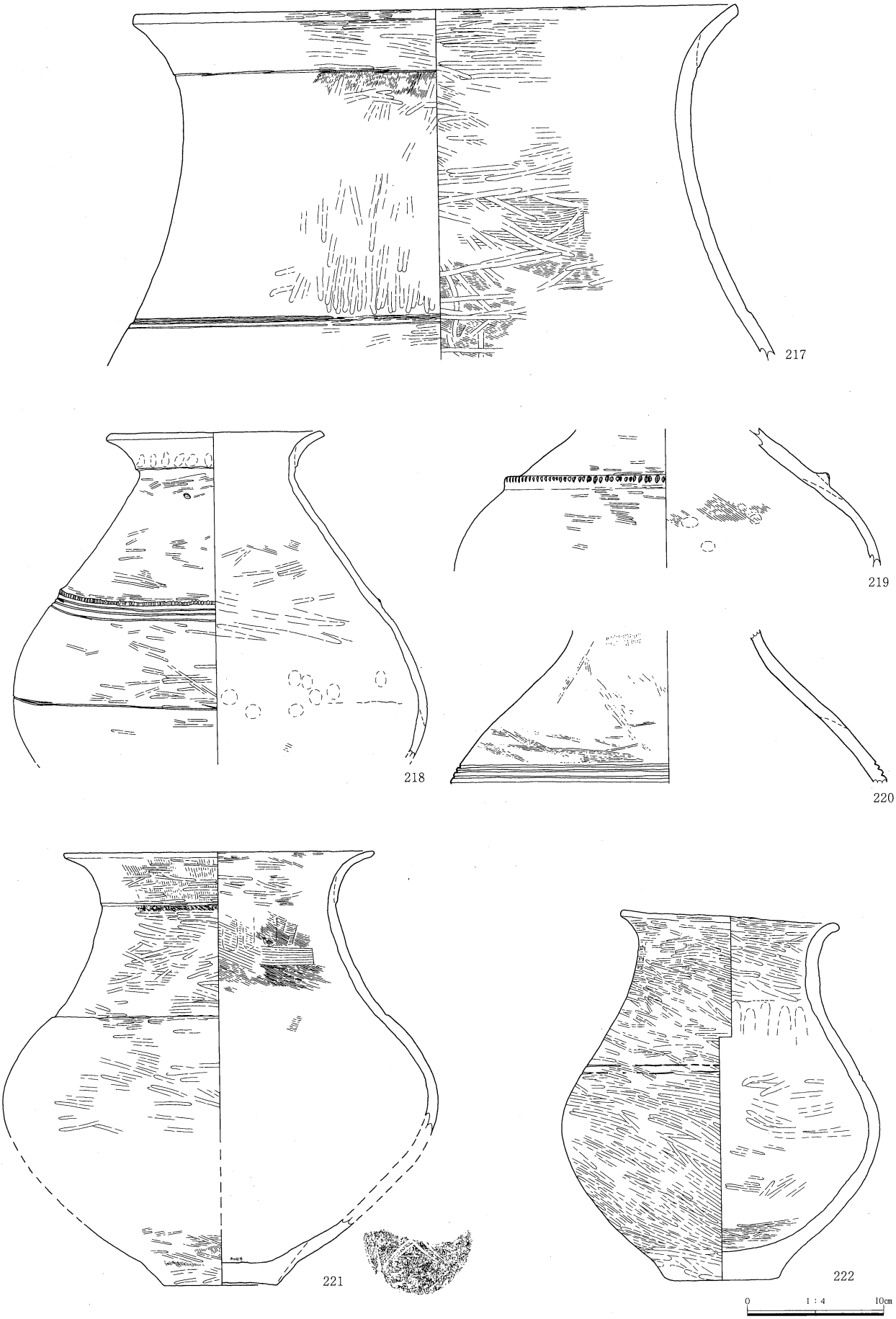
Ｓ28・Ｓ52・Ｓ53は素材剥片末端の鋭利な部分を調整し刃部とする石器である。調整は片面のみである。Ｓ52には刃部周辺の表裏に使用痕光沢面が認められた。分析の結果、刃部に対して平行する線状の使用痕が認められ刃部を平行に移動する使用方法が想定されている（第６章特論参照）。山陰地域では弥生時代前半期の石包丁の出土が少ないことが従来から指摘されており本遺跡でも磨製石包丁は皆無である。島根県松江市西川津遺跡は少量の磨製石包丁と同時に打製の石包丁とみられる破片が出土しており、本遺跡の板状石器もこうした一例としていわゆる石製穂摘具の一つをなすのかもしれない。棒状石製品Ｓ47は周囲を研磨しており、緑色片岩製であることから石棒もしくはその再利用品の可能性がある。Ｓ48はわずかに研磨痕が認められ、両端部は剥離している。Ｓ７はいわゆる異形石器と呼ばれるものであろうか。表面が若干風化している。　（岡野）

※石器の分類・年代観については以下の文献を参考にした。

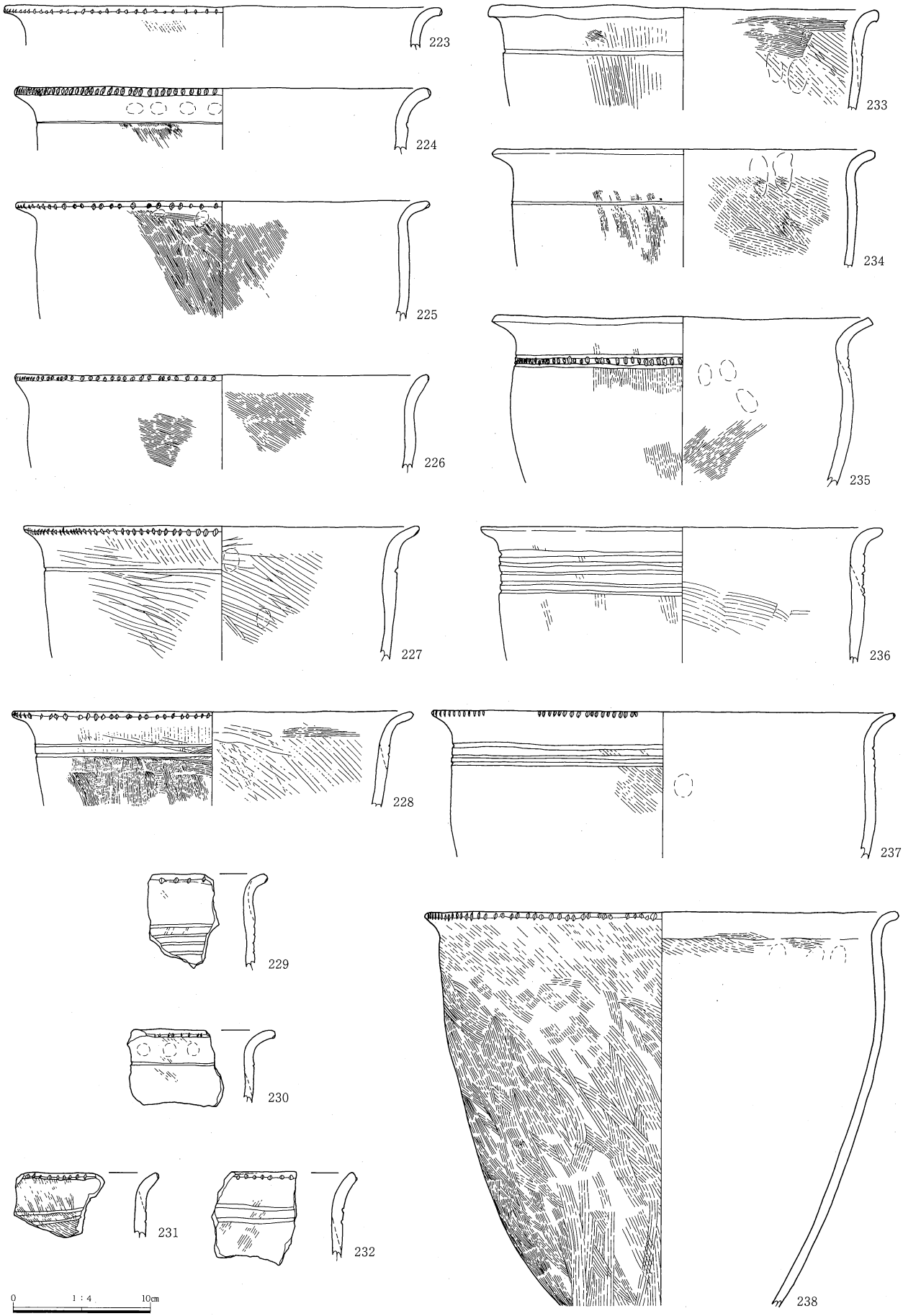
（１）平井　勝　1991『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64　ニューサイエンス社
（２）岩橋孝典ほか編　2001『西川津遺跡Ⅷ』朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13冊　島根県教育委員会



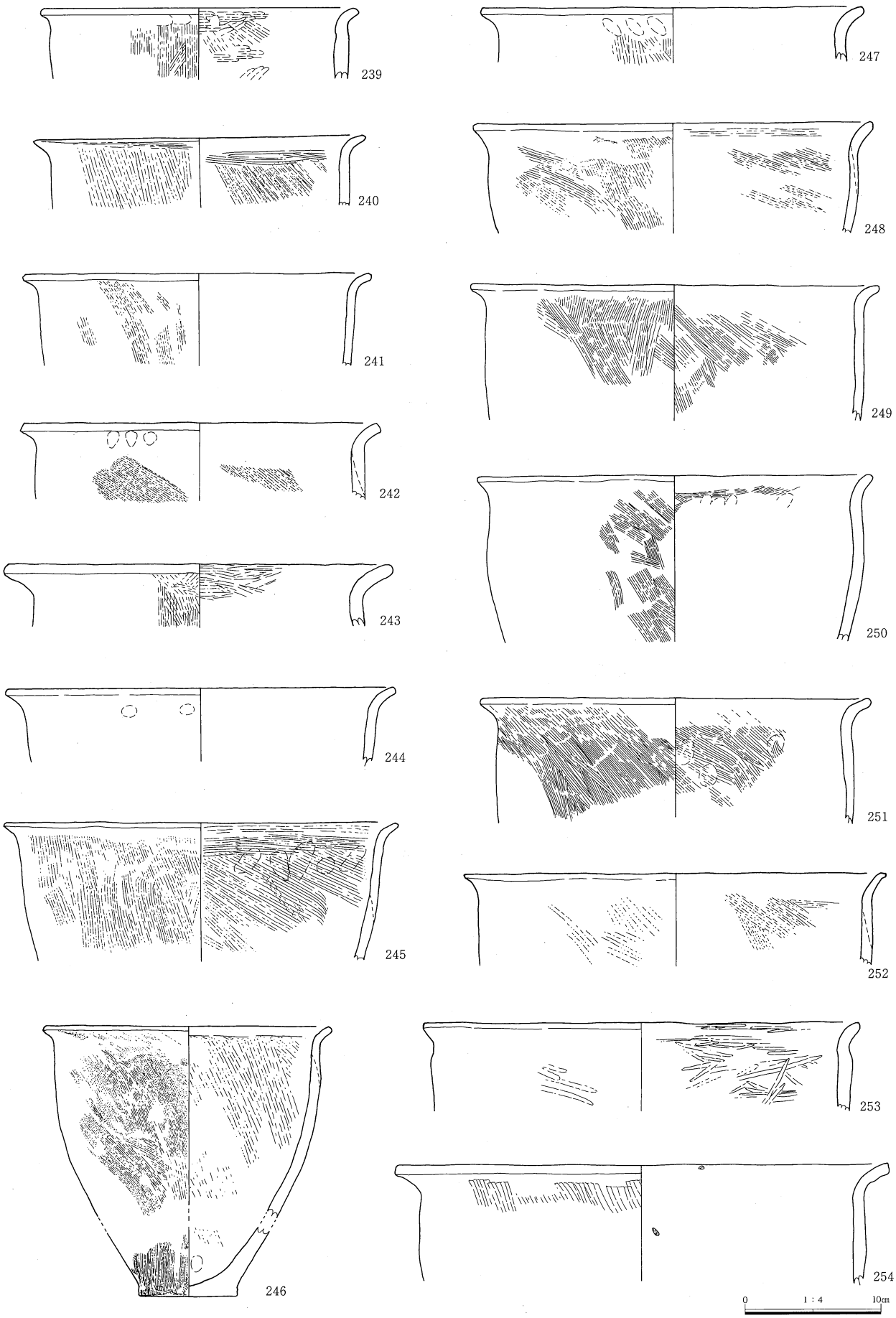
第50図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（４）



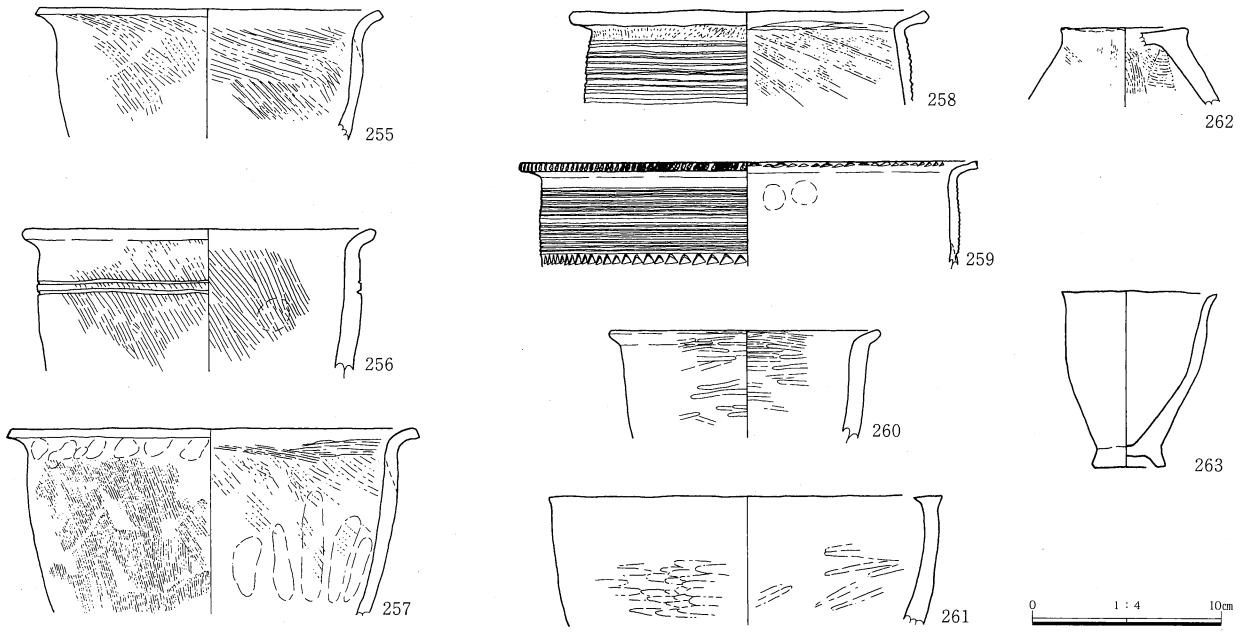
第51図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（５）



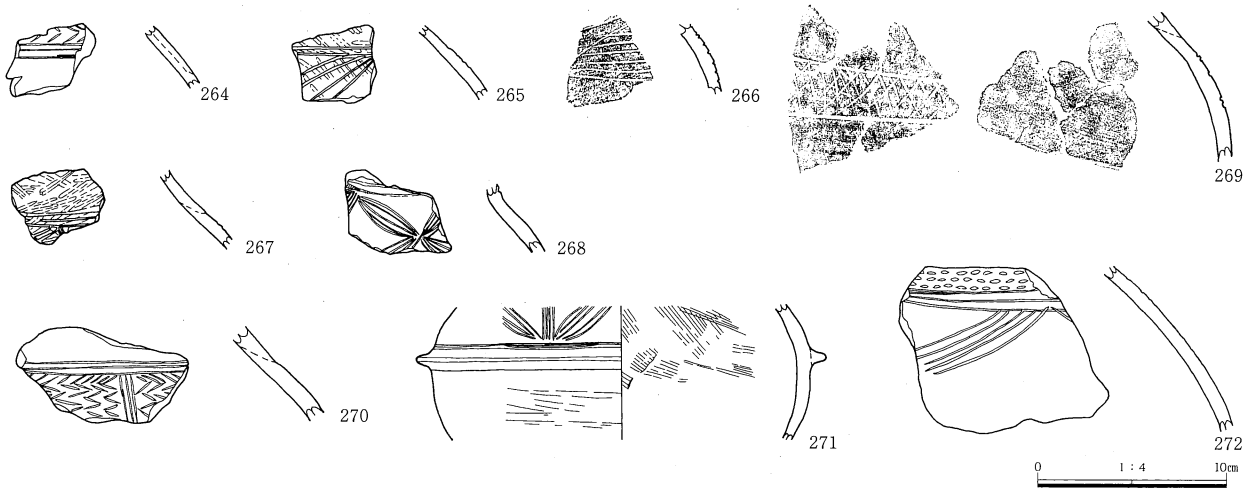
第52図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（６）



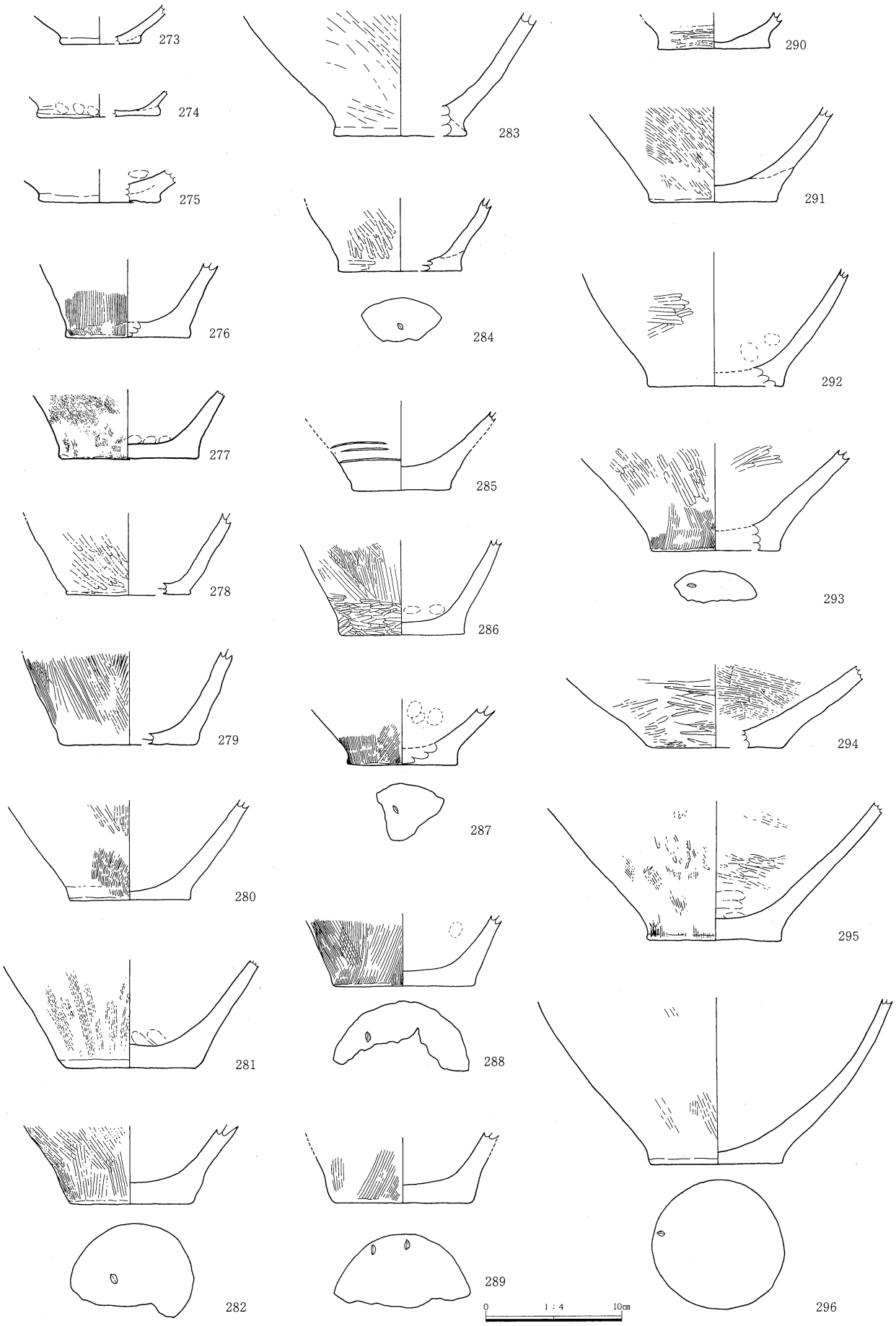
第53図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（７）



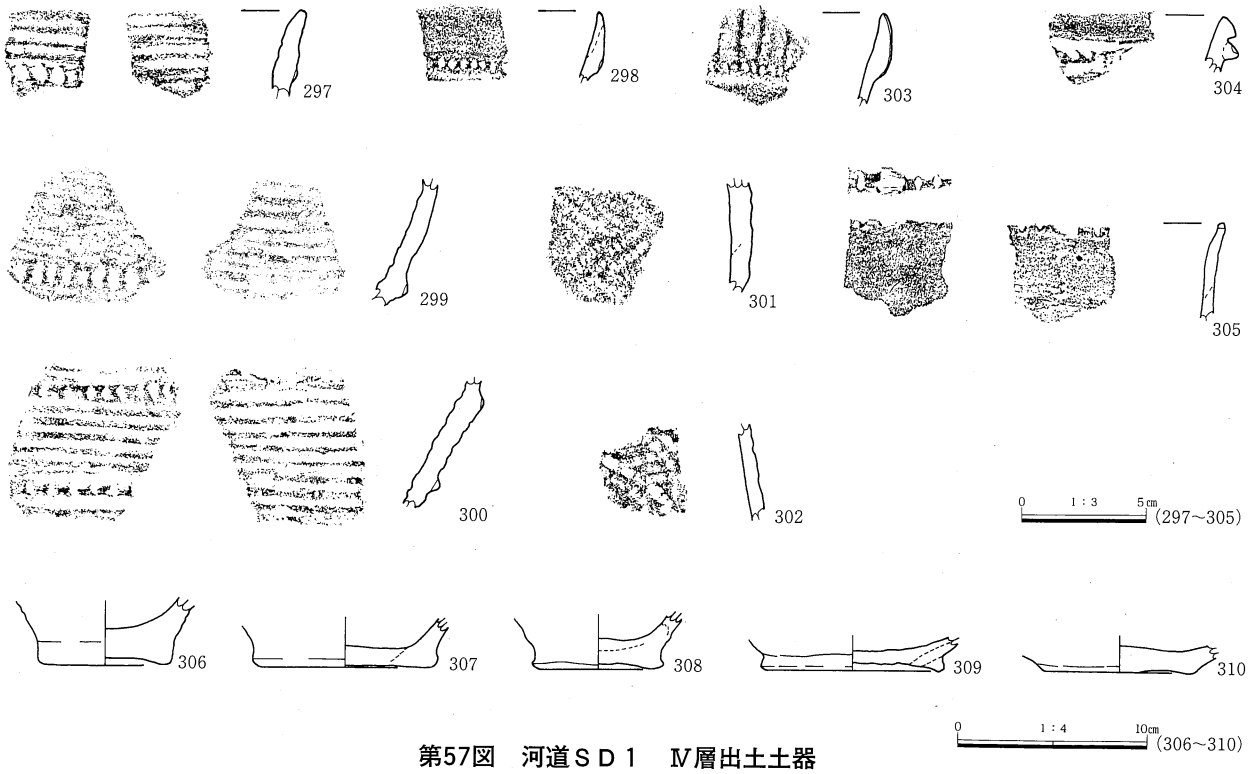
第54図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（８）



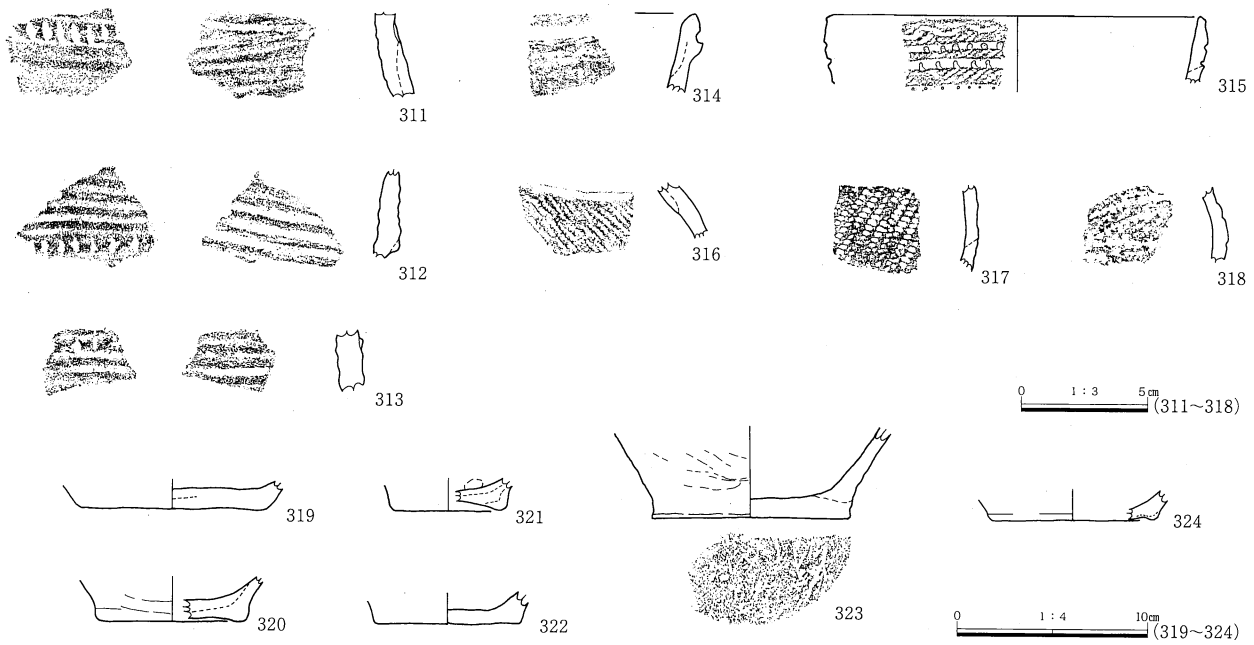
第55図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（９）



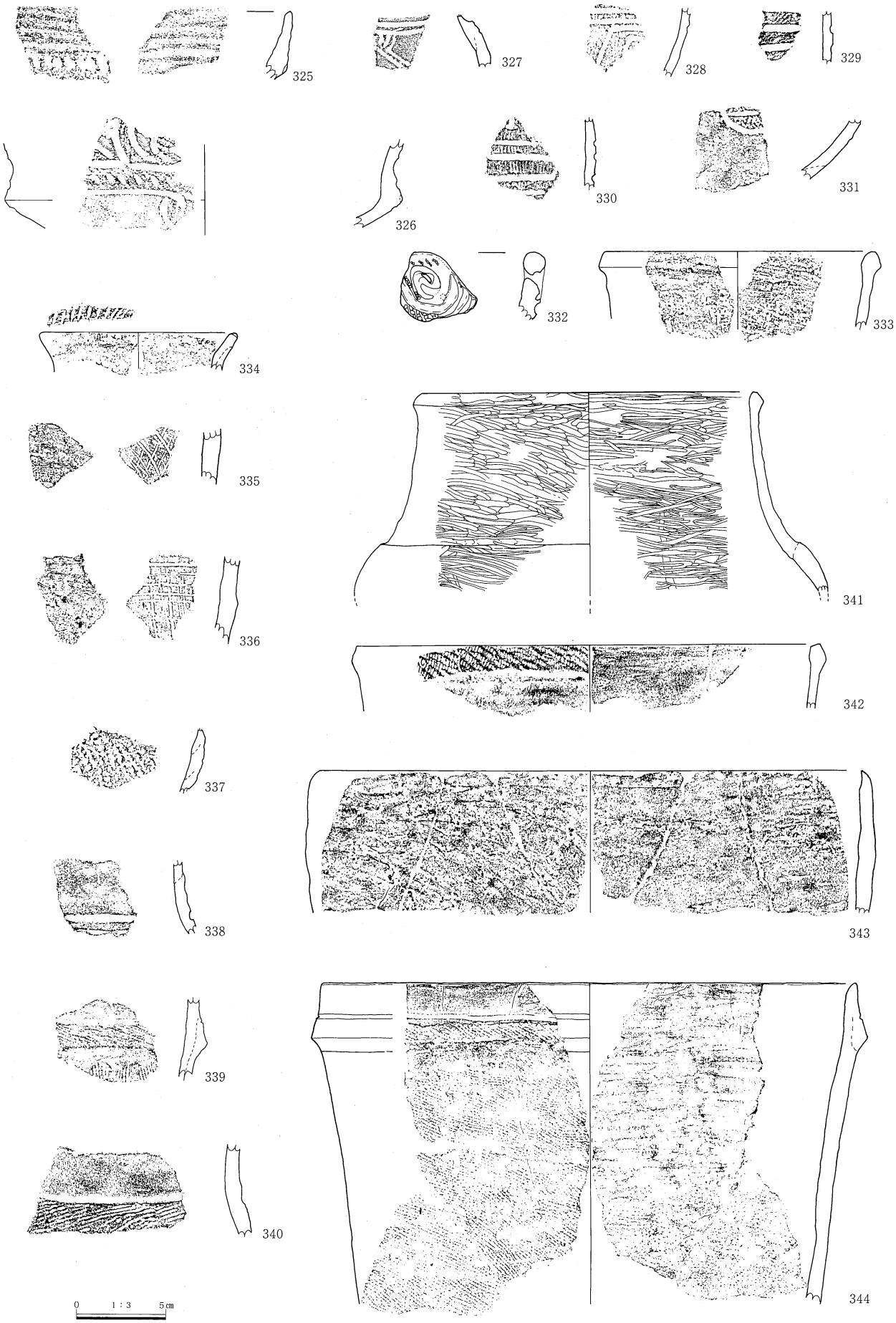
第56図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土土器（10）



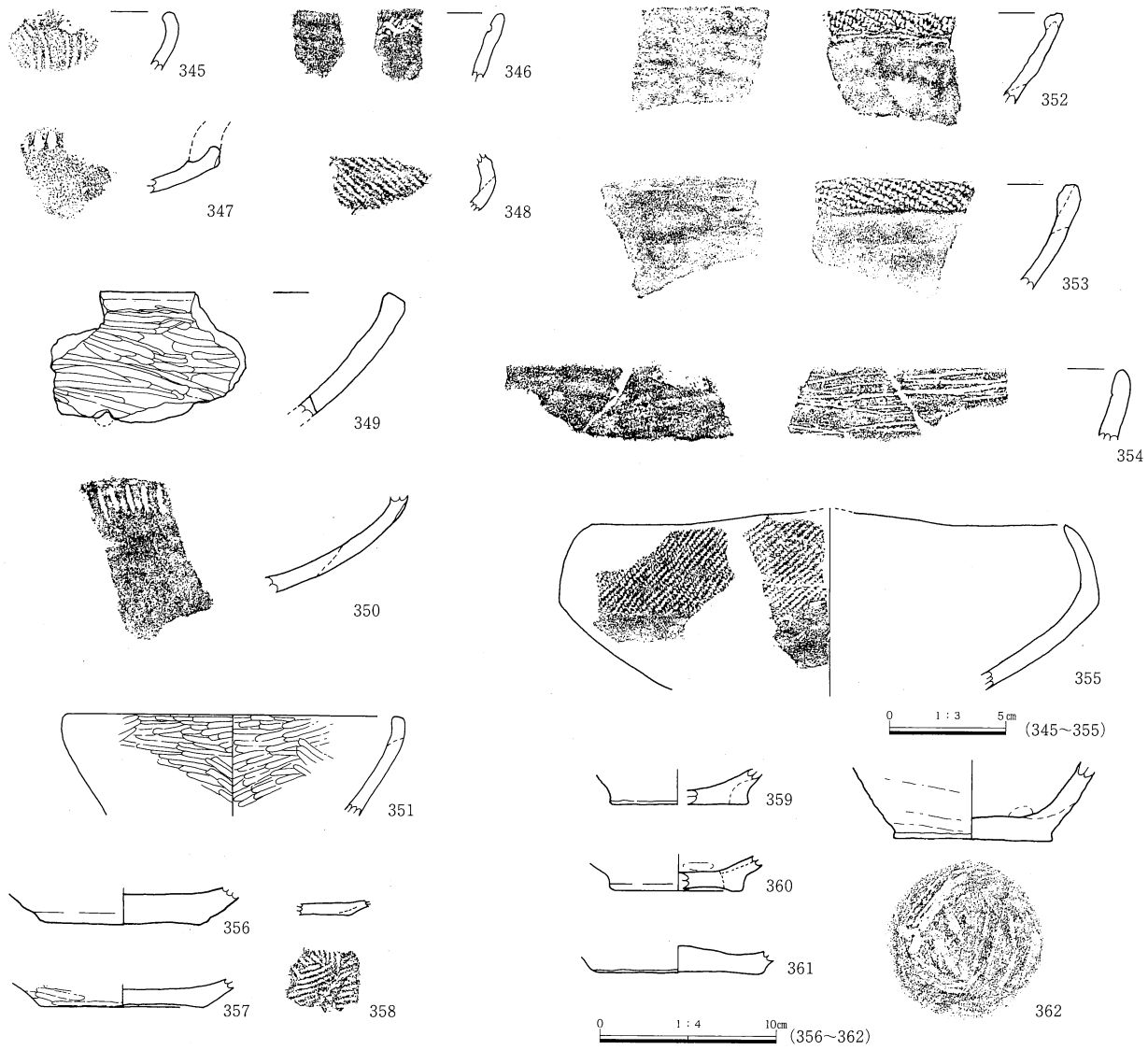
第57図　河道ＳＤ１　Ⅳ層出土土器



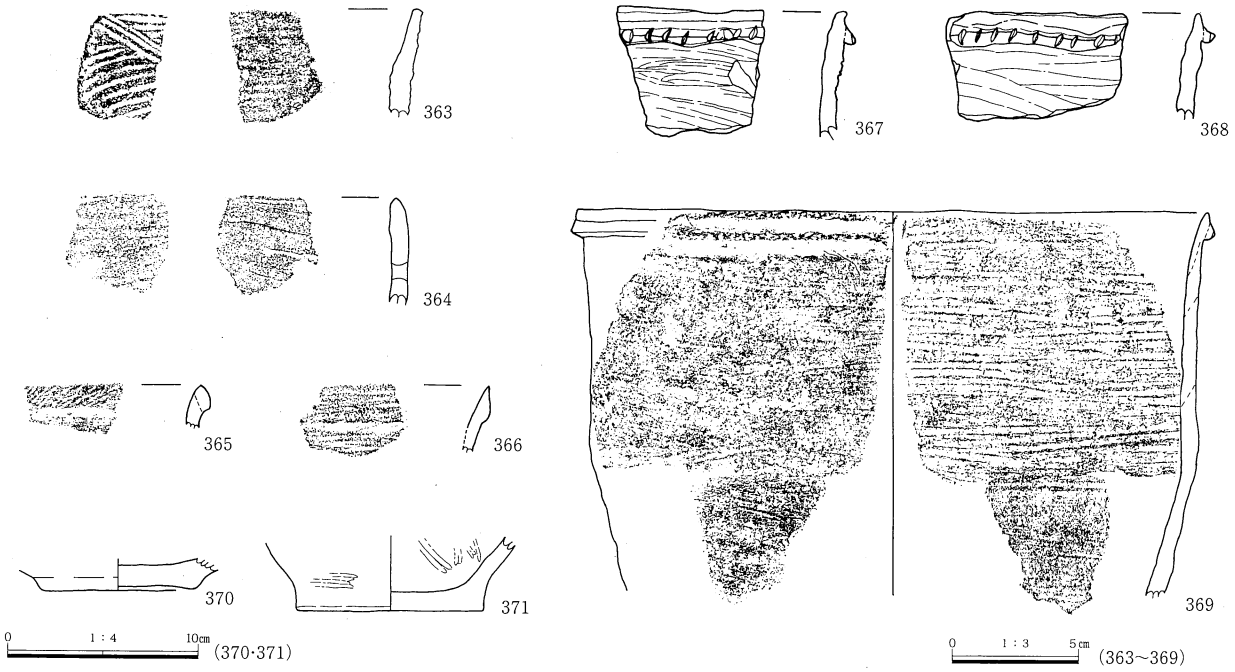
第58図　河道ＳＤ１　Ⅴ層出土土器



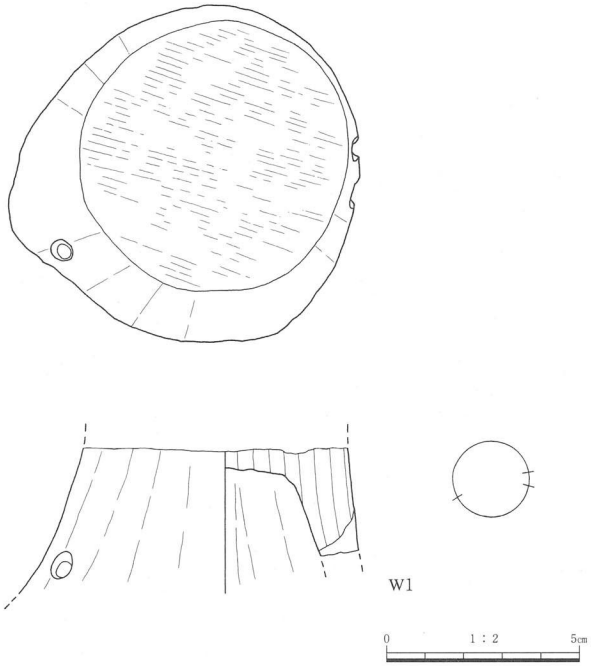
第59図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（１）



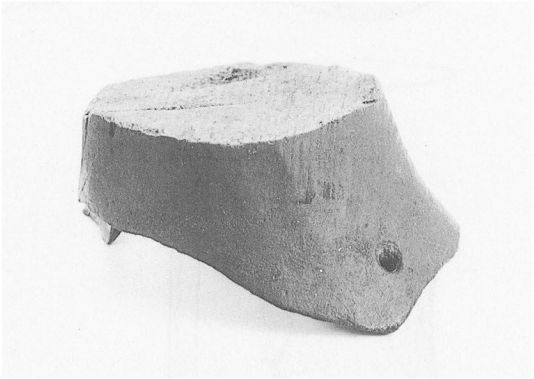
第60図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土土器（２）



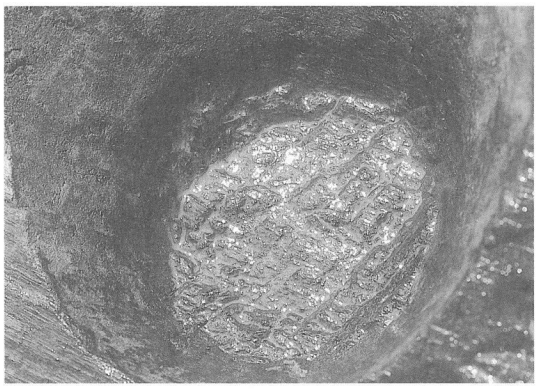
第61図　河道ＳＤ１　Ⅶ層～Ⅻ層出土土器



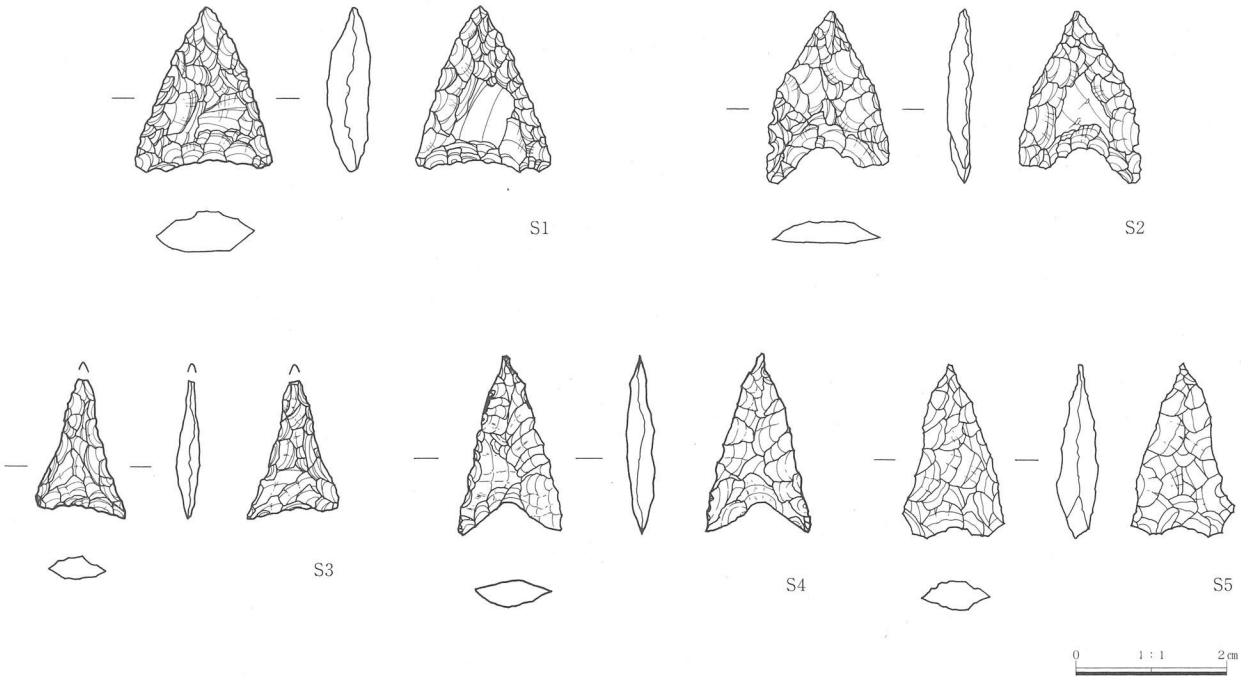
第62図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土木製品



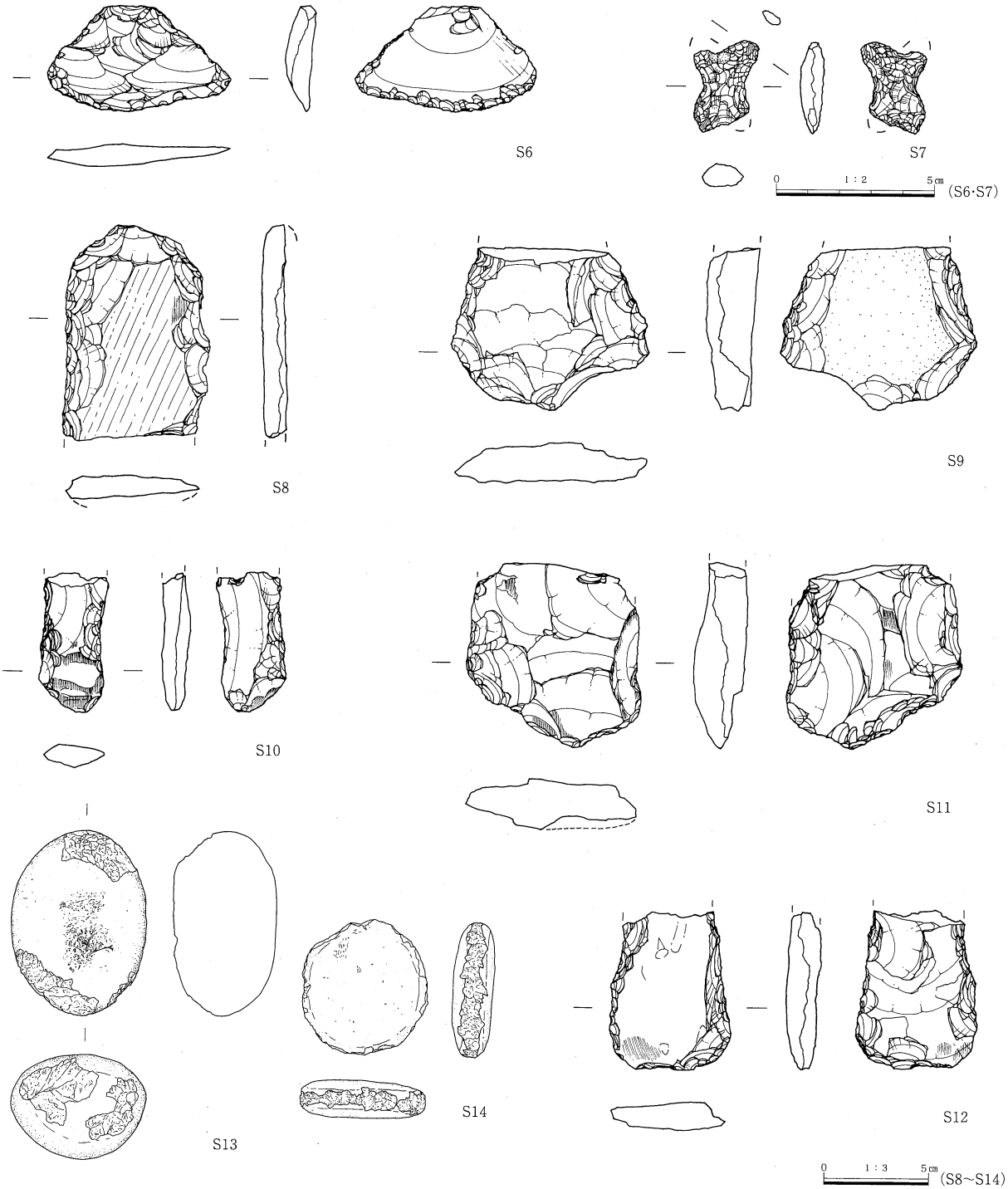
木製品Ｗ１



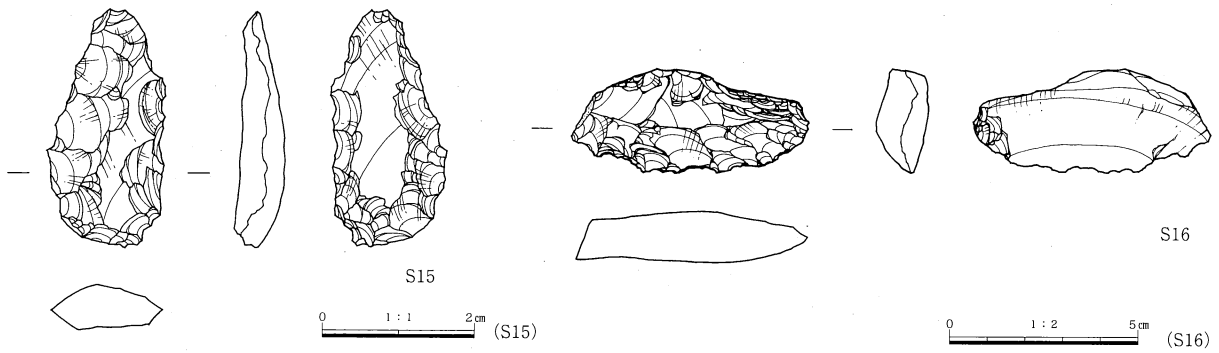
木製品Ｗ１内面



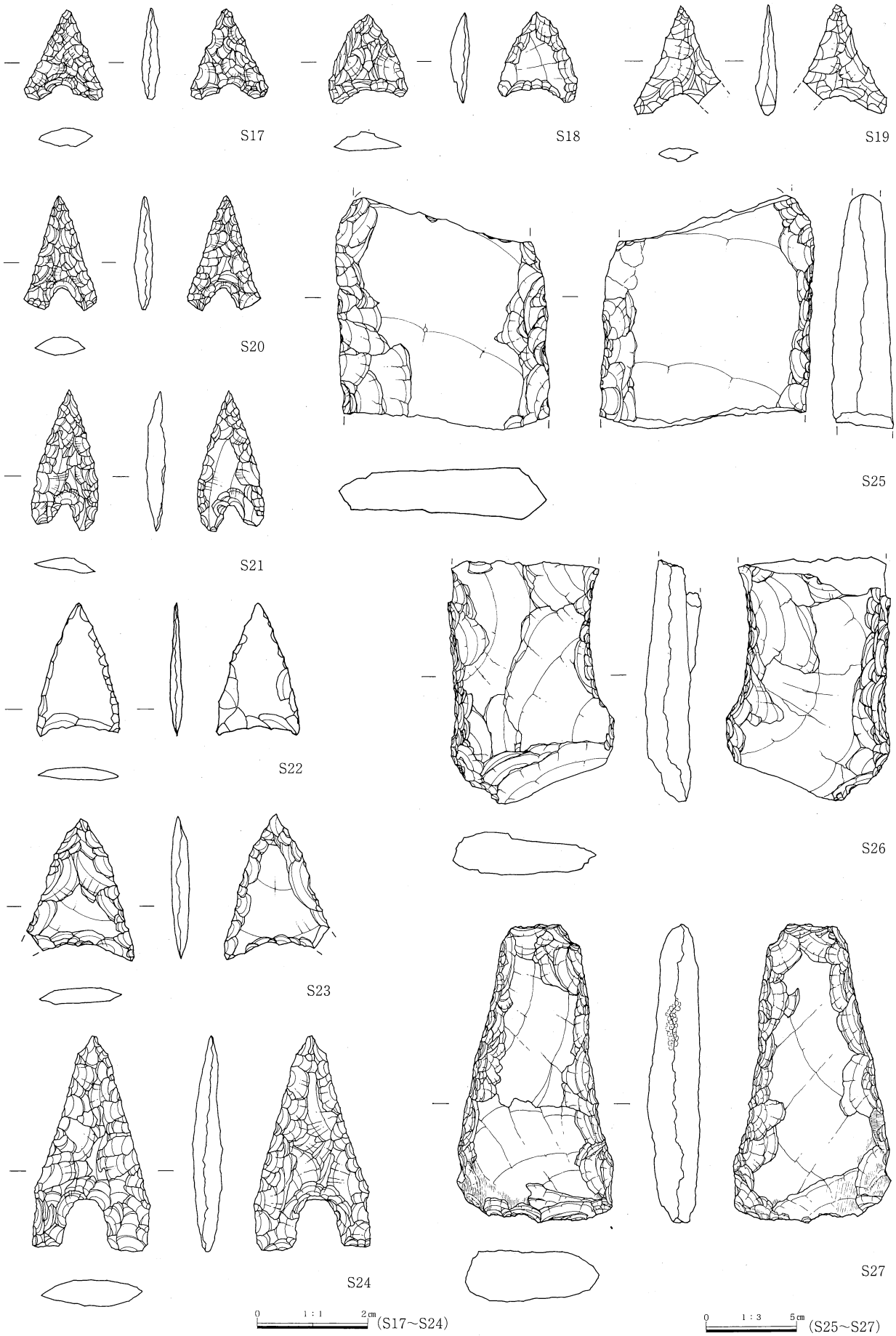
第63図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土石器（１）



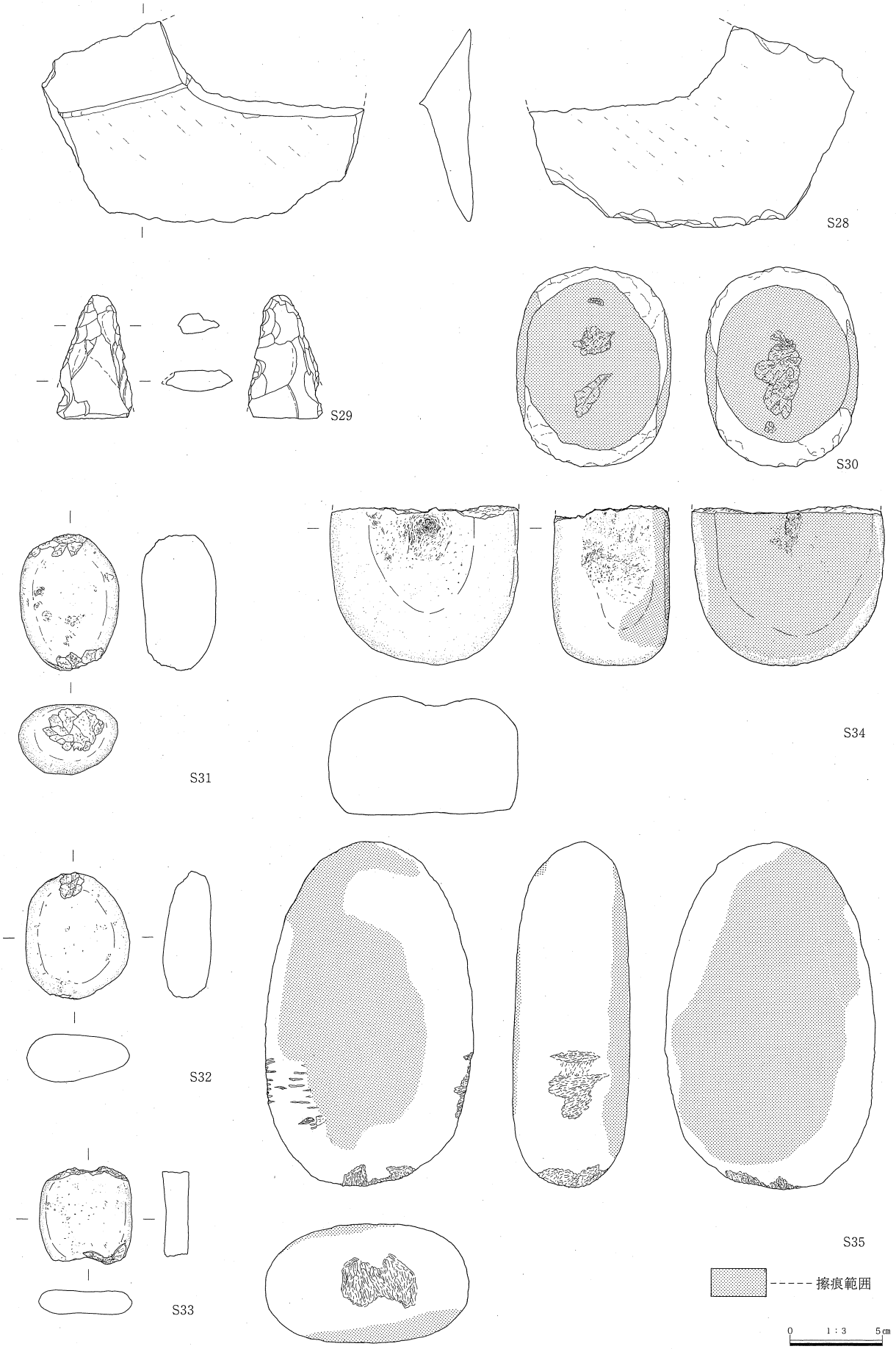
第64図　河道ＳＤ１　Ⅰ層出土石器（２）



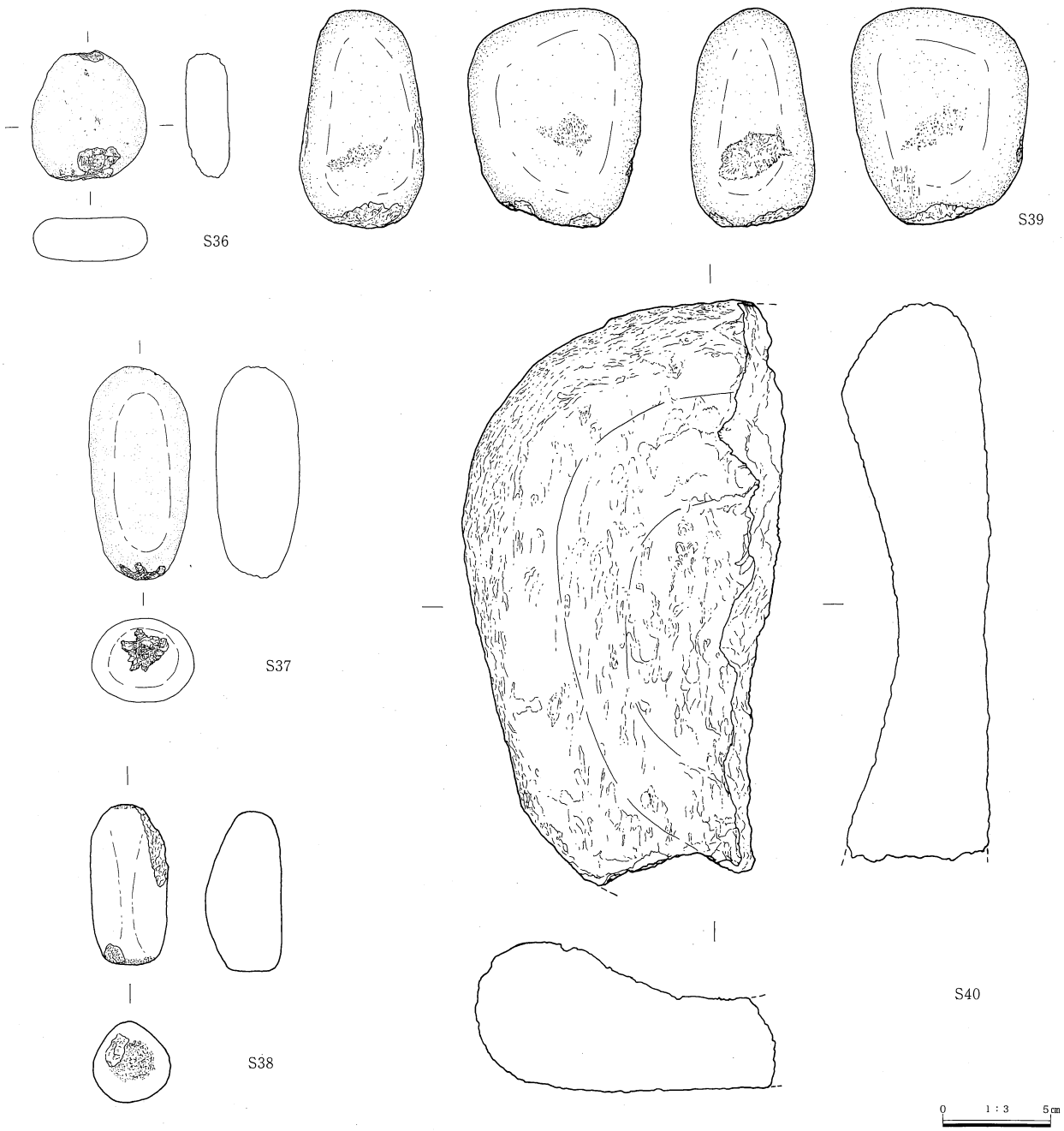
第65図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（１）



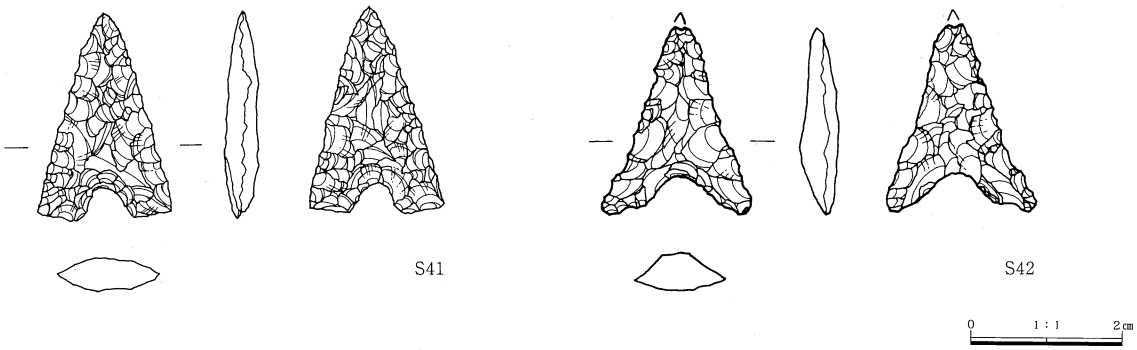
第66図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（２）



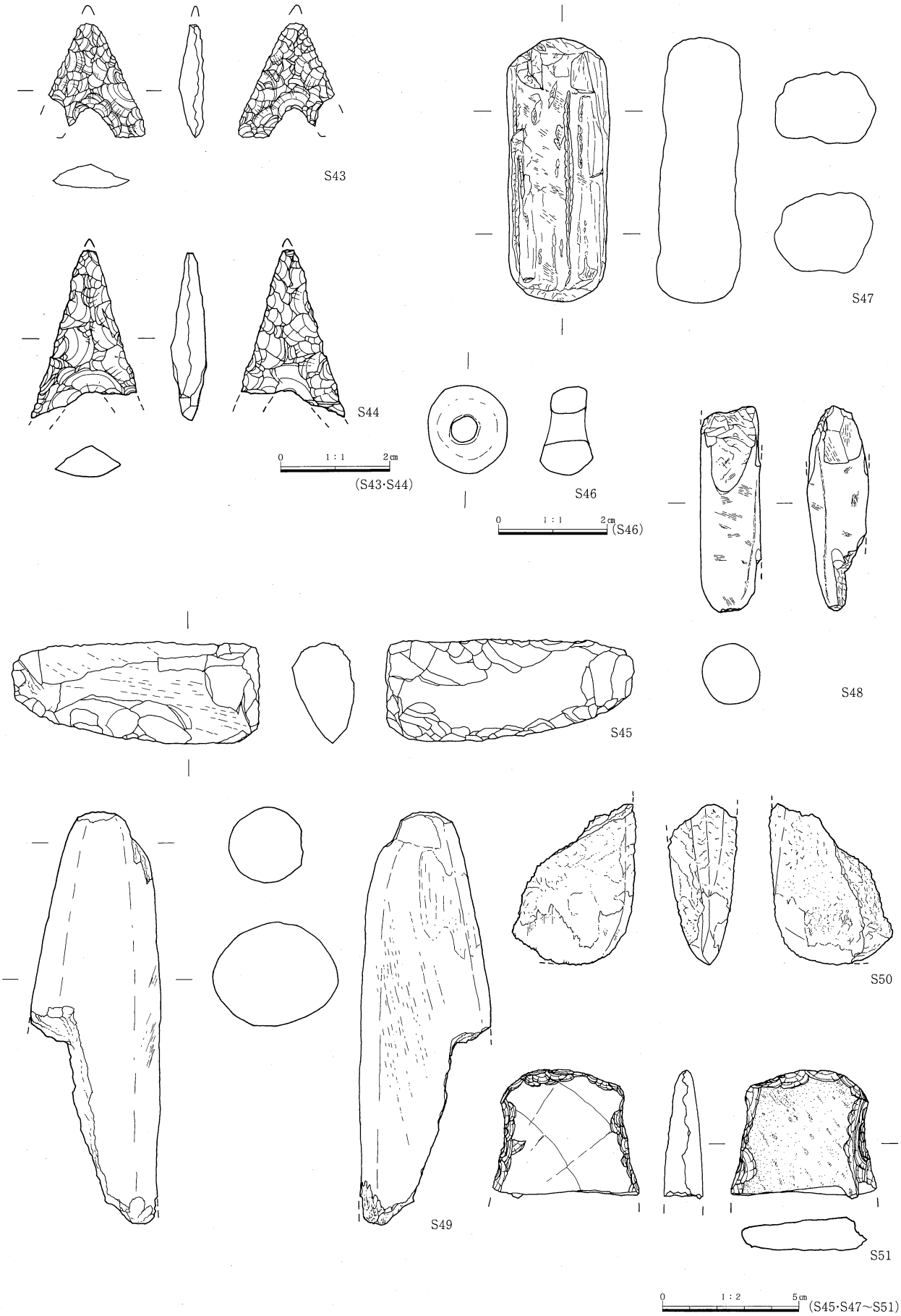
第67図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（３）



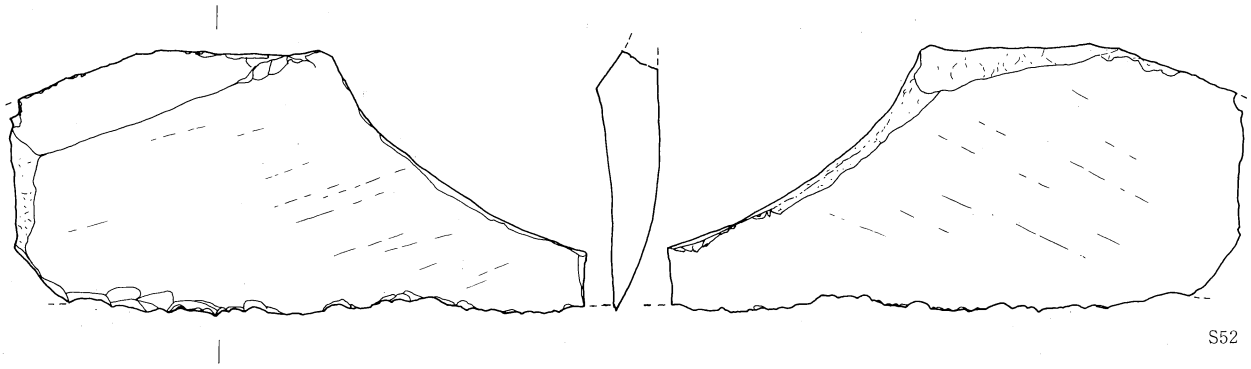
第68図　河道ＳＤ１　Ⅱ層出土石器（４）

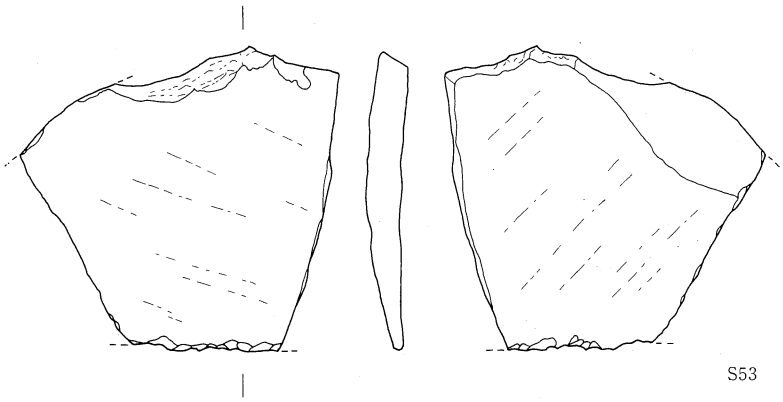


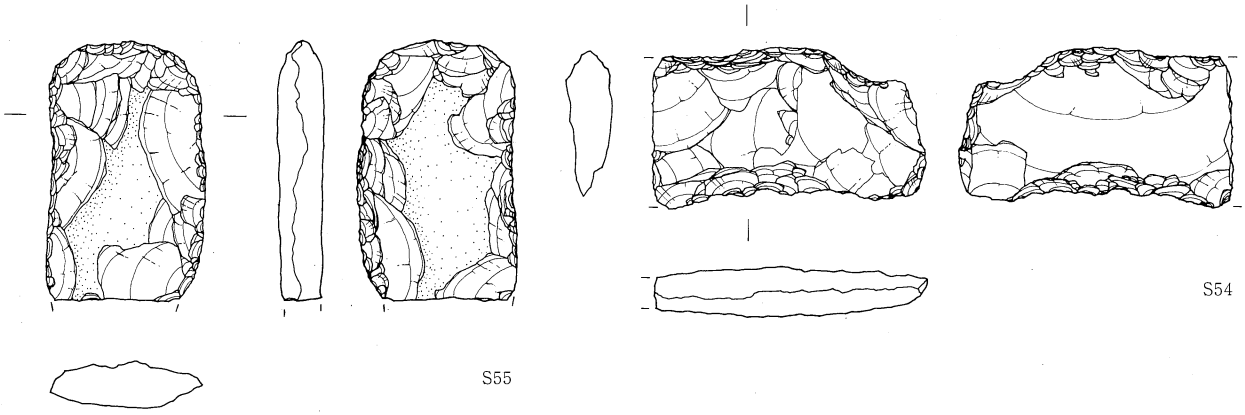
第69図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（１）

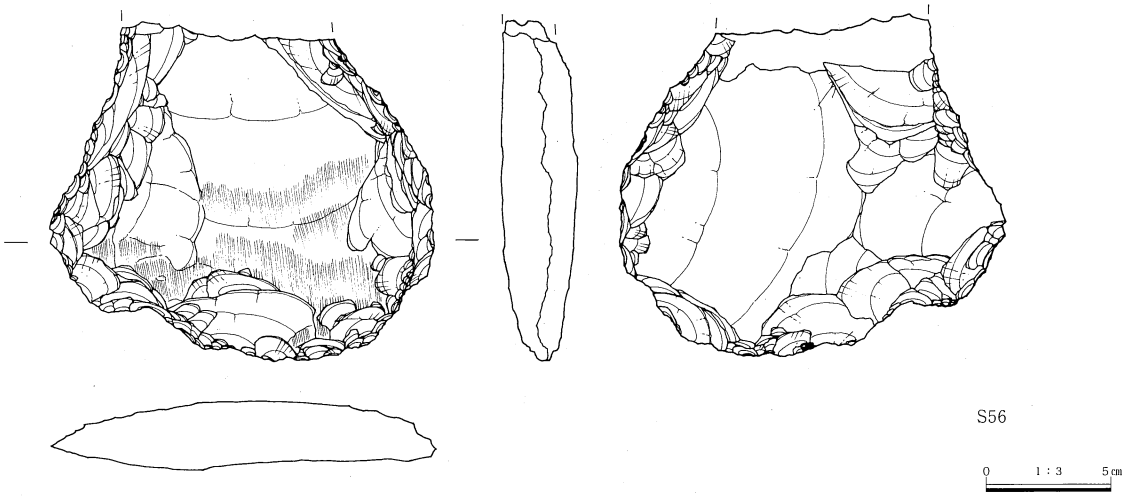


第70図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（２）

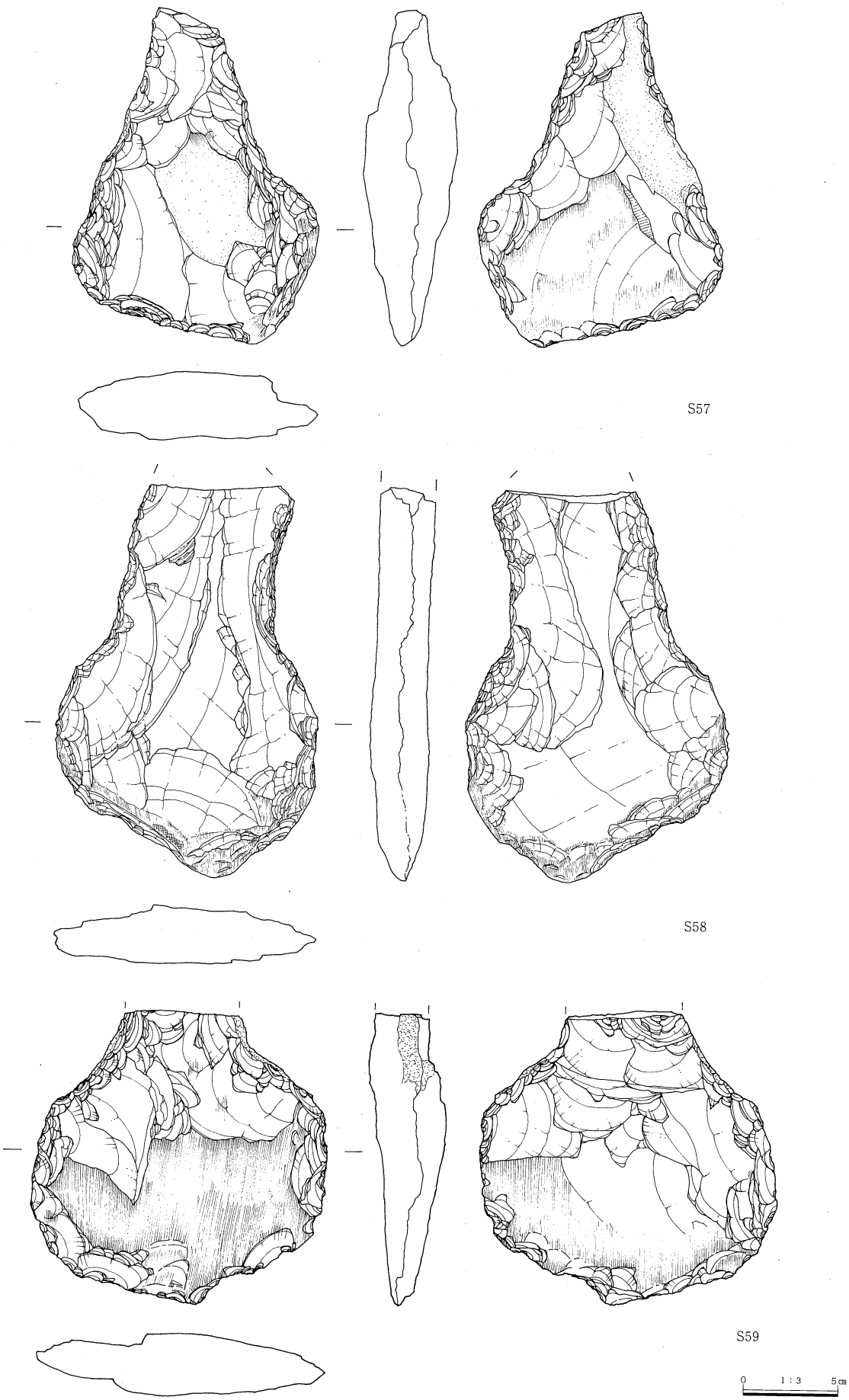




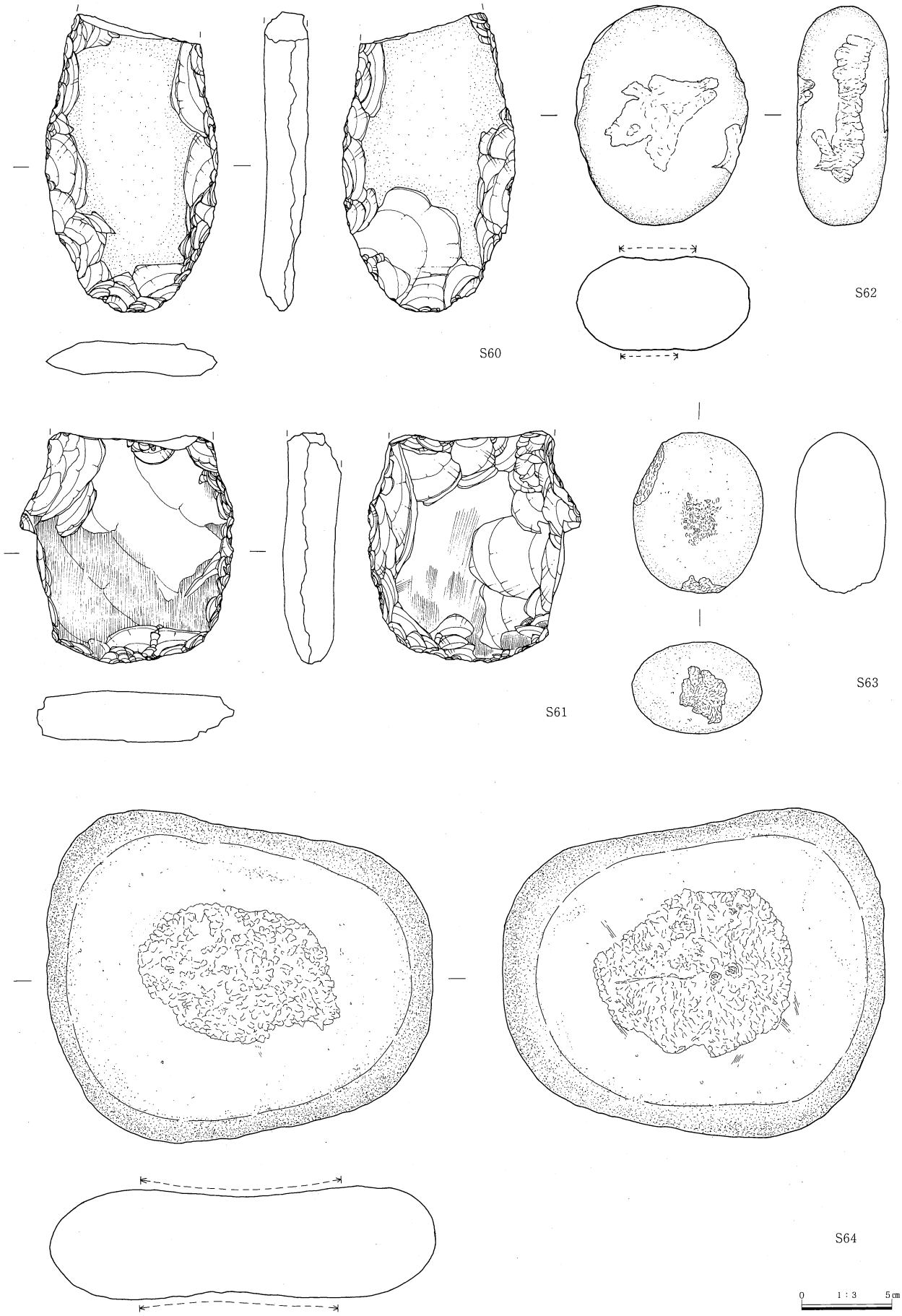




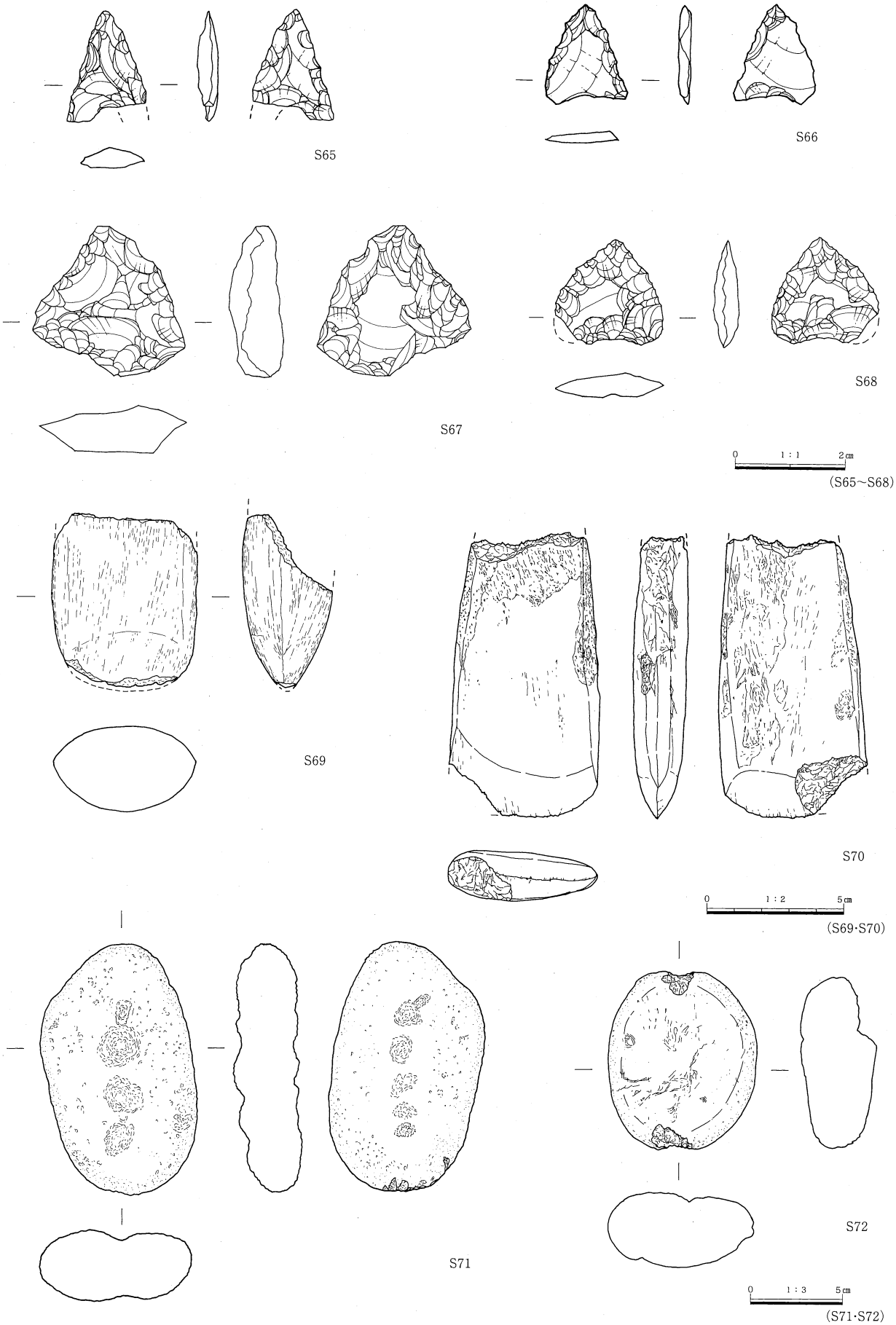
第71図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（３）



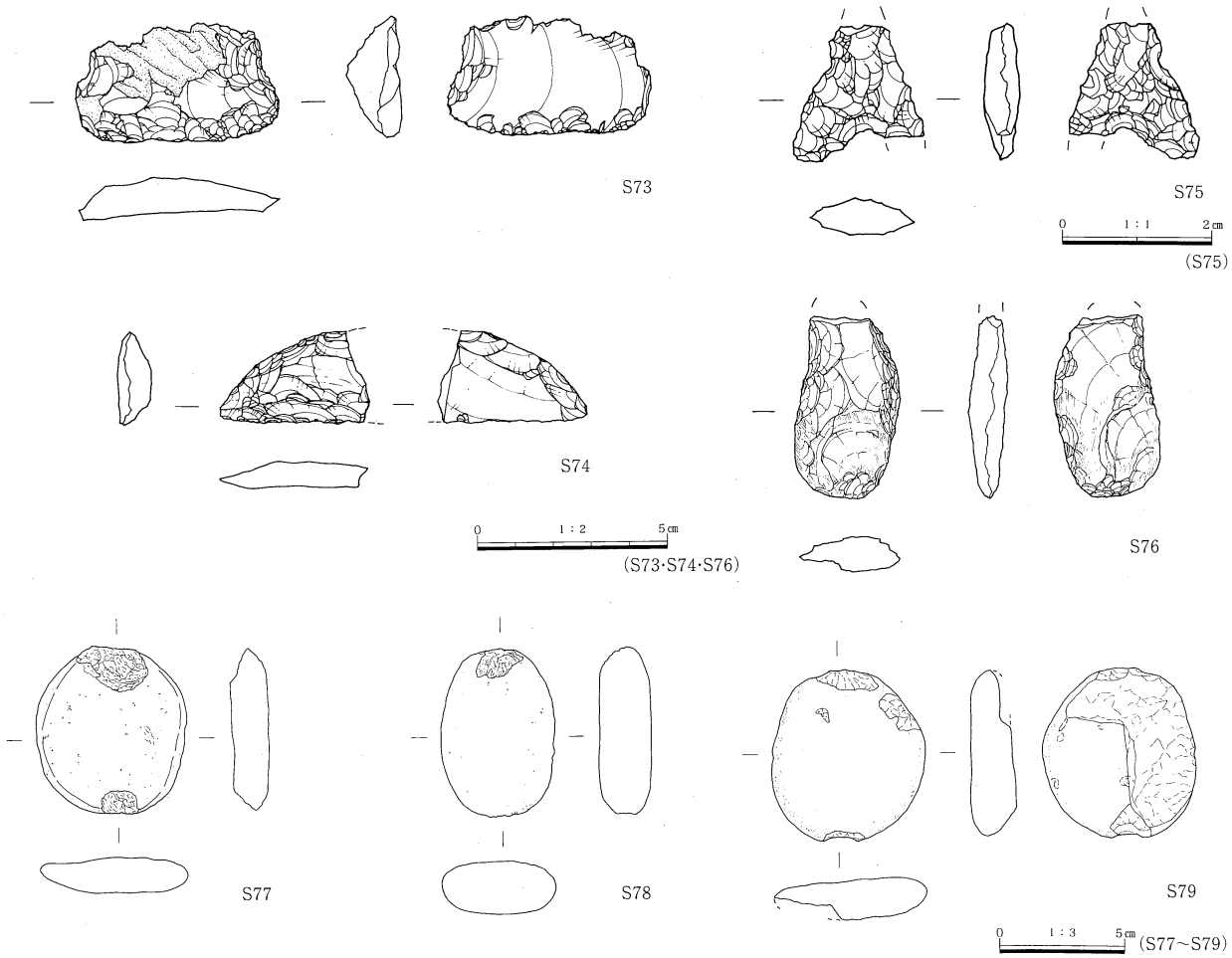
第72図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（４）



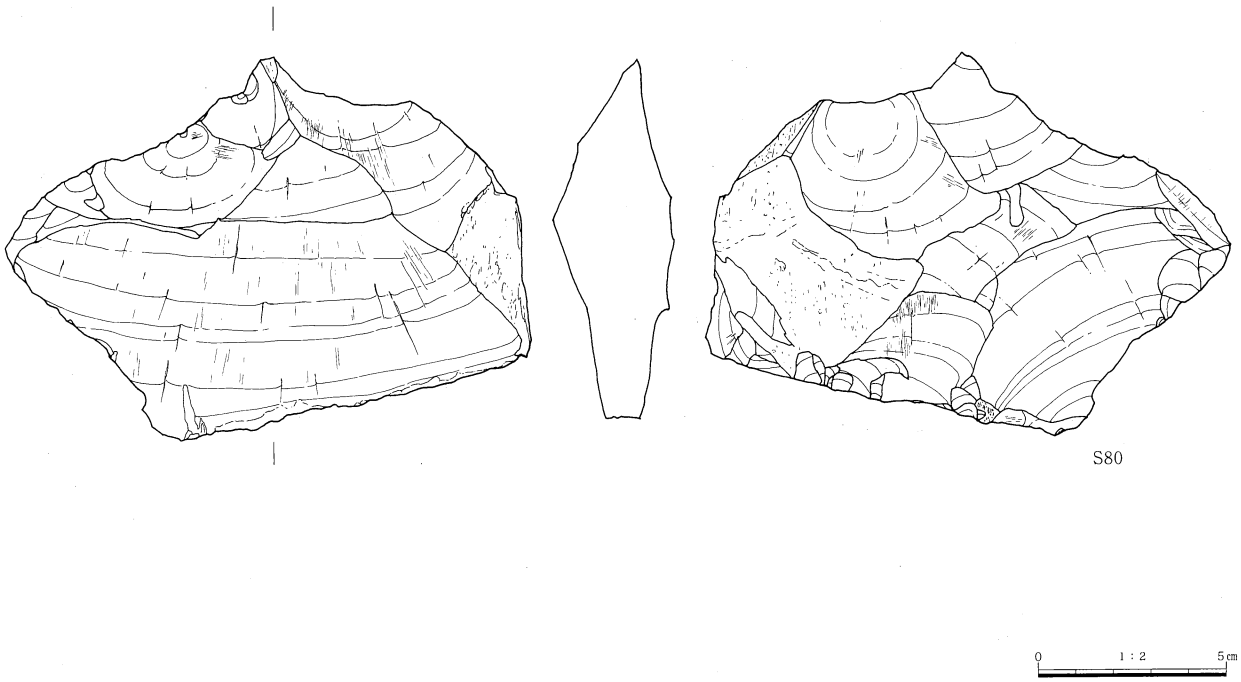
第73図　河道ＳＤ１　Ⅲ層出土石器（５）



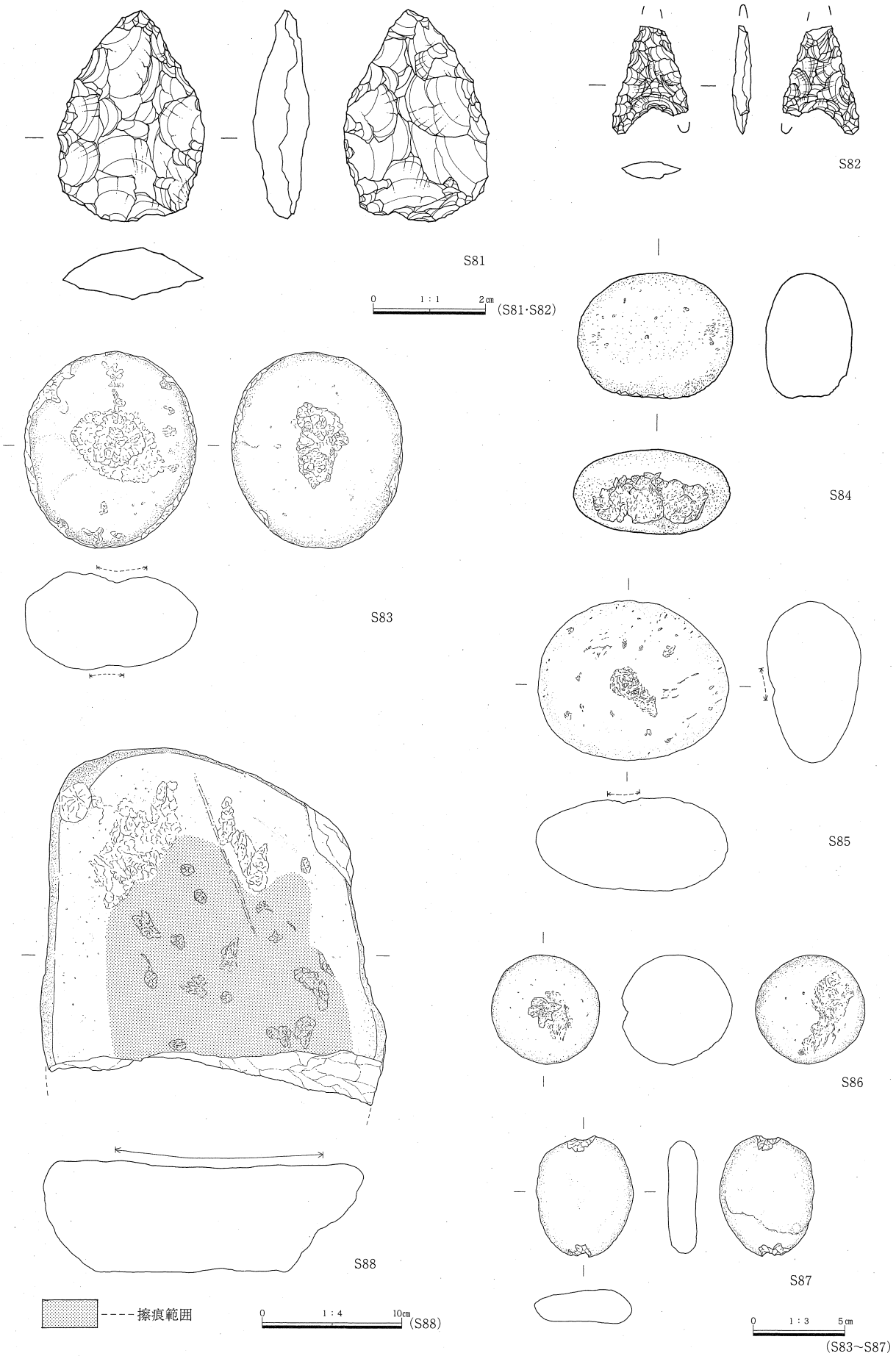
第74図　河道ＳＤ１　Ⅳ層出土石器



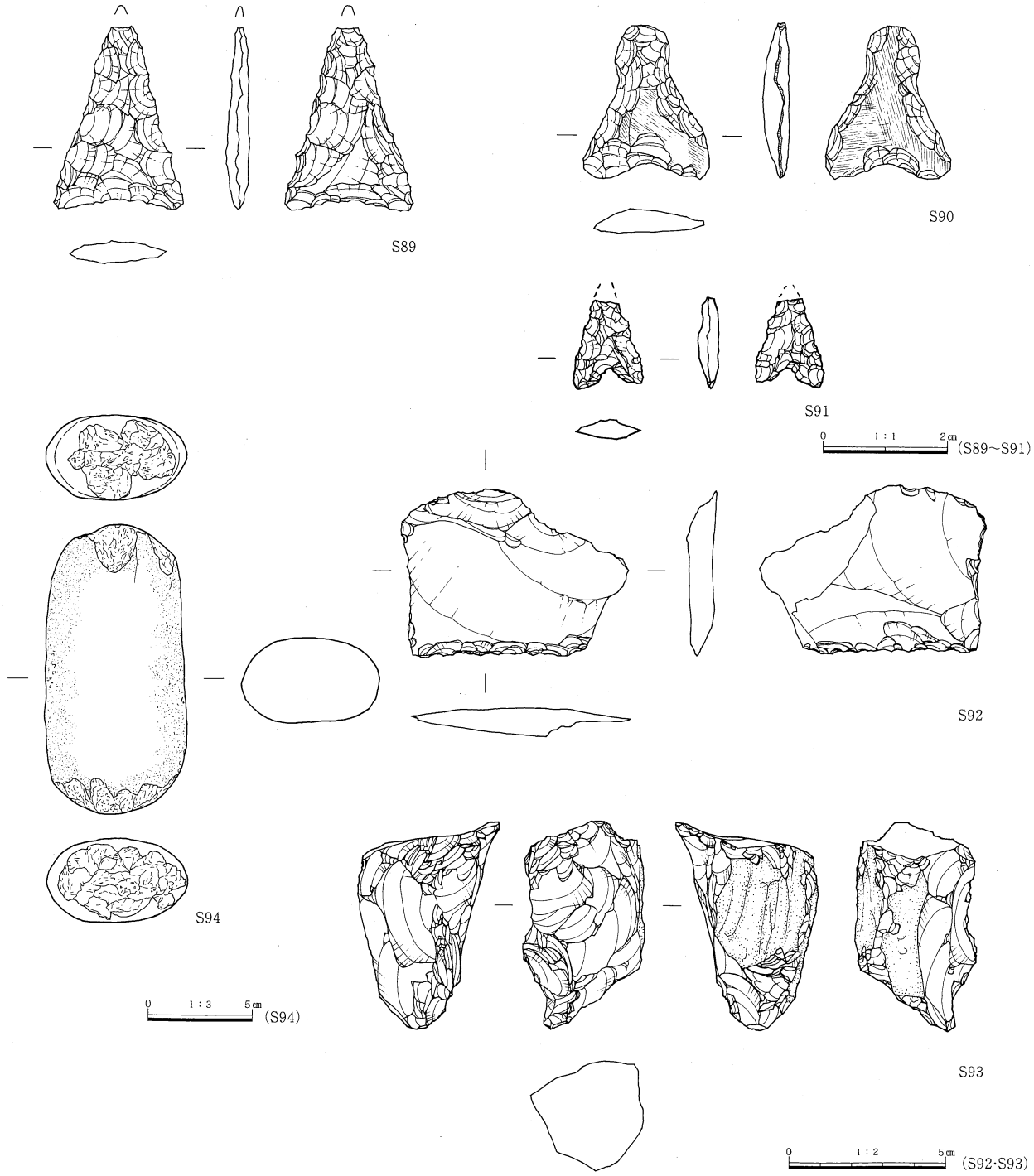
第75図　河道ＳＤ１　Ⅴ層出土石器



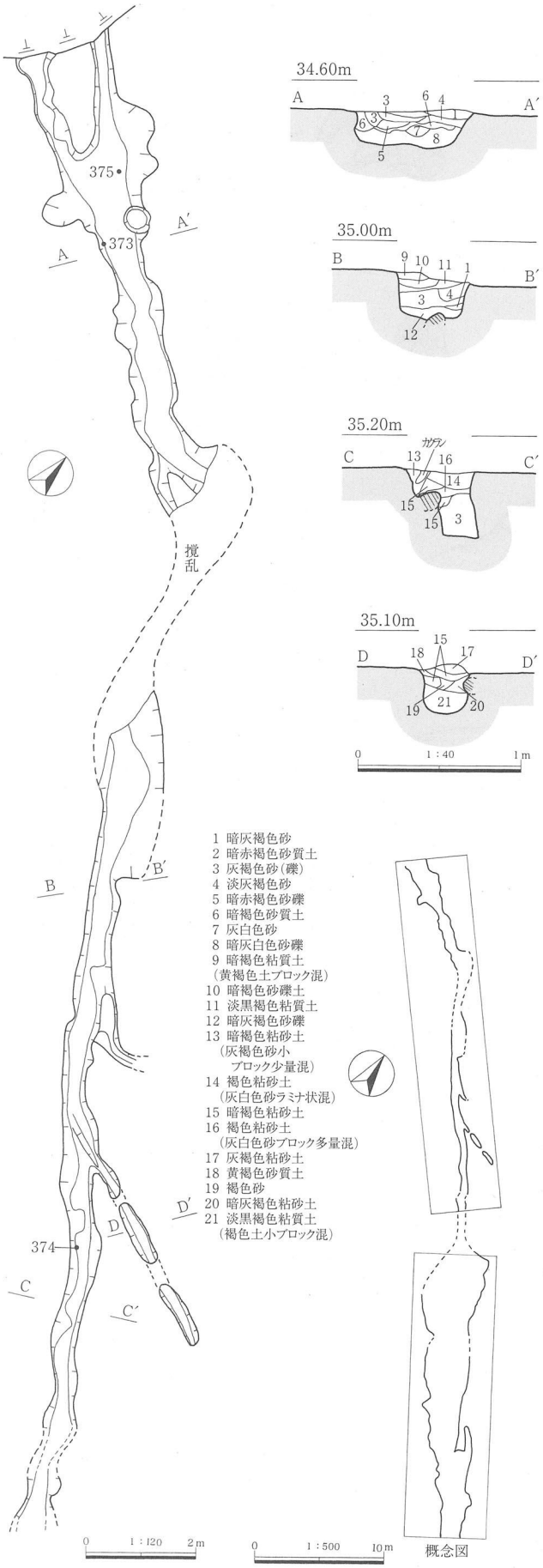
第76図　河道ＳＤ１　Ⅵ層出土石器



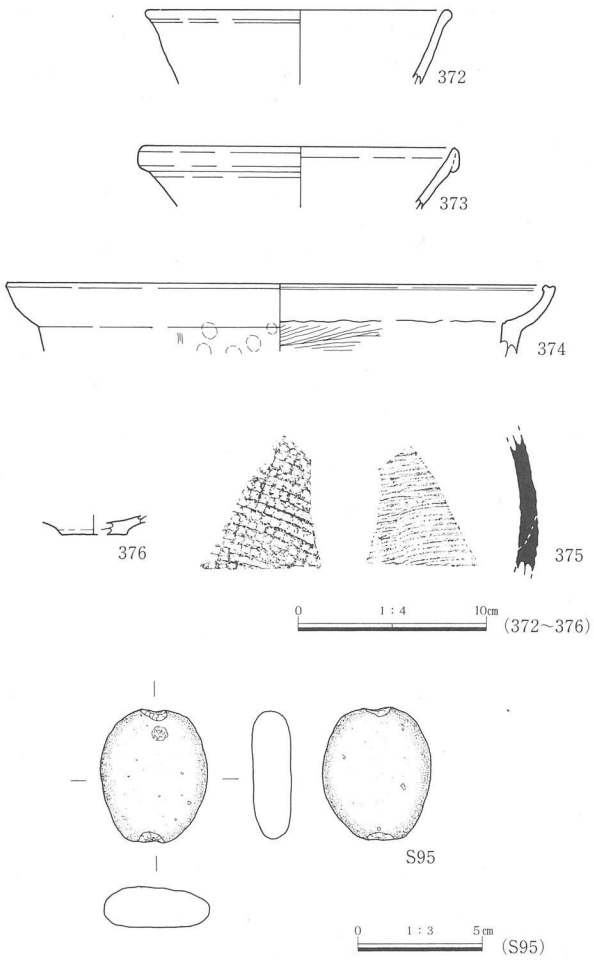
第77図　河道ＳＤ１　Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層出土石器



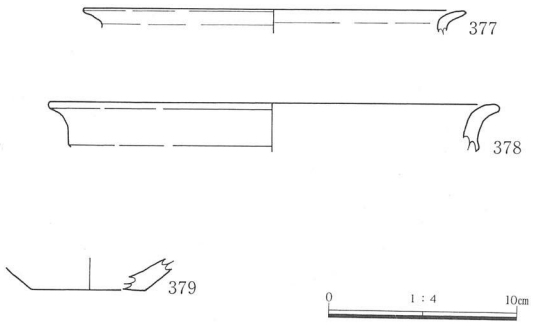
第78図　河道ＳＤ１　Ⅸ・Ⅹ・Ⅻ・ⅩⅢ層出土石器



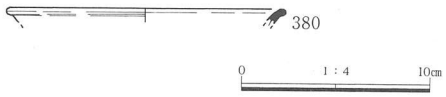
第79図　河道ＳＤ２（１）



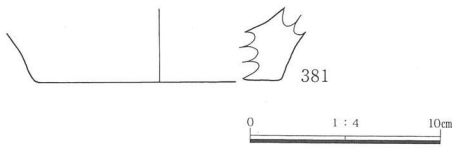
第80図　河道ＳＤ２出土遺物



第81図　溝ＳＤ３出土遺物



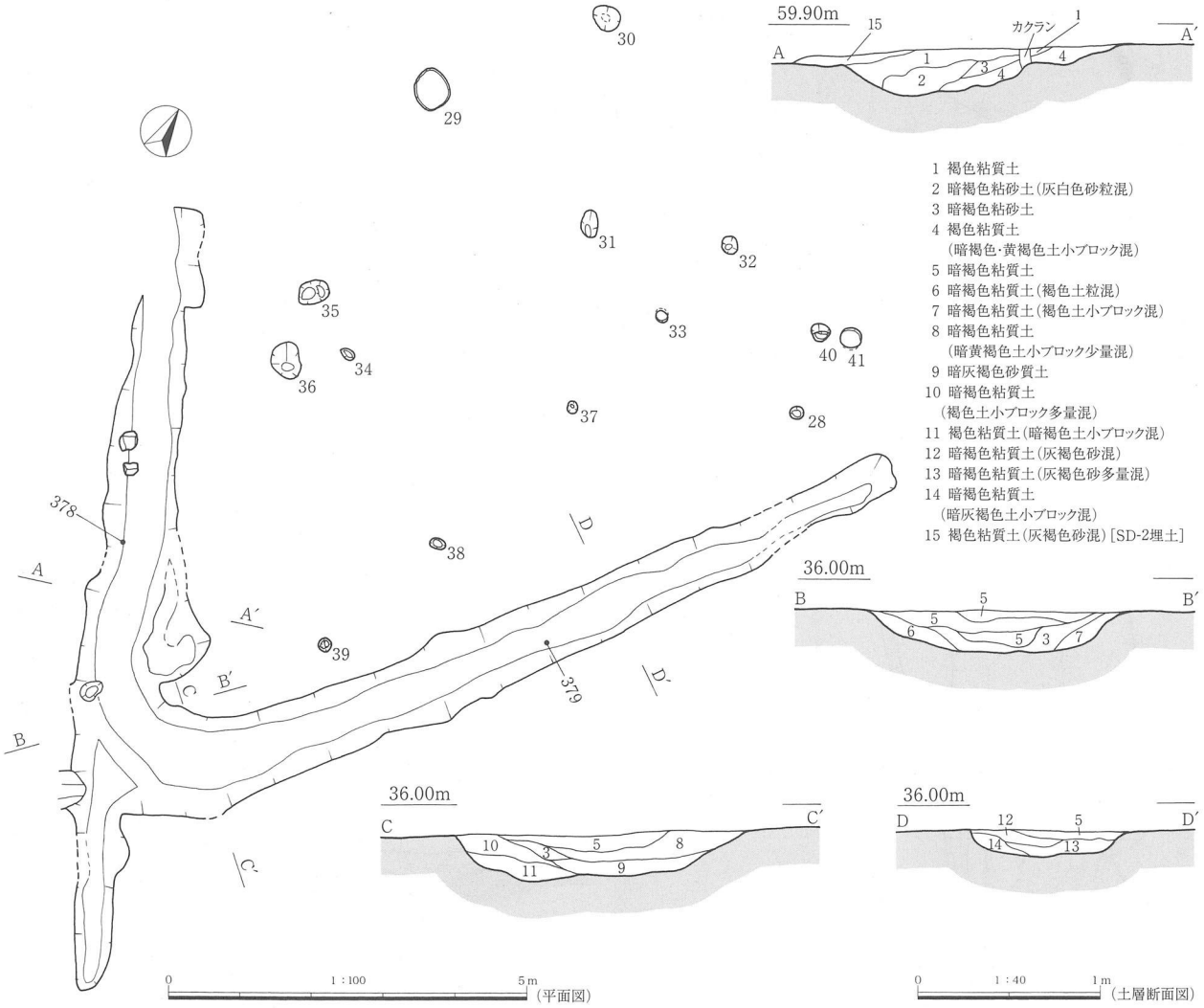
第82図　河道ＳＤ４出土遺物



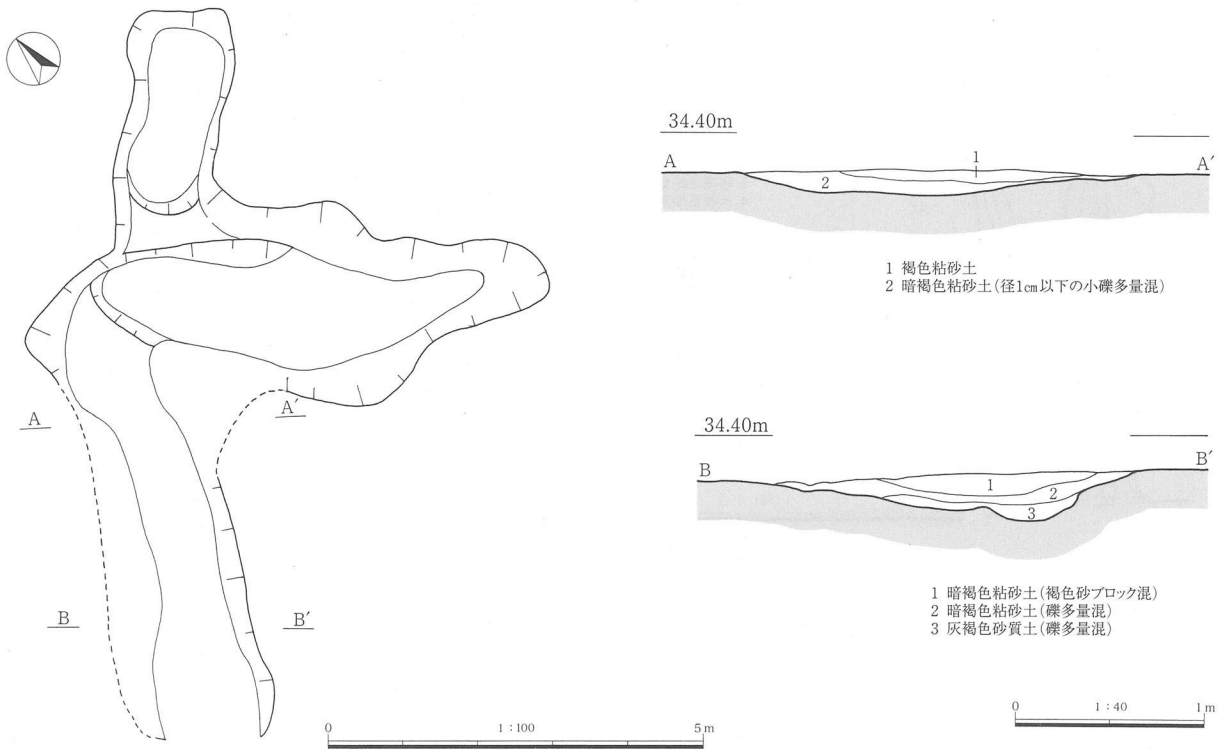
第83図　河道ＳＤ６出土遺物

372
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
36.00m
36.00m
36.10m
36.20m
1 暗褐色粘砂土
2 暗褐色粘砂土と淡灰色砂の互層
3 暗褐色粘質土
4 灰褐色砂質土
5 暗灰褐色砂質土
6 淡灰色砂
7 暗褐色粘質土(小砂礫少量混)
8 暗褐色砂質土
9 暗褐色砂(小砂礫多量混)
10 暗褐色粘質土(褐色土ブロック少量混)
11 淡黒褐色粘質土(小砂礫少量混)
12 淡灰色砂礫土
13 褐色粘質土(暗褐色･灰白色土ブロック少量混)
14 褐色粘質土
15 暗灰褐色砂(灰色砂礫多量混)
16 暗灰褐色粘砂土
17 灰褐色砂礫土
0
1：100
5m
0
1：40
1m

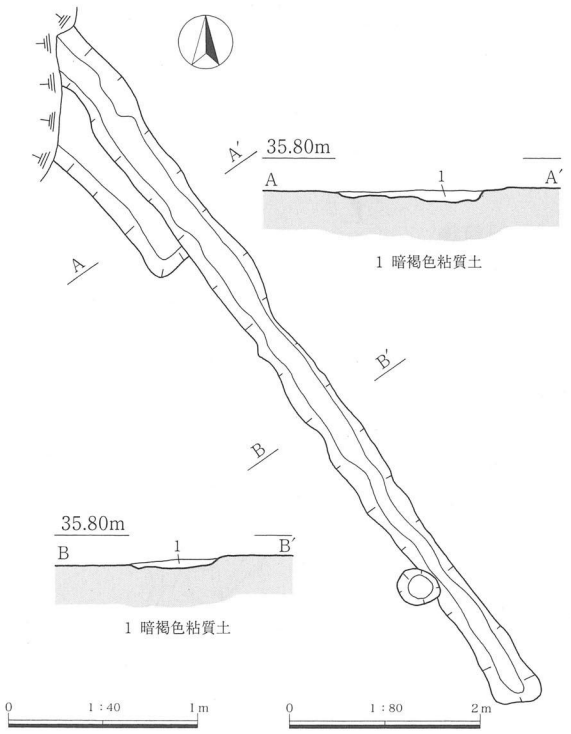
第84図　河道ＳＤ２（２）



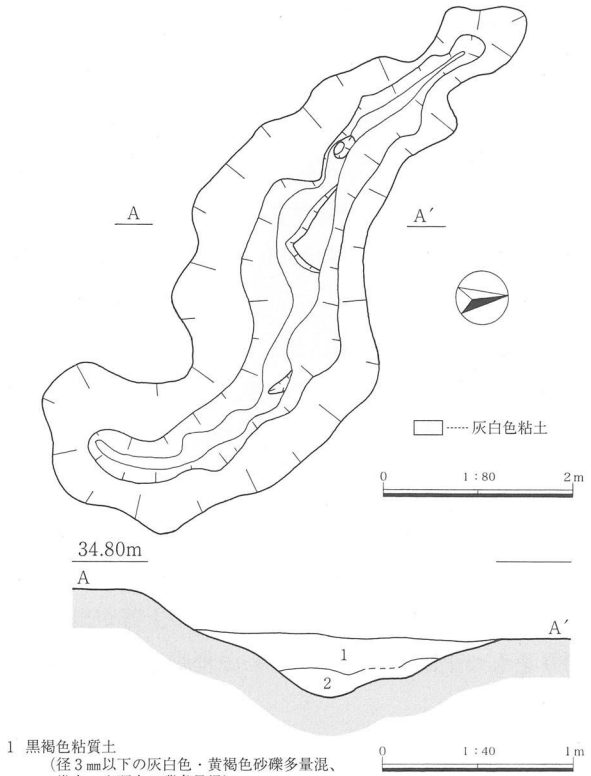
第85図　溝ＳＤ３



第86図　河道ＳＤ４

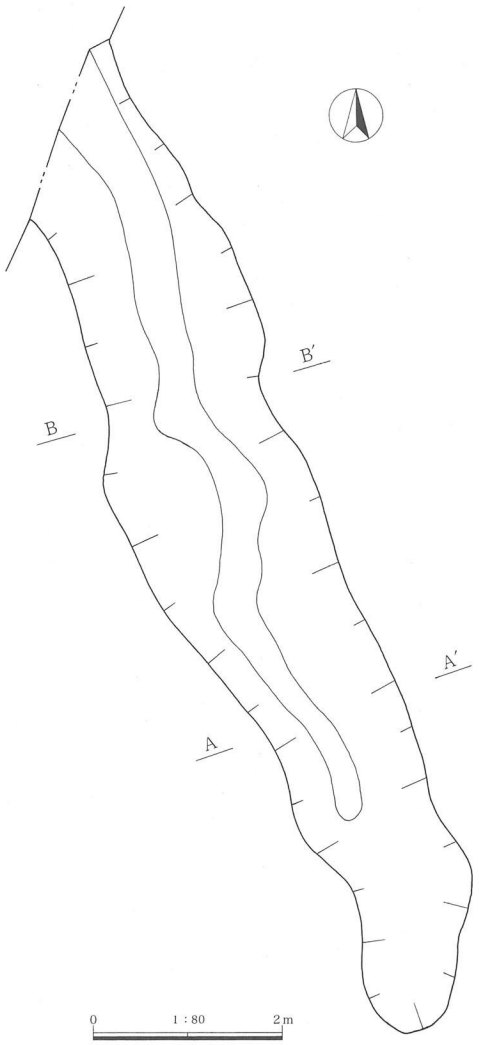


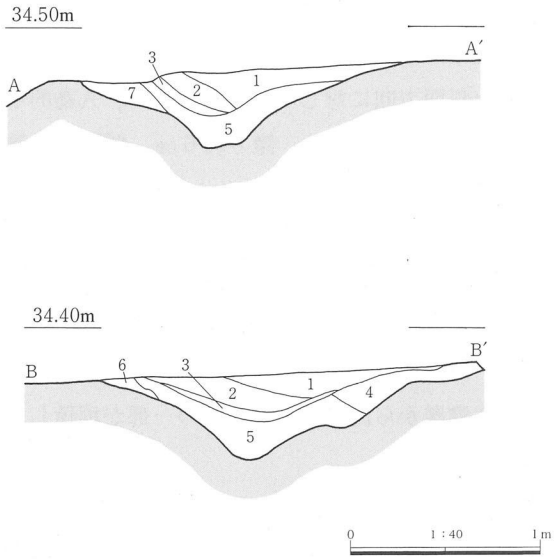
第87図　溝ＳＤ５



1 黒褐色粘質土
（径３㎜以下の灰白色・黄褐色砂礫多量混、拳大～人頭大の礫多量混）
2 灰白色粘土（上部が黄色味を帯びる）

第88図　河道ＳＤ６





1 暗褐色粘砂土（径5㎜以下の白色砂礫混）
2 暗褐色粘質土（径5㎜以下の白色砂礫・黄褐色砂粒混）
3 褐色粘質土（径5㎜以下の白色砂礫混）
4 暗褐色粘砂土（黄褐色地山ブロック多量混）
5 暗灰褐色粘砂土（径1㎝以下の白色砂礫多量混、黄褐色土粒混）
6 灰白色粘土（部分的に黄色味強い）
7 暗灰褐色粘質土（白色砂礫混）

第89図　溝ＳＤ７

河道ＳＤ２（第79・80・84図、ＰＬ．14）

調査区北東端付近に位置する。南東から北西方向に流れる河道である。現状では３つに分かれているがほぼ直線状に位置しており、本来は一連のものと考えられる。全長は約52ｍ、幅は最大で約６ｍである。埋土は黒色土を主体とし、砂層がラミナ状に混じる。

埋土中から若干の遺物が出土した。出土した青磁372から13世紀前後の河道と推測される。（西川）

溝ＳＤ３（第81・85図、ＰＬ．14・15）

調査区南東端付近に位置する。ＳＤ２に平行する南東から北西方向に向かう溝と、南西から北東方向に向かう溝が切り合うものと考えられる。前後関係は不明である。前者は地形的な傾斜面と直行する方向に延びるため人為的な掘削かもしれない。断面形はいずれも浅い皿状を呈している。検出面からの深さは最大で30㎝である。埋土は暗褐色の粘質土を主体とし、自然堆積とみられる。数点の土器が出土している。底部回転糸切りをもつ土師器379から11～13世紀前後の遺構と考えられる。

（西川）

河道ＳＤ４（第82・86図）

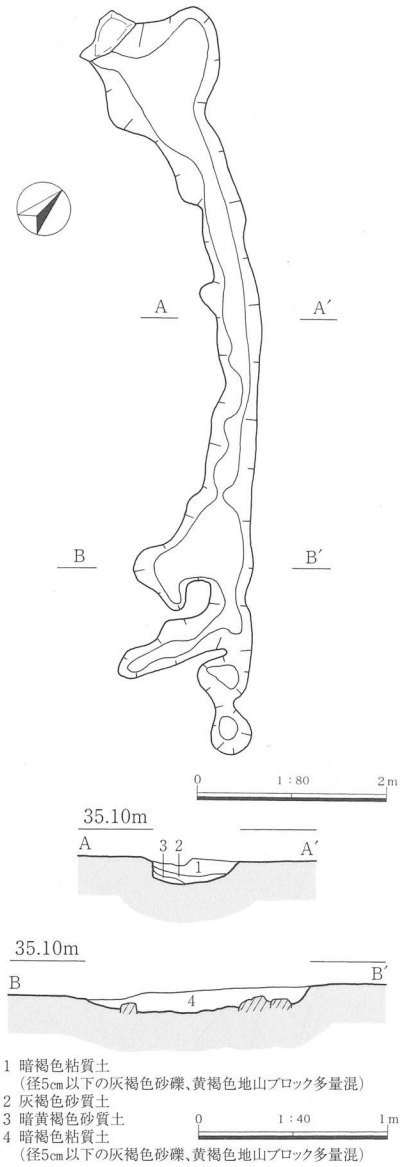
河道ＳＤ１の右岸に位置する。「く」の字状に屈曲する平面形をなす。断面形は浅い皿状である。埋土が砂層を含むことから河床の一部を検出したものと考えられる。遺物は出土していない。（西川）

溝ＳＤ５（第87図、ＰＬ．15）

調査区南東端付近に位置する。北西－南東方向に直線的に伸びる。地形的な斜面方向に対して直行するため、人為的な掘削によるものと考えられる。全長は約９ｍ、深さ約６㎝、断面形は浅い皿状である。遺物は全く出土していない。（西川）

河道ＳＤ６（第88図、ＰＬ．15）

河道ＳＤ１右岸側に位置する。南東－北西方向にわずかに蛇行する溝である。長さ7.0ｍ、最大幅2.3ｍ、最大の深さ34㎝を測る。埋土下層には厚さ５～15㎝前後の灰白色粘土が堆積する。河道ＳＤ１河道壁の標高32.0ｍ前後には灰白色粘土の基盤層が観察できる。本来的にはＳＤ１の一部であり、基盤層から流出した粘土層の一部が堆積した可能性を考慮して河道とした。灰白色粘土層から土器小片が出土している。（岡野）



第90図　河道ＳＤ８

溝ＳＤ７（第89図、ＰＬ．16）

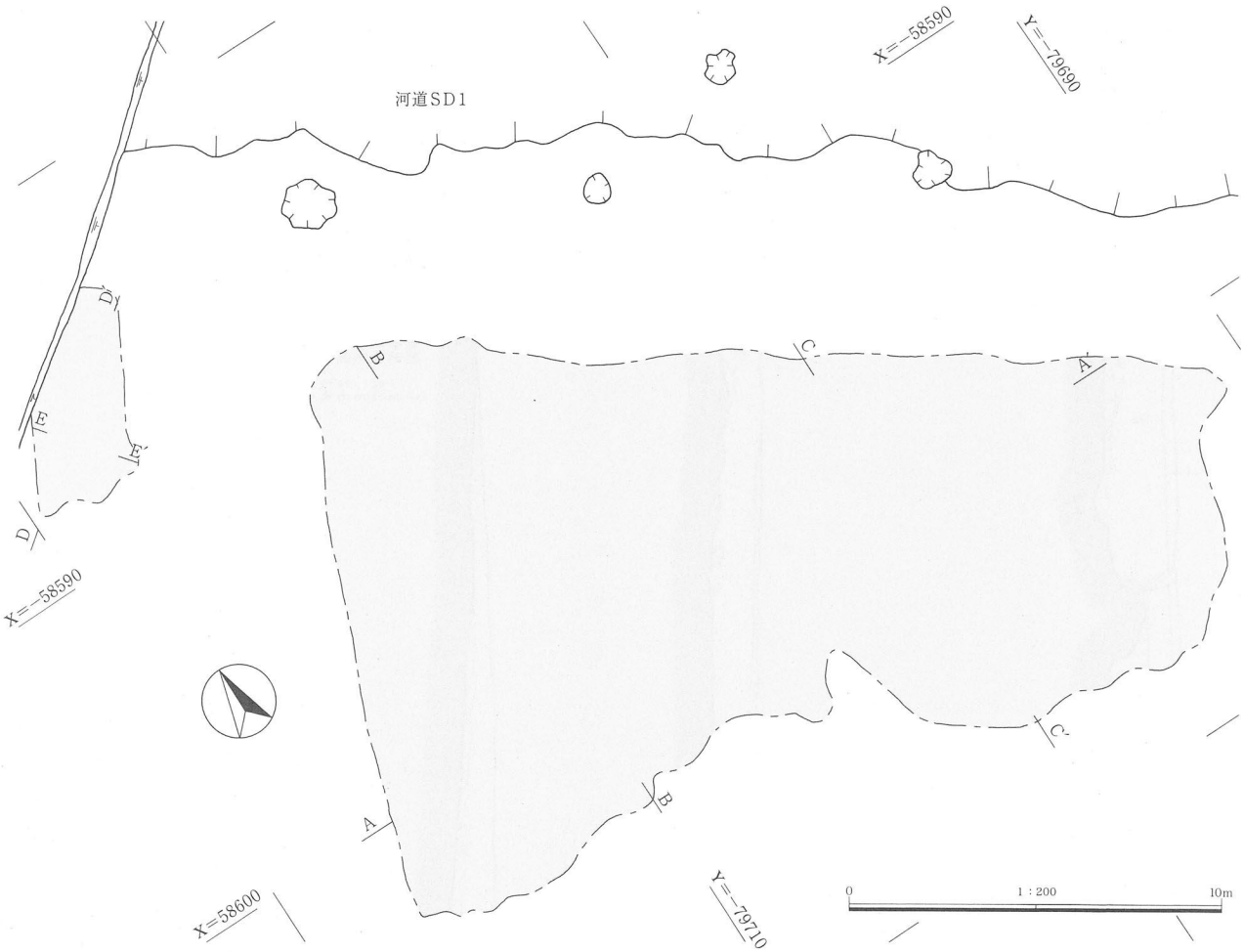
調査区中央付近に位置する。北西－南東方向に直線状に伸びるもので、全長約11ｍ、幅最大２ｍである。断面形は「V」字状を呈し、深さ約45㎝である。埋土は自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。（西川）

河道ＳＤ８（第90図）

ＳＤ２と平行する河道である。長さ7.8ｍ、幅0.5～1.3ｍを測る。埋土は粘質土に砂質土を含み、河道とみられる。本来的にはＳＤ２と同一の河道かもしれない。遺物は出土していない。（岡野）

４．包含層の調査（第91・92図、ＰＬ．17・18）

堆積　調査区西側、河道ＳＤ１左岸側において黒色土の遺物包含層を検出した。本来的な地形が低くなる部分に堆積した黒色土が削平を受けずに残存したものと考えられる。地形的に南西から北東側にかけて低くなるため、土層断面Ｂ－Ｂ′ラインの北よりでは最も厚い部分で約60㎝の堆積である。堆積は大きく３層に分かれる。１層は



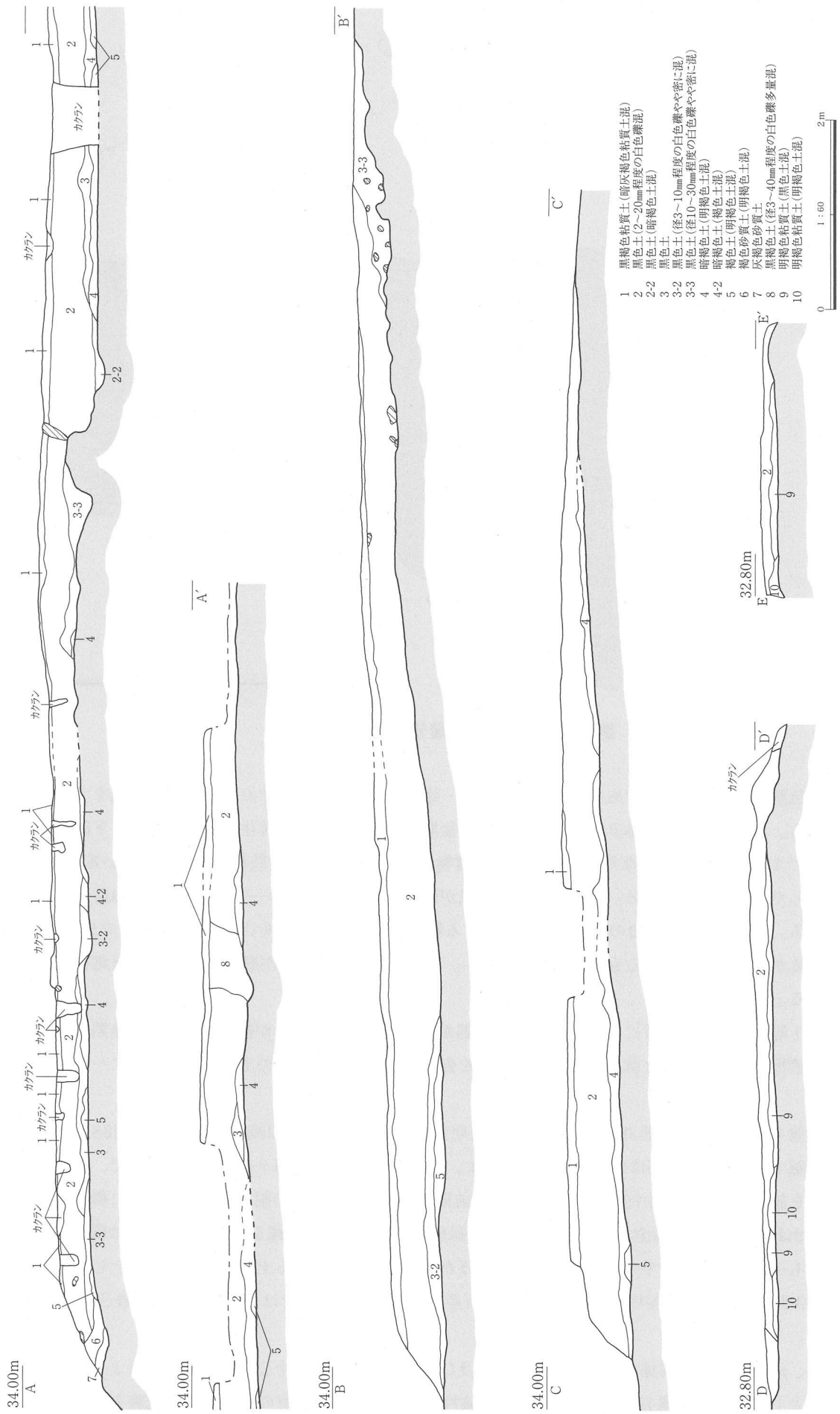
第91図　黒色土包含層分布状況平面図

黒褐色に近い色調を呈する粘質土である。縄文時代後期～弥生時代前期の土器片のほか13世紀前後を下限とする遺物を包含する。２層は黒色土であり、縄文時代前期・後期の遺物を主とし、弥生時代中期後半を下限とする遺物を包含する。１層、２層ともかなりの時間幅をもつ遺物が分布・層位ともに散在的に出土していることから、二次的に堆積したものと考えられる。遺物は顕著な摩滅が認められないことからみて、近接した場所からの再堆積と考えられる。３層は２層と４層の漸移的色調を呈する層であるが遺物は皆無である。３層上面でＳＫ14・15を検出しているが人為的掘削によるものか判断できない。ＳＫ１周辺には２層が厚さ10～20㎝前後堆積するが遺物は皆無である。

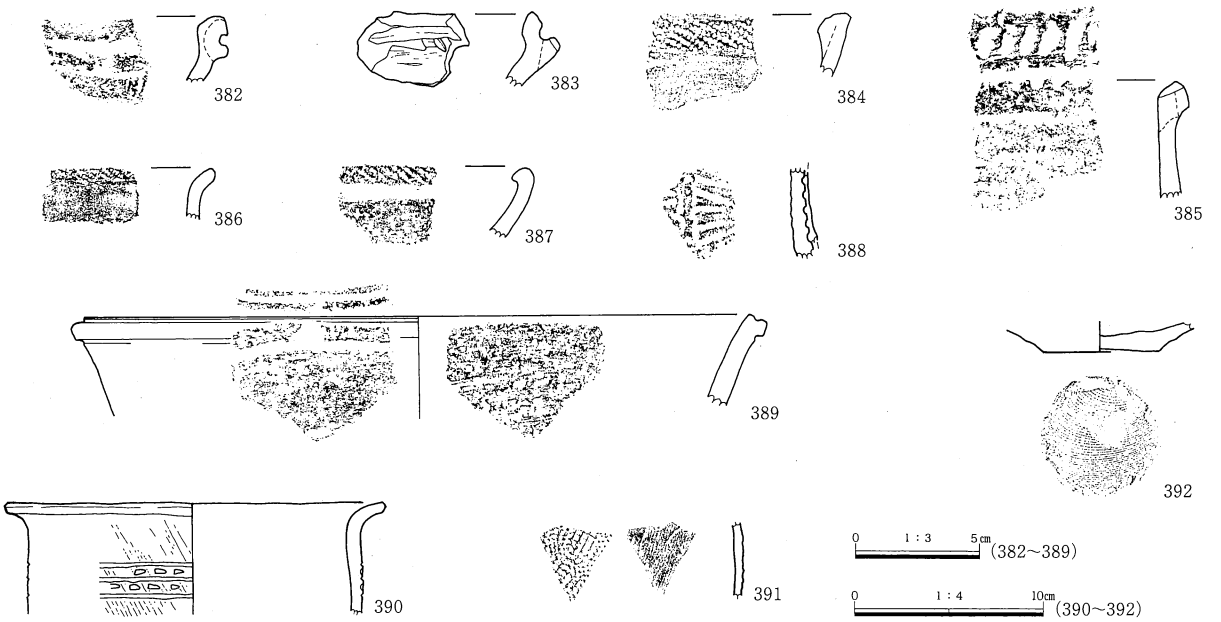
出土遺物　１層・２層で破片数にして約1500点の土器が出土している。大半が縄文時代前期、後期の土器であり、わずかに晩期の突帯文土器と弥生時代以降の遺物を含む。河道ＳＤ１出土の土器群と時期的に一致するものである。

１層出土遺物のうち、縄文土器382・383・385は後期前葉崎ヶ鼻式の深鉢口縁である。382、383は拡張した口縁外面に沈線で施文する。385は口唇部に刻みを施す。384・387は同じく崎ヶ鼻式の浅鉢口縁で、口縁内面を肥厚させ縄文を施す。386は後期中葉の鉢口縁。388は前期初頭西川津式Ａ類の胴部片で、条痕地に微隆帯と沈線文を施す。389は福田Ｋ２式の深鉢口縁で、口唇部と口縁部直下に１条ずつ沈線を巡らす。甕390は胴部に沈線と刺突文を施すもので弥生前期後半の所産である。このほか弥生前期とみられる土器片が十数点出土している。須恵器甕391は９世紀前後、土師器杯392は13世紀代の所産とみられる。石器では、黒曜石製の石鏃Ｓ96～Ｓ99が出土している。

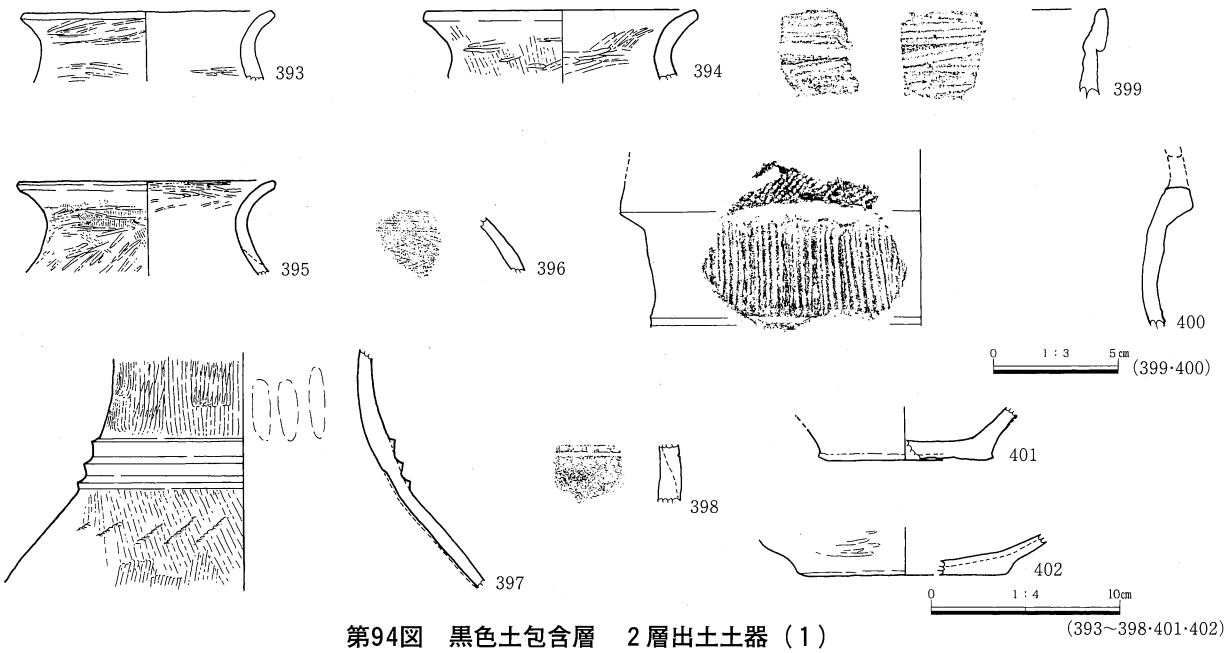
２層からは、河道ＳＤ１と同様に縄文時代前期初頭及び後期初頭～前葉を中心とする土器が出土している。特筆すべき遺物として分銅形土偶426がある。上半身の破片で、両乳房の剥離痕の間に縦位の沈線を１条施してい



第92図　黒色土包含層土層断面図



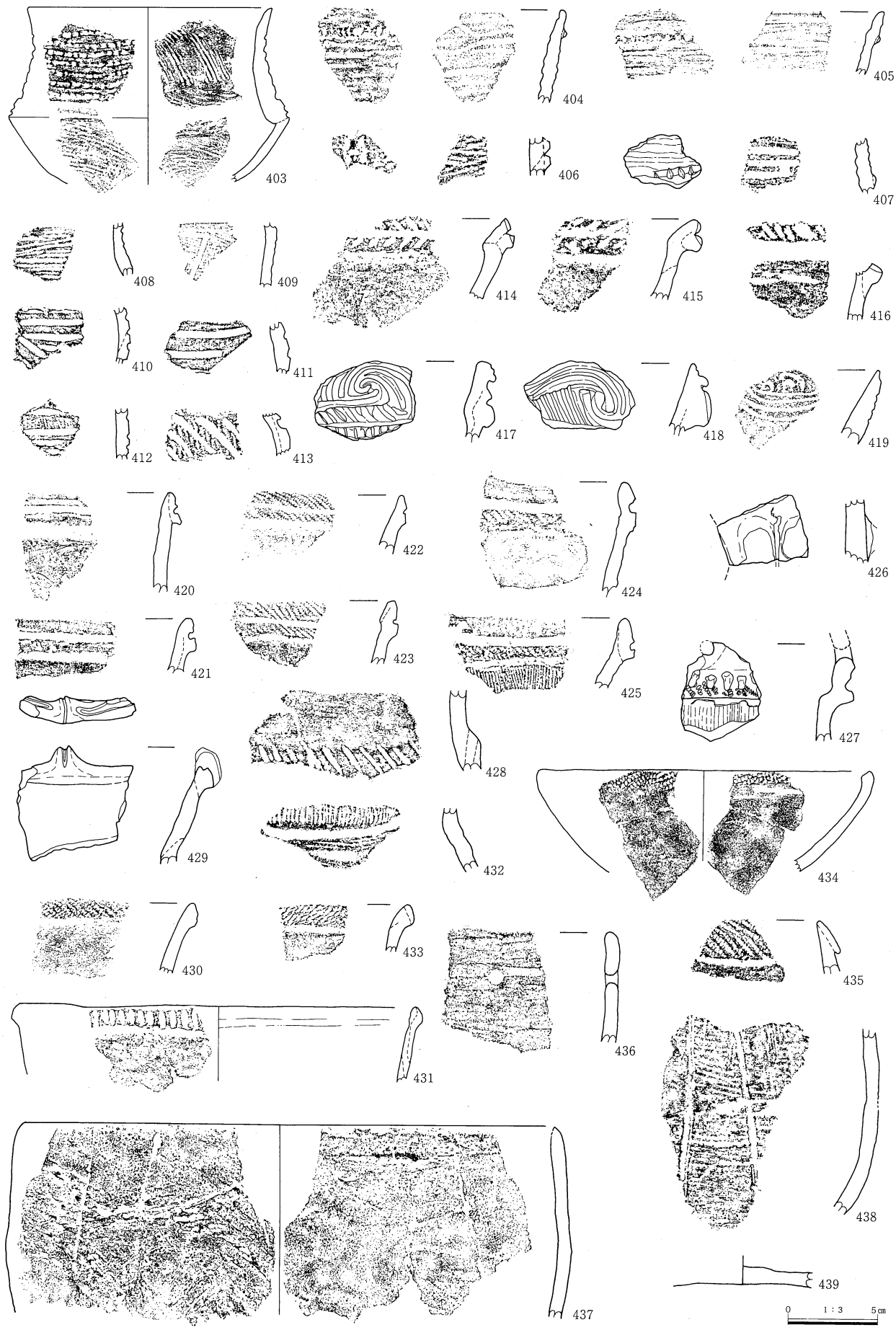
第93図　黒色土包含層　１層出土土器



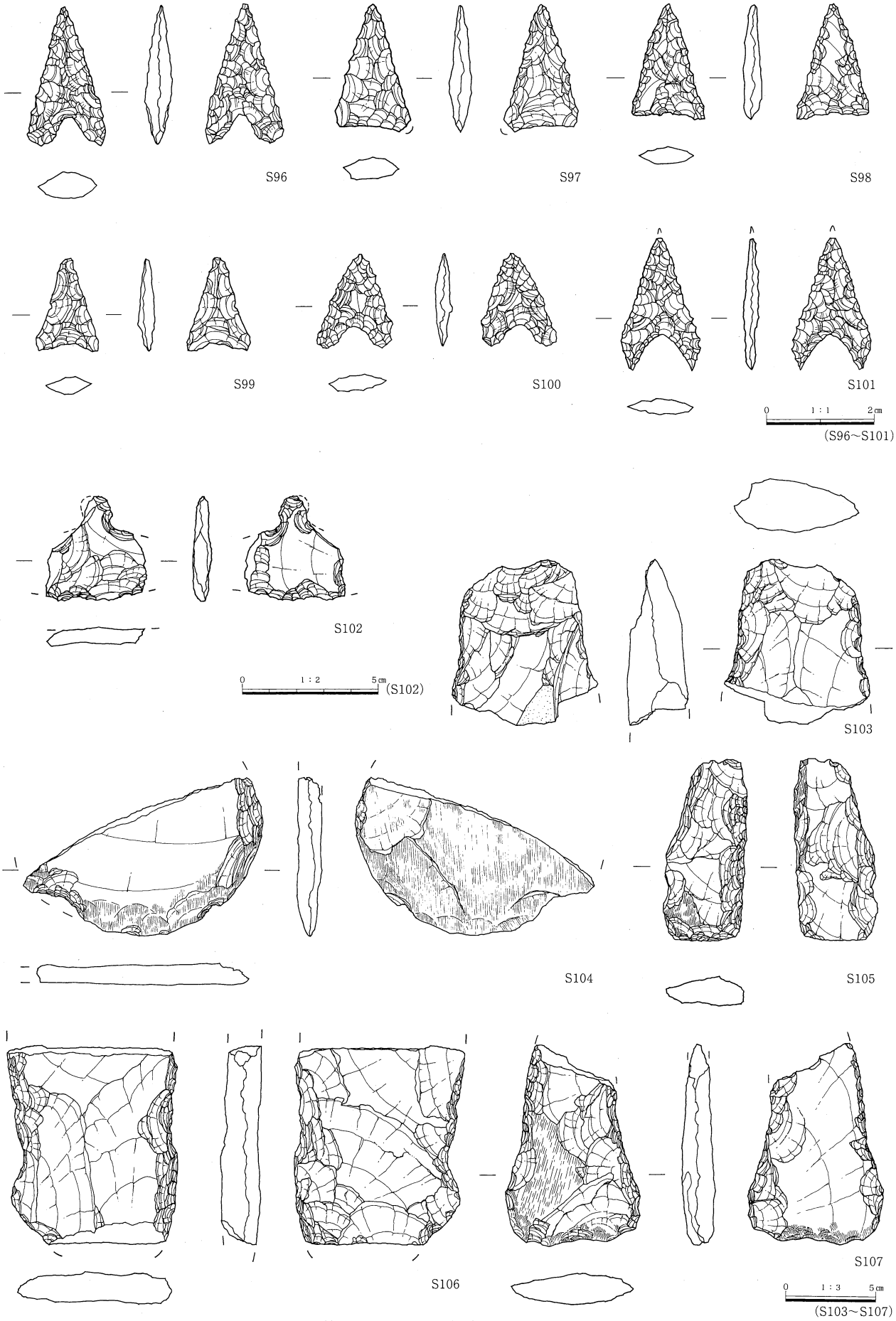
第94図　黒色土包含層　２層出土土器（１）

る。分銅形土偶は、県内では森藤第２遺跡（東伯町）の竪穴住居１号から下半身の破片が出土しており、本遺跡が２例目である。399、403～408は前期初頭西川津式である。403は胴部が強く張る器形で、胴部上半には横位の押引沈線文を施す。Ａ類もしくはＣ類に相当する。406は押引沈線と縦位の刻み隆帯を施すＡ類、それ以外は条痕地に微隆帯をもつＢ類である。409～413は沈線文をもつ胴部片で、後期前葉布勢式～崎ヶ鼻式に相当する。416は布勢式の深鉢口縁で、口唇に沈線と刻みを施す上面施文型である。400、414、415、417～425、427、429～431は崎ヶ鼻式の深鉢口縁部、428、432は同屈曲部である。434、435は崎ヶ鼻式の浅鉢で、434は口縁内面に縄文を施す。435は内弯する口縁の外面を肥厚させて縄文を施す。433は後期中葉の鉢口縁部である。このほか、図化してはいないが刻目突帯文土器が１点出土している。

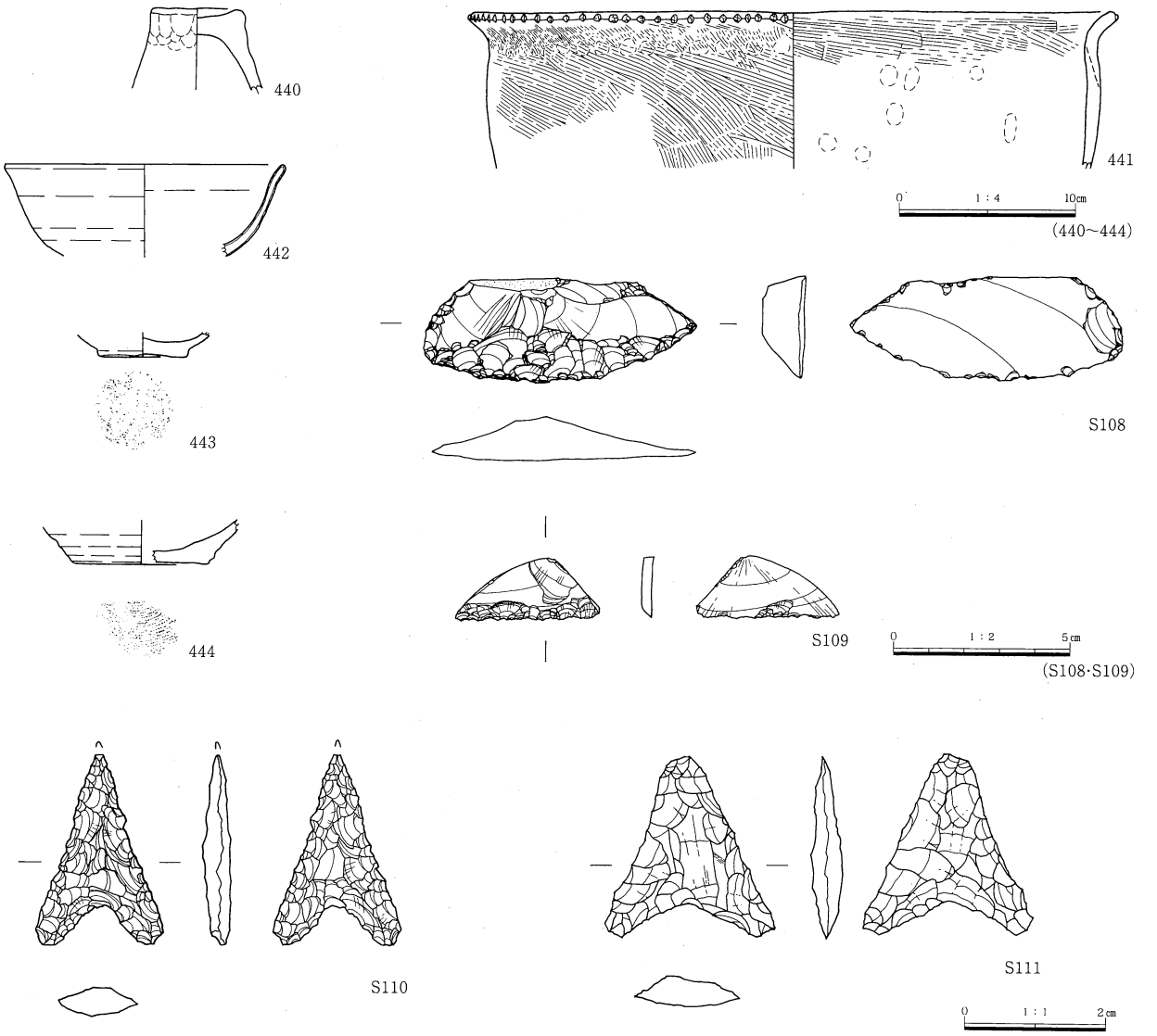
２層では弥生土器とみられる破片は30点程度出土しており、胎土調整などからみて弥生前期の所産とみられるものが大半であるが、口縁残存率が1/4以下の個体のみである。397は２層下部からの出土であり弥生時代中期



第95図　黒色土包含層　２層出土土器（２）



第96図　黒色土包含層出土石器

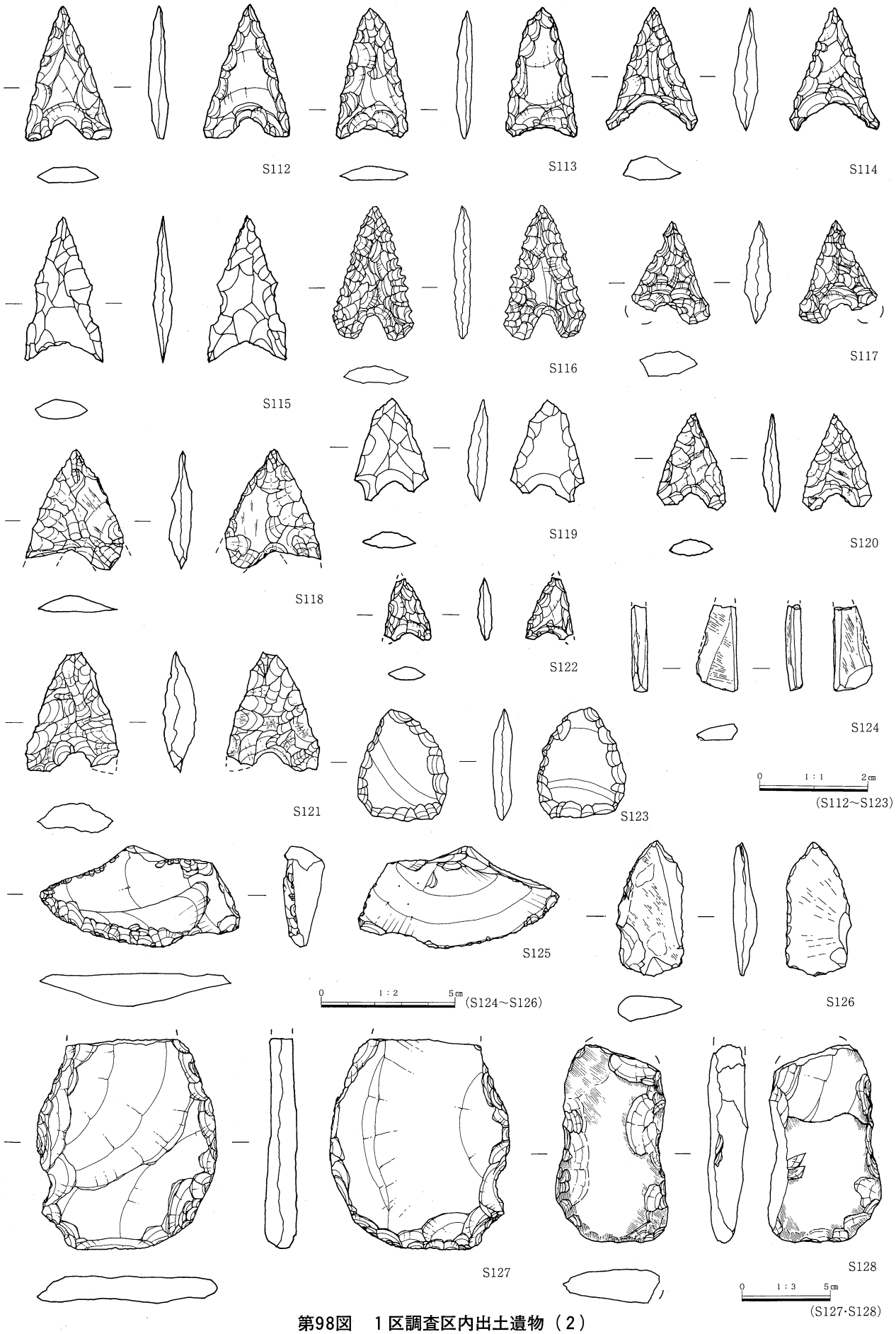


第97図　１区調査区内出土遺物（１）

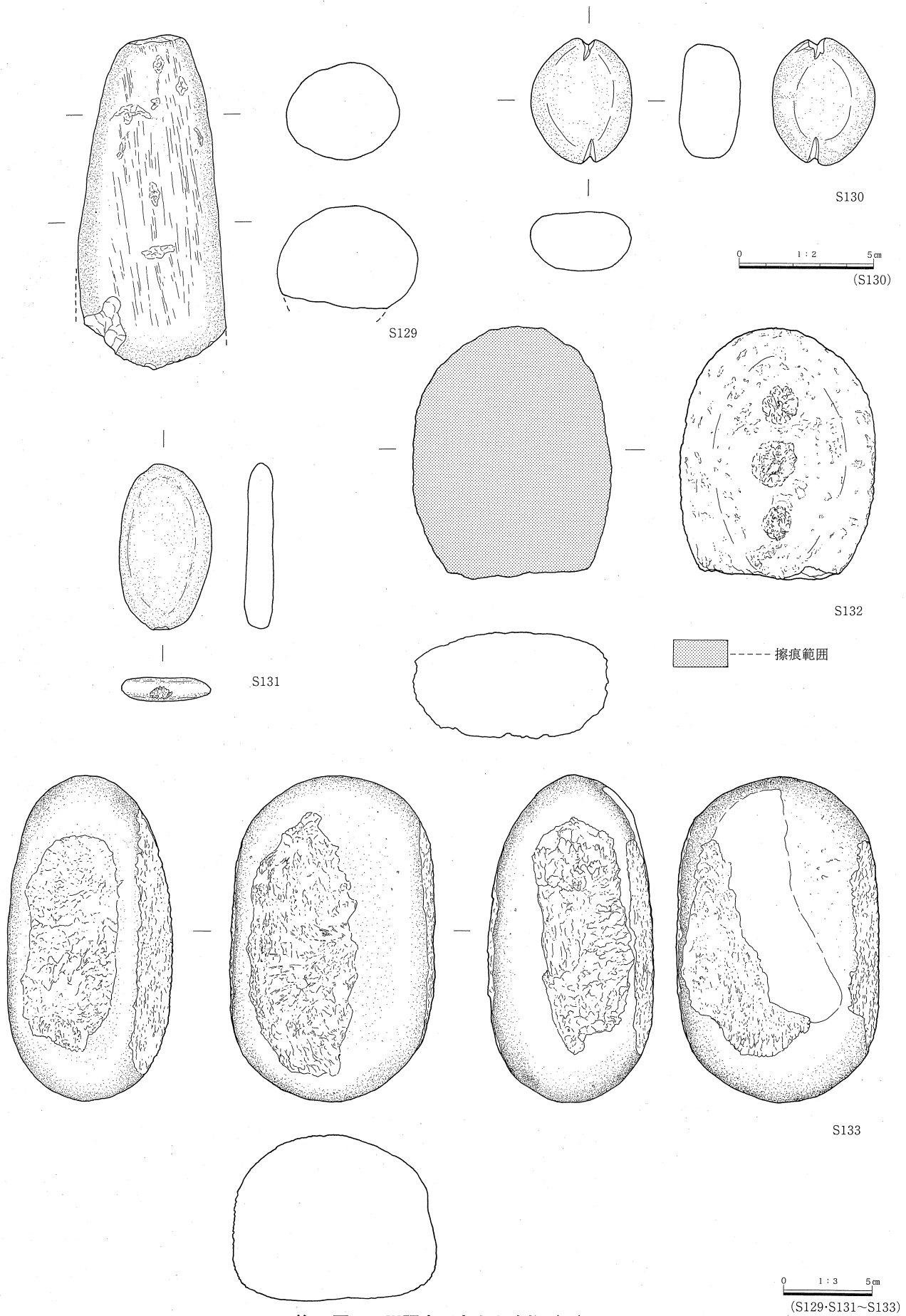
後半の所産である。石器は、黒曜石製石鏃Ｓ100・Ｓ101、石鍬Ｓ104～Ｓ107、石匙Ｓ102が出土している。Ｓ104は刃部が曲縁で片刃の石鍬とみられ、表裏に縦方向の摩耗痕が認められる。淀江町今津岸の上遺跡、倉吉市イキス遺跡で出土例がある。Ｓ103・Ｓ106は基部であろう。Ｓ105は小型の石鍬と思われる。Ｓ107は平面撥形で刃部が直縁のタイプである。（君嶋・岡野）

５．調査区内出土遺物（第97～99図）

攪乱土などから出土した遺物である。440は砂粒を多量に含む胎土などからみて弥生時代前期から中期前葉の蓋形土器であろう。442は青磁、443・444は底部糸切痕を残す土師器の杯であり、13世紀前後の所産と考えられる。Ｓ109は刃部片面調整の石器であるが種類は分からない。黒曜石製石鏃Ｓ111・スクレイパーＳ125はＳＤ４から、石鏃Ｓ112～Ｓ114・Ｓ122はＳＤ２から出土した。（岡野）



第98図　１区調査区内出土遺物（２）



第99図　１区調査区内出土遺物（３）

第４表　ピット計測表（１区）

No.	規模（cm）	土色
P1	16−15−11	暗褐色粘質土（地山土小ブロック少量混）
P2	17−13−6.8	暗褐色粘質土
P3	22−21−22.4	暗褐色粘質土（黄褐色土粒多量混）
P4	20−16−9.3	暗褐色粘質土
P5	21−18−9.3	暗褐色粘質土（地山土小ブロック混）
P6	30−22−12.8	暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
P7	21−18−16.8	暗褐色粘質土（地山土小ブロック・白色砂礫混）
P8	24−19−8.3	暗褐色粘質土（地山土小ブロック・径１～２㎜白色砂礫混）
P9	17−14−6	暗褐色粘質土（地山土粒混）
P10	17−16−6	暗褐色粘質土（地山土粒・径１～２㎜白色砂礫混）
P11	22−19−22.2	暗褐色粘質土（地山土小ブロック混）
P12	18−15−10.5	暗褐色粘質土（地山土ブロック・白色砂礫混）
P13	20−17−8.3	暗褐色粘質土（地山土粒混）
P14	22−20−17.5	暗褐色粘質土（褐色土粒・径１～２㎝砂礫混）
P15	20−19−8	暗褐色粘砂土（茶褐色土粒・径５～10㎜黄褐色砂礫混）
P16	39−26−28.1	暗褐色粘砂土（明褐色砂質土多量混）
P17	20−19−12.8	暗褐色粘砂土（径１～３㎜白色砂礫混）
P18	23−20−8.2	暗褐色粘砂土（黄褐色土粒・径１～３㎜白色砂礫混）
P19	18−15−22.1	暗褐色粘砂土（明褐色砂質土混）
P20	27−23−22.7	暗褐色粘砂土（明褐色砂質土斑状・径３㎜以下白色砂礫混）
P21	18−17−16.4	暗褐色粘砂土（黄褐色砂礫混）
P22	19−17−14.3	暗褐色粘砂土（径５㎜以下白色砂礫混）
P23	18−17−14.8	暗褐色粘質土（明褐色砂質土混）
P24	21−17−16.2	暗褐色粘砂土（径１～３㎜黄褐色砂礫混）
P25	16−15−20.9	暗褐色粘砂土（褐色砂質土混）
P26	17−13−25.6	暗褐色粘砂土（径１～５㎜白色砂礫混）
P27	17−15−18.7	暗褐色粘砂土（径１～５㎜白色砂礫混）
P28	18−16−52.8	淡黒褐色粘質土
P29	58−50−26.6	暗褐色粘質土（褐色土小ブロック混）
P30	42−32−16	暗褐色粘質土
P31	38−24−34	暗褐色粘質土（褐色土小ブロック少量混）
P32	26−20−36.6	暗褐色粘質土（褐色土粒少量混）
P33	18−16−50.6	暗褐色粘質土
P34	22−14−14.2	淡黒褐色粘質土
P35	46−34−20	淡黒褐色粘質土
P36	52−40−29.4	淡黒褐色粘質土
P37	18−14−31.2	淡黒褐色粘質土
P38	10−14−32.8	暗褐色粘質土
P39	20−18−26.4	暗褐色粘質土
P40	26−24−48	暗褐色粘質土
P41	30−29−42.6	暗褐色粘質土
P42	19−18−8.8	暗褐色粘質土（地山土粒混）
P43	25−19−18.9	暗褐色粘質土（地山土粒やや多量混）
P44	18−14−12	暗褐色粘質土（地山土粒ごく少量混）
P45	22−17−17.2	暗褐色粘質土
P46	24−21−18.7	暗褐色粘質土（地山土粒ごく少量混）
P47	22−21−24.2	暗褐色粘質土（径２㎜以下灰白色小礫斑に混）
P48	12−11−4	暗褐色粘質土（地山土粒やや多量混）
P49	14−13−5.1	暗褐色土
P50	20−17−5.1	暗褐色土
P51	16−15−4.6	暗褐色土
P52	16−12−4.8	暗褐色土

Ｐ１～27・42～52はＳＤ１西側、Ｐ28～41はＳＤ３北側から検出した。
規模は、長径－短径－深さ（cm）を表している。

出土遺物観察表（１区）

・口径－（　）は復元推定値

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
1	SK1 埋土中	第11図 PL.39	深鉢	－	－	－	波状口縁波頂部 沈線３条→ＲＬ縄文	ナデ	ナデ	2㎜以下の砂粒多量混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10以下
2	SK1 埋土中	第11図 PL.39	深鉢	－	－	－	口唇上面にRL縄文、外面に接合痕	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒混	にぶい黄橙色	後期か	口縁1/10
3	P43 埋土中	第13図 PL.39	杯	(16.0)	－	－	直線状に外傾する	回転ナデ	回転ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	赤橙色～にぶい橙色	－	口縁1/4
4	SK15 埋土中	第30図 PL.39	鉢	－	－	－	屈曲部以下にＲＬ縄文	ミガキ	ミガキ	1㎜以下の砂粒混	黄褐色	崎ヶ鼻式	胴部1/8
5	SK15 埋土中	第30図 PL.39	深鉢	－	－	－	補修孔あり	横位条痕	横位条痕	1㎜以下の砂粒多量混	暗褐色	後期	口縁1/10以下
6	SK15 埋土中	第30図 PL.39	浅鉢	－	－	－	屈曲部に刻み	横位ミガキ	横位ミガキ	1㎜以下の砂粒混	明褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
7	SD1 Ⅰ層	第38図	深鉢	－	－	－	外面に連続刺突文	不明	ナデ	1㎜以下の砂粒混	黄褐色	西川津式Ａ類	口縁1/10以下
8	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	外面に列点文	横位条痕	横位条痕	角閃石混	灰褐色	西川津式Ｂ類	胴部1/8
9	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	口縁内面に指頭圧痕	ナデ	ナデ	砂粒、金雲母混	黄白色	後期	口縁1/10
10	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻目突帯文	条痕	ナデ	2㎜程度の砂粒多量混	にぶい橙色	晩期突帯文	口縁1/10
11	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	口縁外面に刻目の微隆帯文	条痕	ナデ	2㎜以下の砂粒混	にぶい橙色	西川津式Ｂ類	口縁1/10
12	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢口縁突起	－	－	－	外面に縦位沈線１条	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	灰白色	後期後葉か	－
13	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	－	横位条痕→ナデ	ナデ	2㎜以下の砂粒多量混	灰黄色	－	口縁1/10
14	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	深鉢	－	－	－	－	横位条痕→ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	灰黄褐色	－	口縁1/10
15	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	壺	(13.4)	－	－	頸部に段	ナデ→ハケ	ナデ	0.5～1.5㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
16	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	壺	(14.6)	－	－	頸部に２条のヘラ描沈線文	ナデ	ナデ	0.5～1.5㎜程度の砂粒多量混	灰黄色	－	口縁1/6
17	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	壺	(14.8)	－	－	－	ナデ	－	0.5～1.5㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/28
18	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	壺	－	－	－	５条のヘラ描沈線文と上下に連続刺突文	ミガキ	ハケ	0.5～2㎜程度の砂粒少量混	にぶい黄橙色	－	－
19	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	無頸壺	(5.6)	－	－	口縁端部下に外から内に焼成前穿孔	ナデ	ナデ	0.5～2㎜程度の砂粒少量混	にぶい黄色	内面に黒斑あり	口縁1/4
20	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	－	－	－	口縁端部に刻目	ハケ	ハケ	0.5～1.5㎜程度の砂粒混	にぶい黄褐色	－	口縁1/10
21	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	－	－	－	口縁端部に刻目	ハケ	ハケ	0.5～2㎜程度の砂粒少量混	褐灰色	－	口縁1/12
22	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	－	－	－	口縁端部に刻目、胴部上端に7条のヘラ描沈線文	ハケ	口縁部ハケ。体部ナデ	1.5～2㎜程度の砂粒少量混	にぶい黄橙色	外面に薄く煤付着	口縁1/10
23	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	(23.1)	－	－	口縁端部に刻目、体部上端に7条以上のヘラ描沈線文	ナデ	ナデ	0.5～2㎜程度の砂粒少量混	にぶい赤褐色	－	口縁1/20
24	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	(26.5)	－	－	口縁端部に刻目、体部上端に10条のヘラ描沈線文、直下に三角形刺突文	ミガキ	ナデ	0.5～3㎜程度の砂粒少量混	にぶい黄橙色	外面に黒斑あり	口縁1/7
25	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	(24.4)	－	－	口縁端部に刻目、体部上端に1条のヘラ描沈線文	ハケ	ナデ	0.5～1㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/15
26	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	(24.5)	－	－	－	ハケ	ナデ	0.5～1.5㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
27	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	－	－	－	口縁部下に4条単位の櫛描沈線文	ナデ	ナデ	0.5～2㎜程度の砂粒混	にぶい黄褐色	胎土分析試料 外面に黒斑あり	口縁1/20
28	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	蓋	－	－	(4.0)	－	ナデ	調整不明	1㎜以下の砂粒混	淡黄色～橙色	－	つまみ部1/2
29	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	(14.7)	8.8	7.2	－	ハケ→ナデ	ミガキ	0.5～2㎜程度の砂粒混	にぶい橙色	－	口縁1/3
30	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	(19.8)	－	－	－	ハケ	ナデ	2㎜程度の砂粒混	黄橙色	胎土分析試料	口縁1/12以下
31	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	(13.9)	－	－	口縁端部に1条の凹線文	ナデ	ハケ	密	淡黄色～黄灰色	胎土分析試料	口縁1/12
32	SD1 Ⅰ層	第38図 PL.19	甕	(16.2)	－	－	口縁端部に2条の凹線文	ハケ	ハケ→ナデ	1㎜以下の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁1/8
33	SD1 Ⅰ層	第38図	甕	(21.6)	－	－	口縁部擬凹線後上部ナデ	ハケ→ナデ	口縁部ハケ→ナデ、頸部以下ケズリ	2㎜以下の砂粒混	浅黄橙色	－	口縁1/8

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
34	SD1 I層	第38図 PL.19	甕	(14.0)	－	－	－	ナデ	口縁部ナデ、頸部以下ケズリ	1.5㎜以下の砂粒混	淡黄色	－	口縁1/12
35	SD1 I層	第40図 PL.19	杯蓋	(14.0)	－	－	－	天井部回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	回転ナデ	細砂混	緑灰色	－	口縁1/8
36	SD1 I層	第40図 PL.19	杯身	(11.0)	(3.6)	－	－	底部回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	底部不整方向ナデ、他は回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒少量混	淡黄色	焼成不良	口縁1/3
37	SD1 I層	第40図 PL.19	杯蓋	(14.8)	(3.0)	つまみ径5.0	つまみ部外に1つの竹管状工具によるスタンプ	天井部回転ヘラケズリ→ナデ、回転ナデ	天井部不整方向ナデ、他は回転ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	青灰色	－	口縁1/20
38	SD1 I層	第40図	有蓋高杯	(14.9)	－	－	－	調整不明	調整不明	細砂少量混	にぶい黄橙色	焼成不良	杯部1/2
39	SD1 I層	第40図	高杯脚部	－	－	(12.6)	－	回転ナデ	回転ナデ	緻密	暗青灰色	－	脚部1/12
40	SD1 I層	第40図 PL.19	底部	－	－	(11.8)	－	回転ヘラケズリ	回転ナデ	緻密	灰色	－	底部1/4
41	SD1 I層	第40図 PL.19	底部	－	－	高台 (7.2)	回転糸切り後底面に高台を貼り付ける	回転ナデ	底面不整方向ナデ、他は回転ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	灰白色	－	底部1/3
42	SD1 I層	第40図	杯	(15.6)	－	－	口縁端部は内面が肥厚する	ナデ	ナデ	密	にぶい橙色	内外面赤彩	口縁1/12
43	SD1 I層	第40図 PL.19	甕	(11.0)	－	－	－	工具による粗いナデ	口縁部ナデ、体部粗いケズリ	1㎜以下の砂粒混	暗橙色～淡黄色	－	口縁1/6
44	SD1 I層	第40図	高杯杯部	(17.6)	－	－	椀状の杯部	ミガキ	ナデ→ミガキ	1㎜以下の砂粒混	にぶい黄橙色～橙色	－	口縁1/6
45	SD1 I層	第40図 PL.19	甕	(29.0)	－	－	－	ナデ	口縁部ハケ→ナデ、体部ケズリ	1㎜程度の砂粒混	黒色	外面に煤付着	口縁1/8
46	SD1 I層	第40図 PL.19	皿	(7.0)	1.9	(4.6)	底部回転糸切り	回転ナデおよび回転糸切り	回転ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	浅黄橙色	－	口縁1/5
47	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(10.0)	－	調整不明	調整不明	2㎜以下の砂粒混	淡黄色	－	底部1/3
48	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(9.6)	－	調整不明	調整不明	2㎜以下の砂粒混	黄橙色～灰白色	－	底部1/3
49	SD1 I・Ⅲ層	第40図	底部	－	－	(8.0)	－	ハケ	調整不明	1.5㎜以下の砂粒多量混	褐灰色	外面底部に黒斑	底部1/2
50	SD1 I層	第40図	底部	－	－	7.6	－	ハケ	調整不明	1～2㎜の砂粒多量混	浅黄橙色	－	底部3/4
51	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(7.4)	－	ナデ	ハケ→ナデ	1～2㎜の砂粒混	浅黄橙色	外面の一部に黒斑あり	底部完存
52	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(14.8)	－	ナデ→ミガキ	ナデ	3㎜以下の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面の一部に黒斑あり	底部1/3
53	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(9.2)	－	ハケ→ミガキ	ナデ	1～5㎜の砂粒(石英・長石)多量混	橙色	外面の一部に黒斑あり	底部完存
54	SD1 I層	第40図	底部	－	－	(12.0)	－	ハケ	調整不明	0.5～1.5㎜程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	1/3
55	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	(39.4)	－	－	口縁肥厚下に沈線１条、ＲＬ縄文	横位条痕→ナデ	ナデ	2㎜の砂粒(石英)混	灰黄色	後期中葉（沖丈式）	口縁1/3
56	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁下部肥厚させ列点	横位条痕	横位条痕	1㎜以下の砂粒混	灰黄褐色	西川津式Ｂ類	口縁1/8
57	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	外面押引沈線文	摩滅	ナデ	1㎜以下の砂粒(角閃石)混	灰黄褐色	西川津式Ａ類	胴部1/8
58	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	外面押引沈線文	摩滅	ナデ	1㎜以下の砂粒混	灰黄色	西川津式Ａ類	胴部1/10以下
59	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	外面沈線６条	不明	ナデ	1㎜以下の砂粒わずかに混	灰黄色	崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
60	SD1 Ⅱ層	第41図	深鉢	－	－	－	－	ナデ	ナデ	2㎜以下の砂粒(石英・角閃石)混	灰黄色	後期	口縁1/10以下
61	SD1 Ⅱ層	第41図	深鉢	－	－	－	波状口縁	横位条痕	横位条痕	1㎜以下の砂粒混	灰白色	前期	口縁1/10
62	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	－	ナデ	横位条痕	2㎜以下の砂粒多量混	灰黄色	前期	口縁1/10
63	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	外面沈線文→ＲＬ充填縄文	不明	ナデ	2㎜以下の砂粒・金雲母混	灰黄褐色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10
64	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	外面屈曲部に列点	横位条痕	ナデ	2㎜程度の砂粒混	灰褐色	西川津式Ｂ類	胴部1/10以下
65	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	ＲＬ縄文	不明	ナデ	2㎜以下の砂粒(角閃石)混	灰白色	後期中葉	胴部1/10以下
66	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	深鉢	－	－	－	無節縄文？	不明	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に煤付着	－
67	SD1 Ⅱ層	第41図 PL.20	鉢	(24.9)	－	－	－	横位条痕	横位条痕	2㎜程度の砂粒・金雲母混	黄灰色	前期	口縁1/10以下
68	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻目、やや下方に刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	－
69	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下方にＯ字状刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	－
70	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下方に刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1.5㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	－

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
71	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部下に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒少量混	黒褐色	外面に炭化物付着	口縁1/10
72	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻目、口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	浅黄橙色	外面に炭化物付着	口縁1/20
73	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部下方に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～2mm程度の砂粒多量混	灰黄橙色	外面に炭化物付着	－
74	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部からやや下方に刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒多量混	灰黄褐色	外面に黒斑あり	－
75	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	灰黄色	－	口縁1/20
76	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	(30.6)	－	－	口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	－	口縁1/10
77	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒少量混	にぶい黄色	－	口縁1/20
78	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
79	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒少量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	－
80	SD1 Ⅱ層	第42図 PL.20	深鉢	－	－	－	口縁端部に接して無刻目突帯文	ナデ	ナデ	0.5mm程度の砂粒混	灰黄褐色	－	－
81	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(16.3)	－	－	頸部に段	ミガキ	ミガキ	0.5～2mm程度の砂粒(石英)多量混	橙色	－	口縁1/5
82	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(17.4)	－	－	頸部に2条のヘラ描沈線文	ハケ→口縁部ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒(石英・長石)混	にぶい橙色	－	口縁1/20
83	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(14.6)	－	－	頸部に2条のヘラ描沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	2mm以下の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	口縁端部に煤付着	口縁1/6
84	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(14.8)	－	－	頸部に2条のヘラ描沈線文	ナデ→ハケ	ミガキ	0.5～2mm程度の砂粒(石英)多量混	にぶい橙色	頸部内面に籾圧痕	口縁1/5
85	SD1 Ⅱ層	第43図	壺	(14.1)	－	－	口縁端面に1条、頸部に2条以上のヘラ描沈線文	ハケ	ハケ→ナデ	2mm以下の砂粒(石英)混	淡黄色	－	口縁1/8
86	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(15.0)	－	－	－	ナデ→ミガキ	ハケ→ナデ	0.5～1mm程度の砂粒(石英)多量混	にぶい褐色	－	口縁1/10
87	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(18.4)	－	－	口縁端部に刻目、頸部に4条以上のヘラ描沈線文	ナデ→ミガキ	ナデ	0.5～2mm程度の砂粒(石英)少量混	灰褐色	－	口縁1/4
88	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	(41.4)	－	－	頸部に貼り付けの段あり	ミガキ	ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/8
89	SD1 Ⅱ・Ⅲ層	第43図 PL.21	壺	(30.2)	－	－	頸部に4条以上のヘラ描沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ	2mm以下の砂粒(石英・長石・黒雲母)混	橙色	口縁端部内面に黒斑あり	口縁1/8
90	SD1 Ⅱ層	第43図	壺	－	－	－	口縁端部に斜格子文、口縁部内面に2条の貼付突帯	ナデ	ミガキ	3mm以下の砂粒(石英)少量混	にぶい黄橙色	－	－
91	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.20	鉢	－	－	－	胴部に3条のヘラ描沈線文	ナデ	ナデ	1.5mm以下の砂粒混	にぶい赤褐色	－	－
92	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	－	－	－	胴部に2条の刻目をもつ貼付突帯	ナデ	ナデ	1.5mm以下の砂粒(石英・黒雲母)混	にぶい橙色	外面に黒斑あり	－
93	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	－	－	－	3条以上のヘラ描沈線文、直下に2重の円弧文	ナデ	ナデ	0.5～1.5mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄褐色	－	－
94	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	－	－	－	頸部に段	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	2mm以下の砂粒(石英・長石・黒雲母)混	灰黄色	－	－
95	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.21	壺	－	－	－	頸部に11条のヘラ描沈線文、直下に連続刺突文	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英)少量混	橙色	－	頸部1/4
96	SD1 Ⅱ層	第43図 PL.23	壺	(37.4)	－	(22.6)	口縁端部に2条の沈線文と刻目を3段に施す。頸部には８条の沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	1～4mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	橙色	－	－
97	SD1 Ⅱ層	第44図 PL.22	甕	－	－	－	5条を1単位とする櫛描文。直下に刺突文。口縁端部に刻目	ナデ	ナデ	0.5～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄褐色	頸部に煤付着	－
98	SD1 Ⅱ層	第44図	甕	－	－	－	4条を1単位とする櫛描文。口縁端部に刻目	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	0.5～2mm程度の砂粒(石英)少量混	にぶい黄橙色	胎土分析試料	－
99	SD1 Ⅱ層	第44図 PL.23	甕	－	－	－	口縁端部に刻目、口縁の屈曲部に穿孔	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	0.5～1.5mm程度の砂粒(石英・黒雲母)多量混	にぶい黄橙色	－	－

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
100	SD1 I・II層	第44図 PL.22	甕	－	－	－	口縁端部に刻目、以下5条を1単位とする櫛描文	－	ナデ	2mm以下の砂粒(石英)混	橙色	－	口縁1/6
101	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	－	－	－	口縁端部に刻目、胴部2条以上の沈線文	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒(石英・長石)混	淡赤橙色	外面に炭化物付着	－
102	SD1 I・II層	第44図 PL.20	甕	－	－	－	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒(石英)混	にぶい橙色	－	－
103	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	－	－	－	体部に5条単位の櫛描文と竹管による刺突文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒(石英)混	にぶい黄色	－	－
104	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	－	－	－	6条以上の櫛描文と刺突文	ナデ	ハケ	0.5～1.5mm程度の砂粒(石英)少量混	にぶい褐色	－	－
105	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(17.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	0.5mm以下の砂粒(石英・長石・黒雲母)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/3
106	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(26.3)	－	－	口縁端部に刻目、頸部に３条のヘラ描沈線文	ナデ	ナデ	5mm以下の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄褐色	外面に煤付着	口縁1/4
107	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(27.0)	－	－	口縁端部に刻目、体部に2条のヘラ描沈線文、間に連続する竹管文	体部ハケ、口縁部ハケ→ナデ	体部ハケ、口縁端部ナデ	0.5～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	黒褐色～にぶい黄橙色	外面に黒斑あり	－
108	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(25.7)	－	－	口縁端部に刻目、体部に２条のヘラ描沈線文	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	0.5～2mm程度の砂粒(石英)多量混	にぶい黄橙色	外面に煤付着	口縁1/10
109	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(27.4)	－	－	口縁端部に刻目	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→ナデ	0.5～1.5mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい黄橙色	外面に煤付着	－
110	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(26.0)	－	－	－	ハケ	ハケ→粗いナデ	1mm以下の砂粒(石英・長石)混	にぶい褐色	内面に煤付着 外面に炭化物付着	口縁1/8
111	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(27.0)	－	－	－	ナデ→ハケ	ナデ	3mm以下の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色～褐灰色	－	口縁1/12
112	SD1 II層	第44図 PL.21	甕	(30.2)	－	－	口縁端部に刻目	ハケ	ハケ→粗いナデ	1～1.5mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい黄橙色	外面に煤付着	口縁1/3
113	SD1 II層	第44図 PL.22	甕	(33.8)	－	－	口縁端面に1条の沈線文	ハケ→口縁部ナデ	ハケ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着、外面に黒斑あり	口縁1/9
114	SD1 II層	第44図 PL.21	甕	(36.4)	－	－	－	ハケ	ハケ	1.5mm以下の砂粒(石英・長石・黒雲母)混	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
115	SD1 II層	第44図 PL.21	甕	(38.6)	－	－	頸部にヘラ状工具により作り出した浅い段	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	0.5～1mm程度の砂粒(石英・長石)少量混	にぶい橙色	外面に煤付着	口縁1/6
116	SD1 II層	第44図 PL.22	壺	(15.2)	－	－	10条の櫛描文の下に連続する刺突文	ハケ	ハケ	1.5mm以下の砂粒(石英)少量混	灰黄褐色	－	口縁1/4
117	SD1 II層	第44図 PL.22	壺	－	－	－	三角形状の連続刺突文と4条単位の櫛描文を交互に施す	－	ミガキ	2～2.5mmの砂粒(石英)少量混	にぶい橙色	口縁端部内外面に黒斑あり	口縁1/20
118	SD1 II層	第44図 PL.23	蓋	－	－	(7.6)	－	ナデ→ミガキ	調整不明	5mm以下の砂粒(石英・長石)少量混	灰白色	外面に黒斑あり	蓋つまみ部2/3
119	SD1 II層	第44図 PL.23	蓋	－	－	(4.9)	－	ナデ	ナデ	2.5mm以下の砂粒(石英・長石)混	灰黄色	外面に黒斑あり	蓋つまみ部1/2
120	SD1 II層	第44図 PL.23	蓋	－	－	(6.2)	－	ケズリ→ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒(石英・長石)混	にぶい黄橙色	－	つまみ部分完存
121	SD1 II層	第44図 PL.24	蓋	(11.0)	5.8	－	天井部に2つのつまみ痕跡、端部に2個一対の焼成前の穿孔あり	ハケ→口縁端部ナデ	ハケ→口縁端部ナデ	0.5～1mm程度の砂粒(石英)多量混	浅黄橙色	口縁部外面に黒斑あり	5/6
122	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(25.0)	－	－	口縁端面に刻目	ハケ→口縁端部ナデ	ハケ→口縁端部ナデ	1mm以下の砂粒(石英)多量混	にぶい橙色	－	口縁1/12
123	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(16.0)	－	－	口縁端部が上方にわずかに肥厚する	口縁部ナデ、体部ハケ	ハケ	1mm以下の砂粒(石英)少量混	浅黄橙色	－	口縁1/12
124	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(16.0)	－	－	口縁端部が上方にわずかに肥厚する	口縁部ナデ、体部ハケ	ハケ→口縁端部ナデ	1mm以下の砂粒(石英・黒雲母)少量混	浅黄橙色	－	口縁1/4
125	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(12.8)	－	－	口縁部に２条の凹線文	ナデ	ナデ	1.5mm以下の砂粒(石英)少量混	灰白色	－	口縁1/8
126	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(14.8)	－	－	口縁部に２条の凹線文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒	にぶい黄橙色	口縁端部下に煤付着	口縁1/8
127	SD1 II層	第45図 PL.22	甕	(14.4)	－	－	口縁部に5条の擬凹線文	ナデ	口縁部ナデ、体部ケズリ	1.5mm以下の砂粒(石英)少量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	口縁3/4

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
128	SD1 Ⅱ層	第45図 PL.22	高杯	(16.6)	－	－	口縁端面に１条の沈線	ミガキ	ミガキ	1.5mm以下の砂粒(石英)少量混	橙色	－	口縁1/3
129	SD1 Ⅰ･Ⅱ層	第45図 PL.23	甕	(16.0)	-32.8	－	－	口縁部ナデ、体部ハケ	口縁部ナデ、体部ケズリ	0.5～3mmの砂粒(石英･長石･黒雲母)多量混	橙色	体部外面に黒斑あり	口縁部3/5、体部1/2残存
130	SD1 Ⅱ層	第46図 PL.20	底部	－	－	(7.6)	－	不明	不明	1mm程度の砂粒(石英･長石)多量混	灰黄色	－	底部1/2
131	SD1 Ⅱ層	第46図 PL.20	底部	－	－	(6.2)	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい橙色～灰黄色	－	底部1/2
132	SD1 Ⅱ層	第46図 PL.20	底部	－	－	(5.6)	－	条痕	ナデ	2mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	灰白色	外面に黒斑あり	底部1/6
133	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(7.4)	－	ミガキ？	ナデ	3mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	浅黄橙色	外面に黒斑あり	底部1/2
134	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	6.4	－	ミガキ？	ミガキ	0.5～4mm程度の砂粒(石英)混	にぶい黄橙色	－	底部1/2
135	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(8.6)	－	ハケ→ナデ	ナデ	4mm以下の砂粒(石英)多量混	淡橙色～橙色	－	底部5/8
136	SD1 Ⅱ･Ⅲ層	第46図	底部	－	－	(11.8)	－	ハケ	ナデ	1mm程度の砂粒(石英･長石)混	橙色	－	底部完存
137	SD1 Ⅱ･Ⅲ層	第46図	底部	－	－	(11.0)	－	体部ハケ、底面ミガキ	ハケ→ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英･長石)混	橙色	－	底部完存
138	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(4.2)	－	ハケ→工具によるナデ	ケズリ	1.5mm以下の砂粒(石英)混	黒褐色～褐灰色	－	底部1/2
139	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(9.2)	－	調整不明	調整不明	2mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい黄橙色	－	底部完存
140	SD1 Ⅱ層	第46図 PL.24	底部	－	－	(10.0)	－	ミガキ	ナデ	1.5mm以下の砂粒(石英･長石･黒雲母)多量混	褐灰色～黒褐色	外面に煤付着	底部完存
141	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(9.2)	－	ミガキ	調整不明	1mm程度の砂粒(石英)多量混	にぶい黄橙色	底面に籾痕あり	底部1/2
142	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(9.4)	－	ハケ	ハケ	1mm程度の砂粒(石英)多量混	灰黄色	内面に炭化物付着	底部1/3
143	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(11.2)	－	ハケ	ハケ→ナデ	2mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	黄灰色	－	底部1/3
144	SD1 Ⅱ･Ⅲ層	第46図	底部	－	－	(8.5)	－	ハケ→ミガキ	ミガキ	1mm程度の砂粒(石英)混	浅黄橙色	外面に煤付着	底部1/2
145	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(10.8)	－	ハケ	ナデ	2.5mm以下の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい黄橙色	－	底部1/4
146	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(7.2)	－	ミガキ？	ミガキ？	3mm以下の砂粒(石英)多量混	浅黄橙色	－	底部1/3
147	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	9.2	－	ハケ→ミガキ	体部ハケ、底部ナデ	1～3mm程度の砂粒(石英)多量混	にぶい橙色	－	底部完存
148	SD1 Ⅱ層	第46図	底部	－	－	(7.0)	－	ハケ	ケズリ→粗いナデ	1mm以下の砂粒(石英)混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	底部1/2
149	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	口縁下部肥厚させ列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	灰白色	西川津式Ｂ類	口縁1/10
150	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	外面屈曲部に列点	横位条痕	横位条痕	2mm程度の砂粒(石英)混	灰黄色	西川津式Ｂ類	胴部1/8
151	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	微隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	西川津式Ｂ類	胴部1/10以下
152	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	口縁外面に垂下隆起線	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒(角閃石)混	灰黄色	晩期か	口縁1/10
153	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	鉢	－	－	－	外面にＲＬ縄文	横位条痕	横位条痕→ナデ	2mm以下の砂粒混、金雲母混	灰黄色	後期中葉	口縁1/10以下
154	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	波状口縁、沈線３条→ＲＬ充填縄文	不明	細密条痕→ナデ	2mm以下の砂粒混	灰白色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
155	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	浅鉢	－	－	－	－	横位ミガキ	横位ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	晩期	口縁1/10
156	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁に突帯	横位条痕	横位条痕	2mmの石英混	灰黄色	晩期か	口縁1/10以下
157	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	胴部	－	－	－	外面に弧状沈線文	ミガキ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	後期中葉	胴部1/10以下
158	SD1 Ⅲ層	第47図	深鉢	－	－	－	口縁外面に沈線１条	ミガキ	摩滅	1mm以下の砂粒混	灰色	晩期か	口縁1/10以下
159	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	浅鉢	(30.4)	－	－	－	横位ミガキ	横位ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰色	晩期	口縁1/3

掲載番号	遺構	挿図PL.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
160	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	－	横位条痕	横位条痕→ナデ	2mm以下の砂粒混、金雲母混	暗褐色	前期	口縁1/8
161	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	(27.2)	－	－	－	横位条痕	横位条痕→ナデ	1mm以下の砂粒、金雲母混	暗褐色	前期	口縁1/8
162	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	深鉢	－	－	－	補修孔	粗いナデ	横位条痕	1mm以下の砂粒混	灰黄色	前期	胴部1/10
163	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.25	深鉢底部	－	－	－	－	横位ケズリ→ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	後期後半～晩期	－
164	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	浅鉢	(13.3)	－	－	焼成前穿孔　直下に焼成後穿孔	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	後～晩期	口縁1/5
165	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	浅鉢	(15.8)	－	－	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰白色	後～晩期	口縁1/4
166	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	浅鉢	(17.3)	－	－	－	ミガキ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	後～晩期	口縁1/8
167	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.25	浅鉢	(18.2)	－	－	－	斜位ミガキ	横位ミガキ	1mmの砂粒わずかに混	暗褐色	後～晩期	口縁3/4
168	SD1 Ⅲ層	第47図 PL.28	鉢底部	－	－	－	底面やや上に帯状の剥離痕あり	粗いナデ	斜位条痕	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	底部1/8
169	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻目。口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒やや多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
170	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻み。口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	内面に黒斑あり	口縁1/20
171	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒(長石ほか)多量混	褐灰色	－	－
172	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面D字状の刻目をもつ突帯文	横方向の条痕	横方向の条痕	1mm程度の砂粒やや多量混	灰白色	－	口縁1/12
173	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒やや多量混	灰白色	－	－
174	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)やや多量混	黄灰色	－	口縁1/20
175	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)やや多量混	にぶい黄褐色	－	口縁1/20
176	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒(石英・長石)やや多量混	灰黄色	外面に黒斑あり	口縁1/20
177	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面三角形状、V字状刻みの貼付突帯	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄色	外面に黒斑あり	口縁1/30
178	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面三角形状、V字状刻みの貼付突帯	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒多量混	黒褐色	－	口縁1/20
179	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄色	－	口縁1/20
180	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部直下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	口縁1/10
181	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面三角形の無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒少量混	灰黄褐色	外面に煤付着	口縁1/12
182	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒少量混	灰黄褐色	外面に煤付着。焼成軟質	口縁1/15
183	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部から2cm程度下がった位置に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄褐色	外面に煤付着	口縁1/10
184	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部からやや下に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄褐色	外面に煤付着	－
185	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	(30.2)	－	－	口縁端部に刻目、直下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	横方向条痕	横方向条痕	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
186	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	(28.2)	－	－	口縁端部に刻目。直下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	横方向条痕→ナデ	横方向条痕→ナデ	1mm以下の砂粒少量混	淡黄灰色	－	口縁1/10

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
187	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	(32.8)	－	－	口縁端部直下に断面台形の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	2㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい黄橙色・褐灰色	－	口縁1/4
188	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	(36.0)	－	－	口縁端部やや下に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	2㎜程度の砂粒(石英･長石)やや多量混	にぶい黄橙色・褐灰色	外面に炭化物付着	口縁1/8
189	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部に刻目、直下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
190	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	にぶい黒褐色	－	口縁1/18
191	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
192	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	灰黄褐色	外面に炭化物付着	－
193	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/20
194	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の浅い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒やや多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/16
195	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部に断面三角形状の無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着。焼成軟質	口縁1/20
196	SD1 Ⅲ層	第48図 PL.29	深鉢	－	－	－	口縁端部に無刻目突帯文	ナデ	ナデ	1～2㎜大の砂粒混	黒灰色	焼成軟質	口縁1/20
197	SD1 Ⅲ層	第49図 PL.25	深鉢	(41.0)	－	－	口縁端部やや下に断面V字状の細い刻目をもつ突帯文	ナデ	ナデ	0.5～2㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい褐色	内外面に煤付着	口縁1/3
198	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(7.6)	－	－	胴部上位に段	ナデ→ミガキ	体部ナデ、口縁部ミガキ	1㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	灰黄色	－	口縁1/6
199	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(16.4)	－	－	頸部に段	ミガキ	ミガキ	1㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい褐色	外面に炭化物付着	口縁1/6
200	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.31	壺	(15.6)	－	－	頸部に１条の削出突帯	ハケ→ミガキ	口縁部ミガキ、頸部以下ナデ	1～2㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい褐色	－	口縁1/2
201	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.31	壺	(19.6)	－	－	頸部に刻目をもつ１条の貼付突帯	ハケ→ミガキ	口縁部･頸部ミガキ、頸部以下ナデ	2㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/4
202	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(20.4)	－	－	－	ハケ→ミガキ	ミガキ	1㎜以下の砂粒多量混	灰黄色	－	口縁1/8
203	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(31.8)	－	－	口縁端部両端に刻目。胴部上端付近に板状工具でつくり出した浅い段	粗いハケ→ミガキ	粗いハケ→ミガキ	1～2㎜程度の砂粒(石英･長石)少量混	橙色	－	口縁1/11
204	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(18.2)	－	－	胴部上端付近に段	ミガキ	ミガキ	1～2㎜の砂粒(石英･長石)多量混	灰黄色	－	－
205	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.24	壺	12.9	－	－	－	ミガキ	ミガキ	1～2㎜程度の砂粒混	灰黄橙色	－	口縁部のみ完存
206	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	－	－	－	胴部上端に段	ハケ→ミガキ？	ミガキ	1～2㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	明褐色	－	－
207	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	－	－	－	頸部に２条の削出突帯	ミガキ	ナデ	1㎜以下の砂粒少量混	褐灰色	外面に炭化物付着	－
208	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(13.4)	－	－	頸部に5条のヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ナデ	2～3㎜程度の砂粒(石英･長石)混	明黄褐色	－	－
209	SD1 Ⅲ層	第50図	壺	(18.0)	－	－	２条のヘラ描沈線文	ミガキ	ミガキ	2～3㎜程度の砂粒(石英･長石)多量混	灰黄色	口縁部外面に煤付着	口縁1/10
210	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(18.0)	－	－	3条のヘラ描沈線文、沈線文上下をヘラナデし削出突帯状を呈す	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒混	灰黄褐色	－	口縁1/16
211	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	－	－	－	胴部上位に3条のヘラ描沈線文。この直上に緩慢な段	ミガキ	ハケ→ミガキ	1㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	口縁部外面に煤付着	－
212	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	－	－	－	胴部上位に2条のヘラ描沈線文。直上に段	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	1㎜程度の砂粒多量混	灰褐色	口縁部外面に煤付着	－

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
213	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.31	壺	－	－	－	頸部に6条以上のヘラ描沈線文、胴部に5条のヘラ描沈線文、それぞれ沈線文の直下に円形刺突文	ミガキ	ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)混	橙色	－	－
214	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(18.0)	－	－	頸部に２条の沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	2mm以下の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/4
215	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.30	壺	(21.5)	－	－	口縁端面に斜方向の刻み、頸部に７条以上のヘラ描沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)やや多量混	橙色	－	口縁1/12
216	SD1 Ⅲ層	第50図 PL.31	壺	(22.0)	－	－	－	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	－	－	－
217	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.30	壺	(44.1)	－	－	頸部、胴部上位に浅い段	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/12
218	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.25	壺	(16.2)	－	－	頸部に段。胴部上位に１条の削出突帯、直下に３条の沈線文。胴部最大径付近に１条の沈線文。頸部直下に籾殻圧痕	ハケ→ミガキ	ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/2
219	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.31	壺	－	－	－	胴部上位に貼付突帯	ミガキ	ハケ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	肩部1/8
220	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.31	肩部	－	－	－	頸部付近にヘラ描沈線文、胴部最大径やや上に４条以上の沈線文	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰白色	－	－
221	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.24	壺	(22.4)	(32.0)	8.3	頸部および胴部上位に段	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	底部付近に炭化物付着	口縁部1/8 底部1/2
222	SD1 Ⅲ層	第51図 PL.24	壺	(16.1)	(27.6)	(8.1)	胴部最大径やや上に2条のヘラ描沈線文	ハケ→ミガキ	ナデ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	ほぼ完存
223	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(31.0)	－	－	口縁端部下端に刻目	ハケ	ナデ	1mm前後の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい褐色	外面に炭化物付着	口縁1/12
224	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(30.0)	－	－	口縁端部に断面V字形の刻目。頸部下端付近に浅い段	ハケ→ナデ	ナデ	0.5mm以下の砂粒多量混	黒褐色	外面に炭化物付着	口縁1/10
225	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(30.0)	－	－	口縁端部下端に刻目	ハケ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面に煤付着	口縁1/8
226	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(30.0)	－	－	口縁端部下端に刻目	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物多量に付着	口縁1/8
227	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(28.8)	－	－	口縁端部下端に刻目	粗いハケ	粗いハケ→口縁部ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい橙色	外面に炭化物付着	口縁1/6
228	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(29.0)	－	－	胴部上端付近に2条の沈線文、口縁端部に浅い刻目	粗いハケ→ナデ	粗いハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒混	にぶい橙色	内外面に炭化物付着	口縁1/3
229	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	－	－	－	口縁下端に浅い刻目。胴部上位に4条のヘラ描沈線文	粗いハケ→ナデ	粗いハケ→口縁部ナデ	0.5～1.5mm大の砂粒混	にぶい橙色	外面に炭化物付着	口縁1/12
230	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	－	－	－	口縁端部下端に浅い刻目。胴部上端付近に1条のヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	黒褐色	外面に炭化物付着	口縁1/12
231	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	－	－	－	口縁端部下端に浅い刻目。胴部上端付近に2条のヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1～2mm程度の砂粒混	橙色	外面に炭化物付着	口縁1/12
232	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	－	－	－	口縁端部下端に浅い刻目。胴部上端付近に2条の太いヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/12
233	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(28.0)	－	－	胴部上端付近に1条のヘラ描沈線文	ハケ	ハケ	1mm程度の砂粒混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/10
234	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(17.0)	－	－	胴部上端付近に1条のヘラ描沈線文	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒多量混	灰褐色	外面に炭化物付着	口縁1/15
235	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.34	甕	(27.0)	－	－	胴部上端に2条のヘラ描沈線文、沈線文間に連続刺突文	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1～2mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	口縁1/2
236	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.34	甕	(28.0)	－	－	胴部上端付近に5条のヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/5
237	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.33	甕	(35.6)	－	－	口縁端部に浅い刻目、胴部上端に3条のヘラ描沈線文	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい橙色	外面に炭化物付着	口縁1/4

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
238	SD1 Ⅲ層	第52図 PL.24	甕	(34.5)	－	－	口縁端部下端に刻目	ハケ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄褐色	外面胴部上位を中心に炭化物付着	口縁部完存
239	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(23.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ナデ→口縁部ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい橙色	－	口縁1/6
240	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(24.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒多量混	灰黄褐色	外面胴部上端付近に炭化物付着	口縁1/4
241	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(25.2)	－	－	－	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)混	灰黄色	－	口縁1/12
242	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.35	甕	(26.2)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	黒褐色	内外面煤付着	口縁1/12
243	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(28.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm以下の砂粒多量混	黒色	外面に煤付着	口縁1/12
244	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(28.4)	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒(長石ほか)混	橙色	内外面に煤付着	口縁1/12
245	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.35	甕	(28.6)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm以下の砂粒多量混	褐灰色	外面胴部上端付近に炭化物付着	口縁1/4
246	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(20.8)	(20.0)	(7.2)	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい橙色	外面に炭化物付着	口縁1/4
247	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(28.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/8
248	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(29.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1～2mmの砂粒(石英・長石)多量混	浅黄橙色	外面に炭化物少量付着	口縁1/4
249	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.35	甕	(29.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物少量付着	口縁1/5
250	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(28.8)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→ナデ	0.5mm程度の砂粒混	暗褐色	外面胴部上端付近に炭化物付着	口縁1/6
251	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(28.1)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm以下の砂粒混	橙色	外面胴部上端付近に炭化物付着	口縁1/12
252	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(30.4)	－	－	－	ハケ→ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒混	暗灰黄色	外面に煤付着	口縁1/9
253	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.34	甕	(31.4)	－	－	－	ハケ→ナデ・ミガキ	ハケ→ミガキ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
254	SD1 Ⅲ層	第53図 PL.35	甕	(36.0)	－	－	内面胴部に籾殻圧痕	粗いハケ	ナデ	0.5～2mm程度の砂粒多量混	にぶい黄褐色	外面に炭化物付着	口縁1/5
255	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	甕	(18.0)	－	－	－	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒やや多量混	灰黄色	外面に炭化物付着	口縁1/7
256	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.33	甕	(17.0)	－	－	胴部上位に2条のヘラ描沈線文	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1～2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	灰黄褐色	－	口縁1/8
257	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	甕	(21.2)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい橙色	外面に黒斑あり	口縁1/3
258	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	甕	(18.4)	－	－	頸部下に11条以上のヘラ描沈線文	ハケ	ハケ→口縁部ナデ	1mm程度の砂粒多量混	浅黄橙色	外面に炭化物付着	－
259	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	甕	(24.0)	－	－	口縁端部に刻目、胴部上端付近に4条単位の櫛描文、口縁部内面に三角形刺突文	口縁部横方向のナデ	口縁部三角形状の刺突文	0.5～3mm程度の砂粒(石英・長石)混	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
260	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	甕	(14.0)	－	－	－	ミガキ	ミガキ	0.5～1mm程度の砂粒多量混	にぶい褐色	内外面に炭化物付着	口縁1/12
261	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.35	鉢	(20.6)	－	－	－	ミガキ	ミガキ	1～2mmの砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	内外面に炭化物付着	口縁1/8
262	SD1 Ⅲ層	第54図	蓋形土器	－	－	つまみ径 (6.6)	－	ナデ	ハケ	2mm以下の砂粒(石英・長石)混	にぶい橙色	－	つまみ部 1/4
263	SD1 Ⅲ層	第54図 PL.32	甕	9.2	9.4	3.9	－	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面胴部に炭化物付着	口縁部 1/4
264	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	3条の沈線文と羽状文	ミガキ	ハケ→ミガキ	1mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	－	－
265	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	沈線文による浅い段。直下に1条の沈線文と木葉文	ミガキ	ハケ	1mm程度の砂粒多量混	灰黄褐色	外面に炭化物付着	－

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
266	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	1条の沈線文と直下に木葉文か？	ミガキ	ナデ	１㎜程度の砂粒多量混	にぶい赤褐色	外面に炭化物少量混	－
267	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	沈線文による浅い段。直下に2条の沈線文と木葉文か？	ミガキ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒(石英・長石)多量混	にぶい黄橙色	外面の一部に赤色塗彩	－
268	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	頸部下端に2本のヘラ描沈線文、直下に木葉文。施文順序はヘラ描沈線文→木葉文	ミガキ	ミガキ	1㎜以下の砂粒少量混	浅黄色	内外面に煤付着	－
269	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	2条のヘラ描沈線文、間に斜格子文。施文順序はヘラ描文→斜格子文	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄色	内外面に薄く炭化物付着	－
270	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	胴部上位に緩慢な浅い段。直下に2本の沈線文と羽状文。3条の縦方向の沈線文で区画する	ナデ	ナデ	1㎜程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	－
271	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	胴部最大径部分に貼付突帯、直上に1条の沈線文、4本の縦沈線文で区画された木葉文	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	1㎜程度の砂粒多量混	浅黄橙色	外面に煤付着	胴部1/4
272	SD1 Ⅲ層	第55図 PL.32	壺	－	－	－	列点文の直下に3条の直線沈線文、直下に4本単位の曲線沈線文。施文順序は直線沈線文→曲線沈線文	ナデ	ナデ	1㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	－
273	SD1 Ⅲ層	第56図 PL.28	底部	－	－	(6.1)	－	ナデ	ナデ	0.5㎜以下の砂粒混	にぶい黄橙色	内面に炭化物少量付着	底部1/6
274	SD1 Ⅲ層	第56図 PL.28	底部	－	－	(9.0)	－	ナデ	ナデ	2㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	底部1/4
275	SD1 Ⅲ層	第56図 PL.28	底部	－	－	(9.0)	－	ナデ	ナデ	2㎜前後の砂粒少量混、1㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	内面に黒斑あり	底部1/6
276	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.0)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	にぶい褐色	外面に薄く煤付着	底部1/2
277	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(10.2)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	1㎜前後の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に薄く煤付着	底部完存
278	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(8.8)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	1㎜の砂粒微量混	灰褐色	外面に薄く煤付着	底部1/4
279	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.6)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	1㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	外面に薄く煤付着	底部1/4
280	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(8.8)	－	底部付近ハケ、体部下部ミガキ、底面ナデ	ナデ	0.5㎜以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	内面に厚く炭化物付着	底部1/4
281	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.4)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	3㎜以下の砂粒混	にぶい橙色	－	底部1/3
282	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(8.8)	底面に籾圧痕	ハケ、底面ナデ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	底面に籾痕あり	底部3/4
283	SD1 Ⅲ層	第56図 PL.28	底部	－	－	(7.2)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	0.5㎜以下の砂粒混	灰黄色	内面に厚く炭化物付着	底部1/2
284	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.0)	底面に籾圧痕	ミガキ、底面ナデ	ナデ	2㎜以下の砂粒混	明赤褐色～にぶい褐色	－	底部1/4
285	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(7.0)	横方向に３本の工具痕	ナデ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	底部1/2
286	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.0)	－	ハケ、底面ナデ	ナデ	0.5～1.5㎜の砂粒多量混	にぶい黄褐色	－	底部1/3
287	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(8.0)	底面に籾圧痕	ハケ、底面ナデ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	橙色	内面に薄く炭化物付着	底部1/5
288	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(10.0)	底面に籾圧痕	ハケ、底面ナデ	ナデ	1㎜程度の砂粒混	にぶい橙色	内外面に薄く炭化物付着、底面に籾痕あり	底部1/2
289	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(10.0)	底面に籾圧痕	ハケ、底面ナデ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	底面に２箇所の籾痕あり	底部1/2
290	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(7.8)	－	底部付近ミガキ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	底部1/2
291	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.0)	－	ミガキ、底面ナデ	ナデ	0.5㎜以下の砂粒混	暗赤褐色	内面に厚く炭化物付着	底部1/4
292	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.8)	－	ミガキ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	褐灰色	外面に薄く煤付着	底部1/6
293	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.6)	底面に籾圧痕	底部付近ハケ、体部下半ミガキ	ナデ	1～2㎜程度の砂粒混	灰黄褐色	外面に黒斑あり、底面に籾痕あり	底部1/6
294	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(10.2)	－	ミガキ	ハケ	1㎜以下の砂粒多量混	にぶい橙色	外面に薄く煤付着	底部1/3
295	SD1 Ⅲ層	第56図	底部	－	－	(9.8)	－	底部付近ハケ、体部下ミガキ	ナデ→ミガキ	2㎜程度の砂粒多量混	橙色～浅黄橙色	－	2/3 底部ほぼ完存

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
296	SD1 Ⅱ・Ⅲ層	第56図	底部	－	9.8	12.2	底面に籾圧痕	ハケ	ナデ	0.5mm程度の砂粒少量混	暗赤褐色	底面に籾痕あり	底部完存
297	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	口縁下部微隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒、金雲母混	灰白色	西川津式B類	口縁1/10
298	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	口縁下部微隆帯上に列点	横位条痕	ナデ	2mm以下の砂粒混	暗灰色	西川津式B類	口縁1/10
299	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	屈曲部隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	2mm以下の砂粒多量混	灰黄色	西川津式B類	胴部1/10
300	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	屈曲部とその上位に隆帯、列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	西川津式B類	胴部1/10以下
301	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	羽状縄文	不明	ナデ	2mm以下の石英、金雲母多量混	黄褐色	前期	胴部1/10以下
302	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	外面に押引沈線文	不明	条痕→ナデ	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄褐色	西川津式A類	胴部1/10以下
303	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	口縁肥厚させ縦位の微隆起線	不明	ナデ	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄褐色	西川津式B類	口縁1/10以下
304	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	外面肥厚させ沈線１条、刻みあり	ナデ	条痕→ナデ	1mm以下の砂粒混	灰色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
305	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	口唇部に刻み	条痕→ナデ	条痕→ナデ	1mm以下の砂粒混	暗灰色	前期	口縁1/10
306	SD1 Ⅳ層	第57図	深鉢 底部	－	－	7.1	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄色	後期	底部完存
307	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	7.0	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	後期	底部1/3
308	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	5.1	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	後期	底部1/3
309	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	7.1	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰黄色	前期	底部1/3
310	SD1 Ⅳ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	5.9	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒、金雲母混	灰黄色	前期	底部1/2
311	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	屈曲部に列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄褐色	西川津式B類	胴部1/10
312	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	屈曲部に列点	横位条痕	横位条痕	2mm以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	西川津式B類	胴部1/10
313	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	微隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	灰黄色	西川津式B類	胴部1/10以下
314	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	口縁外面肥厚させ沈線１条	縦位擦痕	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	暗灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10以下
315	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	浅鉢	(14.4)	－	－	口縁直下にＬＲ結節縄文、沈線３条（沈線内刺突）→ＬＲ充填縄文	不明	横位条痕→ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	後期中葉（沖丈式）	口縁1/8
316	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	鉢	－	－	－	屈曲部に沈線１条、ＲＬ縄文	不明	ナデ	1mm以下の砂粒多量混	灰黄色	後期前葉～中葉	胴部1/10
317	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	鉢	－	－	－	ＲＬ縄文	不明	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	暗灰色	－	胴部1/10以下
318	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢	－	－	－	沈線内に縄？の押圧→ＬＲ充填縄文	不明	ミガキ	1mm以下の砂粒混	暗灰黄色	後期中葉	口縁1/10以下
319	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	7.1	－	擦痕	ナデ	2mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄色	前期	底部1/4
320	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	6.0	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰白色	－	底部1/4
321	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	4.4	－	ナデ	ナデ	1mmの砂粒、角閃石混	灰黄色	後期	底部1/4
322	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	5.8	－	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒多量混	にぶい黄褐色	－	底部1/4
323	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	7.6	－	ナデ	ナデ	2mmの砂粒、角閃石、金雲母混	灰白色	－	底部1/3
324	SD1 Ⅴ層	第57図 PL.36	深鉢 底部	－	－	6.6	－	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒多量混	暗灰色	晩期	底部1/8
325	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	口縁下部微隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄色	西川津式B類	口縁1/10
326	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.38	浅鉢	－	－	－	沈線文→ＲＬ充填縄文	ミガキ	ナデ	2mm以下の砂粒、金雲母混	灰白色	福田Ｋ２式	胴部1/10
327	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	双耳壺 肩部	－	－	－	沈線文	ミガキ	ナデ	2mm程度の砂粒わずかに混	暗褐色	福田Ｋ２式	胴部1/10以下
328	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	沈線文	細密条痕	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰白色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
329	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	沈線文	細密条痕	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
330	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	沈線文	細密条痕	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
331	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	鉢	－	－	－	沈線文→ＲＬ充填縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒、角閃石多量混	暗灰色	福田Ｋ２式	胴部1/10以下
332	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	波状口縁波頂部 沈線文→RL充填縄文　貫通孔あり	不明	ナデ	2mm程度の砂粒混	灰白色	崎ヶ鼻式	－

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
333	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(14.4)	－	－	－	横位ケズリ	横位ケズリ→擦痕	2mm程度の砂粒多量混	灰黄色	後期	口縁1/10以下
334	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(10.3)	－	－	口唇部に刻み	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒多量混	灰黄色	－	口縁1/8
335	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	鉢	－	－	－	内面に格子状沈線文	粗いナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	暗褐色	前期か	胴部1/10以下
336	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	鉢	－	－	－	内面に格子状沈線文	粗いナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	前期か	胴部1/10以下
337	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.38	鉢	－	－	－	ＲＬ縄文	不明	横位ケズリ→ナデ	2mm程度の砂粒多量混	暗灰色	後期か	口縁1/10
338	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	屈曲部に沈線２条	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒、角閃石混	暗灰黄色	崎ヶ鼻式 外面に煤付着	胴部1/10
339	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	外面ＲＬ縄文	ミガキ	ナデ	1mm以下の砂粒、角閃石混	暗灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
340	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	－	－	－	段部外面に無節Ｌ縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒多量混	暗褐色	崎ヶ鼻式	胴部1/5
341	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(17.6)	－	－	－	ミガキ	ミガキ	2mm以下の砂粒多量混	暗褐色	後期	口縁1/5
342	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(25.2)	－	－	口縁肥厚させ外面にRL縄文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒多量混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/5
343	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(29.6)	－	－	－	粗いナデ	粗いナデ	3mm以下の砂粒、角閃石混	暗褐色	後期	口縁1/5
344	SD1 Ⅵ層	第59図 PL.37	深鉢	(28.8)	－	－	口縁に沈線１条、以下ＲＬ縄文	口縁ミガキ、胴部ナデ	上半横位ミガキ、下半ケズリ	2mm以下の砂粒、角閃石多量混	褐色	崎ヶ鼻式　波状口縁の可能性あり	口縁1/8
345	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.37	鉢	－	－	－	外面に弧状沈線文	ナデ	ナデ	3mm以下の砂粒、金雲母混	灰黄色	後期	口縁1/10以下
346	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.37	深鉢	－	－	－	口縁内面に結節縄文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄色	後期中葉（沖丈式）	口縁1/10以下
347	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	浅鉢	－	－	－	外面屈曲部に列点	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
348	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	深鉢	－	－	－	外面にＲＬ縄文	不明	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰白色	崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
349	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	浅鉢	－	－	－	－	横位ミガキ	縦位ミガキ	2mm程度の砂粒、金雲母混	灰白色	崎ヶ鼻式	口縁1/10以下
350	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	浅鉢	－	－	－	外面屈曲部に列点	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒、角閃石混	灰白色	崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
351	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	浅鉢	(13.6)	－	－	－	横位ミガキ	横位ミガキ	1mm以下の砂粒混	暗灰黄色	後期中葉（沖丈式）	口縁1/5
352	SD1 Ⅵ層	第60図	浅鉢	－	－	－	口縁内面を肥厚させRL縄文	ナデ	ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰白色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
353	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.37	浅鉢	－	－	－	口縁内面を肥厚させRL縄文	ナデ	ミガキ	角閃石、金雲母混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
354	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.37	鉢	－	－	－	－	ナデ	筋状の擦痕	1mm以下の砂粒混	灰黄色	－	口縁1/8
355	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	浅鉢	(19.6)	－	－	外面にＬＲ縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒、金雲母混	暗灰色	後期中葉	口縁1/10
356	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	底部	－	－	9.2	－	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒、金雲母混	暗灰黄色	後期	底部3/4
357	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	底部	－	－	8.9	－	ミガキ	ナデ	2mm以下の砂粒、角閃石混	灰黄色	後期	底部完存
358	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.37	底部	－	－	－	底部外面にＲＬ縄文	不明	ミガキ	3mm以下の砂粒多量混	灰黄色	後期前葉～中葉	底部1/8
359	SD1 Ⅵ層	第60図	底部	－	－	5.8	－	ナデ	ナデ	2mm程度の砂粒多量混	灰白色	後期	底部1/3
360	SD1 Ⅵ層	第60図	底部	－	－	5.6	－	ナデ	ミガキ	角閃石混	灰白色	後期～晩期	底部1/2
361	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	底部	－	－	10.2	－	擦痕	ナデ	2mm以下の砂粒、金雲母混	灰黄褐色	後期～晩期	底部1/2
362	SD1 Ⅵ層	第60図 PL.38	底部	－	－	9.2	－	不整方向ケズリ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰白色	晩期か	底部完存
363	SD1 Ⅸ層	第61図 PL.38	浅鉢	－	－	－	外面沈線文、縦位微隆起線	不明	横位条痕	1mm以下の砂粒、角閃石混	灰白色	西川津式Ａ類	口縁1/10以下
364	SD1 Ⅲ層?	第61図	深鉢	－	－	－	焼成後穿孔あり	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	－	－
365	SD1 埋土中	第61図	深鉢	－	－	－	－	－	－	1mm程度の砂粒少量混	にぶい黄橙色	－	－
366	SD1 Ⅳ層以下	第61図	深鉢	－	－	－	口縁外面肥厚	横位条痕	条痕	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	西川津式Ａ類	口縁1/10以下
367	SD1 XI層	第61図 PL.39	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面Ｖ字状の刻目をもつ突帯文	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒、角閃石多量混	暗灰色	晩期	口縁1/10
368	SD1 XI層	第61図 PL.39	深鉢	－	－	－	口縁端部やや下に断面Ｖ字状の刻目をもつ突帯文	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒、角閃石混	暗褐色	晩期　外面煤付着	口縁1/10
369	SD1 XIII層	第61図 PL.39	深鉢	(24.6)	－	－	口縁端部やや下に断面Ｖ字状の刻目をもつ突帯文	横位条痕	横位条痕	3mm以下の砂粒混	黄橙色	晩期	口縁1/5

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
370	SD1 V・Ⅵ層	第61図	底部	－	－	7.8	－	ミガキ	ミガキ	2mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	後期～晩期	底部2/3
371	SD1 Ⅷ層	第61図 PL.39	底部	－	－	9.6	－	ミガキ	ナデ	1mm以下の砂粒、金雲母混	灰白色	後期～晩期	底部完存
372	SD2 埋土中	第80図 PL.39	青磁碗	(15.6)	－	－	口縁端部やや肥厚	－	－	緻密	灰色	龍泉窯系碗Ｄ類	口縁1/14
373	SD2 埋土中	第80図 PL.39	白磁碗	(16.2)	－	－	口縁部肥厚	体部ケズリ	－	緻密	灰白色	白磁碗Ⅳ類	口縁1/8
374	SD2 埋土中	第80図 PL.39	鍋	(25.2)	－	－	－	口縁部ナデ、体部ハケ	口縁部ナデ、体部ハケ	密	にぶい黄橙色	－	口縁1/12
375	SD2 埋土中	第80図 PL.39	甕	－	－	－	外面格子目状叩き	タタキ	カキメ	密	黄灰色	－	－
376	SD2 埋土中	第80図	皿	－	－	(2.4)	回転糸切	ナデ	ナデ	やや粗	橙色	－	－
377	SD3 埋土中	第81図 PL.39	甕	(20.2)	－	－	－	ナデ	ナデ	やや粗	橙色	－	－
378	SD3 埋土中	第81図 PL.39	甕	－	－	(6.0)	－	ナデ	ナデ	1～3mmの砂粒(石英)混	橙色	－	口縁1/10
379	SD3 埋土中	第81図	底部	(17.2)	－	－	回転糸切	ナデ	ナデ	やや粗	にぶい黄橙色	－	底部1/4
380	SD4 埋土中	第82図	皿	(14.4)	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	密	灰色	－	口縁1/14
381	SD6	第83図	底部	－	－	(13.0)	平底	ナデ	ナデ	やや粗	にぶい黄橙色	－	底部1/5
382	黒褐色土包含層	第93図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁部肥厚させ沈線１条、沈線文下位に刻み	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	崎ヶ鼻式	口縁1/10以下
383	黒褐色土包含層	第93図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁外面に沈線１条、沈線文下側に刻み	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
384	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	深鉢	－	－	－	口縁部内面を肥厚	－	－	1mm以下の砂粒混	灰白色	－	－
385	黒褐色土包含層	第93図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁部肥厚させ口唇部に刻み	ナデ	条痕→ナデ	1mm以下の砂粒多量混	暗褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
386	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	鉢	－	－	－	口縁外面にＲＬ縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	後期中葉	口縁1/8
387	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	浅鉢	－	－	－	口縁内面肥厚させRL縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
388	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	深鉢	－	－	－	縦位微隆起線、沈線文	不明	横位条痕	1mm以下の砂粒わずかに混	灰黄色	西川津式Ａ類	胴部1/10以下
389	黒褐色土包含層	第93図 PL.41	深鉢	(26.4)	－	－	口唇部上面と口縁直下に沈線１条ずつ	ミガキ	擦痕	1mm以下の砂粒混	暗褐色	福田Ｋ２式	口縁1/8
390	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	甕	(19.6)	－	－	体部に3条のヘラ描沈線文を施し、間に連続する刺突を施す	ハケ→沈線	ナデ	1.5mm以下の砂粒混	灰白色	外面に煤付着	－
391	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	甕	－	－	－	外面格子目状叩き	タタキ	ナデ	0.5mm以下の砂粒少量混	黄灰色	－	－
392	黒褐色土包含層	第93図 PL.40	杯	－	－	(6.2)	静止糸切	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	浅黄橙色	外面に煤付着	－
393	黒色土包含層	第94図	壺	(12.8)	－	－	－	口縁端部ナデ、他はミガキ	口縁端部ナデ、他はミガキ	2mm以下の砂粒混	橙色	－	口縁1/10
394	黒色土包含層	第94図 PL.40	壺	(14.2)	－	－	－	ハケ→ミガキ	ミガキ→ナデ	1.5mm以下の砂粒混	にぶい橙色	－	口縁1/4
395	黒色土包含層	第94図 PL.40	壺	(13.4)	－	－	－	ハケ→ミガキ	ミガキ	1mm程度の砂粒混	灰褐色	－	口縁1/4
396	黒色土包含層	第94図 PL.40	壺	－	－	－	肩部に3条以上の沈線文と綾杉文を施す	ナデ	ナデ	1.5mm以下の砂粒混	－	－	－
397	黒色土包含層	第94図 PL.40	壺	－	－	－	肩部に3条の突帯を貼り付ける	ハケ	上半ナデ、下半は調整不明	1mm以下の砂粒混	にぶい黄褐色	－	－
398	黒色土包含層	第94図 PL.40	壺	－	－	－	1条の沈線文を挟んで連続する刺突を施す	ハケ	ナデ	2mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	－	－
399	黒褐色土包含層	第94図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁部肥厚	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	西川津式Ｂ類	口縁1/10以下
400	黒褐色土包含層	第94図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁外面貫通孔、沈線文→ＬＲ縄文	細密条痕	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	頸部1/4
401	黒色土包含層	第94図	底部	－	－	(9.2)	平底	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	にぶい赤橙色	－	－
402	黒色土包含層	第94図	底部	－	－	(10.8)	平底	体部ミガキ、底面ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒多量混	淡黄色	－	－
403	黒色土包含層	第95図 PL.41	鉢	(13.2)	－	－	外面に押引沈線文	上半ナデ、下半条痕	条痕	1mm以下の砂粒混	明褐色	西川津式Ａ類	胴部1/4
404	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁微隆起帯上に列点	横位条痕	横位条痕	金雲母多量混、砂粒混	灰黄褐色	西川津式Ｂ類	口縁1/8
405	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁微隆起帯上に列点	横位条痕	横位条痕	2mm以下の砂粒混	暗褐色	西川津式Ｂ類	口縁1/10
406	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	縦位の隆帯上に刻み、押引沈線文	ナデ	条痕	1mm以下の砂粒、角閃石混	明褐色	西川津式Ａ類	胴部1/10以下

掲載番号	遺構	挿図 PL.	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
407	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	微隆帯上に列点	横位条痕	横位条痕	1mm以下の砂粒混	灰黄色	西川津式Ｂ類	胴部1/10以下
408	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	－	横位条痕	ナデ	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	西川津式Ｂ類	胴部1/10以下
409	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	沈線文	細密条痕	ナデ	2mm以下の石英、砂粒混	にぶい黄橙色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
410	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	沈線文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
411	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	外面沈線文	ナデ	ナデ	2mm以下砂粒混	明褐色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
412	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	外面沈線文	細密条痕	ナデ	2mm以下砂粒混	灰黄色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
413	黒色土包含層	第95図 PL.40	深鉢	－	－	－	外面沈線文→ＲＬ縄文	不明	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	布勢式～崎ヶ鼻式	胴部1/10以下
414	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁外面を肥厚させ沈線文の上下に刻み	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
415	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁外面を肥厚させ沈線文の上下に刻み	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10以下
416	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口唇上面に沈線１条、沈線文の外側に刻み	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	布勢式（上面施文型）	口縁1/10
417	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	波状口縁波頂部　沈線文	ナデ	ナデ	2mm以下の石英、砂粒混	にぶい黄橙色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
418	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	波状口縁波頂部　沈線文	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
419	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	波状口縁波頂部　沈線文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
420	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	外面肥厚させ沈線１条	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
421	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁肥厚させ沈線１条	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
422	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	沈線文→ＲＬ縄文	ナデ	ナデ	0.5mm以下の砂粒混	にぶい赤褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/9
423	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	沈線文→ＲＬ縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
424	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁肥厚させ沈線１条→ＲＬ縄文	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
425	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁肥厚させ沈線１条→ＲＬ縄文、頸部細密条痕	ナデ	ミガキ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
426	黒色土包含層	第95図 PL.40	分銅形土偶	－	－	－	両乳房剥離、乳房間に縦位沈線１条	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	暗褐色	後期	－
427	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口縁に貫通孔、刺突文→ＲＬ縄文	細密条痕	ミガキ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
428	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	外面に沈線文	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰白色	崎ヶ鼻式	胴部1/5
429	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	口唇部に沈線文、突起	ナデ	ケズリ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
430	黒色土包含層	第95図 PL.40	深鉢	－	－	－	口縁部肥厚させRL縄文	ミガキ	ミガキ	1mm以下の砂粒わずかに混	明褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
431	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	(21.2)	－	－	口縁肥厚させ刻み	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	口縁1/8
432	黒色土包含層	第95図 PL.40	深鉢	－	－	－	屈曲部に凹線２条	細密条痕	ナデ	1mm以下の砂粒混、金雲母混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	胴部1/4
433	黒色土包含層	第95図 PL.40	鉢	－	－	－	口縁外面にＬＬ縄文	横位ミガキ	横位ミガキ	1mm以下の砂粒多量混	灰黄色	後期中葉	口縁1/8
434	黒色土包含層	第95図 PL.40	浅鉢	(17.6)	－	－	口縁端面と端部外面にＬＬ縄文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	－
435	黒色土包含層	第95図 PL.40	鉢	－	－	－	口縁肥厚させＲＬ縄文	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	口縁1/10
436	黒色土包含層	第95図 PL.40	深鉢	－	－	－	焼成後穿孔	横位の粗いナデ	ナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	後期	口縁1/10
437	黒色土包含層	第95図 PL.40	深鉢	(29.6)	－	－	－	粗いナデ	粗いナデ	2mm以下の砂粒多量混	灰黄褐色	後期	口縁1/5
438	黒色土包含層	第95図 PL.41	深鉢	－	－	－	外面沈線文	条痕	ナデ	2mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	前期か	胴部1/8
439	黒色土包含層	第95図	底部	－	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	灰黄色	－	－
440	SD1 排土中	第97図	蓋	－	－	(5.3)	－	ナデ	ナデ	0.5～3mm程度の砂粒多量混	にぶい橙色	－	口縁1/4
441	SD1 排土中	第97図	甕	(37.2)	－	－	口縁端部に刻目	ハケ	ナデ→ハケ	0.5～1.5mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/4
442	1区	第97図	青磁碗	(15.8)	－	－	施釉	ナデ	ナデ	緻密	オリーブ灰色	－	－
443	1区	第97図	杯	－	－	(5.2)	底部回転糸切	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	橙色	－	－
444	1区	第97図	杯	－	－	(8.0)	底部糸切	ナデ	ナデ	0.5mm以下の砂粒混	橙色	外面赤彩	－

石器計測表（１区）

遺物番号	遺構	層位	挿図	PL.	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
S1	SD1	Ⅰ層	63	49	打製石鏃	2.2	1.8	0.5	1.7	黒曜石
S2	SD1	Ⅰ層	63	49	打製石鏃	2.3	1.6	0.3	1.0	黒曜石
S3	SD1	Ⅰ層	63	49	打製石鏃	(1.8)	1.2	0.3	0.4	安山岩
S4	SD1	Ⅰ層	63	44	打製石鏃	2.4	1.9	0.35	0.8	黒曜石
S5	SD1	Ⅰ層	63	44	打製石鏃	2.3	1.3	0.5	0.9	黒曜石
S6	SD1	Ⅰ層	64	44	スクレイパー	3.4	5.8	0.7	14.0	黒曜石
S7	SD1	Ⅰ層	64	44	(石錐？)	(2.9)	(2.0)	0.7	3.9	黒曜石
S8	SD1	Ⅰ層	64	42	石鍬	(10.3)	(6.8)	(1.1)	121	無斑晶安山岩
S9	SD1	Ⅰ層	64	42	石鍬	(7.7)	9.3	2.3	219	無斑晶安山岩
S10	SD1	Ⅰ層	64	44	石鍬	(6.7)	3.0	1.2	31.8	粘板岩
S11	SD1	Ⅰ層	64	42	石鍬	(8.5)	(8.1)	2.4	195	無斑晶安山岩
S12	SD1	Ⅰ層	64	42	石鍬	(7.5)	5.7	1.6	80.5	安山岩
S13	SD1	Ⅰ層	64	－	礫石器	8.9	6.4	5.0	335	安山岩
S14	SD1	Ⅰ層	64	43	礫石器	6.5	6.0	1.9	115	安山岩
S15	SD1	Ⅱ層	65	49	未製品？	3.2	1.5	0.6	2.9	黒曜石
S16	SD1	Ⅱ層	65	44	スクレイパー	2.8	6.2	1.3	24.0	黒曜石
S17	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜石
S18	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	1.6	1.4	0.3	0.6	安山岩
S19	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	2.0	(1.5)	0.4	0.5	黒曜石
S20	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	2.1	1.4	0.3	0.5	黒曜石
S21	SD1	Ⅱ層	66	－	打製石鏃	2.6	1.2	0.3	0.6	黒曜石
S22	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	2.4	1.5	0.2	0.7	安山岩
S23	SD1	Ⅱ層	66	44	打製石鏃	2.6	(1.9)	0.3	1.5	安山岩
S24	SD1	Ⅱ層	66	44	石鍬	4.0	2.1	0.5	3.4	無斑晶安山岩
S25	SD1	Ⅱ層	66	42	石鍬	(11.2)	11.3	3.2	691	安山岩
S26	SD1	Ⅱ層	66	42	石鍬	(13.3)	8.8	2.6	370	安山岩
S27	SD1	Ⅱ層	66	42	石鍬	16.3	8.4	2.7	480	無斑晶安山岩
S28	SD1	Ⅱ層	67	－	板状石器	(10.5)	(17.1)	2.7	370	安山岩
S29	SD1	Ⅱ層	67	44	不明石器	(6.6)	(4.0)	1.1	33.4	無斑晶安山岩
S30	SD1	Ⅱ層	67	43	礫石器	10.7	8.4	4.8	720	安山岩
S31	SD1	Ⅱ層	67	43	敲石	7.4	5.2	3.9	180	安山岩
S32	SD1	Ⅱ層	67	43	石錘	6.9	5.6	2.6	135	安山岩
S33	SD1	Ⅱ層	67	－	石錘？	(4.9)	5.3	1.4	50	安山岩
S34	SD1	Ⅱ層	67	43	礫石器	8.5	10.2	6.4	960	安山岩
S35	SD1	Ⅱ層	67	43	礫石器	18.7	11.3	6.3	2080	安山岩
S36	SD1	Ⅱ層	68	43	石錘	5.7	5.4	2.0	90	安山岩
S37	SD1	Ⅱ層	68	43	敲石	9.7	4.6	3.8	265	安山岩
S38	SD1	Ⅱ層	68	43	敲石	7.3	3.5	3.7	150	安山岩
S39	SD1	Ⅱ層	68	43	礫石器	10.1	8.1	5.7	705	安山岩
S40	SD1	Ⅱ層	68	43	石皿	(26.6)	(14.6)	6.5	3680	安山岩
S41	SD1	Ⅳ層	69	47	打製石鏃	2.8	1.8	0.4	1.7	黒曜石
S42	SD1	Ⅲ層	69	－	打製石鏃	(2.5)	2.0	0.5	1.5	黒曜石
S43	SD1	Ⅲ層	70	－	打製石鏃	(2.1)	(1.8)	0.4	1.1	黒曜石
S44	SD1	Ⅲ層	70	－	打製石鏃	(3.1)	(1.9)	0.6	2.1	黒曜石
S45	SD1	Ⅲ層	70	45	不明	3.7	9.0	2.1	95.5	玄武岩
S46	SD1	Ⅲ層	70	25	玉	1.6	1.4	1.0	3.2	滑石片岩
S47	SD1	Ⅲ層	70	25	石棒再利用品？	9.7	3.7	2.9	210	緑色片岩
S48	SD1	Ⅲ層	70	25	ハンマー？	(7.5)	2.2	2.3	55.5	粘板岩
S49	SD1	Ⅲ層	70	45	磨製石斧	(15.2)	(4.7)	3.8	395	緑色片岩
S50	SD1	Ⅲ層	70	－	磨製石斧	(6.0)	(4.2)	(2.5)	62.0	緑色片岩
S51	SD1	Ⅲ層	70	45	石鍬	(6.6)	8.0	2.1	145	無斑晶安山岩
S52	SD1	Ⅲ層	71	45	板状石器	(10.5)	(22.5)	2.5	650	安山岩
S53	SD1	Ⅲ層	71	45	板状石器	(12.0)	(12.3)	1.4	340	安山岩
S54	SD1	Ⅲ層	71	45	石鎌	(10.7)	6.0	2.0	160	安山岩
S55	SD1	Ⅲ層	71	45	石鍬	(10.2)	6.2	1.8	200	安山岩
S56	SD1	Ⅲ層	71	46	石鍬	(12.8)	15.1	2.7	760	安山岩
S57	SD1	Ⅲ層	72	46	石鍬	(16.5)	12.6	4.8	890	安山岩
S58	SD1	Ⅲ層	72	46	石鍬	(20.1)	13.5	3.0	933	無斑晶安山岩
S59	SD1	Ⅲ層	72	46	石鍬	(15.1)	15.1	3.6	850	無斑晶安山岩
S60	SD1	Ⅲ層	73	45	石鍬	(15.7)	9.4	2.4	490	無斑晶安山岩
S61	SD1	Ⅲ層	73	46	石鍬	(12.3)	(11.7)	2.9	650	無斑晶安山岩
S62	SD1	Ⅲ層	73	44	敲石	12.0	9.5	5.0	870	安山岩
S63	SD1	Ⅲ層	73	44	敲石	8.8	7.1	5.0	420	安山岩
S64	SD1	Ⅲ層	73	44	石皿	18.1	21.1	6.1	3615	安山岩
S65	SD1	Ⅳ層	74	47	打製石鏃	2.0	(1.4)	0.4	0.8	安山岩
S66	SD1	Ⅳ層	74	47	打製石鏃	1.8	1.5	0.2	0.6	安山岩
S67	SD1	Ⅳ層	74	47	石鏃未製品	2.8	2.8	0.9	6.3	黒曜石
S68	SD1	Ⅳ層	74	47	石鏃未製品	1.9	(1.9)	0.5	1.4	黒曜石
S69	SD1	Ⅳ層	74	47	磨製石斧	(6.2)	5.3	(2.9)	140	緑色片岩
S70	SD1	Ⅳ層	74	47	磨製石斧	(10.2)	5.3	1.9	190	緑色片岩
S71	SD1	Ⅳ層	74	47	礫石器	13.7	8.2	3.8	540	安山岩
S72	SD1	Ⅳ層	74	47	石錘	6.4	5.3	2.8	120	安山岩
S73	SD1	Ⅴ層	75	47	スクレイパー	3.1	5.4	1.4	20.2	黒曜石

遺物番号	遺構	層位	挿図	PL.	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
S74	ＳＤ１	Ⅴ層	75	47	石匙？	(2.4)	(4.0)	0.9	8.5	安山岩
S75	ＳＤ１	Ⅴ層	75	47	打製石鏃	(1.9)	(1.7)	0.5	1.0	黒曜石
S76	ＳＤ１	Ⅴ層	75	46	打製石斧	(7.1)	4.0	1.4	48.4	無斑晶安山岩
S77	ＳＤ１	Ⅴ層	75	47	石錘	6.7	5.9	1.4	87.5	安山岩
S78	ＳＤ１	Ⅴ層	75	47	石錘	6.6	4.5	2.1	77.0	安山岩
S79	ＳＤ１	Ⅴ層	75	47	石錘	6.7	(6.1)	1.8	81.5	安山岩
S80	ＳＤ１	Ⅵ層	76	48	石核	13.7	9.5	3.4	425	黒曜石
S81	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	打製石鏃	3.8	2.6	1.0	8.6	無斑晶安山岩
S82	ＳＤ１	Ⅵ層	77	47	打製石鏃	(2.0)	(1.4)	0.3	0.7	黒曜石
S83	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	敲石	10.5	9.3	5.1	595	安山岩
S84	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	礫石器	6.7	8.4	4.6	375	安山岩
S85	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	礫石器	8.5	10.4	5.1	550	安山岩
S86	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	礫石器	5.8	5.8	5.8	215	安山岩
S87	ＳＤ１	Ⅵ層	77	48	石錘	6.5	5.2	1.8	76.5	安山岩
S88	ＳＤ１	Ⅷ層	77	44	石皿	(22.4)	(25.0)	8.1	6500	安山岩
S89	ＳＤ１	XIII層	78	49	打製石鏃	(3.0)	2.0	0.4	1.8	無斑晶安山岩
S90	ＳＤ１	XII層	78	49	石鏃未製品	2.5	2.0	0.4	1.9	無斑晶安山岩
S91	ＳＤ１	XIII層	78	49	打製石鏃	(1.4)	1.1	0.3	0.3	黒曜石
S92	ＳＤ１	XIII層	78	48	スクレイパー	(5.3)	(5.9)	0.9	37.6	滑石片岩
S93	ＳＤ１	Ⅹ層	78	49	石核	6.1	3.8	3.5	101.0	黒曜石
S94	ＳＤ１	Ⅸ層	78	48	礫石器	13.9	6.6	4.1	660	閃緑岩
S95	ＳＤ２	埋土中	80	49	石錘	5.3	4.3	1.6	54.5	安山岩
S96	黒色土包含層	１層	96	50	打製石鏃	2.6	1.4	0.5	1.1	黒曜石
S97	黒色土包含層	１層	96	50	打製石鏃	(2.4)	(1.4)	0.4	1.0	無斑晶安山岩
S98	黒色土包含層	１層	96	50	打製石鏃	2.2	1.9	0.3	0.8	黒曜石
S99	黒色土包含層	１層	96	50	打製石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	無斑晶安山岩
S100	黒色土包含層	２層	96	50	打製石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	黒曜石
S101	黒色土包含層	２層	96	50	打製石鏃	(2.5)	1.5	0.3	0.5	黒曜石
S102	黒色土包含層	２層	96	50	石匙	(3.9)	(3.6)	0.6	9.1	安山岩
S103	黒色土包含層	２層	96	－	石鍬	(9.1)	(8.0)	3.3	230	無斑晶安山岩
S104	黒色土包含層	２層	96	－	石鍬	(11.4)	(7.3)	1.3	170	安山岩
S015	黒色土包含層	２層	96	－	石鍬	10.0	4.3	1.6	85.5	安山岩
S106	黒色土包含層	２層	96	－	石鍬	11.1	9.4	2.1	315	安山岩
S107	黒色土包含層	２層	96	－	石鍬	(11.0)	7.5	1.8	150	安山岩
S108	１区	－	97	－	スクレイパー	3.0	7.6	1.2	24.8	黒曜石
S109	ＳＤ１	埋土中	97	－	不明	1.7	4.0	0.3	3.3	黒曜石
S110	ＳＤ１	埋土中	97	49	打製石鏃	(2.7)	1.8	0.4	1.1	黒曜石
S111	ＳＤ４	埋土中	97	49	打製石鏃	2.5	2.4	0.4	1.7	黒曜石
S112	ＳＤ２	埋土中	98	49	打製石鏃	2.5	1.6	0.3	1.2	安山岩
S113	ＳＤ２	埋土中	98	49	打製石鏃	2.4	1.3	0.3	1.0	安山岩
S114	ＳＤ２	埋土中	98	49	打製石鏃	2.3	1.7	0.4	1.0	安山岩
S115	黒色土包含層	１層	98	50	打製石鏃	2.7	1.5	0.3	1.0	無斑晶安山岩
S116	黒色土包含層	１層	98	－	打製石鏃	2.5	1.5	0.3	0.9	黒曜石
S117	１区	撹乱土	98	－	打製石鏃	1.9	(1.5)	0.5	0.8	黒曜石
S118	黒色土包含層	１層	98	50	打製石鏃	(2.2)	(1.8)	0.35	1.1	黒曜石
S119	黒色土包含層	２層	98	50	打製石鏃	(1.9)	(1.4)	0.3	0.6	安山岩
S120	１区	－	98	－	打製石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	黒曜石
S121	１区	－	98	－	打製石鏃	(2.2)	(1.7)	0.6	1.7	黒曜石
S122	ＳＤ２	埋土中	98	49	打製石鏃	(1.2)	0.8	0.25	0.3	安山岩
S123	１区	－	98	－	石鏃未製品	2.1	1.7	0.35	1.3	黒曜石
S124	黒色土包含層	１層	98	50	石器素材	3.2	1.45	0.6	3.3	緑色凝灰岩
S125	ＳＤ４	埋土中	98	49	スクレイパー	3.7	7.1	1.4	33.8	黒曜石
S126	黒色土包含層	２層	98	50	不明	5.1	2.4	0.9	11.4	安山岩
S127	１区	－	98	－	石鍬	(11.8)	10.0	1.8	270	安山岩
S128	１区	撹乱土	98	－	石鍬	(11.0)	(6.1)	2.0	185	無斑晶安山岩
S129	１区	暗褐色土	99	49	磨製石斧	(12.3)	(5.4)	(3.7)	395	緑色片岩
S130	黒色土包含層	２層	99	50	石錘	4.7	3.7	2.2	44.0	安山岩
S131	黒色土包含層	２層	99	50	礫石器	9.1	5.0	1.6	105	安山岩
S132	黒色土包含層	２層	99	50	礫石器	(13.8)	11.0	5.6	760	安山岩
S133	黒色土包含層	２層	99	50	礫石器	18.2	11.3	9.2	3000	安山岩

第５章　２区の調査

１．調査の概要

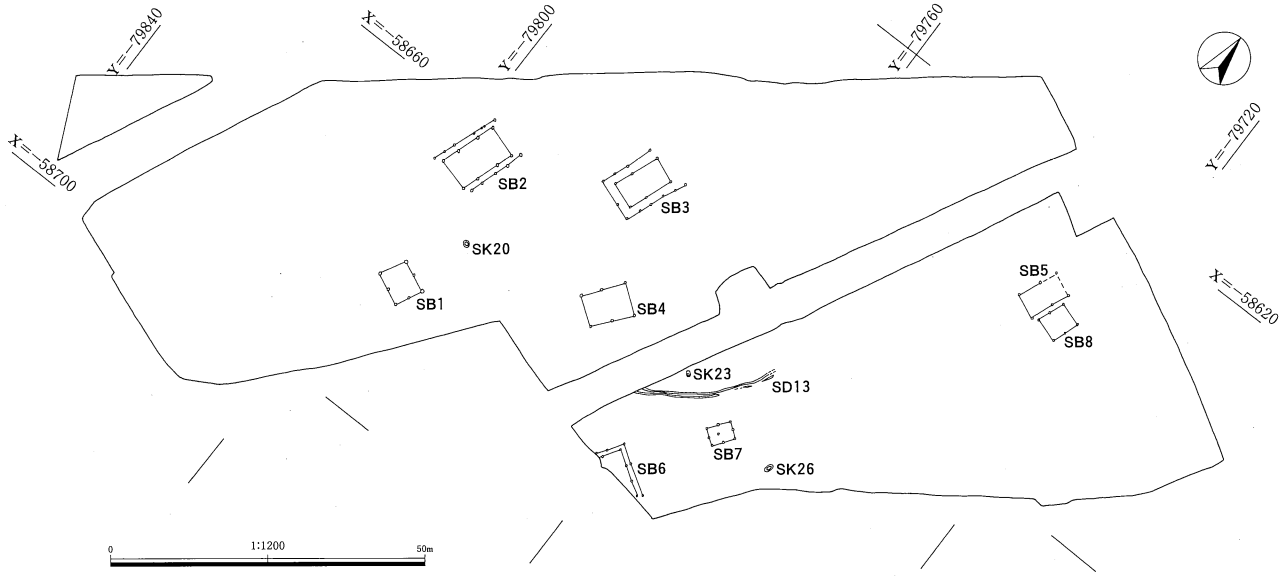
調査した遺構は、掘立柱建物跡８棟、ピット、土坑９、河道12、溝状遺構１である。遺物は、縄文時代後期・晩期、弥生時代前期から後期、古墳時代前期・後期、12世紀～14世紀（鎌倉時代から室町時代）のものが出土している。このうち主体をしめるのが集落跡の時期とみられる12世紀から14世紀にかけての土器である。大別して12世紀後半～13世紀前葉、13世紀後半～14世紀と二時期の遺物が出土している。陶磁器類は白磁２点（502・503）が黒色土包含層から出土している。

掘立柱建物跡は、ＳＢ５から土師器が出土しているほかは直接的に時期を証明できる遺物は出土していないが、埋土の類似する周辺のピット、土坑から出土している遺物などからみて12世紀後半～14世紀の遺構と判断される。建物主軸がほぼ平行するＳＢ２・３・５・８、およびＳＢ４・６・７はそれぞれ同時期に存在した可能性がある。ＳＢ２、ＳＢ８のピットには柱材の一部が残存しており、樹種はＳＢ２がすべてスダジイ、ＳＢ８がクリと判断された。土坑ＳＫ20、溝ＳＤ13からは13世紀～14世紀の所産とみられる鍋が出土しており、建物跡と関連するものと考えられる。これらの底面には掘削痕が残存しており隅丸方形の刃部をもつ鍬で掘削されたものとみられる。

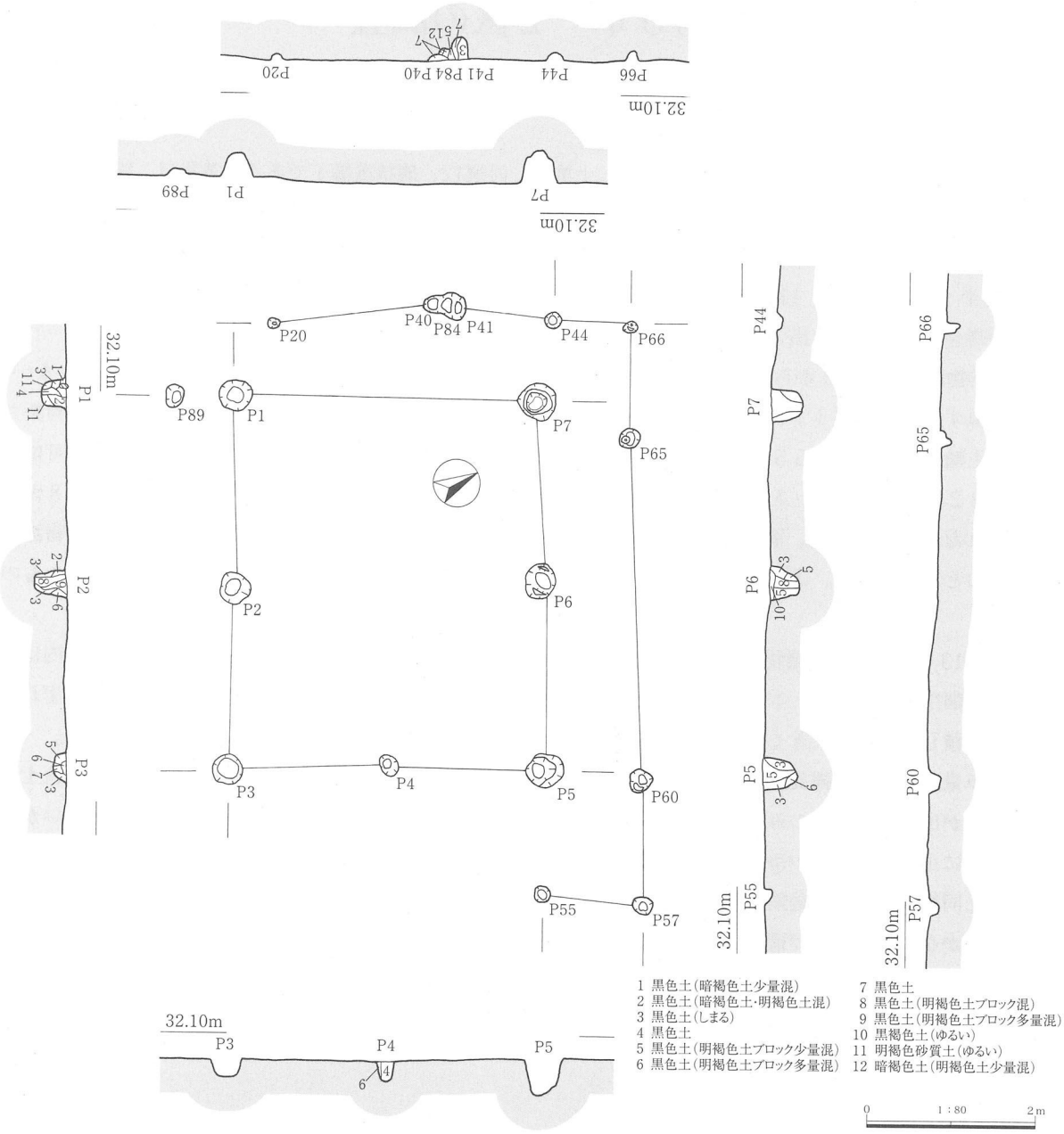
縄文から13・14世紀まで遺物を包含する黒色土、黒褐色土層を調査区内で部分的に検出した。調査区内は圃場整備による削平を考慮すると本来的には調査地一帯の地表を被覆していたものと考えられる。ただ、いずれも層位により堆積した時期が大きく異なり出土遺物に時間幅をもつため、二次的に堆積したものとみられる。

１区で多量に出土した縄文時代後期から弥生時代前期にかけての遺物は、１区に近い２区北東端の黒色土包含層で若干量が出土しているのみである。後世の削平を考慮しても２区側への集落の広がりは想定できないが、土坑底面中央に小ピットをもつ落とし穴状土坑１基を検出している。

１区側と同様に弥生時代後期から古墳時代後期にかけて流れたとみられる小規模な河道を検出している。埋土が比較的細かな礫と砂質土で構成されるため、周辺の河川から溢出した水が一時的に流れた流量変化の激しい河道であったと推測される。河道堆積物中の少数の遺物からは時期の特定は困難であるが、この時期の気候変動が小河道の形成に関係する可能性は考えられる。



第100図　２区集落遺構概念図



第101図　ＳＢ１

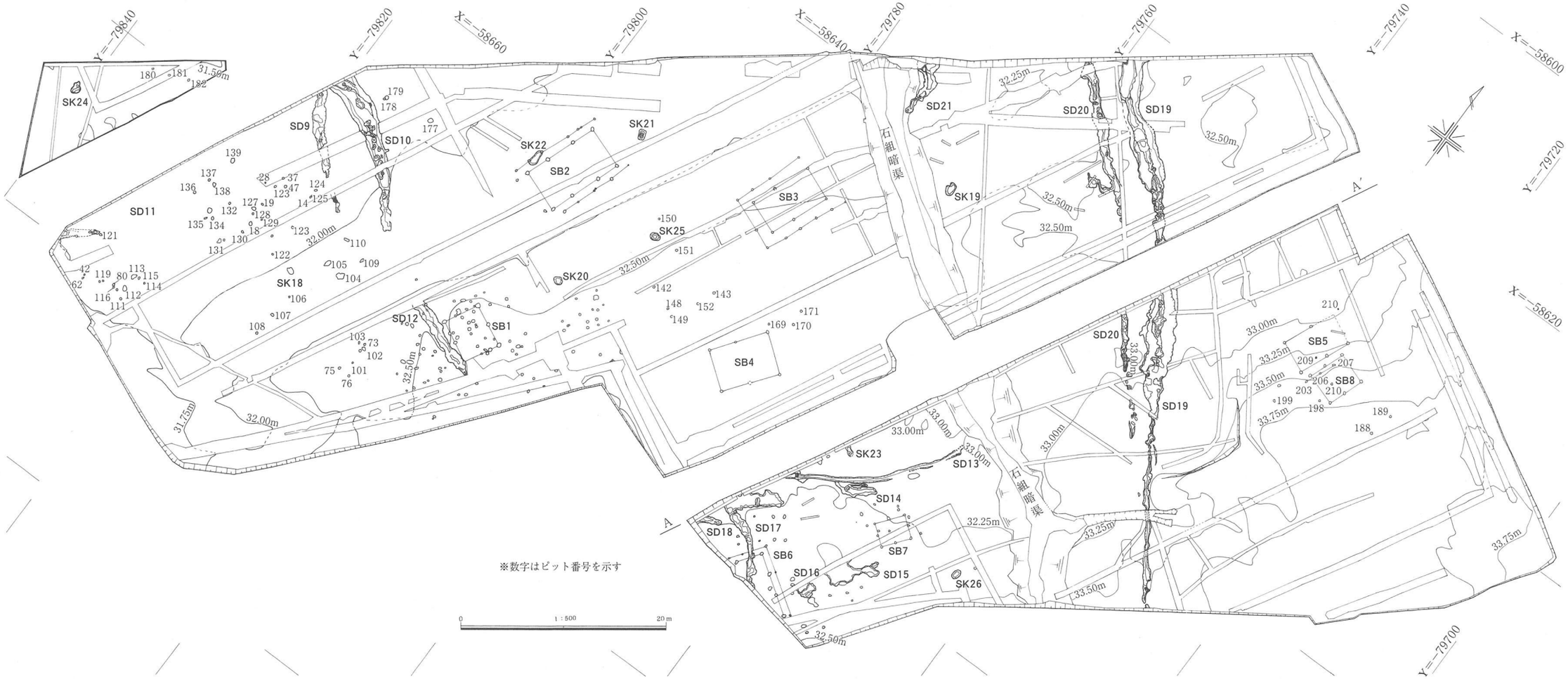
２．集落遺構の調査

ＳＢ１（第101、104図、ＰＬ．51）

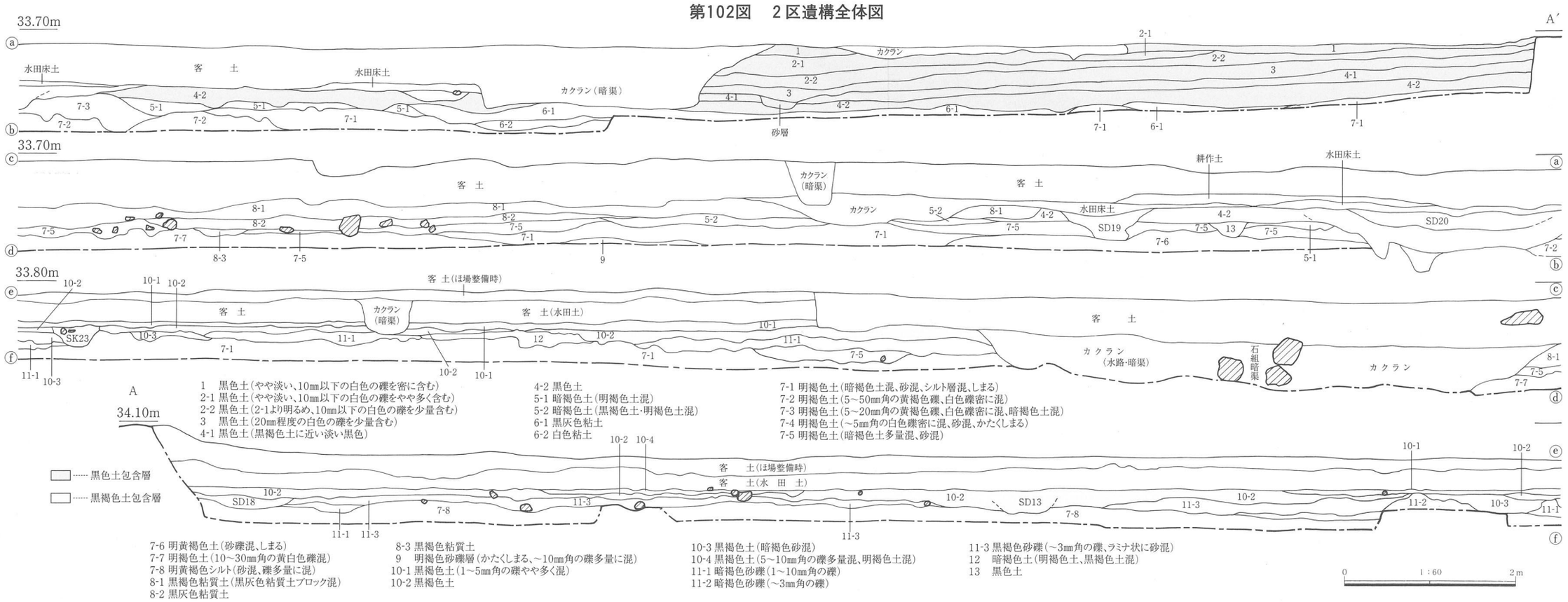
１間×２間の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－63°－Ｗである。建物の規模は、桁行約4.4ｍ、梁行約3.8ｍで、桁行方向の主柱穴間は約2.2ｍである。ピット土層断面から判断して直径10㎝～12㎝の柱材を使用したと推察される。北東・北西側には桁行梁行方向に平行するピットがあり、庇や縁側といった付随施設が想定される。遺物は出土していない。周辺に分布するピットがＳＤ５（古墳時代後期）を切ること、瓦質土器が出土しているピットがあることなどから判断して、13世紀以降のものであると考えられる。（小林）

ＳＢ２（第105図、ＰＬ．52、64、68）

１間×３間の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－21°－Ｅである。建物の規模は、桁行約7.5ｍ、梁行約4.3ｍで、主柱穴間は桁行がＰ２－Ｐ３、Ｐ６－Ｐ７は約３ｍであるほかは約2.2ｍである。Ｐ１・２・３・５には柱材が残存しており、樹種はすべてスダジイと鑑定された（特論参照）。また、柱材は現存する最大径が約11㎝である。ＳＢ２周辺は地下水位が高く、調査中に柱穴内に湧水がみられた。

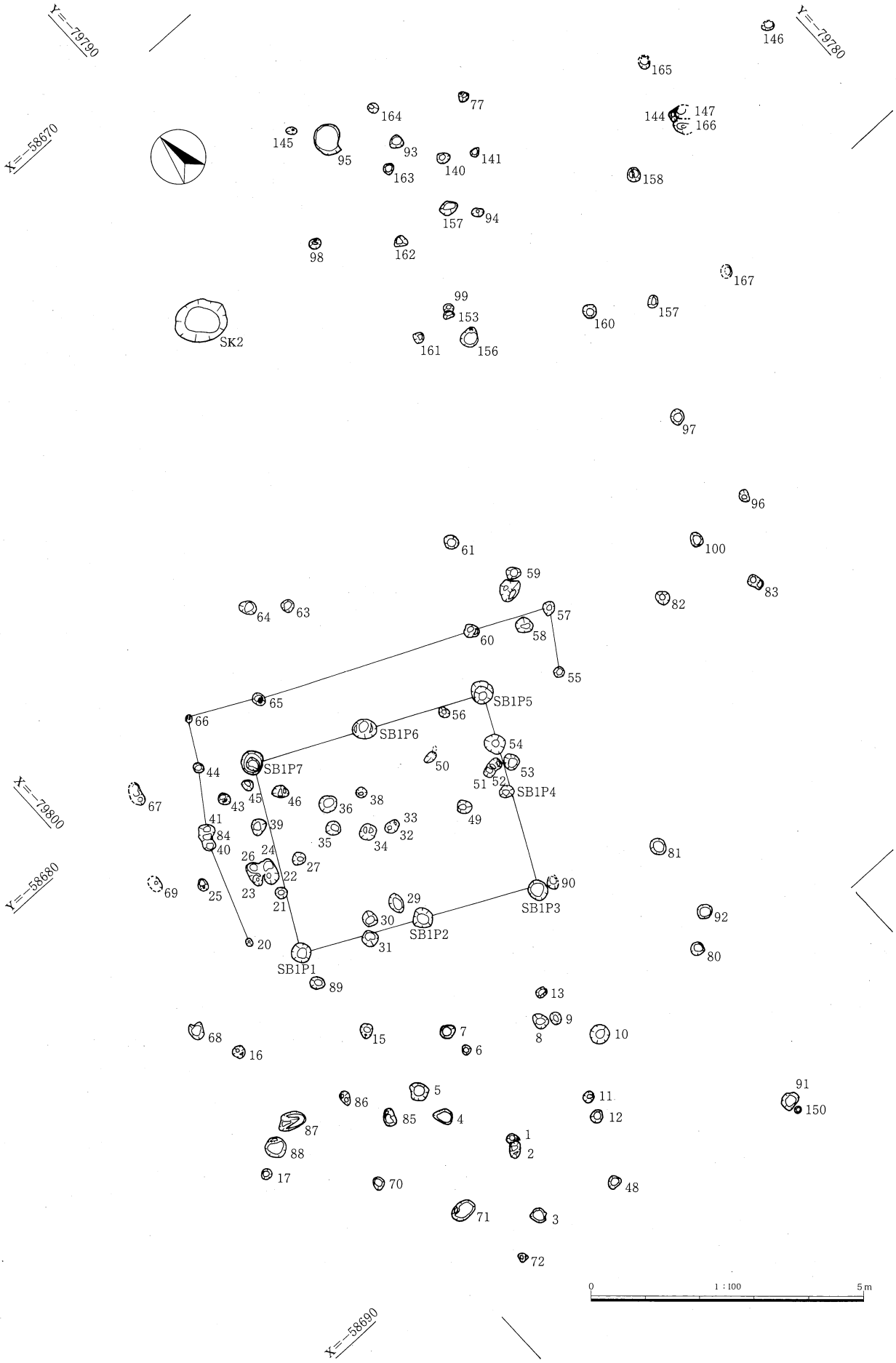


第102図　２区遺構全体図



1　黒色土（やや淡い、10㎜以下の白色の礫を密に含む）
2-1 黒色土（やや淡い、10㎜以下の白色の礫をやや多く含む）
2-2 黒色土（2-1より明るめ、10㎜以下の白色の礫を少量含む）
3　黒色土（20㎜程度の白色の礫を少量含む）
4-1 黒色土（黒褐色土に近い淡い黒色）
4-2 黒色土
5-1 暗褐色土（明褐色土混）
5-2 暗褐色土（黒褐色土・明褐色土混）
6-1 黒灰色粘土
6-2 白色粘土
7-1 明褐色土（暗褐色土混、砂混、シルト層混、しまる）
7-2 明褐色土（5～50㎜角の黄褐色礫、白色礫密に混）
7-3 明褐色土（5～20㎜角の黄褐色礫、白色礫密に混、暗褐色土混）
7-4 明褐色土（～5㎜角の白色礫密に混、砂混、かたくしまる）
7-5 明褐色土（暗褐色土多量混、砂混）
7-6 明黄褐色土（砂礫混、しまる）
7-7 明褐色土（10～30㎜角の黄白色礫混）
7-8 明黄褐色シルト（砂混、礫多量に混）
8-1 黒褐色粘質土（黒灰色粘質土ブロック混）
8-2 黒灰色粘質土
8-3 黒褐色粘質土
9　明褐色砂礫層（かたくしまる、～10㎜角の礫多量に混）
10-1 黒褐色土（1～5㎜角の礫やや多く混）
10-2 黒褐色土
10-3 黒褐色土（暗褐色砂混）
10-4 黒褐色土（5～10㎜角の礫多量混、明褐色土混）
11-1 暗褐色砂礫（1～10㎜角の礫）
11-2 暗褐色砂礫（～3㎜角の礫）
11-3 黒褐色砂礫（～3㎜角の礫、ラミナ状に砂混）
12　暗褐色土（明褐色土、黒褐色土混）
13　黒色土

第103図　調査区土層断面図

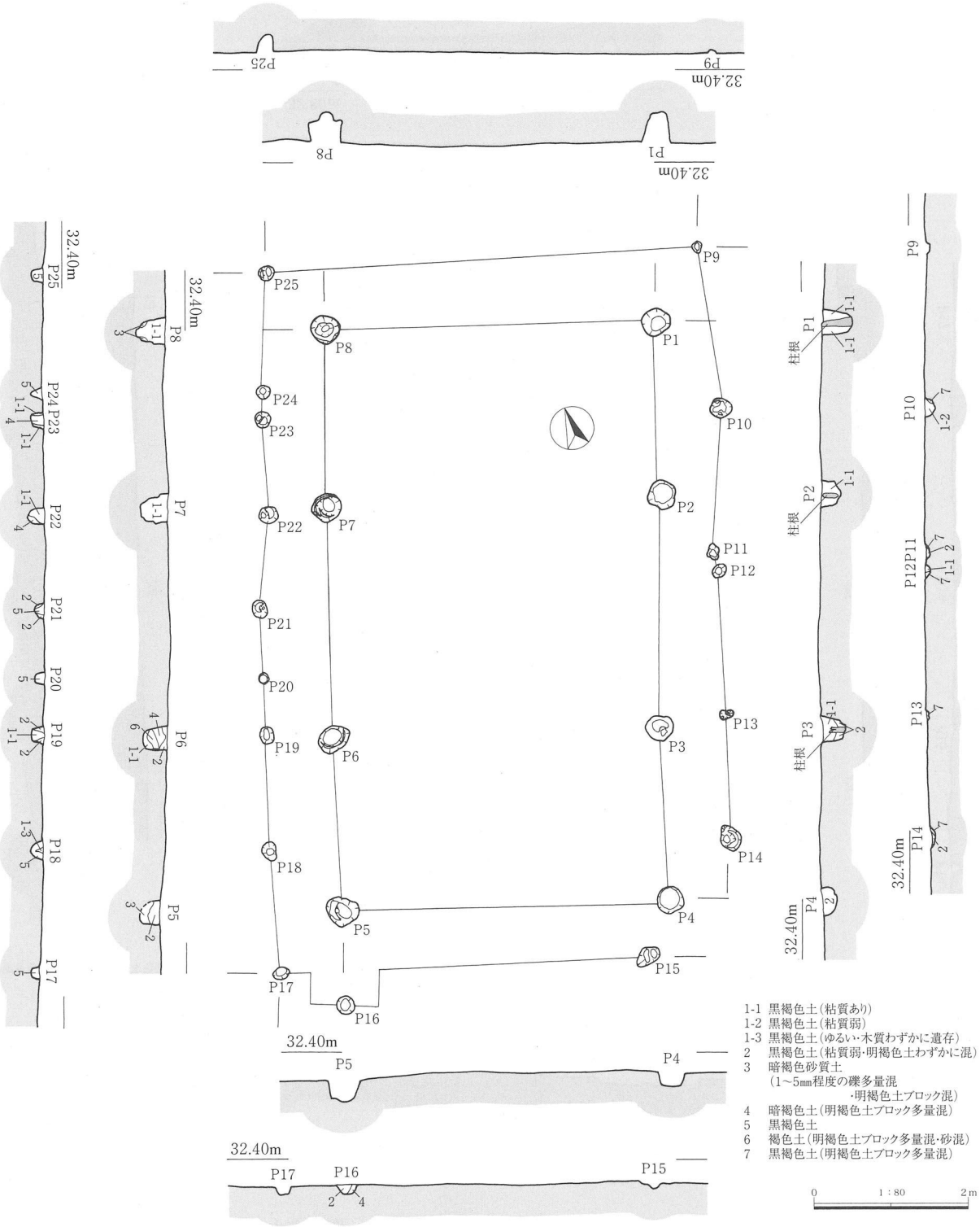


第104図　ＳＢ１周辺遺構平面図

第５表　ピット計測表

No.	規模(cm)	土色・遺物
P1	22−18−21	黒色土（暗褐色土混）
P2	28−20−20	黒色土（暗褐色土混）
P3	30−24−13	黄褐色土(黒色土･赤褐色土ブロック混)
P4	34−28−6	黒褐色土
P5	32−32−23	黒色土（明褐色土のブロック多量に混）
P6	18−16−3	黒色土
P7	28−26−21	黒色土（明褐色土ブロック少量混）
P8	30−26−31	黄褐色土(黒色土･赤褐色土ブロック混)
P9	22−20−17	黄褐色土（黒褐色土ブロック混）
P10	36−36−40	黒褐色土（黄褐色土ブロック混）
P11	22−20−10	黒褐色土
P12	22−16−12	黒褐色土（黄褐色土ブロック少量混）
P13	20−16−8	黒色土
P14	20−18−7	黒色土
P15	27−24−23	黄褐色土
P16	22−20−11	黒色土（明褐色土やや多く混）
P17	19−18−9	黒褐色土（黄褐色土混）
P18	48−37−6	黒色土
P19	20−18−8	黒褐色土　黒色土ブロック混
P20	16−13−7	黒褐色土（暗褐色土多量に混）
P21	22−20−8	黒褐色土
P22	28−17	黒色土（炭混）　石皿出土
P23	21−17−12	黒色土（暗褐色土混）
P24	36−8	黒色土（暗褐色土混）
P25	24−19−15	黒色土
P26	26−22−10	黒色土（暗褐色土ブロック混）
P27	24−23−19	黒色土（明褐色土ブロック混）
P28	16−15−5	黒褐色土（黒色土ブロック混）
P29	36−26−5	黒褐色土
P30	29−24−27	黒色土
P31	31−29−32	黒色土（明褐色土わずかに混）
P32	19−18−16	黒色土
P33	18−19	黒色土
P34	31−31−27	黒色土
P35	27−26−26	黒色土
P36	32−31−32	黒色土（明褐色土わずかに混）
P37	23−18−18	黒色土（明褐色土少量混）
P38	20−19−12	黒色土
P39	30−27−14	黒色土　瓦質土器出土
P40	23−5	黒色土（明褐色土多量に混）
P41	28−26	−
P42	15−14−9	黒色土
P43	22−21−14	黒褐色土（黄褐色土ブロック少量混）
P44	22−21−7	黒褐色土
P45	22−19−14	黒色土
P46	31−33−13	黒色土
P47	27−26−8	黒褐色土（黒色土ブロック混）
P48	24−23−24	黒色土
P49	27−23−42	黒色土
P50	23−15−20	黒褐色土
P51	22−15−13	黒色土
P52	28−19−8	暗褐色土
P53	27−27−10	−
P54	39−31−39	黒褐色土（黄褐色土ブロック混）
P55	18−18−7	黒色土
P56	21−17−9	黒色土（明褐色土混）
P57	25−19−14	黒色土
P58	31−29−23	黒色土
P59	27−22−18	黒色土
P60	27−25−14	黒色土
P61	27−16−19	黒色土（明褐色土混）
P62	26−16−13	黒色土
P63	25−24−14	黒色土（暗褐色土混）
P64	33−25−14	黒色土（明褐色土やや多く混）
P65	26−22−13	黒色土
P66	16−12−12	黒色土（暗褐色土混）
P67	42−4	黒色土
P68	33−28−12	黒褐色土（明褐色土やや多く混　炭混）
P69	28−13	黒色土
P70	27−21−13	黒色土
P71	42−29−12	黒色土
P72	17−16−6	黒色土
P73	24−23−14	黒色土（明褐色土混）
P74	32−30−15	黒色土　土器片出土
P75	24−17−10	黒色土
P76	23−18−7	黒色土
P77	19−19	黒色土（明褐色土少量混）
P78	17−5	黒色土
P79	23−5	黒色土
P80	26−26−22	黒色土
P81	30−27−26	黒色土
P82	26−22−16	黒色土
P83	29−22−20	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P84	22−13	−
P85	33−19−3	黒色土（暗褐色土多量に混）
P86	29−13−11	黒色土（暗褐色土多量に混）
P87	53−32−6	黒褐色土(黒色土、黄褐色土ブロック多量に混)
P88	40−38−3	黒褐色土
P89	27−23−12	黒色土
P90	23−19−16	黒色土
P91	34−28−29	黒色土（明褐色土のブロック多量に混）
P92	28−27−12	黒色土
P93	26−22	黒色土（明褐色土少量混）
P94	21−16−15	黒色土
P95	57−44	黒色土
P96	26−16−15	黒色土（明褐色土混）
P97	28−24−19	黒褐色土（明褐色土多量に混）
P98	21−21	黒色土
P99	19−10	黒色土
P100	27−23	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P101	10−13−9	黒色土　土器片出土
P102	39−38−5	黒色土
P103	30−16−4	−
P104	76−50−6	黒色土
P105	86−48−7	黒色土（明褐色土ブロック混）
P106	24−18−7	黒色土
P107	34−22−7	黒色土
P108	22−18−6	黒色土
P109	46−24−7	黒褐色土
P110	52−22−5	黒色土
P111	27−23−7	−
P112	56−43−4	黒色土
P113	52−33−2	黒色土
P114	18−16−1	黒色土
P115	24−21−6	黒色土
P116	20−20−9	黒色土
P117	21−19−11	黒色土
P118	32−22−6	黒色土
P119	28−16−12	黒色土
P120	21−12−13	黒色土
P121	31−17−8	黒色土
P122	22−19−11	黒色土
P123	25−23−14	黒色土（明褐色土ブロック少量混）
P124	27−20−8	黒色土
P125	19−16−9	黒色土
P126	22−19−15	黒褐色土　土師器出土
P127	38−35−12	黒色土
P128	23−19−8	黒色土（明褐色土ブロック混）
P129	6−5−17	黒色土
P130	18−15−5	黒色土（明褐色土少量混）
P131	38−22−7	黒色土　土器片出土
P132	22−22−11	黒色土（明褐色土ブロック混）
P133	18−16−2	黒色土
P134	30−23−2	黒色土
P135	32−24−10	−
P136	22−20−9	黒色土
P137	24−20−8	黒色土
P138	50−34−7	黒色土
P139	46−36−17	黒色土
P140	25−21−12	黒色土（明褐色土ブロック混）
P141	19−16−5	黒色土
P142	19−18−6	黒色土（暗褐色土多量に混）
P143	26−22−9	黒色土（明褐色土混）
P144	19−10	黒色土（暗褐色土少量混）
P145	19−13−4	黒色土
P146	22−18	黒色土
P147	17−14	黒色土
P148	21−20−11	黒色土（明褐色土ブロック多量に混）
P149	22−21−4	黒色土（明褐色土混）
P150	10−8−8	黒色土
P151	24−19−10	黒色土（暗褐色土多量に混）
P152	21−23−8	黒色土（明褐色土混）
P153	21−15−12	黒色土
P156	37−31−28	黒色土
P157	24−17−22	黒色土
P158	26−24−30	黒色土
P159	23−18−25	黒色土
P160	27−26−35	黒褐色土
P161	20−19−5	黒色土
P162	23−21−11	黒色土
P163	16−13−8	−
P164	15−13−3	黒色土（明褐色土ブロック多量に混）
P165	14−28	−
P166	21−12	黒色土（明褐色土多量に混）
P167	17−26	黒色土（明褐色土多量に混）
P169	23−17−12	黒色土（明褐色土多量に混）
P170	28−24−8	黒色土（明褐色土混）
P171	27−22−7	黒色土（明褐色土混）
P172	27−20−20	黒色土
P173	22−20−7	黒色土
P174	39−34−16	黒色土（明褐色土少量混）
P175	54−41−11	−
P176	28−23−12	−
P177	53−42−7	黒色土
P178	23−19−11	黒色土
P179	42−31−15	−
P180	18−17−7	黒色土
P181	23−20−9	黒色土
P182	29−21−6	黒色土（明褐色土混）
P183	28−23−2	暗褐色土砂礫
P184	23−21−12	黒色土（明褐色土ブロック少量混）
P185	25−22	黒色土（明褐色土ブロック少量混）
P186	27−6	−
P187	29−21−17	−
P188	24−22−9	黒褐色土　土師器皿（446）出土
P189	25−24−17	黒色土
P190	29−25−11	黒褐色土(明褐色土ブロック少量混)　須恵器高坏脚部出土
P191	26−19−24	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P192	17−14−15	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P193	25−19−5	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P194	17−15−10	黒褐色土
P195	27−23−31	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P196	23−17−22	黒褐色土（明褐色土ブロック多量に混）
P197	25−20−7	黒色土
P198	18−17−7	黒色土
P199	24−22−21	黒色土
P200	15−13−5	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P201	17−15−8	暗褐色土(明褐色土･黒褐色土ブロック混)　土器片出土
P202	28−19−2	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P203	18−18−9	黒色土
P204	19−16−4	黒褐色土
P205	23−19−5	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P206	19−18−17	黒色土
P207	25−20−16	暗褐色土
P208	19−19−10	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P209	24−21−10	黒色土
P210	13−11−4	黒色土（明褐色土ブロックやや多く混）
P211	22−15−3	暗褐色土(明褐色土･黒褐色土のブロック多量に混)
P212	19−19−8	黒褐色土
P213	22−18−4	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P214	19−18	−
P215	26−16−7	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P216	18−11−13	黒色土
P217	39−29−12	暗褐色土（明褐色土ブロック少量混）
P218	38−24−16	黒褐色土（明褐色土ブロック少量混）

規模は、長径－短径－深さ（cm）を表す。撹乱により測定できない場合は、直径－深さ（cm）を表す。

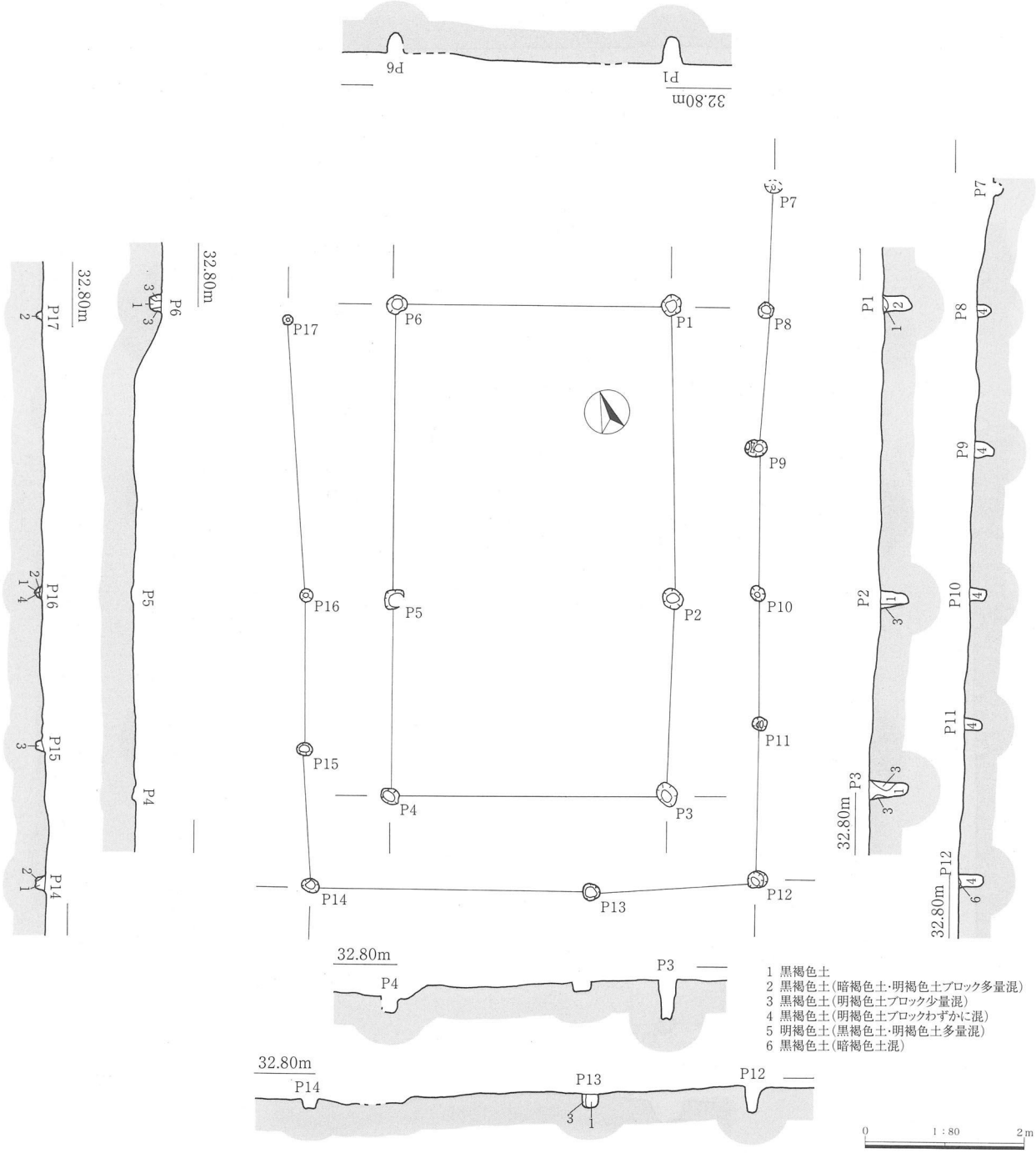


第105図　ＳＢ２

母屋の四方には桁行梁行方向に平行するピットがあり、庇や縁側といった付随施設があったことが考えられる。埋土は粘性をもつ黒色土である。遺物は出土していない。ＳＢ３と主軸がほぼ同じであることから同時期の所産である可能性がある。（小林）

ＳＢ３（第106図、ＰＬ．53）

１間×２間の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－22°－Ｅである。建物の規模は、桁行が約6.3m、梁行が約3.4mである。主柱穴間は桁行のＰ１－Ｐ２、Ｐ５－Ｐ６は約3.8mであるほかは約2.5mである。東西と南側には主柱穴列に平行するピットがあり、庇や縁側といった付随施設があったことが考えられる。ピット土層断面から判



第106図　ＳＢ３

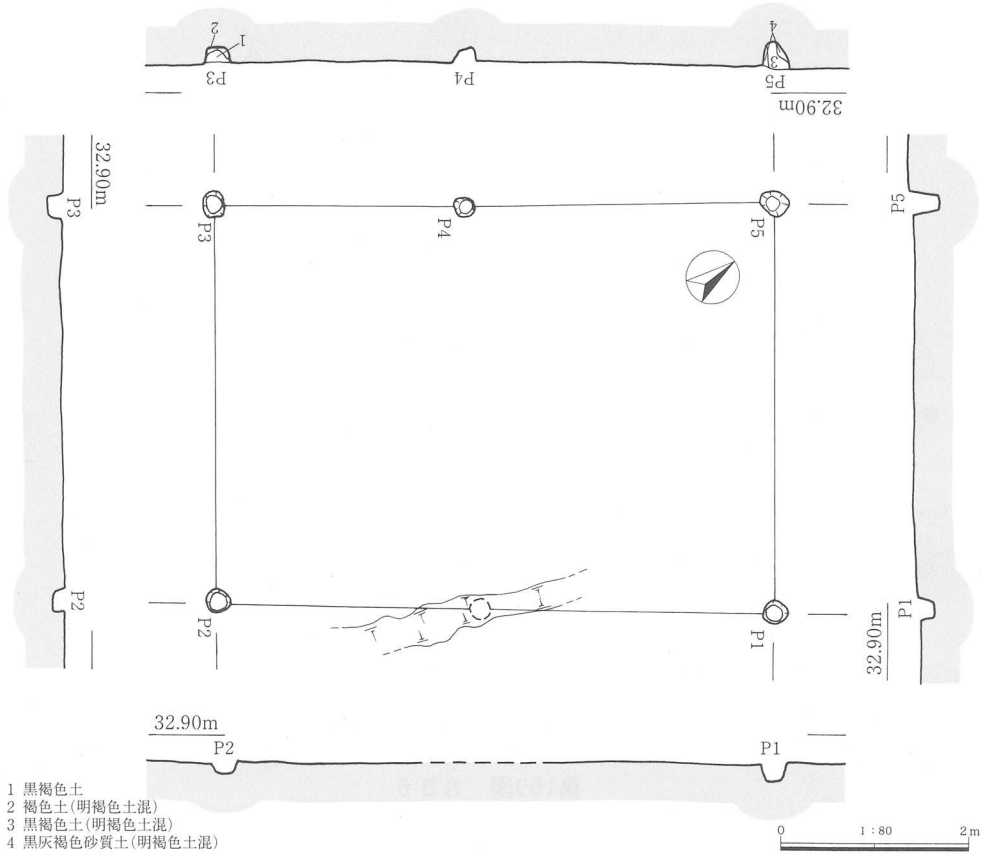
断して、主柱は径が約15㎝～17㎝程度の柱材を使用したと推察される。埋土中から遺物は出土していない。南側に位置するＳＫ20からは、13世紀から14世紀にかけての所産とみられる土師質の鍋（447）が出土しており、埋土も類似することから、ＳＢ２、ＳＢ３ともこの時期に該当する可能性がある。（小林）

ＳＢ４（第107図）

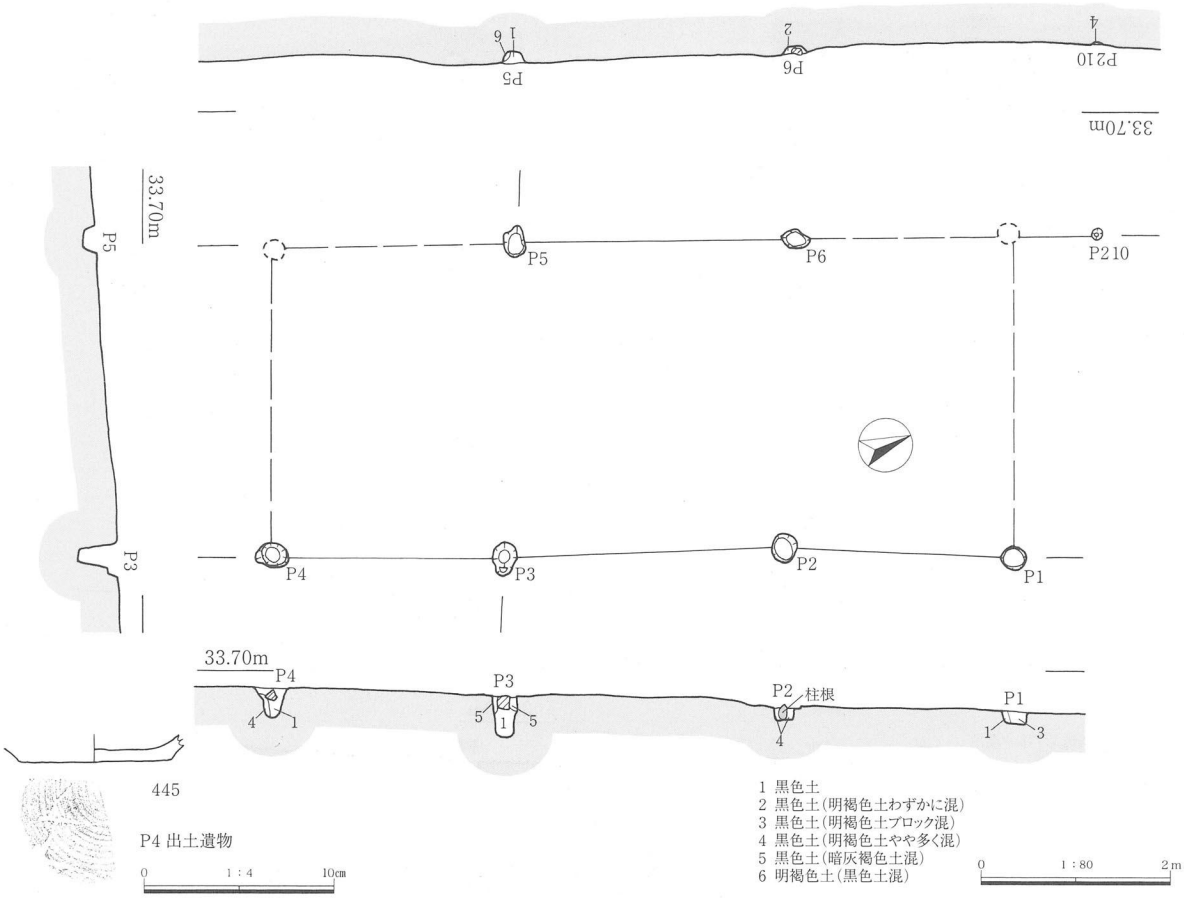
後世の耕作により部分的に柱穴が削平されているが、本来的には１間×２間の掘立柱建物跡と想定される。主軸はＮ－37°－Ｅである。規模は、桁行が約5.8m、梁行が約4.4mである。主柱穴間は桁行のＰ３－Ｐ４は約2.6m、Ｐ４－Ｐ５は約3.3mである。埋土中から遺物は出土していない。（小林）

ＳＢ５（第108図、ＰＬ．55、64）

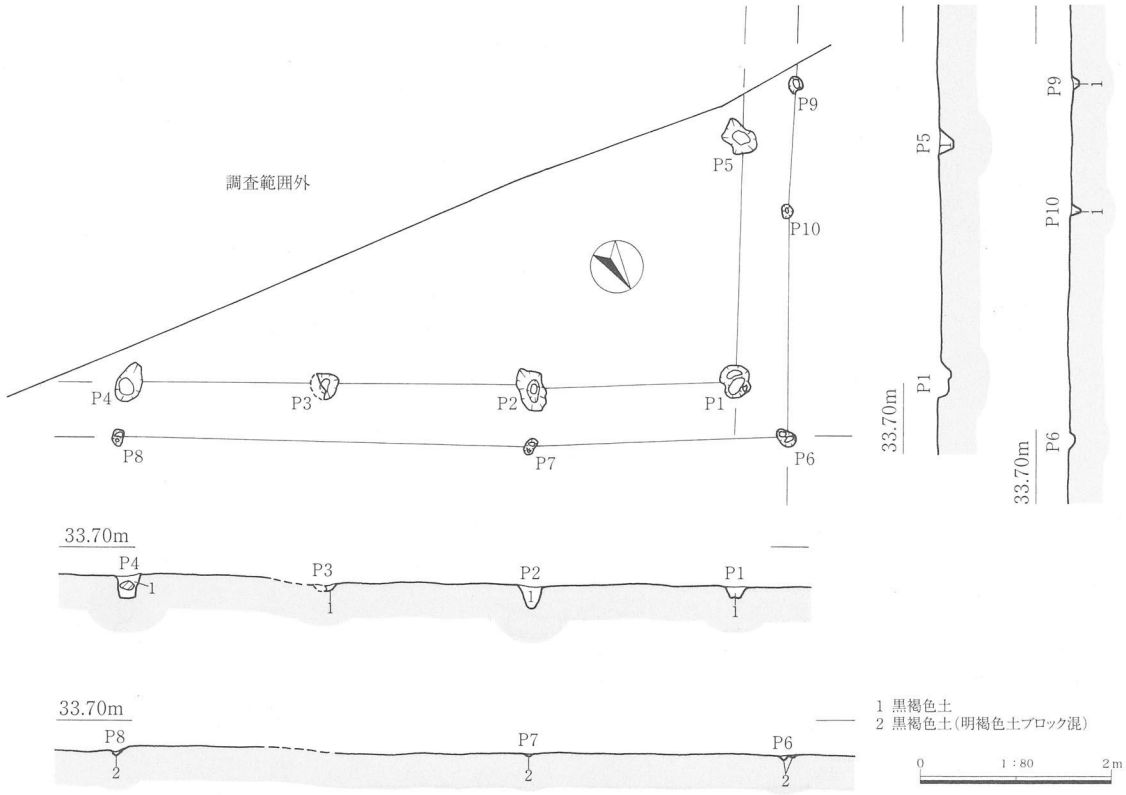
黒色土包含層の除去後に検出した遺構である。残存しないピットを部分的に補完すると１間×３間の掘立柱建



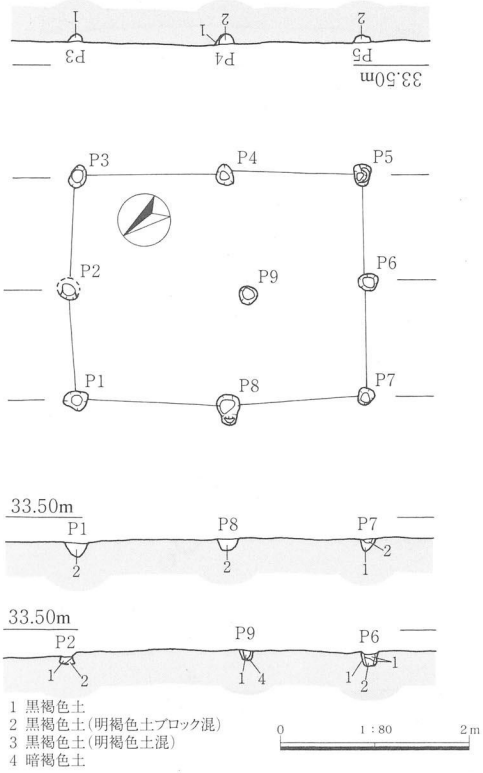
第107図　ＳＢ４



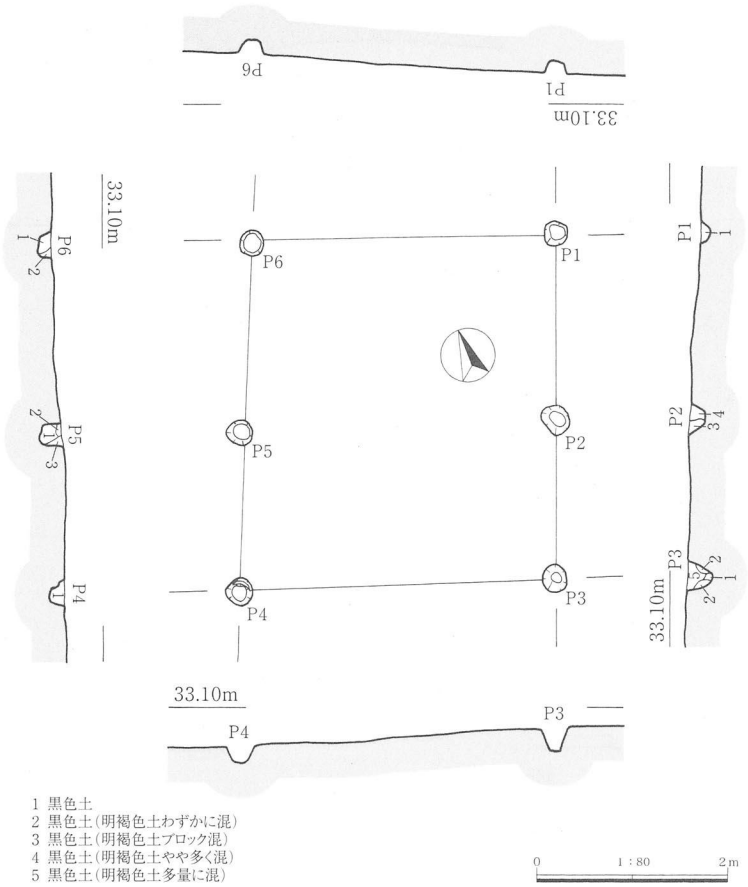
第108図　ＳＢ５



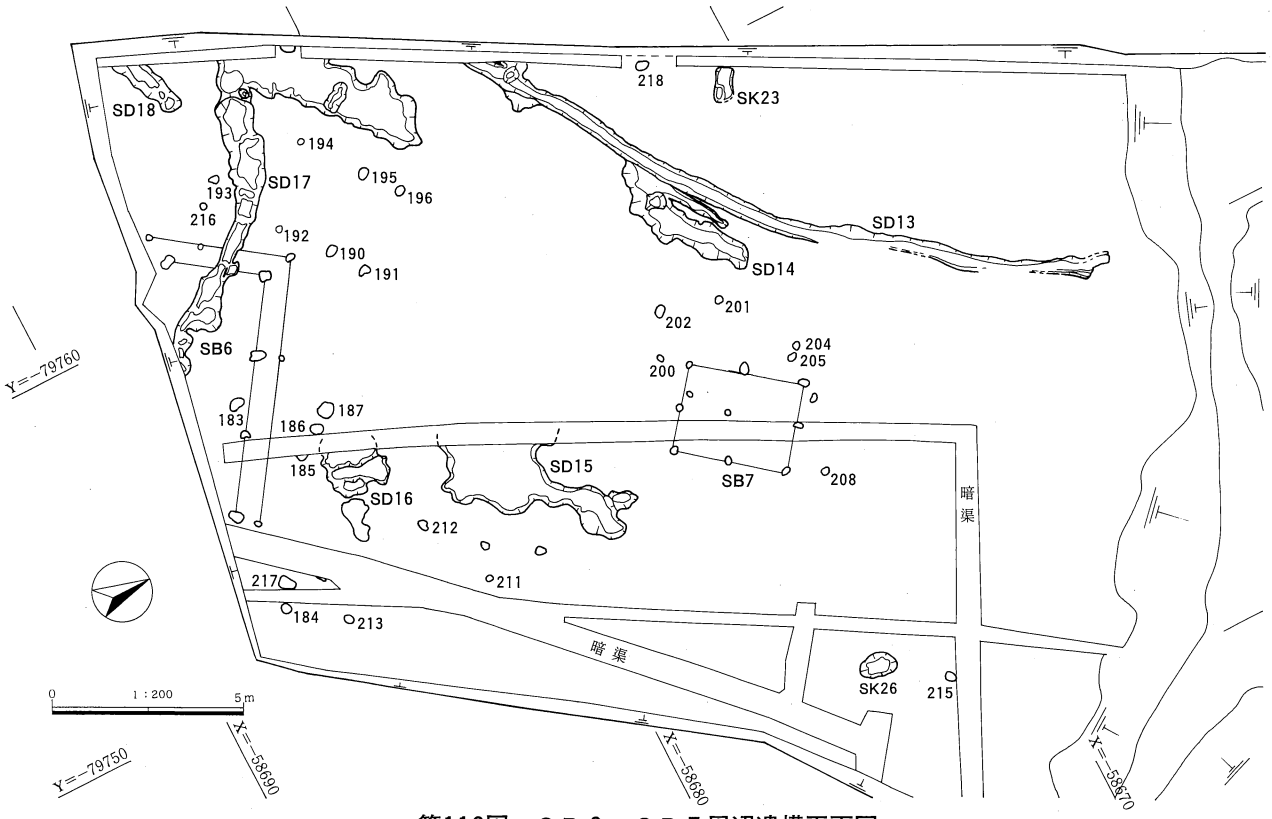
第109図　ＳＢ６



第110図　ＳＢ７



第111図　ＳＢ８



第112図　ＳＢ６、ＳＢ７周辺遺構平面図

物跡になる。主軸はＮ－22°－Ｅであり、ＳＢ８と平行関係にある。黒色土包含層土層断面の観察ではＰ２は黒色土中から掘削されていることから（ＰＬ.64－２）、本来的には黒色土をベースに掘削された遺構と考えられる。

建物の規模は、桁行が約7.7m、梁行が約3.4mである。主柱穴間は桁行のＰ１－Ｐ２、Ｐ３－Ｐ４は約2.4m、Ｐ２－Ｐ３は約2.9mである。Ｐ２には柱材が遺存しており、材はクリと鑑定された（特論参照）。

Ｐ４埋土中から底部糸切り痕の土師器坏（445）が出土しており12世紀～13世紀の所産と考えられる。これは黒色土の上層から出土した土器の年代観とも一致する。　（小林）

ＳＢ６（第109、112図、ＰＬ．53、54）

調査区境に位置するため全容は不明であるが、１間×３間以上の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－57°－Ｗである。主柱穴間は桁行約2.0m～2.2m、梁行約2.5mである。埋土中から遺物は出土していない。桁行、梁行ラインからそれぞれ60㎝前後離れた位置に小ピット（Ｐ６～Ｐ10）がみられる。必ずしも主柱穴に対応するわけではないが、縁側などの付随施設が想定される。　（小林）

ＳＢ７（第110、112図、ＰＬ．54）

２間×２間の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－38°－Ｅである。建物の規模は、桁行約3.0m、梁行約2.4mである。主柱穴間は、桁行約1.5m、梁行約1.2mである。建物の中央付近にＰ９が認められるが、位置がＰ４－Ｐ８ラインからずれているため総柱建物かどうかは判断できない。埋土中からは遺物は出土していない。　（小林）

ＳＢ８（第111図）

１間×２間の掘立柱建物跡である。主軸はＮ－19°－Ｅである。

建物の規模は、桁行約3.9m、梁行約3.3mである。主柱穴間は、Ｐ１－Ｐ２、Ｐ５－Ｐ６が約2.2m、Ｐ２－Ｐ３が約1.7mである。主軸がＳＢ５と平行するため、同時期の建物跡とみられる。Ｐ３から土器片が出土しているが、時期は判断できない。　（小林）

ＳＫ18（第114図、ＰＬ．55）

遺構の平面形は隅丸長方形を呈し、長軸は65㎝、短軸は54㎝である。検出面からの深さは19.5㎝である。埋土

は黒色土である。底面はほぼ平坦で、底面中央に長径16㎝、短径11㎝、深さ25.5㎝のピットをもつ。遺物は出土していない。（小林）

第113図　Ｐ188出土遺物

ＳＫ19（第115図）

遺構の平面形は不整な楕円形である。長軸は120㎝、短軸は87㎝で、検出面からの深さは、最も深いところで17㎝である。底面はいびつであり底面からの立ち上がりも緩慢であることから、人為的な掘削によるものか分からない。遺物は出土していない。（小林）

ＳＫ20（第116・117図、ＰＬ．56、71）

長軸は91㎝、短軸は78㎝である。検出面からの深さは最も深い部分で21㎝である。断面は逆台形を呈し埋土は黒色土である。底面は掘削痕により凹凸が残る。長さ15㎝～20㎝前後の掘削痕であり丸い刃先をもつ鍬またはスコップ状の道具で掘削したと考えられる。

埋土中から鍋片（447）が出土しており、13世紀後半～14世紀に比定される。（小林）

ＳＫ21（第118図、ＰＬ．56）

長軸は100㎝、短軸は67㎝で、平面形は長方形を呈している。検出面からの深さは63㎝である。底面は平坦で、長径22㎝、短径17㎝、深さ21.5㎝の底面ピットをもつ。底面ピットの埋土中から小角礫が出土している。土器は出土していない。いわゆる落し穴状土坑である。（小林）

ＳＫ22（第119図、ＰＬ．56）

調査区西側、ＳＢ２の西側に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸は160㎝、短軸は65㎝である。断面形は概ね逆台形を呈し、検出面からの深さは約13㎝である。埋土はおもに黒色土と暗褐色土である。南側の底面直上には人頭大の礫が２点出土した。遺物は出土していない。（森本）

ＳＫ23（第120、121図、ＰＬ．57、71）

調査区南側、ＳＤ13の北西側に位置する。遺構の北西側は調査範囲外である。平面形は隅丸の長方形を呈すと思われ、長軸は93㎝、短軸は86㎝である。検出面からの深さは約８㎝で、南側隅でわずかに深くなる。埋土は、黒褐色土である。448は土師器の杯である。内外面ともナデ調整され、底部には回転糸切痕が残る。13世紀代に位置づけられ、遺構の埋没時期を示すと考えられる。（森本）

ＳＫ24（第122図、ＰＬ．57）

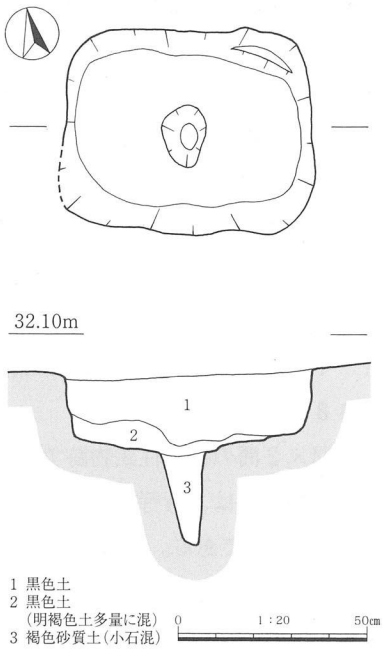
調査区西端付近に位置する。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸は130㎝、短軸は90㎝である。検出面からの深さは北側の最深部で約14㎝、南側はやや浅く約12㎝である。埋土は黒色土と暗褐色土である。遺物は出土していない。（森本）

ＳＫ25（第123図、ＰＬ．57）

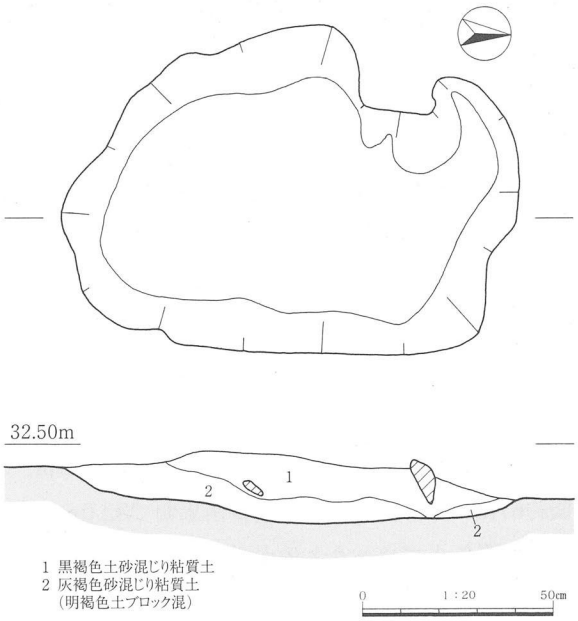
調査区西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸は96㎝、短軸は80㎝である。断面形は概ね逆台形を呈し、検出面からの深さは約57㎝である。埋土はおもに黒色土と黒褐色土である。遺物は出土していない。（森本）

ＳＫ26（第124図、ＰＬ．57、58）

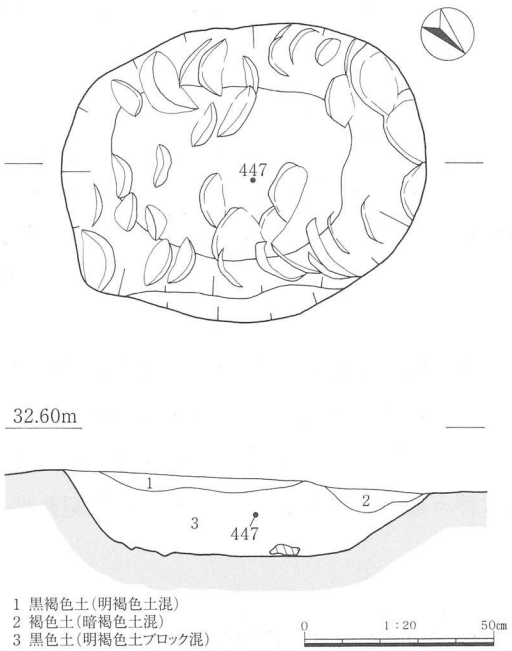
調査区南端付近に位置する。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸は94㎝、短軸は61㎝である。断面形は浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約12㎝である。埋土は黒褐色土と暗褐色土である。人頭大の角礫が詰め込まれた状態で出土した。17㎝～25㎝角の角礫が８点、10㎝角前後の角礫が２点出土している。腐朽した木が１点出土したが自然木とみられる。埋土は基盤層である明褐色土がブロック状に混じり人為的に埋められたものと考えられる。底面には幅約10㎝～16㎝程度の掘削痕がみられる。遺物は出土



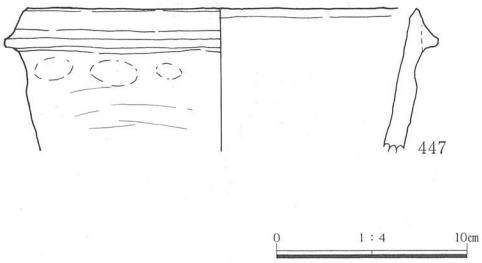
第114図　ＳＫ18



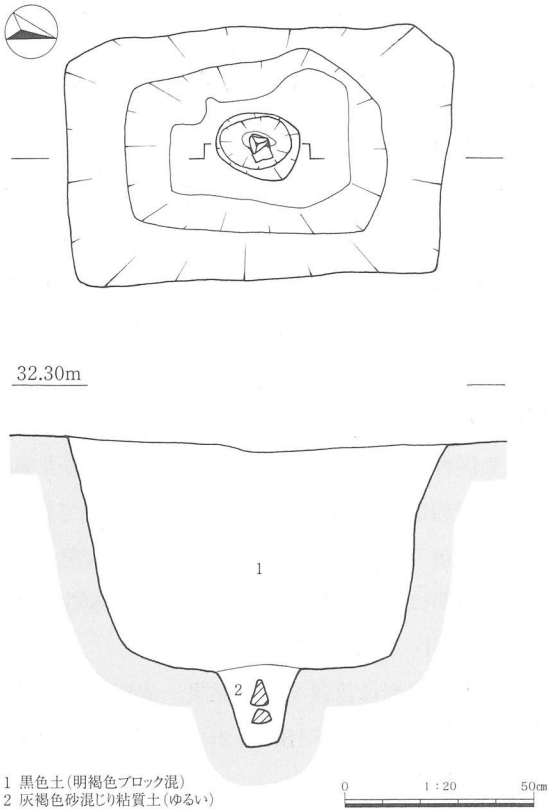
第115図　ＳＫ 19



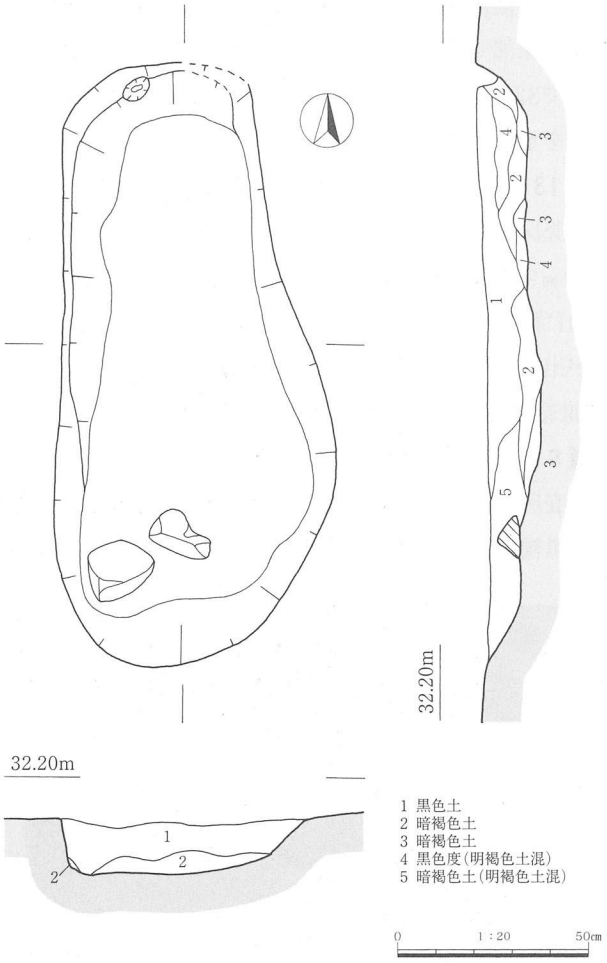
第116図　ＳＫ 20



第117図　ＳＫ 20 出土遺物



第118図　ＳＫ 21



第119図　ＳＫ 22

していないが、ＳＫ20、ＳＤ13にみられる掘削痕と類似するため12世紀～14世紀の遺構と考えられる。（森本）

３．河道・溝状遺構の調査

河道ＳＤ９（第125、126図、ＰＬ．58、59）

調査区西端付近に位置する。南東から北西方向に流れる自然河道である。検出面での幅は南東側約0.4ｍ、北西側約1.3ｍ、底部までの深さは南東端で約10㎝、北西端は約50㎝である。底面の標高は南東側で31.9ｍ、北西側で31.7ｍである。埋土はおもに黒褐色土または砂礫である。埋土中よりコンテナ1箱分程度の遺物が出土した。甕450は古墳時代中期後半～後期に位置づけられる。出土遺物の下限を示すことから、流路の埋没時期を示すと考えられる。（森本）

河道ＳＤ10（第125、127図、ＰＬ．58、59）

調査区西端付近に位置する。南東から北西方向に流れる自然河道である。検出面の幅は南東端部で約0.9ｍ、北西端部で約2.5ｍ、底部までの深さは南東側で約７㎝、北西側約67㎝である。底面の標高は南東側で32.0ｍ、北西側で31.6ｍである。埋土は黒褐色土または黒色土で、基盤層の明褐色土ブロックと砂が多く混じる。甕452は古墳時代後期に位置づけられ、流路の埋没時期を示すと考えられる。（森本）

河道ＳＤ11（第128図）

調査区南西端に位置する。北東－南西方向に流れる自然河道である。検出面での最大幅は南西側で80㎝、底部までの深さは約５㎝～18㎝である。埋土は黒褐色土で、砂を含む。弥生土器とみられる小片が10数点出土しているが時期は特定できない。（森本）

河道ＳＤ12（第129、130図、ＰＬ．59）

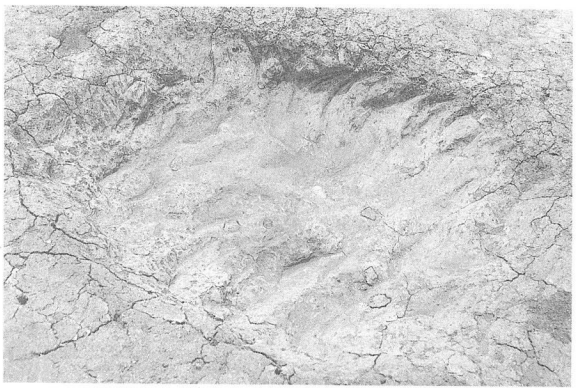
調査区南西側、ＳＢ１南側に位置する。北西－南東方向に流れる自然河道である。検出面での幅は約1.3ｍ、深さは最深部で約24㎝である。底面は淵状に落ち込む部分がありいびつである。底面の標高は南東側で32.51ｍ、北西側で32.30ｍである。埋土は黒色土であり砂を含む。甕457、458は古墳時代後期に位置づけられ、流路の埋没時期を示すと考えられる。（森本）

ＳＤ13（第131、132、133図、ＰＬ．54、60）

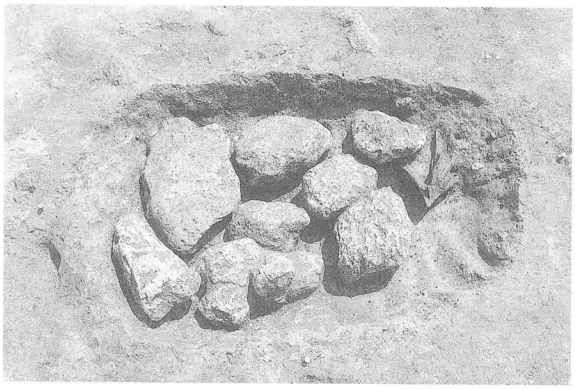
調査区南端付近に位置する。南西から北東方向に湾曲する。検出面の幅は約50㎝、底部までの深さは最深部で約20㎝である。埋土はおもに、黒褐色土または暗褐色砂質土である。底面には幅約15㎝～20㎝程度の掘削痕が部分的に確認できる。底面の標高は南西側で33.07ｍであり、ほぼ水平の底面をなす。検出面から土師器の鍋462などが出土した。黒褐色土包含層を切り掘削されていることから溝に伴う遺物と判断した。鍋462は12世紀後半～13世紀に位置づけられ、埋没時期を示すと考えられる。（森本）

河道ＳＤ14（第132図）

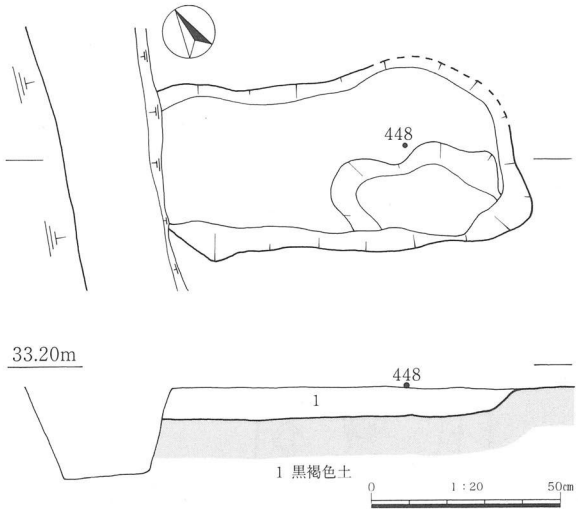
調査区南端付近に位置する河道である。検出面での幅は約1.4ｍ、底部までの深さは最深部で約19㎝である。埋土は黒褐色土と暗褐色砂質土、暗褐色砂礫層である。ＳＤ13に切られる。遺物は出土していない。（森本）



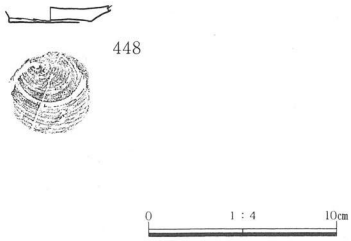
ＳＫ20　底面掘削痕検出状況



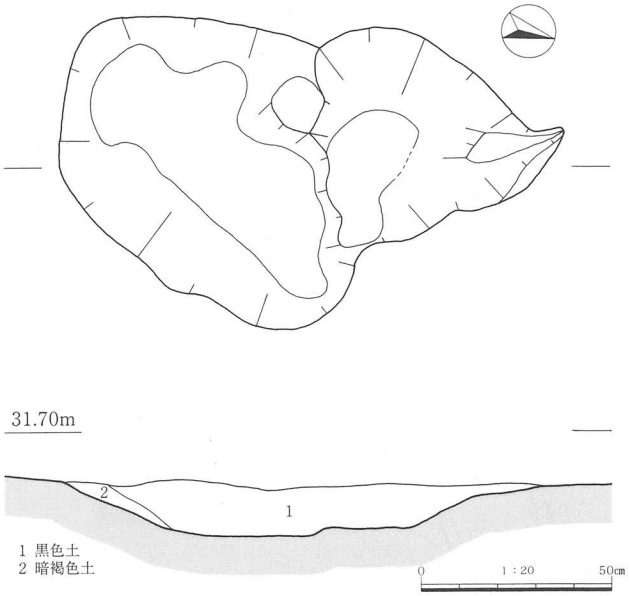
ＳＫ26　礫出土状況



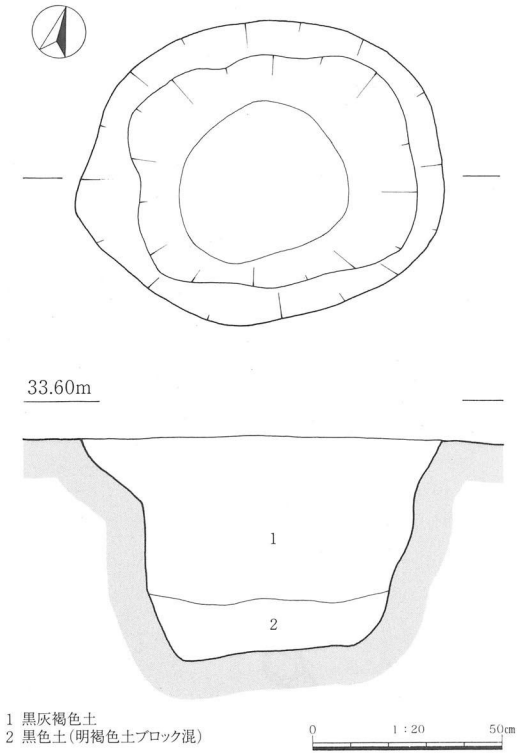
第120図　ＳＫ 23



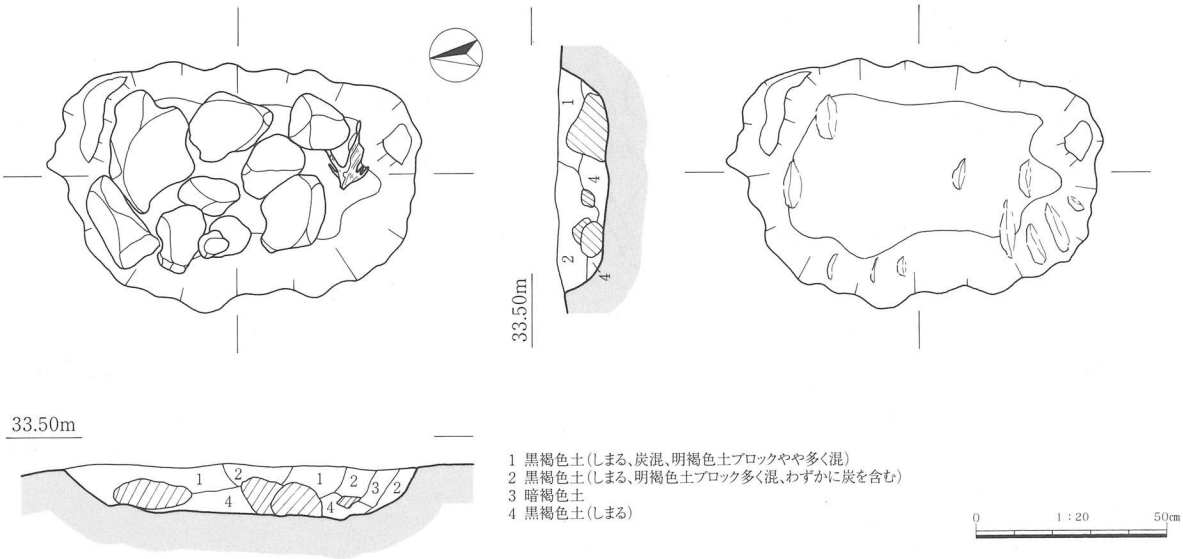
第121図　ＳＫ 23 出土遺物



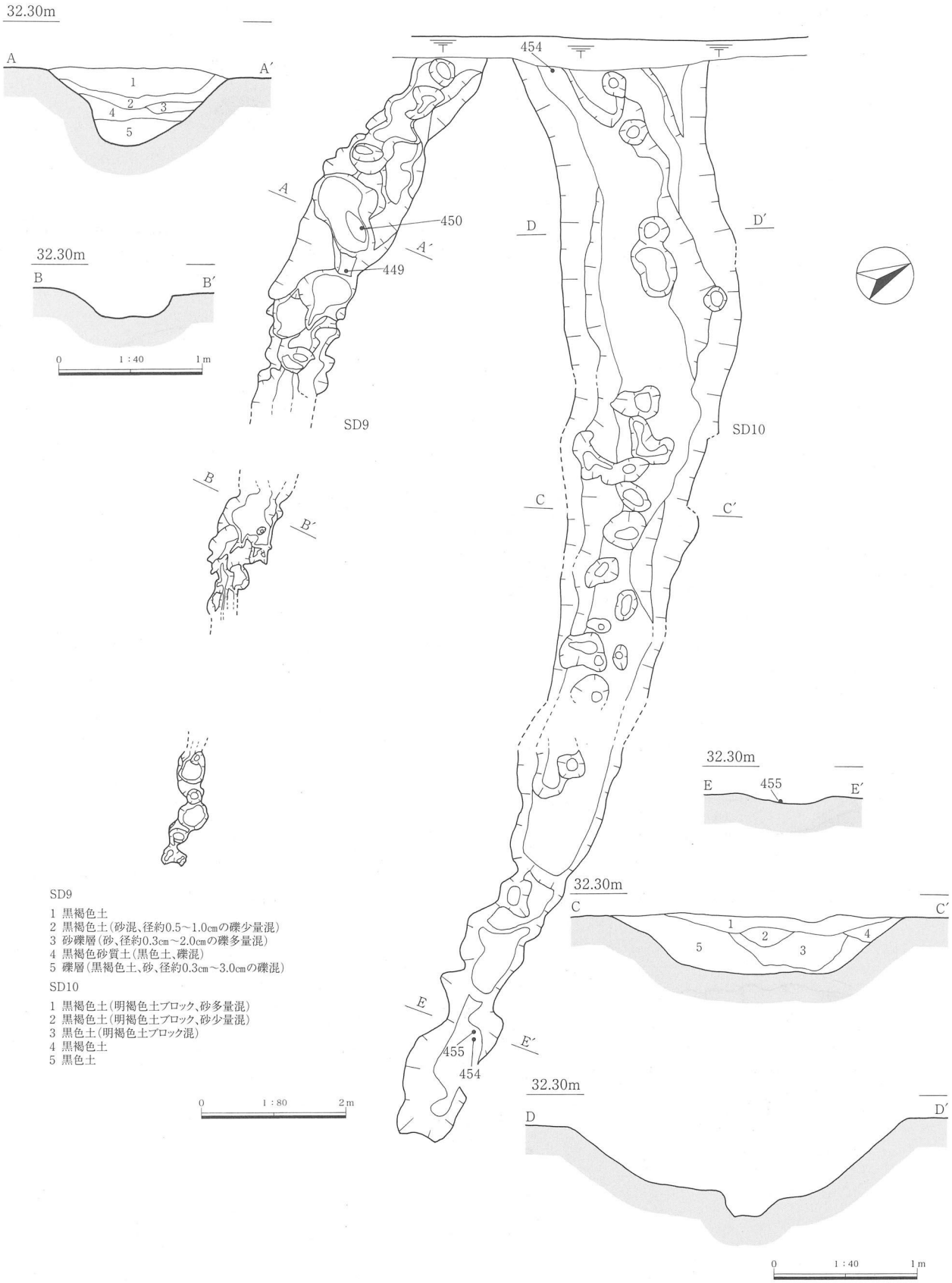
第122図　ＳＫ 24



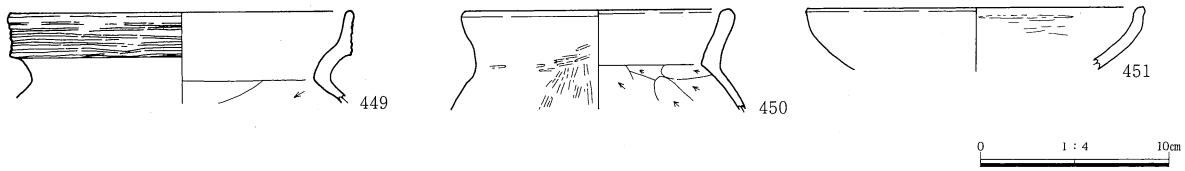
第123図　ＳＫ 25



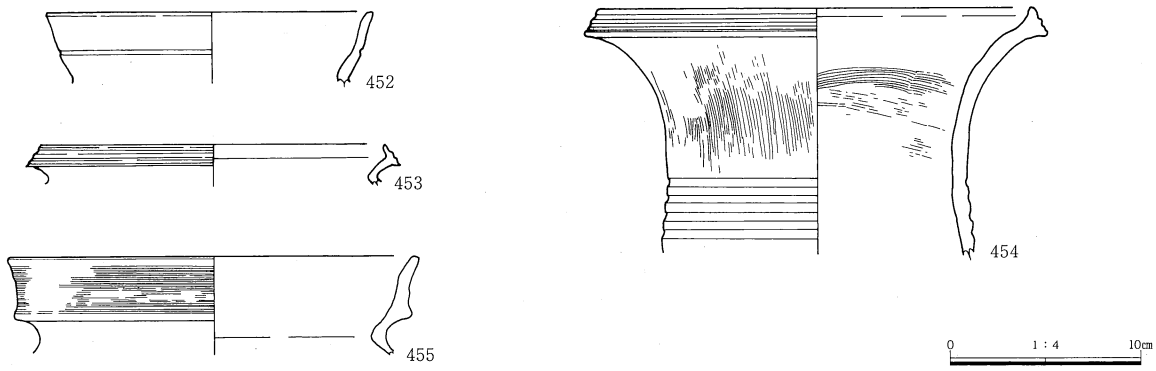
第124図　ＳＫ 26



第125図　河道ＳＤ９、河道ＳＤ10



第126図　河道ＳＤ９出土遺物



第127図　河道ＳＤ10出土遺物

河道ＳＤ15（第131、132、133図、ＰＬ．62）

調査区南端付近に位置する。北東－南西方向に主軸をとる河道である。検出面での幅は北東側で約1.0m、南西側で約2.2m、深さは概ね約7.5㎝である。埋土はおもに褐色または暗褐色の砂礫である。463は土師器の坏である。内湾する体部で、底部には回転糸切痕が残る。12世紀末～13世紀に位置づけられ、河道の埋没時期を示すと考えられる。（森本）

河道ＳＤ16（第131、132図）

調査区南端付近に位置する。ほぼ北西－南東方向に主軸をとる河道である。検出面での幅は北西側で約3.2m、南東側で0.8m、底部までの深さは最深部で約14.7㎝である。埋土はおもに黒褐色土と暗褐色の砂礫である。遺物は出土しておらず時期は不明である。（森本）

河道ＳＤ17（第131、132図、ＰＬ．62）

調査区南端付近に位置する。本来的には２本の河道と思われる。北側の検出面での幅は約3.3m、底部までの深さは約10.0㎝～18.5㎝、南側の検出面での幅は約2.0m、底部までの深さは約17.7㎝～27.0㎝である。埋土はおもに黒褐色土と暗褐色の砂礫である。埋土中より突帯文土器の小片が出土している。（森本）

河道ＳＤ18（第131、132図）

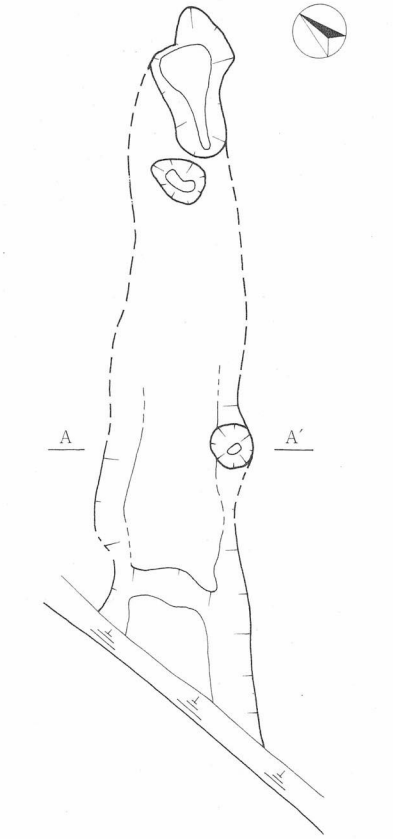
調査区南端付近に位置する。北東－南西方向に軸をとり、検出面での幅は約1.4m、底部までの深さは約13㎝である。埋土は黒褐色土であり砂層をラミナ状に含む。遺物は出土しておらず時期は不明である。（森本）

河道ＳＤ19（第135、138、139図、ＰＬ．61）

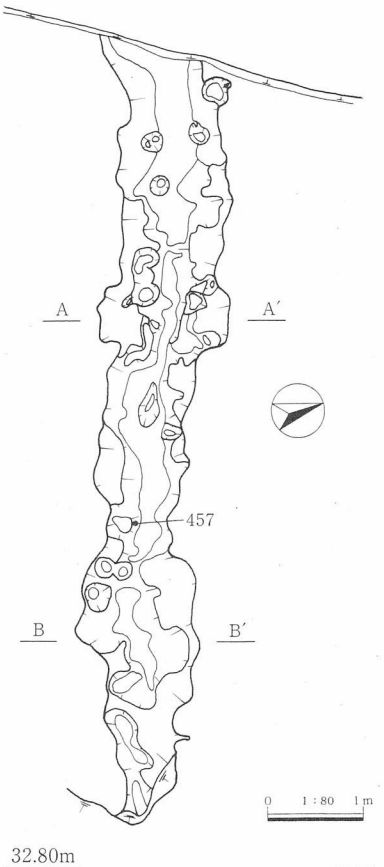
調査区東端付近に位置する。南東方向から北西方向にほぼ直線的に流れる河道である。検出面の幅は約0.35m～1.0m、底部までの深さは約10㎝～50㎝である。底面の標高は南東側で33.1m、北西側で32.1mである。埋土は概ね黒褐色砂混じり粘質土であるが、底面には淵状にえぐれている部分があり、この部分には砂礫が堆積していた。467は須恵器の甕の体部片である。古墳時代後期に比定される。遺物の時期的な下限を示すことから、河道の埋没時期を示すと考えられる。466は頸部に円形の透かしをもつ甕の口縁部である。弥生時代中期中葉に位置づけられる。（森本）

河道ＳＤ20（第134、135、139、140図、ＰＬ．60、61、62）

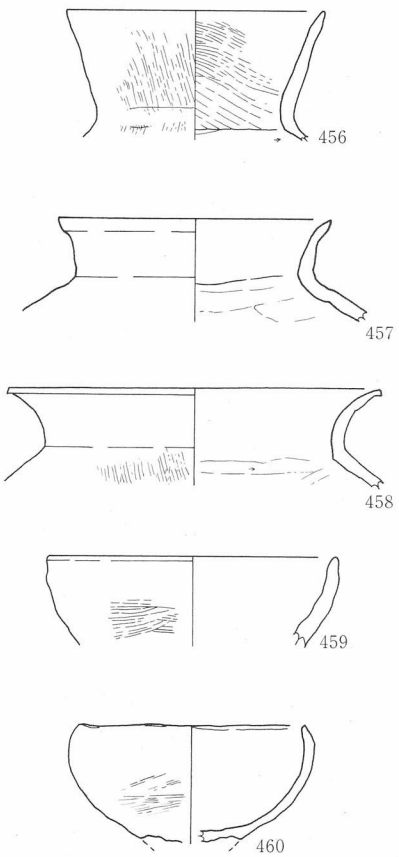
調査区東端付近に位置する。南東方向から北西方向に流れる河道である。検出面の幅は約0.35m～3.0m、底部までの深さは約15㎝～117㎝である。底面の標高は南東側で33.60m、北西側で31.87mである。底面には淵状と



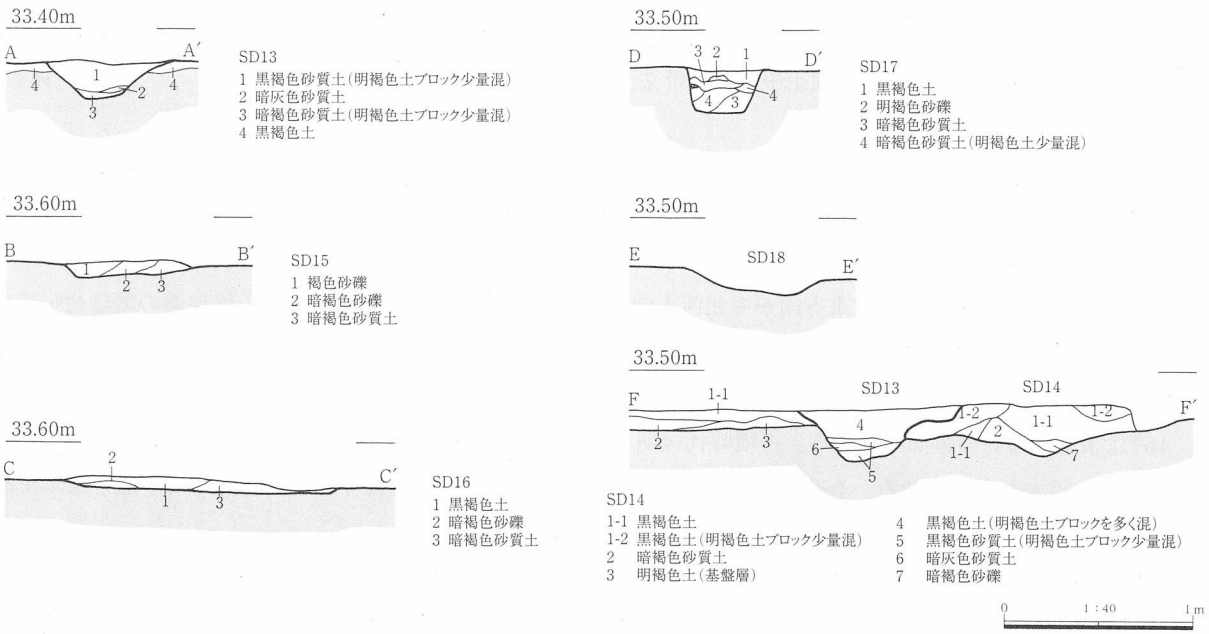
第128図　河道ＳＤ 11



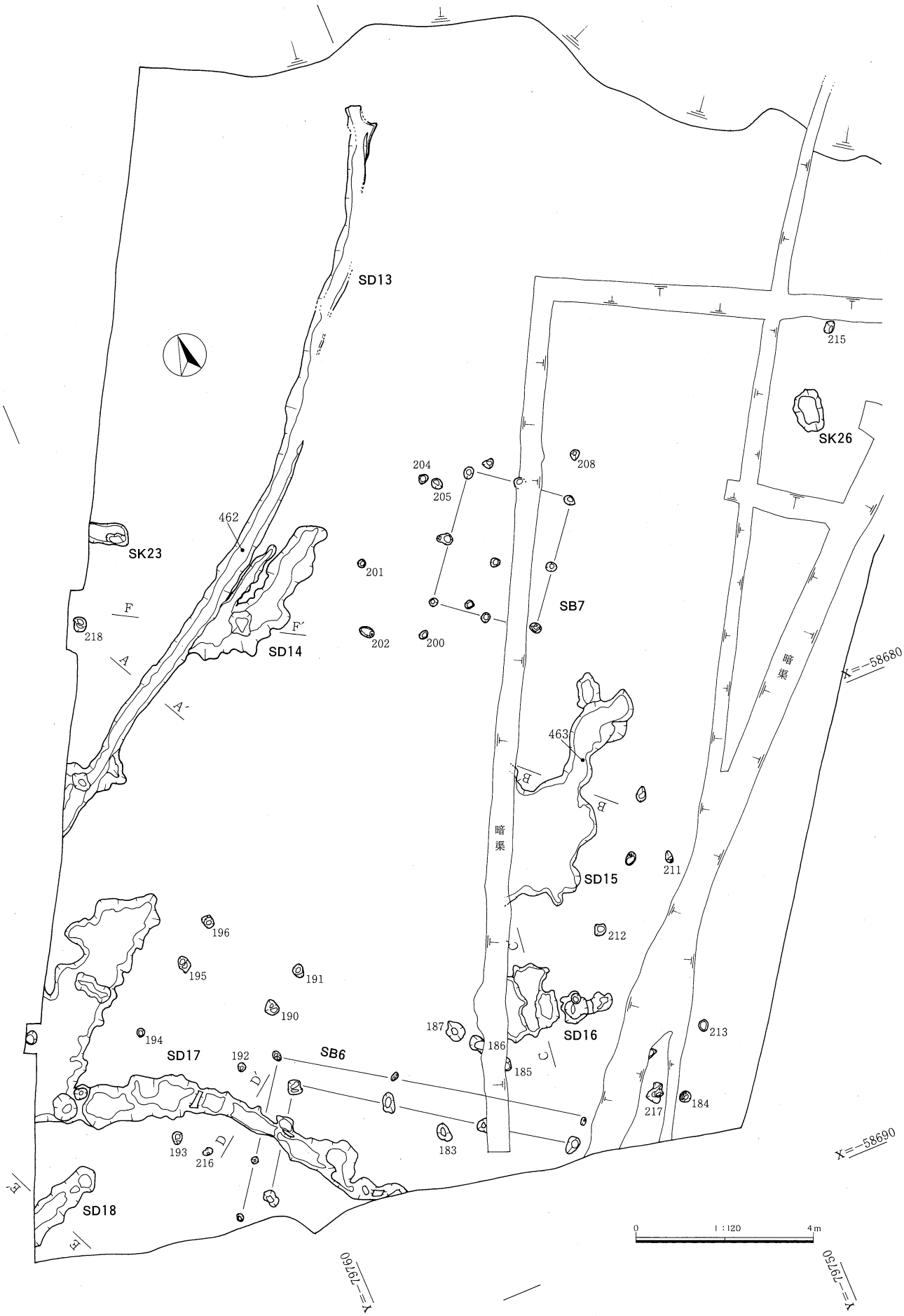
第129図　河道ＳＤ 12



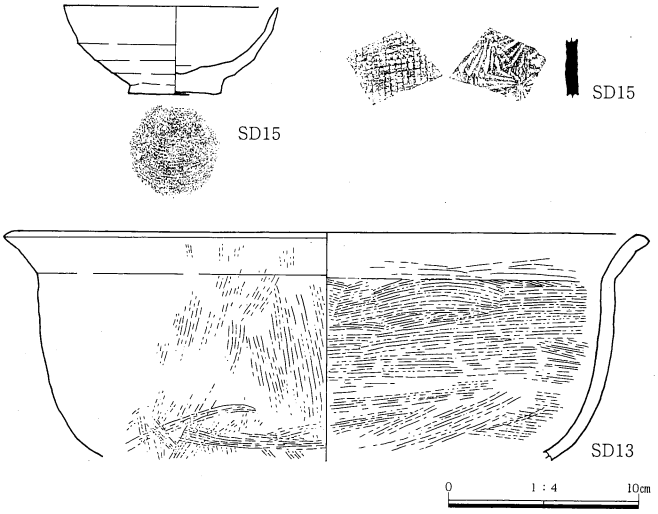
第130図　河道ＳＤ 12 出土遺物



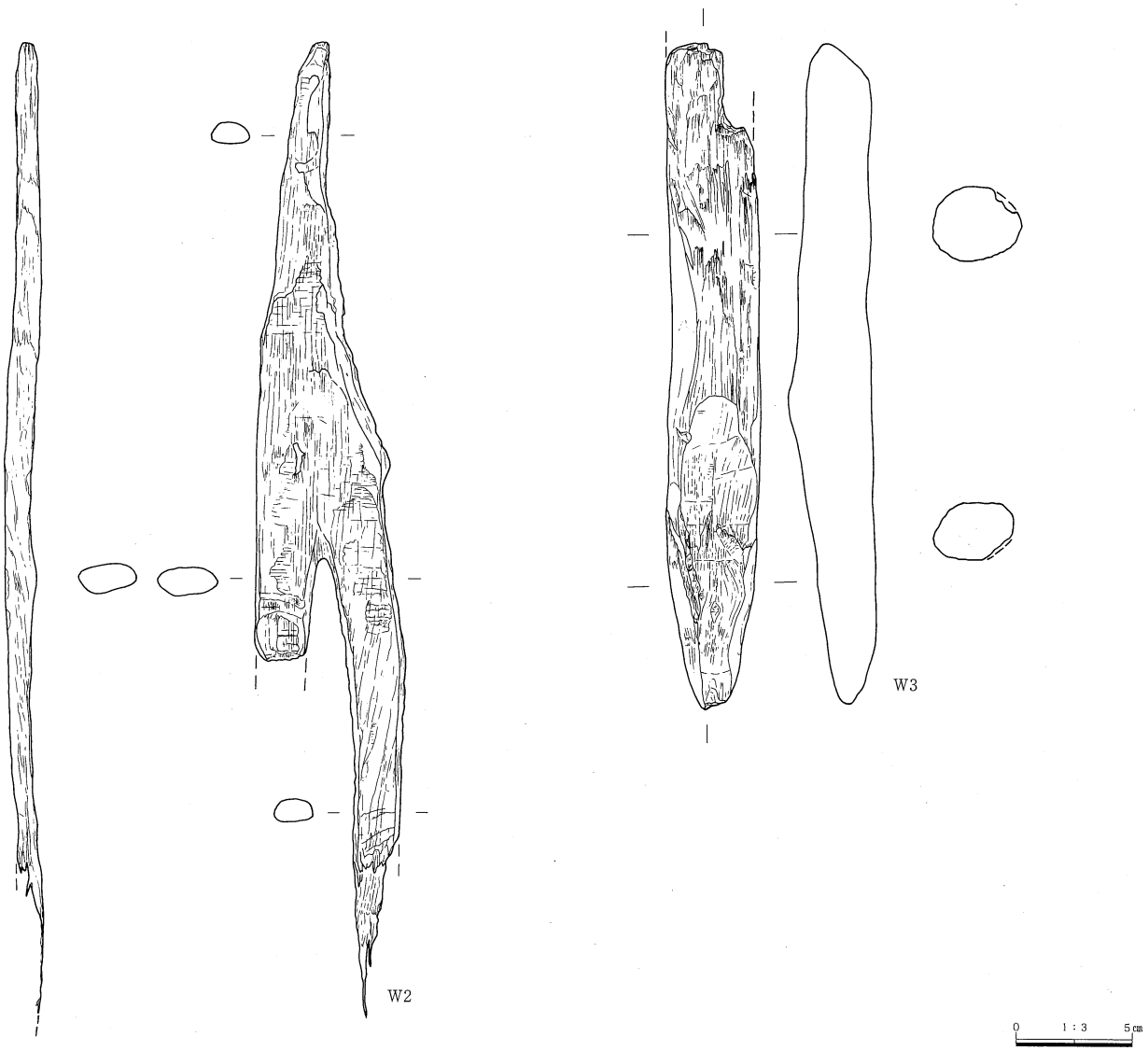
第131図　ＳＤ 13、河道ＳＤ 14～18 土層断面図



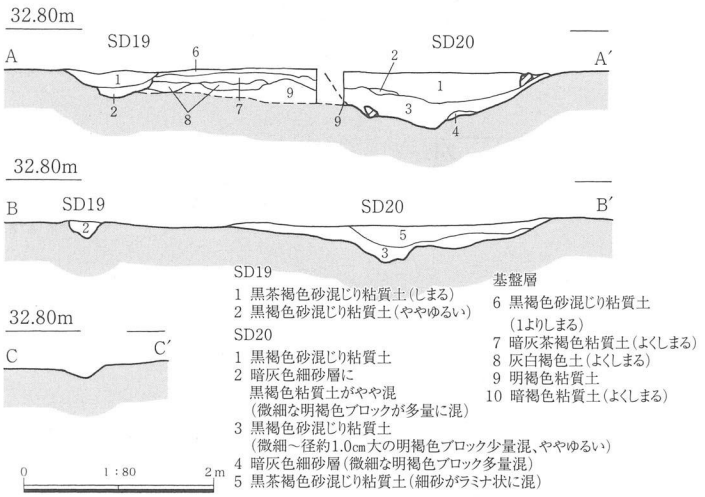
第132図　ＳＤ13、河道ＳＤ14～18周辺遺構平面図



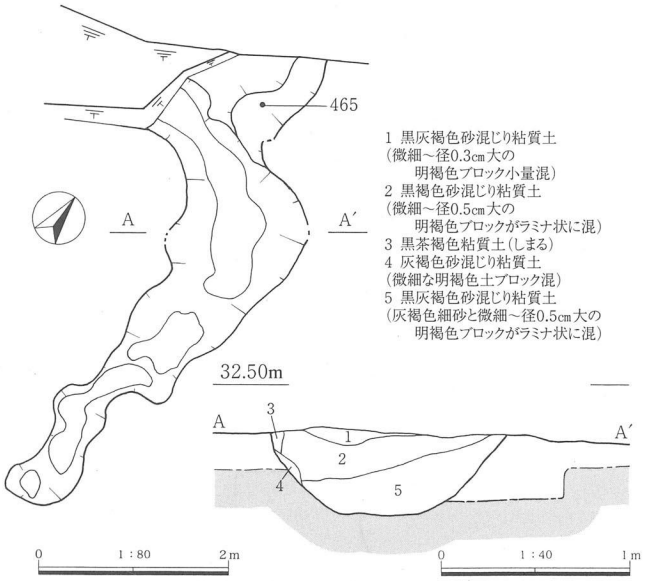
第133図　ＳＤ 13、河道ＳＤ 15 出土遺物



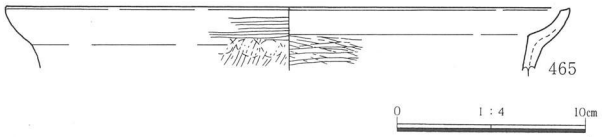
第134図　河道ＳＤ 20 出土遺物（１）



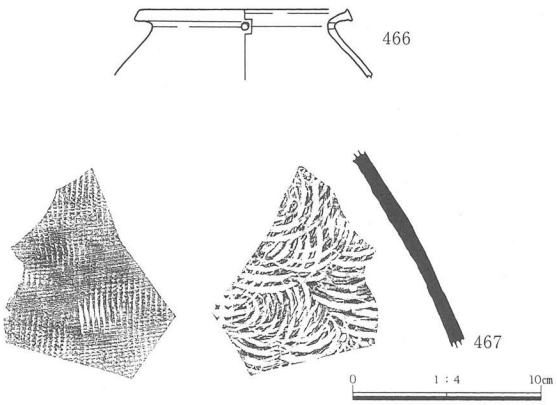
第135図　河道ＳＤ 19、河道ＳＤ 20 土層断面図



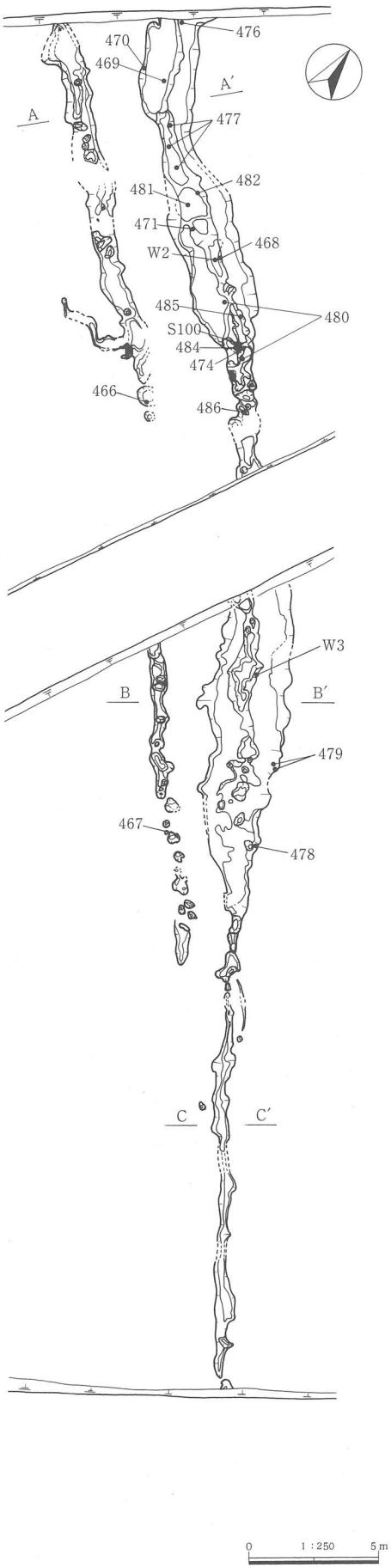
第136図　河道ＳＤ 21



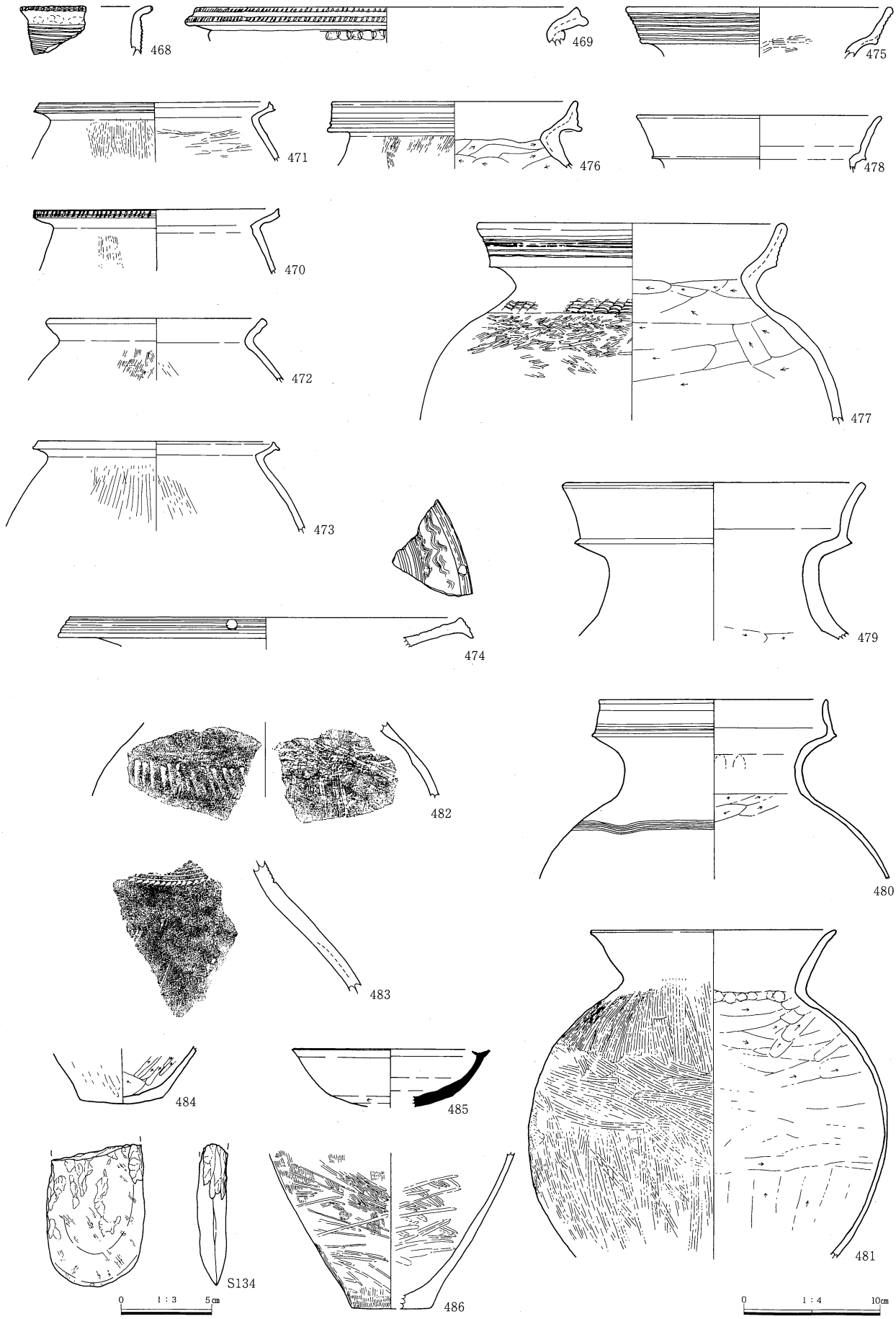
第137図　河道ＳＤ 21 出土遺物



第138図　河道ＳＤ 19 出土遺物



第139図　河道ＳＤ 19、河道ＳＤ 20



第140図　河道ＳＤ20出土遺物（２）

なる部分があり、Ａ－Ａ′ラインの約５ｍ南側では検出面から底部までの深さが１ｍを超える。埋土は上層からシルト層、砂層、礫層と埋設物の粒子により３層に分かれる。底面に暗灰色の細砂が堆積している部分もある。須恵器の坏485は７世紀中頃に位置づけられる。出土遺物の下限を示すことから、河道の埋没時期を示すと考えられる。また、弥生時代中期から古墳時代前期を中心にコンテナ１箱程度の土器が出土している。木製品Ｗ２は又鍬の一部とみられ最下層の砂礫層から出土している。材はカシ類でシラカシかウラジロガシの可能性が高いと鑑定された（特論参照）。木製品Ｗ３は断面円形の棒の端部を削り落とし杭状に加工するもので最上層から出土している。Ｓ134は磨製の両刃石斧であるが出土した土器とは時期を異にすると思われる。（森本）

河道ＳＤ21（第136、137図、ＰＬ．62）

調査区北西側端部に位置する。南から北西に湾曲しながら流れる河道である。検出面の幅は約0.4～1.9ｍ、深さ約４㎝～35㎝である。埋土は主に黒褐色系の砂混じりの粘質土である。２層と５層には基盤層の明褐色土ブロックがラミナ状に混じる。465は受け口状口縁の鍋であり、13世紀前後の所産であろう。（森本）

４．包含層の調査

概要　調査区内において黒色土、黒褐色土の遺物包含層を検出した。近年の圃場整備が傾斜面のおもに山側を削平していることから、本来的に地形の低い北西側に堆積の一部が残存したものと考えられる。圃場整備以前は遺跡周辺の表土直下に黒色土が堆積していたものと考えられる。堆積は大別して３カ所に分かれる。すなわち、調査区西端の黒色土包含層１、調査区北端の黒色土包含層２、調査区中央部付近の黒褐色土包含層１、黒褐色土包含層２である。それぞれ包含する遺物の時期が異なり時間幅をもつため、二次的に堆積したものと考えられる。

堆積状況・遺物　黒色土包含層１（第141・144図）は、北西側の最も厚い部分で40㎝前後であり、南西側は薄くなる。河道ＳＤ９、河道ＳＤ10が黒色土包含層１の堆積後に形成されていることから、古墳時代中期後半から後期以前の堆積と考えられる。遺物は１層のみに包含される。実測には耐えないが胎土や調整技法から弥生時代中期から後期の所産とみられる破片が20点程度出土している。

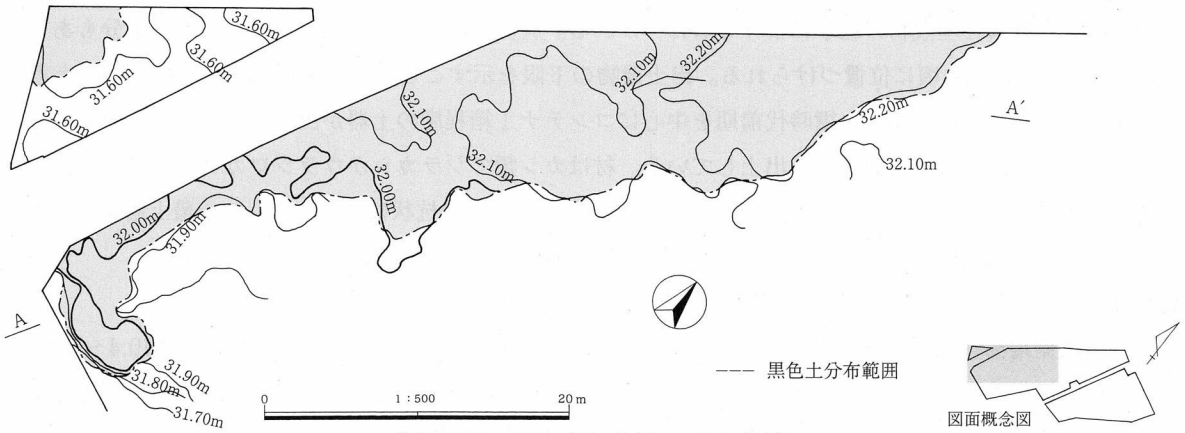
黒色土包含層２（第142・145図）は、北西側の最も厚い部分で厚さ80㎝を測る。おもに４層に分かれる。黒色土除去後に掘立柱建物跡ＳＢ５、ＳＢ８を検出した。遺構埋土と基盤層との差違が微妙であり黒色土上面では遺構を明確に視認できなかったが、包含層ベルト土層断面での観察ではＳＢ５Ｐ２が３層上面よりさらに上層から掘削されている。また、２－１層から12世紀～14世紀の土器が出土していることからみて、２層に当該期の遺構面が想定される。

遺物は、１層・２層から出土した12世紀～14世紀を中心とする時期の一群と、３・４層から出土した縄文時代後期を中心とする時期の一群に大別される。１層は黒色土分布範囲のうち土層断面Ｂ－Ｂ′ラインから北西側にのみ分布する薄い堆積であり12世紀～14世紀の所産とみられる土器が出土している。２層では、くの字口縁の鍋514～516のほか突帯状の取手がつく鍋517～522が破片数にして30点程度出土している。口縁の形態、取手の形状からみて12世紀後半から14世紀までの時間幅をもつものであろう。鍋504は瓦質である。白磁碗502・503はＶ類に分類され、12世紀前後の所産とみられる。出土状況は、散在的な平面分布を示すが、層位的には２－１層に集中する。

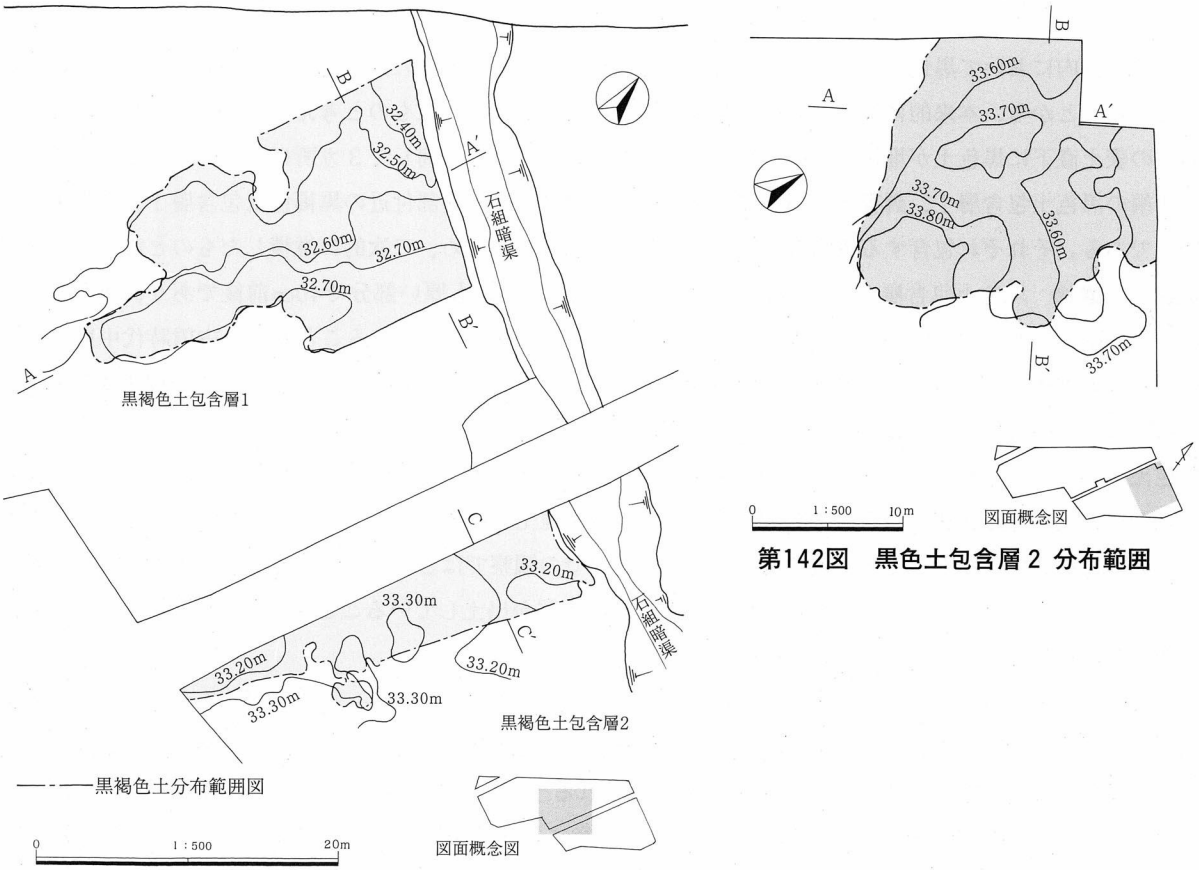
３層では縄文時代後期から晩期とみられる土器片が40点程度出土している。大半は粗製土器であるが、後期前葉の浅鉢524が出土している。土器片525・527は縄文後期前葉（崎ヶ鼻式）に比定できる。突帯文土器の深鉢526が１点出土している。このほか２層付近から土師器の皿、坏530～532が出土している。明確には視認できなかったが、出土地点周囲の土に明褐色土ブロックを若干含むことから本来的には遺構内に存在していた可能性がある。（岡野）

４．調査区内出土遺物（第151図）

遺構外もしくは攪乱層から出土した遺物である。537は縄文の粗製土器とみられる。538～540は弥生時代中期



第141図　黒色土包含層1 分布範囲

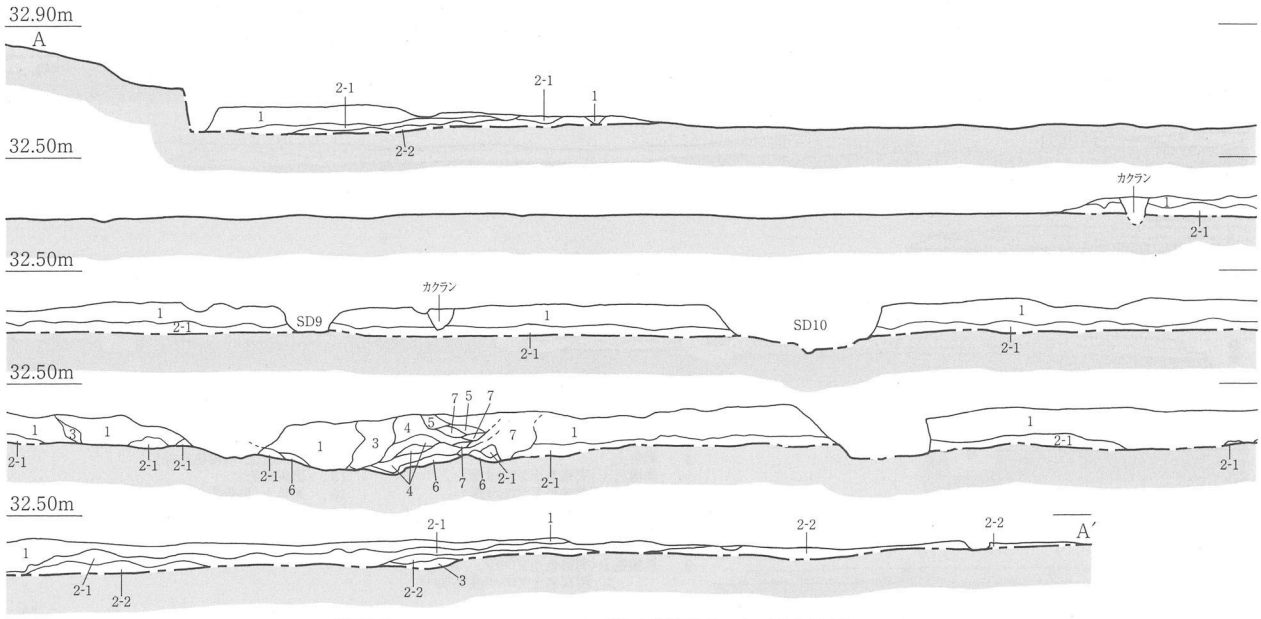


第142図　黒色土包含層2 分布範囲

第143図　黒褐色土包含層分布範囲

から後期の土器である。540は弥生Ⅱ様式の土器であり2区ではほかに出土していない。546・547は須恵器甕であり内面はハケ調整、547内面には車輪文当て具痕が残る。鍋541～544は、13世紀後半から14世紀の所産とみられ、集落遺構の時期と一致するものである。550・551は近世後半期の磁器、541は近世のすり鉢であろう。土師器皿552も作りが薄手であることなどからみて近世まで下ると思われる。土錘553～558はいずれも攪乱層からの出土である。石鍬S137は小型の短冊形のものである。S138は石皿、S139は磨製石斧の基部とみられる。

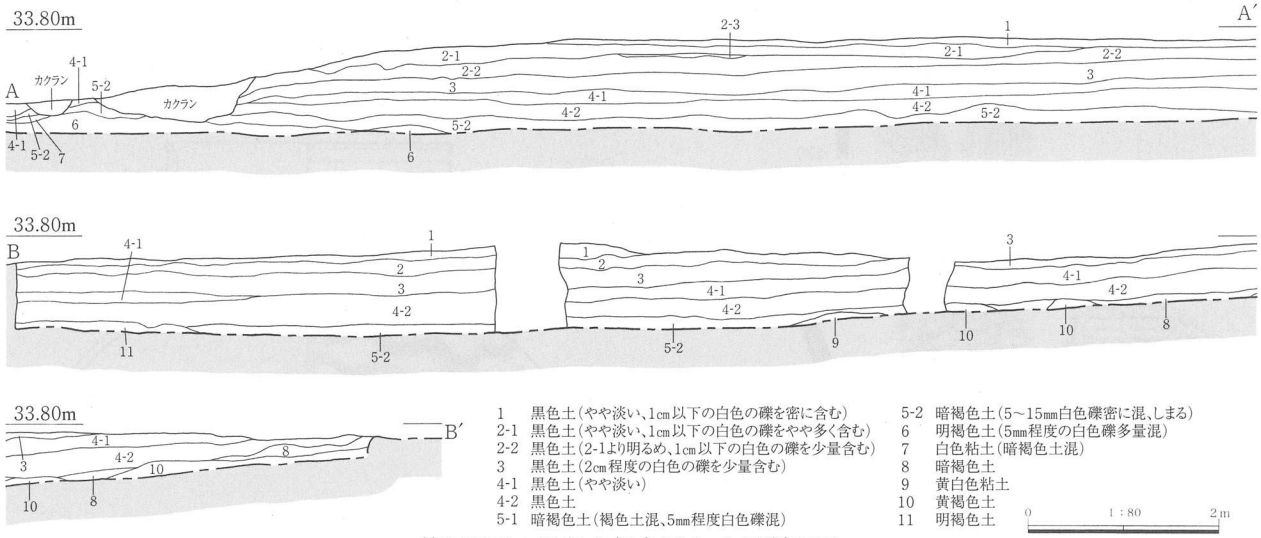
（岡野）



1　黒褐色土
2-1　暗褐色土(黒色土を含む)
2-2　暗褐色土(黒色土を含む、やや淡い)
3　明褐色土
4　褐色土(明褐色土のブロックを多く含む)
5　黒褐色土(明褐色土のブロックを多く含む)
6　黒褐色土(明褐色土の大きめのブロックを多く含む)
7　黒色土

0　1：80　2m

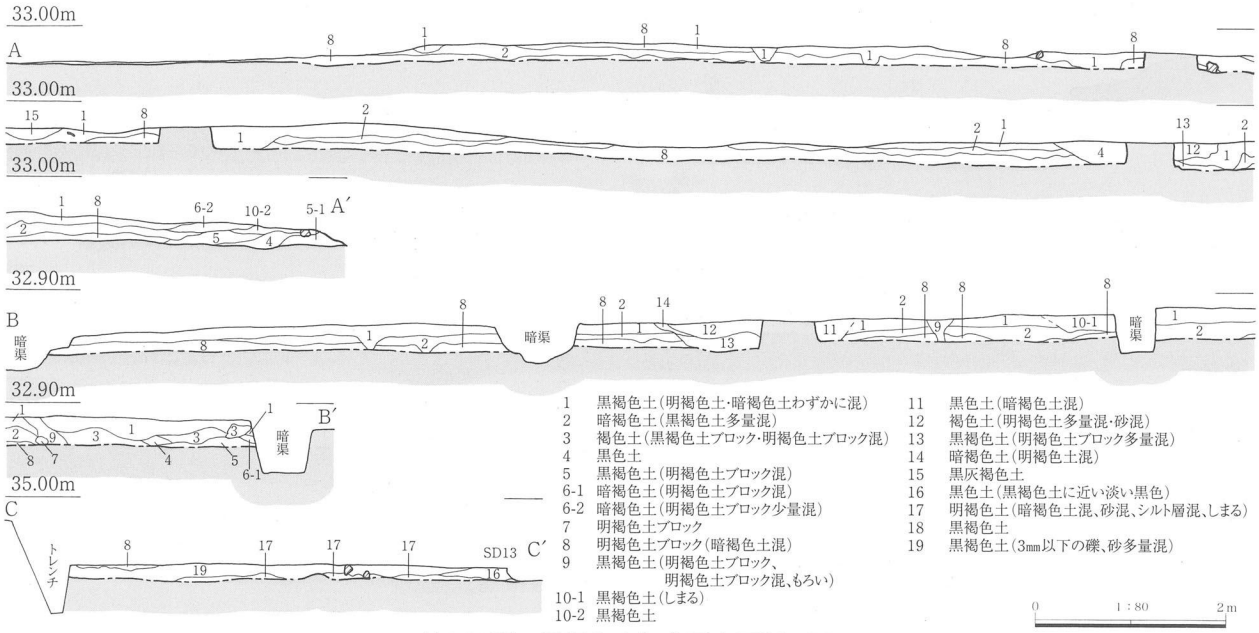
第144図　黒色土包含層１ 土層断面図



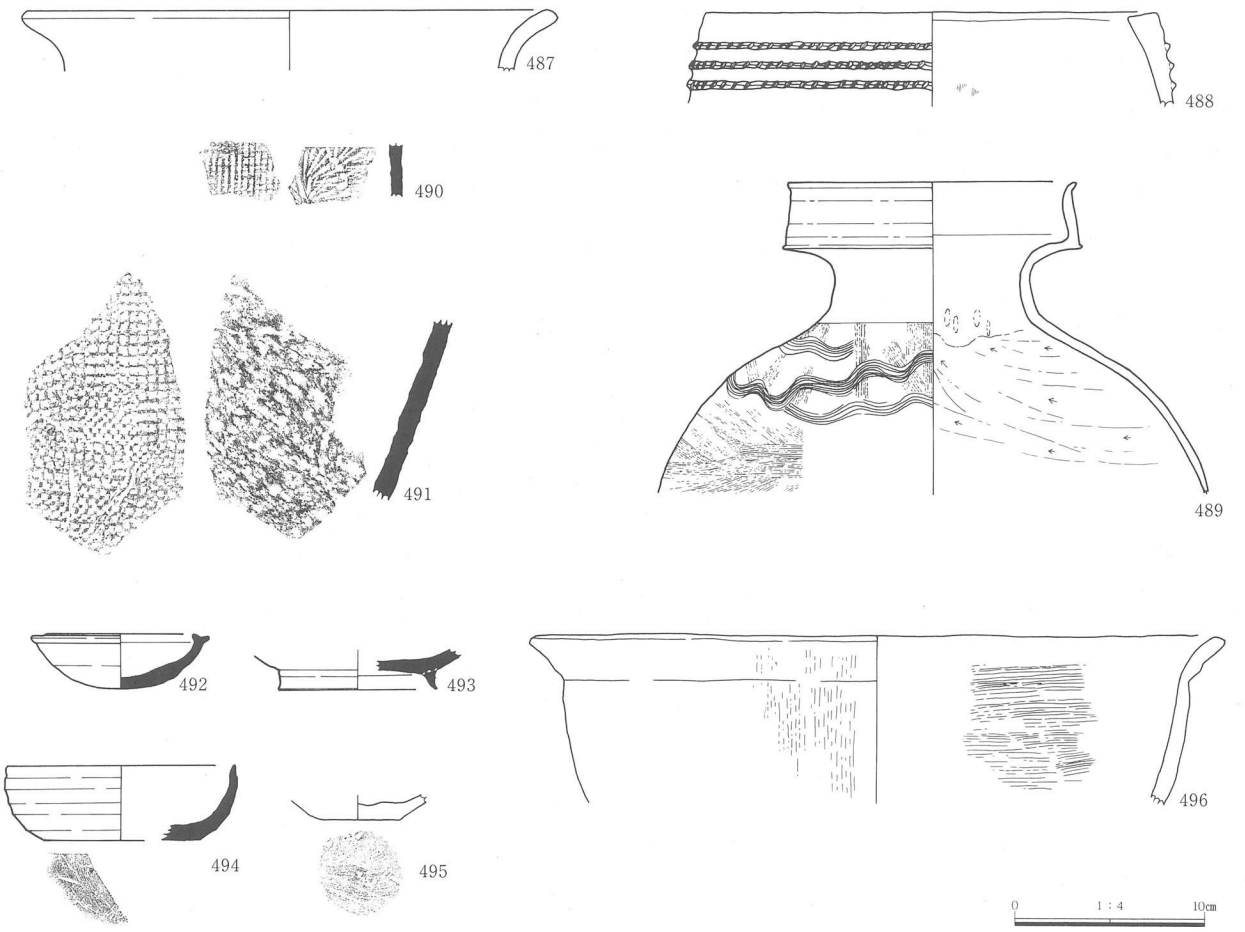
1　黒色土(やや淡い、1cm以下の白色の礫を密に含む)
2-1　黒色土(やや淡い、1cm以下の白色の礫をやや多く含む)
2-2　黒色土(2-1より明るめ、1cm以下の白色の礫を少量含む)
3　黒色土(2cm程度の白色の礫を少量含む)
4-1　黒色土(やや淡い)
4-2　黒色土
5-1　暗褐色土(褐色土混、5mm程度白色礫混)
5-2　暗褐色土(5～15mm白色礫密に混、しまる)
6　明褐色土(5mm程度の白色礫多量混)
7　白色粘土(暗褐色土混)
8　暗褐色土
9　黄白色粘土
10　黄褐色土
11　明褐色土

0　1：80　2m

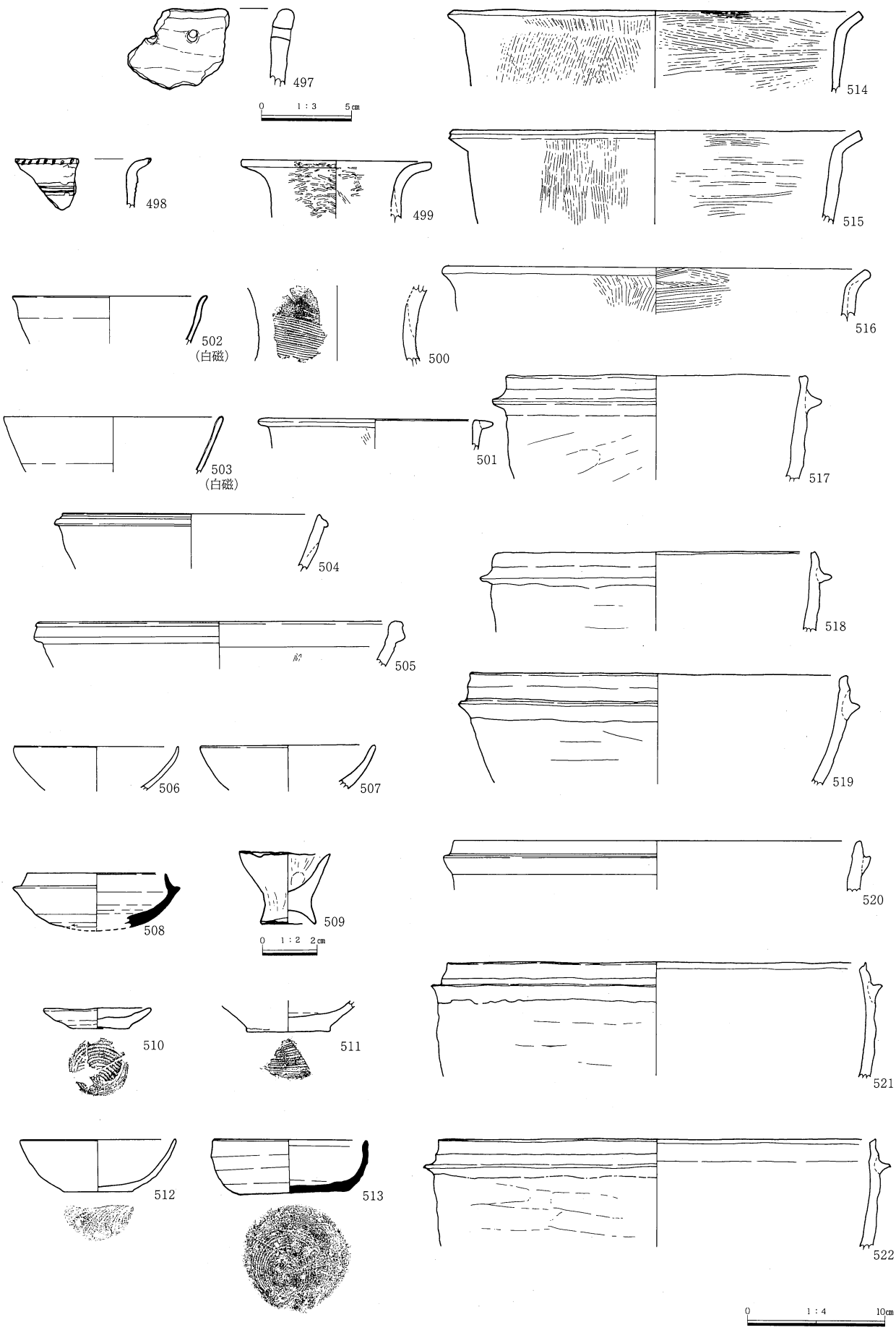
第145図　黒色土包含層２ 土層断面図



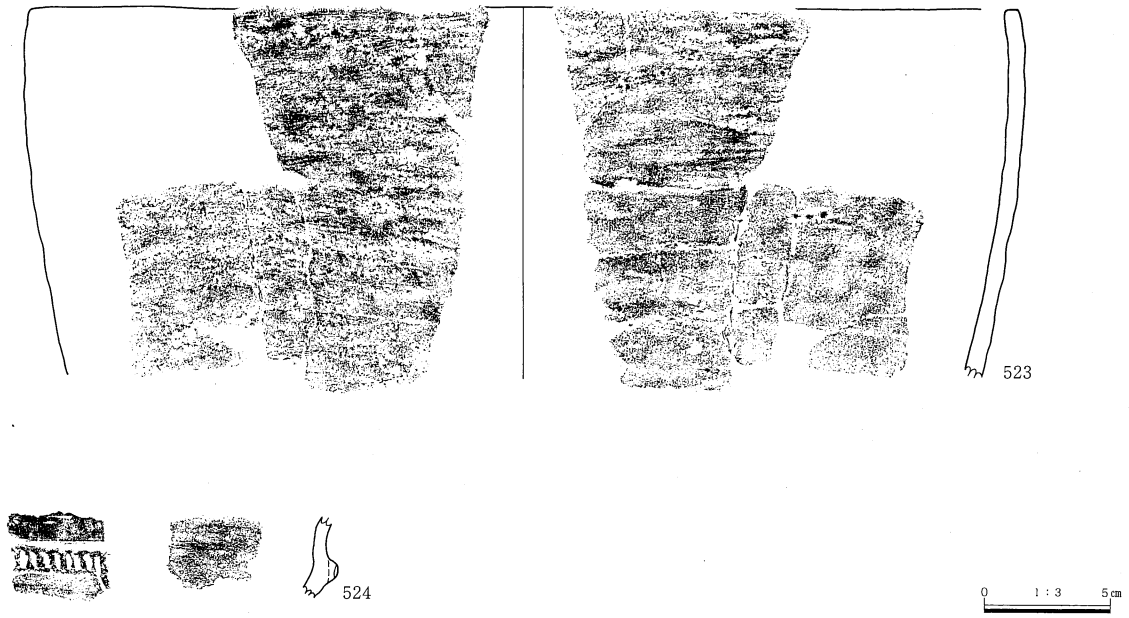
第146図　黒褐色土包含層土層断面図



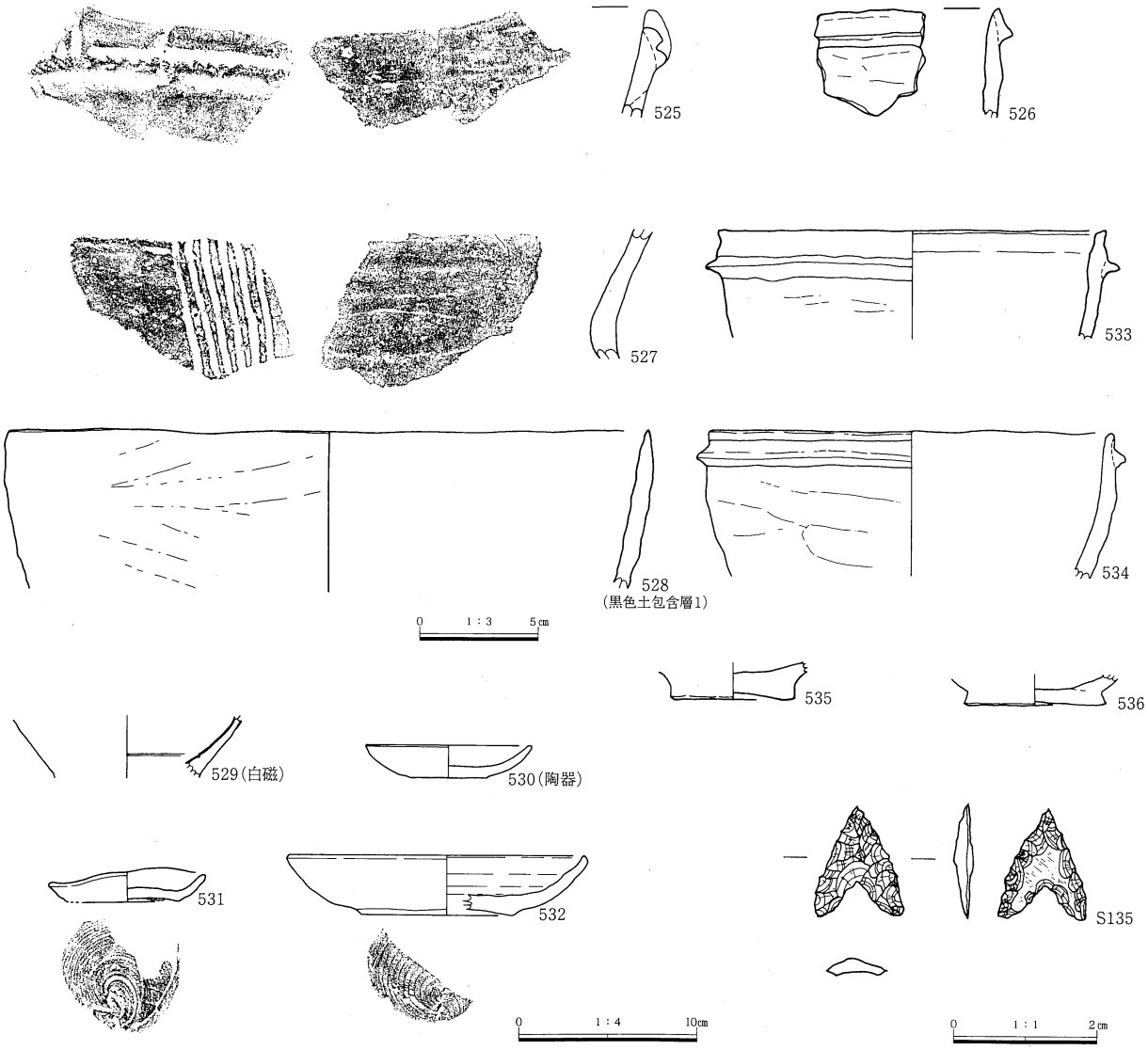
第147図　黒褐色土、暗碧色砂礫包含層出土遺物



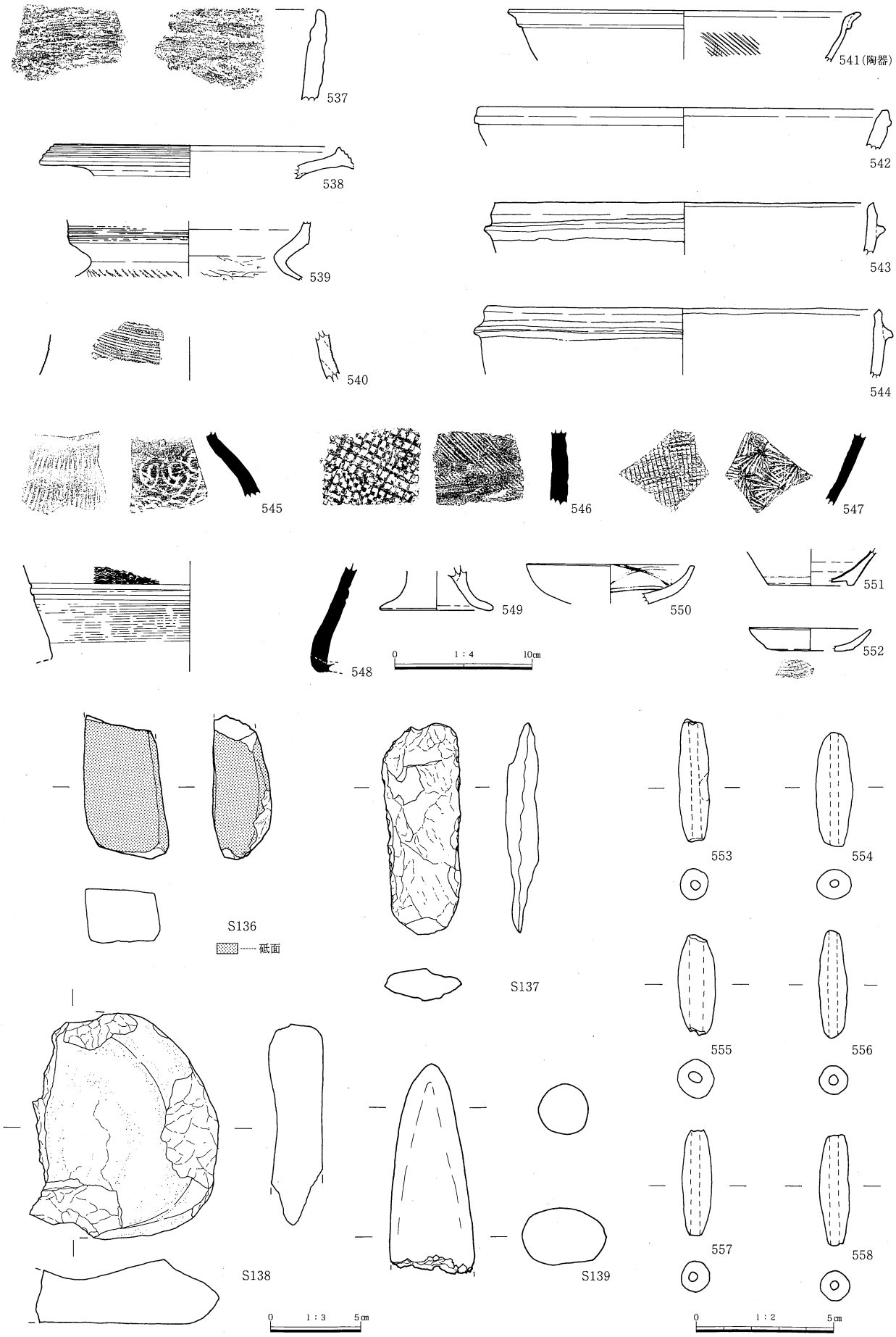
第148図　黒色土包含層２　１層、２層出土遺物



第149図　黒色土包含層２　３層出土遺物



第150図　黒色土包含層１、２出土遺物



第151図　２区調査区内出土遺物

出土遺物観察表（２区）

・口径－（）は復元推定値

土器

掲載番号	遺構層位	挿図PL.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
445	SB5 P4 埋土中	第108図 PL.71	甕	－	－	8.2	底部回転糸切	ヨコナデ	ヨコナデ	0.5mm程度の砂粒混	浅黄橙色	－	底部1/2
446	P188 埋土中	第113図 PL.67	皿	(8.3)	1.7	(7.3)	底部回転糸切	ヨコナデ	ヨコナデ	1mm程度の砂粒少量混	橙色	－	ほぼ完存
447	SK20 埋土中	第117図 PL.71	甕	(21.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	黒色	－	口縁 1/4
448	SK23 埋土中	第121図 PL.71	坏　底部	－	－	4.4	底部回転糸切	ヨコナデ	ヨコナデ	0.5mm以下の砂粒混	橙色	－	底部完存
449	SD9 埋土中	第126図 PL.69	甕	(18.0)	－	－	口縁部に擬凹線文	ナデ	ナデ、頸部以下ケズリ	1～2mm程度の砂粒多量混	橙色	－	口縁 1/4
450	SD9 砂礫層	第126図 PL.69	甕	(14.0)	－	－	－	ハケ→ナデ	ナデ、頸部以下ケズリ頸部	1mm以下の砂粒混	赤褐色	－	口縁 1/6
451	SD9 埋土中	第126図 PL.69	高坏	(17.4)	－	－	－	ナデ	ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒混	浅黄橙色	－	口縁 1/10
452	SD10 埋土中	第127図 PL.69	甕	(17.4)	－	－	口縁部に沈線	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/8
453	SD10 底面直上	第127図 PL.69	甕	(18.8)	－	－	口縁部に３条の凹線文	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	浅黄橙色	－	口縁 1/8
454	SD10 底面直上	第127図 PL.69	壺	(22.8)	－	－	口縁部に3条の凹線文、頸部に4条の凹線文	ハケ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒多量混	橙色～暗褐色	－	口縁 1/5
455	SD10 底面直上	第127図 PL.69	甕	(21.6)	－	－	口縁部に擬凹線文	ナデ	ナデ	1～2mm程度の砂粒少量混	灰黄色	－	口縁 1/12
456	SD12 埋土中	第130図 PL.70	直口壺	(13.8)	－	－	－	ハケ→ナデ	ハケ、頸部以下ケズリ	0.5mm程度の砂粒混	橙色	－	口縁 1/9
457	SD12 埋土中	第130図 PL.70	壺	(14.6)	－	－	－	ナデ	ナデ、頸部以下ケズリ	1mm程度の砂粒混	浅黄色	－	口縁 1/6
458	SD12 埋土中	第130図 PL.70	壺	(19.8)	－	－	－	ハケ	ナデ、頸部以下ケズリ	0.5mm程度の砂粒混	浅黄色	－	口縁 1/8
459	SD12 埋土中	第130図 PL.70	鉢	(15.4)	－	－	－	ハケ→ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒混	橙色	－	口縁 1/12以下
460	SD12 埋土中	第130図 PL.70	高坏	(12.0)	－	－	－	ハケ	ナデ	1mm程度の砂粒混	橙色	－	口縁 1/6
461	SD12 埋土中	第130図 PL.70	小型壺	(11.0)	－	－	－	ハケ→口縁部ナデ	ナデ、胴部下半ケズリ	1～3mm程度の砂粒少量混	暗褐色	－	口縁 1/4
462	SD13 埋土中	第133図	鍋	(33.0)	－	－	－	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	1mm程度の砂粒混	浅黄色～橙色	－	口縁 1/5
463	SD15 埋土中	第133図 PL.67	坏	11.3	－	5.0	底部糸切	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm程度の砂粒混	浅黄橙色	－	ほぼ完存
464	SD15 埋土中	第133図 PL.71	須恵器　甕	－	－	－	－	タタキ	車輪文当具痕	0.1mm以下の砂粒少量混	灰色	－	－
465	SD21 底面直上	第137図 PL.71	鍋（瓦質）	(30.0)	－	－	－	ハケ	ハケ	0.5mm以下の砂粒混	黒色	－	口縁 1/12
466	SD19 底面直上	第138図 PL.71	甕	(11.0)	－	－	頸部に穿孔	ナデ	ナデ	0.5mm程度の砂粒多量混	黒色	－	口縁 1/7
467	SD19 Ⅲ層	第138図 PL.71	須恵器　甕	－	－	－	－	タタキ	同心円文状当具痕	1mm以下の砂粒少量混	灰色	－	－
468	SD20 埋土中	第140図	甕	－	－	－	口縁端部に刻み、胴部上端に櫛描文	ナデ	ナデ	1～2.5mm程度の砂粒混	にぶい黄褐色	－	－
469	SD20 埋土中	第140図	甕	(28.0)	－	－	口縁部に凹線文のち浅い刻み、頸部に指頭圧痕貼付突帯	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒多量混	にぶい褐色	－	口縁 1/12
470	SD20 埋土中	第140図	甕	(18.0)	－	－	口縁部に凹線文のち浅い刻み	ハケ	ナデ	1mm程度の砂粒混	灰黄色	－	口縁 1/6
471	SD20 Ⅲ層	第140図	甕	(17.0)	－	－	口縁部に２条の凹線文	ハケ	ミガキ、ナデ	0.5mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/12
472	SD20 Ⅱ層	第140図	甕	(15.6)	－	－	－	ハケ	ハケ→ナデ	0.5～1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/15
473	SD20 Ⅲ層	第140図	甕	(17.2)	－	－	－	ハケ	ハケ	0.5mm程度の砂粒混	黒褐色	－	口縁 1/6
474	SD20 埋土中	第140図	壺	(29.0)	－	－	口縁部に４条の凹線文のち円形浮文	ナデ	ナデ	0.5mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/9
475	SD20 埋土中	第140図	甕	(19.0)	－	－	口縁部に擬凹線文	ナデ	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/8
476	SD20 Ⅲ層	第140図	甕	(17.0)	－	－	口縁部に凹線文	ハケ	ナデ、頸部以下ケズリ	1mm程度の砂粒混	にぶい橙色	－	口縁 1/4
477	SD20 埋土中	第140図 PL.67	甕	(23.0)	－	－	口縁部に擬凹線文、胴部上端に簾状文	ミガキ	ナデ、頸部以下ケズリ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁 3/4
478	SD20 Ⅱ層	第140図	甕	(18.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	明褐色	－	口縁 1/8
479	SD20 Ⅱ層	第140図	壺	(22.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/12
480	SD20 埋土中	第140図 PL.67	壺	(16.8)	－	－	胴部上半に波状文	ナデ	ナデ、頸部以下ケズリ	0.5mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/2
481	SD20 埋土中	第140図 PL.67	壺	(17.8)	－	－	－	ハケ	ナデ、頸部以下ケズリ	1mm程度の砂粒混	黄橙色～明褐色	－	口縁ほぼ完存
482	SD20 砂礫層	第140図	甕	－	－	－	－	タタキ→ハケ	ケズリ	1mm程度の砂粒混	にぶい褐色	－	－
483	SD20 Ⅱ層	第140図	壺	－	－	－	胴部上端に5条以上の沈線文、直下に刺突文	ナデ	ナデ	0.5～1.5mm程度の砂粒混	浅黄色	－	－
484	SD20 埋土中	第140図	底部	－	－	5.8	－	ミガキ	ケズリ	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色～黒色	－	底部完存
485	SD20 Ⅰ層	第140図	須恵器 坏身	(14.6)	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	1mm程度の砂粒混	灰色	－	口縁 1/6
486	SD7 埋土中	第140図 PL.70	甕	－	－	6.0	－	ハケ→ミガキ	ミガキ	1mm程度の砂粒多量混	灰黄色	－	底部1/2
487	黒褐色土	第147図 PL.71	壺	(28.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい橙色	－	口縁 1/12
488	黒褐色土	第147図 PL.71	鉢	(24.0)	－	－	口縁部下に刻目をもつ３条の貼付突帯。	ナデ	ナデ	1mm以下の砂粒混	浅黄色	外面に炭化物付着	口縁 1/20
489	黒褐色土	第147図	壺	15.4	－	－	肩部に６条単位の波状文	ハケ→口縁部ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	外面に炭化物付着	口縁 2/3

掲載番号	遺構層位	挿図PL.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
490	黒褐色土	第147図 PL.71	須恵器　甕	－	－	－	－	格子目状のタタキ	車輪文状の当て具痕	0.1mm程度の砂粒少量混	灰色	－	－
491	黒褐色土	第147図 PL.71	須恵器　甕	－	－	－	－	格子目状のタタキ	剥落不明	1mm程度の砂粒混	灰白色	外面に黒斑あり	－
492	黒褐色土	第147図 PL.71	須恵器 坏蓋	(8.0)	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm以下の砂粒混	灰色	－	口縁 1/4
493	暗褐色砂礫層	第147図 PL.71	須恵器高台付坏	(12.1)	(4.0)	(8.6)	－	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm程度の砂粒混	灰色	－	口縁 1/3
494	暗褐色砂礫層	第147図 PL.71	須恵器 坏身	(12.1)	－	(8.6)	－	回転ナデ	回転ナデ	0.1mm程度の砂粒混	灰色		口縁 1/10
495	黒褐色土	第147図 PL.71	坏	－	－	(4.4)	底部は静止糸切り	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm程度の砂粒混	浅黄橙色	－	底面付近のみ完存
496	黒褐色土	第147図 PL.71	鍋	(36.4)	－	－	－	ハケ→ナデ、口縁部ナデ	ハケ、口縁部ナデ	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	内面に黒斑	口縁 1/12
497	黒色土 2層	第148図 PL.72	鉢	－	－	－	内面から外面に穿孔	ナデ	ナデ	0.5～1.5mm程度の砂粒多量混　4mmの礫混	にぶい褐色	－	－
498	黒色土 2層	第148図	甕	－	－	－	口縁端部に刻目、体部上位に３条のヘラ描沈線文	ナデ	ナデ	2～4mm程度の砂粒少量混	にぶい橙色	－	－
499	黒色土 2層	第148図	壺	(13.8)	－	－	－	密なミガキ	密なミガキ	1～2mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/5
500	黒色土 2層	第148図 PL.72	頸部	頸部径 (9.8)	－	－	６条単位の櫛描沈線文	横方向のミガキ	ケズリ→ミガキ	2～4mm程度の礫混	橙色	－	－
501	黒色土 2層	第148図 PL.72	甕	(15.4)	－	－	－	ナデ	ナデ	0.5～1mmの砂粒混 3～4mmの細礫混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/16
502	黒色土 2層	第148図	白磁碗	(14.0)	－	－	－	口縁端部付近回転ケズリ後回転ナデ	回転ナデ	0.5mm以下の砂粒混	灰白色	Ⅴ類碗	口縁 1/12
503	黒色土 2層	第148図	白磁　坏	(16.0)	－	－	－	－	内面体部中位に１条の圏線	0.5mm以下の砂粒混	灰白色	Ⅴ類碗	口縁 1/20
504	黒色土 1層	第148図	鍋（瓦質）	(18.8)	－	－	－	ナデ	ナデ	0.5～1mmの砂粒混	浅黄橙色	内面および外面口縁部に重ね焼きの痕あり	口縁 1/16
505	黒色土 2層	第148図	擂鉢	(26.8)	－	－	口縁部は折り返して肥厚させる。	ナデ	横ナデ、擂目あり	0.5mm以下の砂粒混	にぶい赤褐色	外面に鉄釉	口縁 1/20
506	黒色土 2層	第148図 PL.72	坏	(12.0)	－	－	－	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒少量混	にぶい黄橙色	－	口縁 1/8
507	黒色土 2層	第148図 PL.72	坏	(12.8)	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	1mm程度の砂粒混	橙色	内面に煤付着、灯明痕か	口縁 1/5
508	黒色土	第148図 PL.72	須恵器 坏身	(10.0)	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	0.5～1mmの砂粒多量混	灰色	－	口縁 1/4
509	黒色土 2層	第148図 PL.67	ミニチュア土器	3.3	2.6	1.9	－	手づくね	手づくね	1mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	口縁完存
510	黒色土 2層	第148図 PL.72	皿	7.8	－	－	底部回転糸切	－	回転ナデ	1mm以下の砂粒混	－	－	ほぼ完存
511	黒色土 2層	第148図 PL.72	坏底部	－	－	(6.2)	底部静止糸切	－	回転ナデ	0.5mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	底部 1/5
512	黒色土 2層	第148図 PL.72	坏	(11.2)	－	－	底部静止糸切	－	回転ナデ	1mm程度の砂粒少量混	灰白色	－	口縁 1/4
513	黒色土 1・2層	第148図 PL.67	須恵器 坏身	11.2	3.9	7.8	底部回転糸切	回転ナデ	回転ナデ	3mm以下の砂粒混	灰色	－	完存
514	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋	(30.0)	－	－	－	ハケ→ナデ	ハケ	1mm程度の砂粒多量混	黒色	外面に炭化物付着	口縁 1/12
515	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋	(30.2)	－	－	－	縦方向のハケ→ナデ	ハケ	0.5mm程度の砂粒混	黄灰色	外面に煤少量付着	口縁 1/20
516	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋	(30.8)	－	－	－	縦方向のハケ→ナデ	ハケ	1mm以下の砂粒多量混	黒褐色	外面に煤付託	口縁 1/16
517	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋	(22.0)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	褐灰色・黒色	内外面に炭化物付着	口縁 1/6
518	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋	(23.4)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	灰白色・黒色	外面に炭化物付着	口縁 1/8
519	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋（瓦質）	(27.6)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	黒色	外面に煤・炭化物多量に付着	口縁 1/3
520	黒色土 1・2層	第148図	鍋（瓦質）	(29.4)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	0.5mm以下の砂粒混	黒褐色	－	口縁 1/16
521	黒色土 2層	第148図 PL.72	鍋（瓦質）	(30.8)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	黒色	外面取手から下に炭化物多量に付着	口縁 1/12
522	黒色土 2層	第148図	鍋（瓦質）	(32.2)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	黒色	外面取手から下に炭化物多量に付着	口縁 1/10
523	黒色土 3層	第149図	深鉢	(32.7)	－	(39.2)	－	粗いナデ	粗いナデ	1～1.5mmの砂粒多量混	灰黄色	後期	口縁 1/5
524	黒色土 3層	第149図	浅鉢（後期）	－	－	－	屈曲部に刻目突帯	条痕→ミガキ	ミガキ	2～3mmの石英・砂粒混	灰黄色	後期前葉	－
525	黒色土	第150図	鉢	－	－	－	口縁を肥厚させ沈線１条、沈線下側に刻目	ミガキ	ミガキ	1mm程度の砂粒混	灰黄色	崎ヶ鼻式	－
526	黒色土 2層	第150図 PL.72	深鉢	－	－	－	口縁端部に無刻目突帯文	－	－	2mm程度の砂粒混	にぶい黄橙色	－	－
527	黒色土	第150図	鉢	－	－	－	縦方向の沈線を６条以上施す	ナデ	ミガキ	1～1.5mmの砂粒多量混	灰黄褐色	崎ヶ鼻式	－
528	黒色土	第150図	深鉢	(27.0)	－	－	－	粗いナデ	粗いナデ	2mm程度の砂粒多量混	浅黄橙色	－	口縁 1/7
529	黒色土 1層	第150図	白磁碗	－	－	－	－	口縁端部付近回転ケズリ後回転ナデ	回転ナデ	0.5mm以下の砂粒混	灰色	Ⅳ類碗	－
530	黒色土	第150図	陶器　皿	(9.4)	1.8	4.4	－	回転ナデ	回転ナデ	1mm程度の砂粒少量混	赤色	内面に鉄釉	口縁 1/4
531	黒色土	第150図 PL.67	皿	(8.6)	1.9	(6.4)	－	回転ナデ	回転ナデ	1mm以下の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁 3/4
532	黒色土	第150図	坏	(15.6)	3.4	(7.6)	底部回転糸切	回転ナデ、工具痕あり	回転ナデ	0.5mm以下の砂粒混	にぶい黄橙色	外面口縁部に煤付着、灯明痕か	口縁 3/4 底部 1/2
533	黒色土 2層	第150図	鍋（瓦質）	(22.0)	－	－	口縁部下に取手を貼付	やや粗いナデ	ナデ→口縁部下を強くナデる	1mm程度の砂粒混	灰色	外面に炭化物厚く付着	口縁 1/4
534	黒色土	第150図	鍋（瓦質）	(23.0)	－	－	口縁部下に取手を貼付	やや粗いナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	黒褐色	外面取手下に炭化物厚く付着	口縁 1/5
535	黒色土	第150図	底部	－	－	(7.0)	－	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	灰黄褐色	－	底部付近完存
536	黒色土	第150図	底部	－	－	(8.0)	底部付近外側に張り出す	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	にぶい橙色	－	底部付近 1/2

掲載番号	遺構層位	挿図PL.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	施文・特徴	外面調整	内面調整	胎土	色調	備考	残存率
537	撹乱	第151図	粗製土器	－	－	－	－	やや粗いナデ	やや粗いナデ	1mm程度の砂粒多量混	灰白色	－	－
538	撹乱	第151図	壺	(19.8)	－	－	口縁端部に４条の凹線文を施す、頸部に１条の貼付突帯	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	灰色	－	口縁1/8
539	撹乱	第151図PL.69	甕	－	－	－	口縁部に擬凹線文、肩部に斜め方向のハケ状工具による刺突文	ナデ	ナデ	2mm以下の砂粒混	明黄褐色	－	－
540	撹乱	第151図	壺	頸部径(18.6)	－	－	４条単位の櫛描沈線文	－	ナデ	0.5～1mm程度の砂粒混	にぶい橙色	－	－
541	撹乱	第151図	陶器　鉢	(25.8)	－	－	口縁部は折り返して外反させる。	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒混	にぶい赤褐色	－	口縁1/15
542	撹乱	第151図	瓦質土器	(30.0)	－	－	口縁部はやや肥厚する。	ナデ	やや粗いナデ	1mm程度の砂粒少量混	浅黄橙色	－	－
543	撹乱	第151図	甕	(28.0)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	0.5mm程度の砂粒混	灰白色	－	口縁1/20
544	撹乱	第151図	甕	(29.0)	－	－	口縁部下に取手を貼付	ナデ	ナデ	1mm程度の砂粒多量混	にぶい黄橙色	－	口縁1/16
545	撹乱	第151図	壺	－	－	－	－	平行タタキ	青海波状の当て具痕	0.5mm程度の砂粒混	灰色	－	－
546	撹乱	第151図	須恵器　甕	－	－	－	－	格子目状のタタキ	カキ目	1mm程度の砂粒混	灰色	－	－
547	撹乱	第151図	須恵器　甕	－	－	－	－	格子目状のタタキ	カキ目	0.5mm以下の砂粒少量混	青灰色	－	－
548	撹乱	第151図	須恵器　甕	－	－	－	－	口縁部に波状文、２条の凹線文	ナデ	0.5～2mmの砂粒混	灰色	－	－
549	撹乱	第151図	低脚坏	－	－	(8.0)	－	ナデ	ナデ	0.5mm程度の砂粒混	橙色	－	底部1/4
550	撹乱	第151図	陶器　皿	(12.2)	－	－	見込みに２条の圏線、内面口縁部には２本単位の格子文	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm以下の砂粒少量混	灰白色	肥前系	口縁1/5
551	撹乱	第151図	陶器　徳利	－	－	(5.4)	高台部無釉	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm程度の砂粒少量混	施釉部内外面共灰色、露胎部灰白色	肥前系	底部1/4
552	撹乱	第151図	皿	(6.4)	1.7	(6.4)	底部回転糸切	回転ナデ	回転ナデ	1mm以下の砂粒混	浅黄橙色	－	口縁1/8
553	撹乱	第151図	土錘	長さ4.5	－	最大幅1.0	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	赤褐色	重さ　5.9g	完存
554	撹乱	第151図	土錘	長さ5.2	－	最大幅1.3	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	明赤褐色	重さ　5.5g	完存
555	撹乱	第151図	土錘	長さ3.7	－	最大幅1.4	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	橙色	重さ　6.1g	完存
556	撹乱	第151図	土錘	長さ3.9	－	最大幅1.1	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	明褐色	重さ　3.5g	ほぼ完存
557	撹乱	第151図	土錘	長さ3.9	－	最大幅1.1	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	橙色	重さ　4.6g	ほぼ完存
558	撹乱	第151図PL.71	土錘	長さ4.1	－	最大幅1.1	－	手捏ね	－	0.5mm以下の砂粒混	にぶい橙色	重さ　5.1g	完存

石器

No.	遺構層位	挿図	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
S134	ＳＤ20埋土中	第140図	磨製石斧	(7.4)	5.4	1.6	115	滑石片岩	－
S135	黒色土４層	第150図	打製石鏃	1.5	1.3	0.3	0.3	黒曜石	－
S136	黒褐色土上面	第151図	砥石	(7.0)	4.4	2.9	160	石英斑岩	－
S137	黒色土３層	第151図	打製石斧か	11.4	4.3	1.7	94	無斑晶安山岩	－
S138	Ｐ32埋土中	第151図	礫石器	(12.2)	10.0	3.5	610	砂岩	－
S139	黒色土	第151図	磨製石斧	(11.2)	4.6	3.0	250	緑色片岩	－